

【令和7年度】英語教育に関する調査研究 (英語力に関する調査分析)

令和8年1月
株式会社ベネッセコーポレーション

目次

1. 高校

1.1 高校の母集団について	p.10
1.2 高校 CEFR-J / CEFRLレベルごとの英語 4 技能の分析	
1.2.1 高校の全体傾向	p.13
1.2.2 高1 経年比較 4 技能総合	p.14
1.2.3 高1 経年比較 4 技能総合CEFRレベルと各技能との関係	p.15
1.2.4 高1 経年比較 4 技能別の傾向	p.17
1.2.5 高2 経年比較 4 技能総合	p.20
1.2.6 高2 経年比較 4 技能総合CEFRレベルと各技能との関係	p.21
1.2.7 高2 経年比較 4 技能別の傾向	p.23
1.2.8 高3 経年比較 4 技能総合	p.26
1.2.9 高3 経年比較 4 技能総合CEFRレベルと各技能との関係	p.27
1.2.10 高3 経年比較 4 技能別の傾向	p.29
1.3 高校 4 技能別解答状況分析（令和6年度）	
1.3.1 高校の全体傾向「聞くこと」パート別平均正解率（R6年度）	p.33
1.3.2 高校の全体傾向「読むこと」パート別平均正解率（R6年度）	p.35
1.3.3 高校の全体傾向「話すこと」採点観点別結果分析（R6年度）	p.38
1.3.4 高校の全体傾向「書くこと」採点観点別結果分析（R6年度）	p.41
1.3.5 高1「聞くこと」のCEFRレベル別に見たパート別平均正解率（R6年度）	p.42
1.3.6 高1「読むこと」のCEFRレベル別に見たパート別平均正解率（R6年度）	p.43
1.3.7 高1「話すこと」のCEFRレベル別に見た採点観点別結果分析（R6年度）	p.44
1.3.8 高1「書くこと」のCEFRレベル別に見た採点観点別結果分析（R6年度）	p.45

目次

1. 高校

1.3 高校 4技能別解答状況分析（令和6年度）

1.3.9 高2「聞くこと」のCEFRレベル別に見たパート別平均正解率（R6年度）	p.46
1.3.10 高2「読むこと」のCEFRレベル別に見たパート別平均正解率（R6年度）	p.47
1.3.11 高2「話すこと」のCEFRレベル別に見た採点観点別結果分析（R6年度）	p.48
1.3.12 高2「書くこと」のCEFRレベル別に見た採点観点別結果分析（R6年度）	p.49
1.3.13 高3「聞くこと」のCEFRレベル別に見たパート別平均正解率（R6年度）	p.50
1.3.14 高3「読むこと」のCEFRレベル別に見たパート別平均正解率（R6年度）	p.51
1.3.15 高3「話すこと」のCEFRレベル別に見た採点観点別結果分析（R6年度）	p.52
1.3.16 高3「書くこと」のCEFRレベル別に見た採点観点別結果分析（R6年度）	p.53

1.4 同一学校群における3年間のスコア推移の年度間比較

p.54

1.5 英語学習調査（令和6年度）

p.57

1.6 英語学習調査（経年比較）

p.81

1.7 英語学習調査（クロス分析：高2）

p.128

1.8 高校 付録

1.8.1 高1 4技能別スコア 経年比較	p.153
1.8.2 高1 4技能別CEFR-J / CEFR 経年比較	p.154
1.8.3 高2 4技能別スコア 経年比較	p.155
1.8.4 高2 4技能別CEFR-J / CEFR 経年比較	p.156
1.8.5 高3 4技能別スコア 経年比較	p.157
1.8.6 高3 4技能別CEFR-J / CEFR 経年比較	p.158

目次

2. 中学校

2.1 中学の母集団について	p.160
----------------	-------

2.2 中学 CEFR-J / CEFRLレベルごとの英語 4 技能の分析

2.2.1 中学の全体傾向	p.163
2.2.2 中1 経年比較 4 技能総合	p.164
2.2.3 中1 経年比較 4 技能総合CEFRレベルと各技能との関係	p.165
2.2.4 中1 経年比較 4 技能別の傾向	p.167
2.2.5 中2 経年比較 4 技能総合	p.170
2.2.6 中2 経年比較 4 技能総合CEFRレベルと各技能との関係	p.171
2.2.7 中2 経年比較 4 技能別の傾向	p.173
2.2.8 中3 経年比較 4 技能総合	p.176
2.2.9 中3 経年比較 4 技能総合CEFRレベルと各技能との関係	p.177
2.2.10 中3 経年比較 4 技能別の傾向	p.179

2.3 中学 4 技能別解答状況分析（令和6年度）

2.3.1 中学の全体傾向「聞くこと」パート別平均正解率（R6年度）	p.183
2.3.2 中学の全体傾向「読むこと」パート別平均正解率（R6年度）	p.185
2.3.3 中学の全体傾向「話すこと」採点観点別結果分析（R6年度）	p.188
2.3.4 中学の全体傾向「書くこと」採点観点別結果分析（R6年度）	p.191
2.3.5 中1「聞くこと」のCEFRレベル別に見たパート別平均正解率（R6年度）	p.192
2.3.6 中1「読むこと」のCEFRレベル別に見たパート別平均正解率（R6年度）	p.193
2.3.7 中1「話すこと」のCEFRレベル別に見た採点観点別結果分析（R6年度）	p.194
2.3.8 中1「書くこと」のCEFRレベル別に見た採点観点別結果分析（R6年度）	p.195

2. 中学校

2.3 中学 4技能別解答状況分析（令和6年度）

2.3.9 中2「聞くこと」のCEFRレベル別に見たパート別平均正解率（R6年度）	p.196
2.3.10 中2「読むこと」のCEFRレベル別に見たパート別平均正解率（R6年度）	p.197
2.3.11 中2「話すこと」のCEFRレベル別に見た採点観点別結果分析（R6年度）	p.198
2.3.12 中2「書くこと」のCEFRレベル別に見た採点観点別結果分析（R6年度）	p.199
2.3.13 中3「聞くこと」のCEFRレベル別に見たパート別平均正解率（R6年度）	p.200
2.3.14 中3「読むこと」のCEFRレベル別に見たパート別平均正解率（R6年度）	p.201
2.3.15 中3「話すこと」のCEFRレベル別に見た採点観点別結果分析（R6年度）	p.202
2.3.16 中3「書くこと」のCEFRレベル別に見た採点観点別結果分析（R6年度）	p.203

2.4 中学 付録

2.4.1 中1 4技能別スコア 経年比較	p.205
2.4.2 中1 4技能別CEFR-J / CEFR 経年比較	p.206
2.4.3 中2 4技能別スコア 経年比較	p.207
2.4.4 中2 4技能別CEFR-J / CEFR 経年比較	p.208
2.4.5 中3 4技能別スコア 経年比較	p.209
2.4.6 中3 4技能別CEFR-J / CEFR 経年比較	p.210

目次

3. 小学校

3.1 小学校の母集団について p.212

3.2 小学校 CEFR分析

3.2.1 小6 経年比較 4 技能総合 p.214

3.2.2 小6 経年比較 4 技能別の傾向 p.215

3.3 小学校 4 技能別解答状況分析（令和6年度）

3.3.1 小6 「聞くこと」のCEFRレベル別に見たパート別平均正解率（R6年度） p.218

3.3.2 小6 「読むこと」のCEFRレベル別に見たパート別平均正解率（R6年度） p.220

3.3.3 小6 「話すこと」のCEFRレベル別に見た採点観点別結果分析（R6年度） p.223

3.3.4 小6 「書くこと」のCEFRレベル別に見た採点観点別結果分析（R6年度） p.226

3.4 小学校 付録

3.4.1 小6 4 技能総合 経年比較 p.228

3.4.2 小6 4 技能別スコア 経年比較 p.229

4. 参考資料 p.230

5. 出題例 p.233

6. 謝辞 執筆協力者 p.288

本資料の見方

- 上部のグレー枠内は、データ分析の結果を記載した部分である。
- 本資料におけるグラフ上の色分けは、データ分析の結果内で言及した傾向や特徴を、視覚的に分かりやすく示すためのものである。
 - 赤色：増加 あるいは 強み・良好な傾向や特徴を示す箇所
 - 青色：減少 あるいは 弱み・課題や注意を要する傾向や特徴を示す箇所
 - 緑色：中立的な傾向や特徴を示す箇所
- 各項目間に示される数値は、両者の差分（ポイント数）を表すものである。

▼具体例

- CEFR A1～B1において、パートB（概要を素早く理解する力・必要な情報を素早く見つけ出す力を問う）よりも、パートC（まとまった量の英文から必要な情報を読みとる力を問う）の正解率の方が高い
- CEFRレベル間で最も大きい差は、パートCにおけるA1とA2の約37ポイント差

	パートA 短文脈理解問題	パートB 概要把握問題/情報検索問題	パートC 要点理解問題
B1	89.9%	69.7%	95.1%
A2	62.8%	45.1%	68.8%
A1	37.1%	29.4%	32.0%
Pre-A1	7.3%	9.8%	6.9%
全体	51.7%	38.9%	52.1%

データ分析の結果

分析コメントで言及した点についての強調

項目間の差分
左記の場合、パートCにおける
CEFR A1とA2間の正解率の差分

効果量及び度数分布の記述内容について

1. 効果量について

経年変化の大きさを解釈するために**効果量 (Effect Size)** を使用した。具体的には、3 時点 (R 1 年度・R 3 年度・R 6 年度※1) における平均スコアの差の実質的な大きさを捉えるために、分散分析を通じて得られる η^2 を使用した。計算方法は以下のとおりである。

$$\eta^2 = \frac{SS_{effect}}{SS_{total}}$$

ここで、 $SS_{total} = SS_{effect} + SS_{error}$ であり、
 SS_{total} は全体平方和、
 SS_{effect} は要因によって説明される平方和、
 SS_{error} は要因によって説明されない残差の平方和である。

時点における平均スコア間に実質的な差があることの判断基準として $\eta^2 > 0.01$ を用いた。

加えて、2時点間 (R 1 年度とR 3 年度、R 3 年度とR 6 年度※2) における平均スコアの差の実質的な大きさを捉えるために Cohen's d を用いた。計算方法は以下の通りである。

$$d = \frac{M_1 - M_2}{SD_{pooled}}$$

ここで、 M_1, M_2 は比較対象となる 2 時点それぞれにおける平均スコアである。プールした標準偏差である SD_{pooled} は、比較する 2 つの群それぞれの受検者数 n_1, n_2 と標本分散 S_1^2, S_2^2 を用いて以下のように計算した。

$$SD_{pooled} = \sqrt{\frac{n_1 S_1^2 + n_2 S_2^2}{n_1 + n_2}}$$

効果量の慣習的な解釈に基づき、 $|d| \geq 0.2$ のときに「上昇」あるいは「低下」、 $0.1 \leq |d| < 0.2$ のときに「横ばい～上昇」あるいは「横ばい～低下」、 $|d| < 0.1$ のときに「横ばい」とした。

(絶対値を外した d の値が負のときに上昇方向、正のときに下降方向で解釈する。)

2. 度数分布の記載内容について

- ① 小数点以下第 1 位を四捨五入し、 $\pm 3\%$ の増減があるときは、「やや増加/減少」と記載
- ② 小数点以下第 1 位を四捨五入し、 $\pm 4 \sim 9\%$ の増減があるときは、「増加/減少」と記載
- ③ 小数点以下第 1 位を四捨五入し、 $\pm 10\%$ 超の増減があるときは、「大きく増加/減少」と記載

※1 「1.4 同一学校群における 3 年間のスコア推移の年度間比較」においては、R 1 入学生については、R 1 (高 1)・R 2 (高 2)・R 3 (高 3) の 3 時点、また、R 4 入学生については、R 4 (高 1)・R 5 (高 2)・R 6 (高 3) の 3 時点が対象。

※2 「1.4 同一学校群における 3 年間のスコア推移の年度間比較」においては、R 1 入学生については、R 1 (高 1)とR 2 (高 2)、R 2 (高 2)とR 3 (高 3)、また、R 4 入学生については、R 4 (高 1)とR 5 (高 2)、R 5 (高 2)とR 6 (高 3)が対象。

1. 高校

1.1 高校の母集団について

・調査対象：本調査では、現行学習指導要領とそれ以前の学習指導要領との比較をするために、R1年度旧CS下（高校の移行期間初年度）、R3年度旧CS下（高校の移行期間3年目）、R6年度現行CS下（高1は小6から現行CS）の生徒を調査対象とした。

	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	小学校 移行期間	小学校 現指導要領 全面实施		小学校 現指導要領 全面实施			
	中学 移行期間	中学 現指導要領 全面实施		中学 現指導要領 全面实施			
高校入学年度		高校 移行期間	高校 現指導要領 学年進行		高校 現指導要領 学年進行		
平成29年度	高2	高3	既卒	既卒	既卒	既卒	既卒
平成30年度	高1	高2	高3	既卒	既卒	既卒	既卒
令和元年度	中3	高1	高2	高3	既卒	既卒	既卒
令和2年度	中2	中3	高1	高2	高3	既卒	既卒
令和3年度	中1	中2	中3	高1	高2	高3	既卒
令和4年度	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
令和5年度	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2
令和6年度	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1
令和7年度	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
令和8年度	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2
令和9年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1

1.1 高校の母集団について

データ抽出条件：

1つの学年次において、

(a) - R1年度～R6年度の全年度で「GTEC」を80名以上で実施した学校の生徒

(b) - (a)かつ下記の問題版を受検している生徒

(c) - (a)かつ(b)かつスタディサポートを受験した生徒

※集計対象である(b)および(c)については、年度間で同一の学校群であるとは限らない

※英語学習調査は、スタディサポート内のアンケート回答結果を集計したものである

各項目における集計対象※

■ (b)で集計

1.2 高校 CEFR-J / CEFRレベルごとの英語4技能の分析

1.3 高校 4技能別解答状況分析（令和6年度）

1.8 高校 付録

高1・2・3 4技能別スコア 経年比較

高1・2・3 4技能別CEFR-J / CEFR 経年比較

■ (c)で集計

1.5 英語学習調査（令和6年度）

1.6 英語学習調査（経年比較）

1.7 英語学習調査（クロス分析：高2）

使用問題版

学年	実施回	タイプ (注1)
高1	第38, 48, 66回	Basic
高2	第39, 49, 67回	Advanced
高3	第38, 48, 66回	Advanced

注1：Basicタイプ（高1）の測定可能範囲は、トータルスコア0(Pre-A1)～1080(B1.2) [各技能0(Pre-A1)～270(B1.2 *SpeakingのみB1.1)]
Advancedタイプ（高2・3）の測定可能範囲は、トータルスコア0(Pre-A1)～1280(B2) [各技能0(Pre-A1)～320(B2)]
測定可能範囲を越えた英語力を持つ生徒の結果は、測定上限のスコアおよびCEFR/CEFR-Jで表示されるため天井効果（より高い能力だとしても上限スコアに留まる）が発生する可能性がある。平均、標準偏差およびその推移を確認するにあたっては、スコアの天井効果による影響がある点に留意する必要がある。

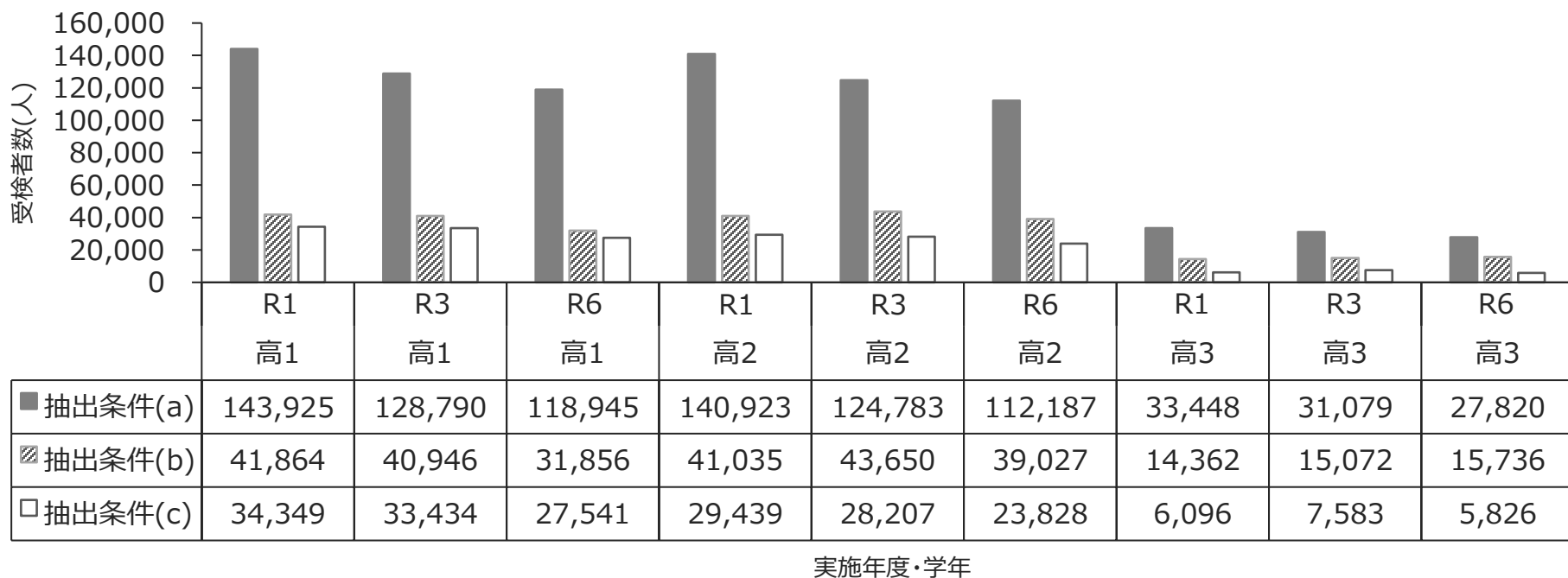
※「1.4 同一学校群における3年間のスコア推移の年度間比較」の母集団については、スライド54に記載しています。
※「GTEC」は、株式会社ベネッセコーポレーションの登録商標です。

1.1 高校の母集団について

属性情報：

- 4年制大学に進学する生徒が約9割を占める学校の生徒が8割
- 学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本
- 公立高校が約6割、私立高校が約4割
- 首都圏・近畿の受検者が約5割

学年・実施年度ごとの受検者数

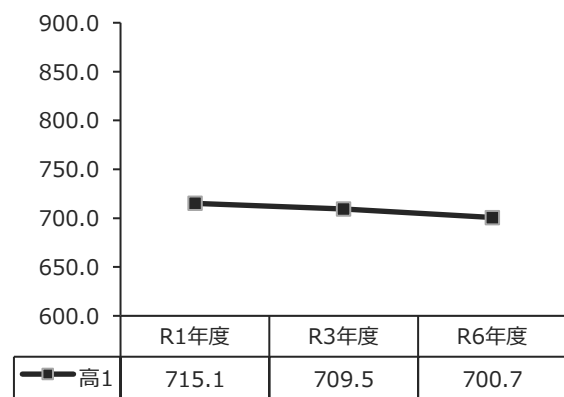


1.2.1 高校の全体傾向

- 4技能総合スコアについて、高1は「横ばい」、高2は「横ばい～上昇」、高3はR1年度からR3年度は「横ばい」、R3年度からR6年度は「上昇」
- いずれの学年も、各年度ともCEFRレベル（平均スコアから換算）はA2に到達

4技能総合 全国平均スコア

高1

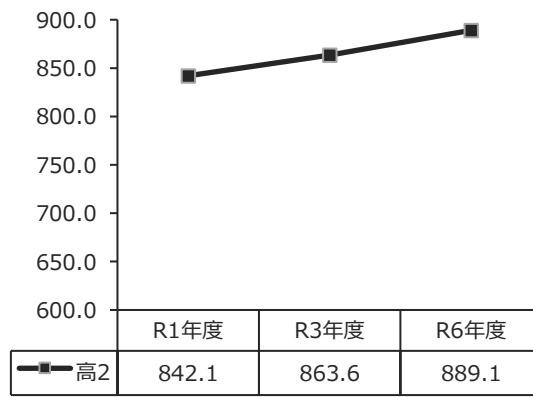


※ η^2 : 0.002

平均CEFR	A2	A2	A2
平均CEFR-J	A2.1	A2.1	A2.1

※標準偏差：R1は136.4、R3は138.9、R6は145.3。

高2



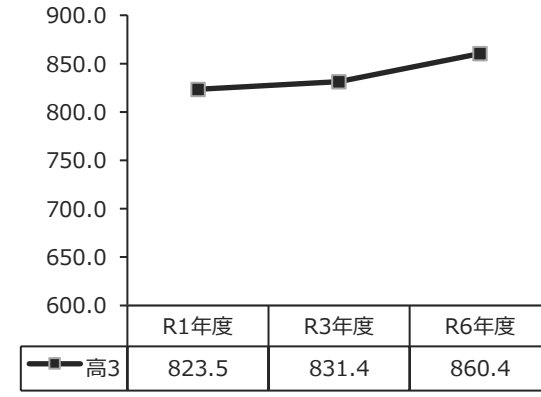
※ η^2 : 0.018

※Cohen's d : R1-R3 -0.154 ; R3-R6 -0.186

平均CEFR	A2	A2	A2
平均CEFR-J	A2.2	A2.2	A2.2

※標準偏差：R1は138.6、R3は129.6、R6は149.7。

高3



※ η^2 : 0.013

※Cohen's d : R1-R3 -0.059 ; R3-R6 -0.204

平均CEFR	A2	A2	A2
平均CEFR-J	A2.2	A2.2	A2.2

※標準偏差：R1は134.0、R3は136.8、R6は147.0。

※「4技能」の表記について、本調査はJCS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

1.2.2 高1 経年比較 4 技能総合

- R1年度と比べて、CEFR A2以上の割合は、R6年度に減少（CEFR-J A2.1とA2.2の割合の合計が減少、CEFR-J A1.3以下の割合は増加）

	旧CS下	旧CS下 ※中1から移行期間	現行CS下 ※小6から現行CS
CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
B1.2	0.4%	0.4%	0.4%
B1.1	4.8%	5.1%	5.0%
A2.2	19.3%	17.3%	16.9%
A2.1	37.1%	36.6%	34.8%
A1.3	31.7%	33.7%	33.7%
A1.2	5.5%	5.2%	7.0%
A1.1	0.9%	1.3%	1.8%
Pre-A1	0.2%	0.3%	0.3%
B1以上 (累計)	5.2%	5.5%	5.4%
A2以上 (累計)	61.6%	59.4%	57.2%

減少

増加

減少

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。

※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

1.2.3 高1 経年比較 4技能総合CEFRレベルと各技能との関係

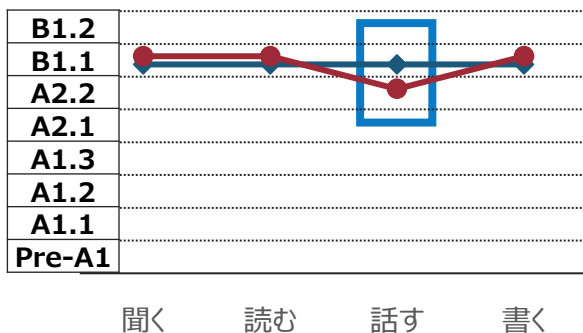
<R3年度とR6年度の比較>

上昇：A1「話すこと」(CEFR-Jレベル1段階)

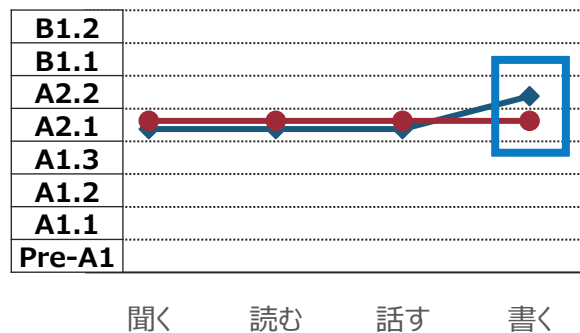
下降：A2「書くこと」、B1「話すこと」、全体「書くこと」(CEFR-Jレベル1段階)

◆ R3 ● R6

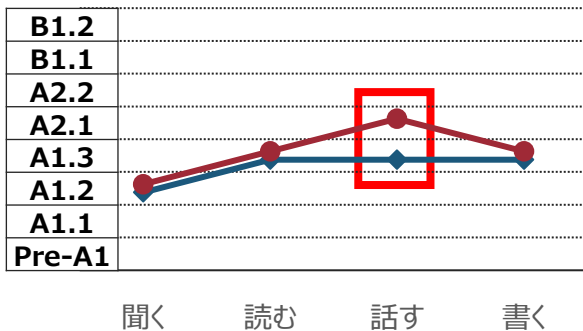
4技能総合 B1



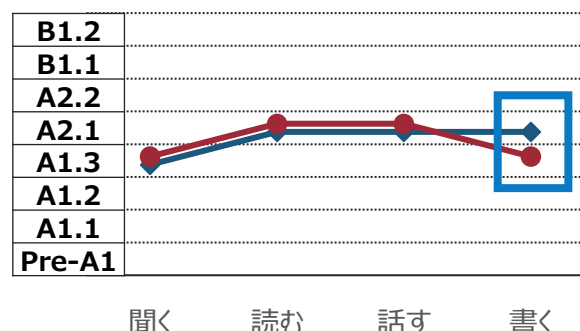
4技能総合 A2



4技能総合 A1



全体



※「4技能」の表記について、本調査はJCS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※Basicタイプ(高1)の測定可能範囲は、CEFRレベルはB1、CEFR-JレベルはB1.2までの測定です。なお、SpeakingのみCEFR-JレベルはB1.1までの測定範囲です。

※【高1(b)】R3年度の各CEFRレベルの集計人数は、B1: 2,257人、A2: 22,063人、A1: 16,493人、Pre-A1: 133人。R6年度の各CEFRレベルの集計人数は、B1: 1,706人、A2: 16,474人、A1: 13,571人、Pre-A1: 105人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。

※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占めます。

1.2.3 高1 経年比較 4技能総合CEFRレベルと各技能との関係

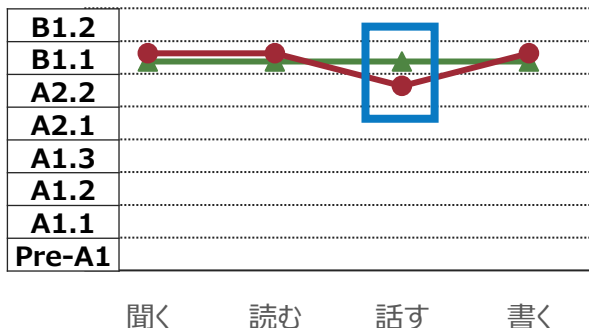
<R1年度とR6年度の比較>

上昇：なし

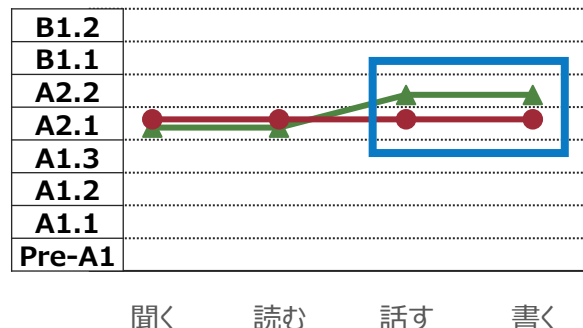
下降：A2「話すこと」「書くこと」、B1「話すこと」、全体「書くこと」
(CEFR-Jレベル1段階)

▲ R1 ● R6

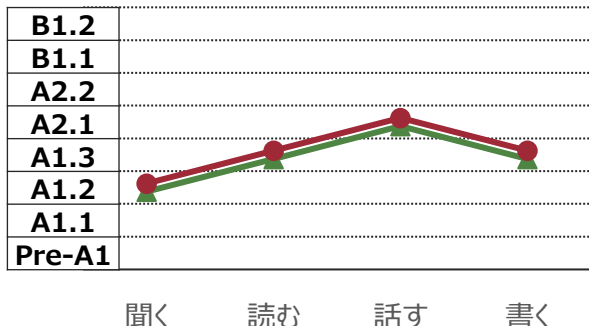
4技能総合 B1



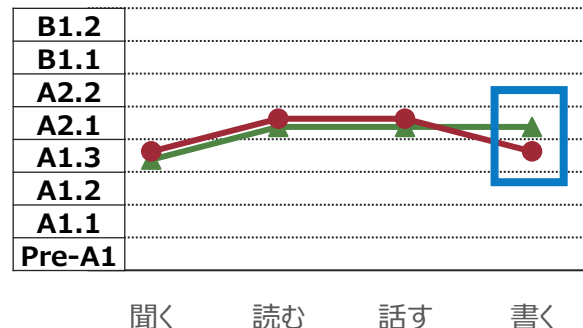
4技能総合 A2



4技能総合 A1



全体



※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※Basicタイプ（高1）の測定可能範囲は、CEFRレベルはB1、CEFR-JレベルはB1.2までの測定です。なお、SpeakingのみCEFR-JレベルはB1.1までの測定範囲です。

※【高1 (b)】R1年度の各CEFRレベルの集計人数は、B1：2,170人、A2：23,635人、A1：15,974人、Pre-A1：85人。R6年度の各CEFRレベルの集計人数は、B1：1,706人、A2：16,474人、A1：13,571人、Pre-A1：105人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。

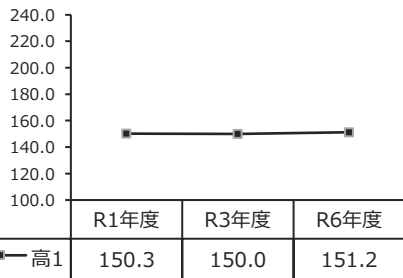
※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占めます。

1.2.4 高1 経年比較 4技能別の傾向

- 「聞くこと」「読むこと」は「横ばい」
- 「話すこと」はR1年度からR3年度は「低下」、R3年度からR6年度は「横ばい」
- 「書くこと」はR1年度からR3年度は「横ばい」、R3年度からR6年度は「低下」

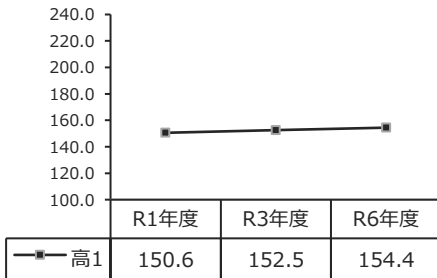
各技能 全国平均スコア

聞くこと Listening



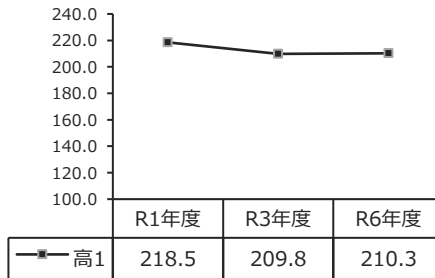
※ η^2 : 0.000

読むこと Reading



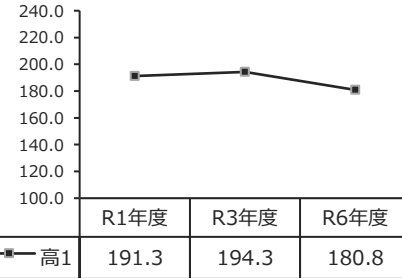
※ η^2 : 0.001

話すこと Speaking



※ η^2 : 0.012
 ※Cohen's d : R1-R3 0.229 ; R3-R6 -0.012

書くこと Writing



※ η^2 : 0.015
 ※Cohen's d : R1-R3 -0.068 ; R3-R6 0.301

平均 CEFR	A1	A1	A1
平均 CEFR-J	A1.3	A1.3	A1.3

平均 CEFR	A2	A2	A2
平均 CEFR-J	A2.1	A2.1	A2.1

平均 CEFR	A2	A2	A2
平均 CEFR-J	A2.1	A2.1	A2.1

平均 CEFR	A2	A2	A1
平均 CEFR-J	A2.1	A2.1	A1.3

※標準偏差 : R1は42.2、R3は45.7、R6は46.8。 ※標準偏差 : R1は39.0、R3は39.7、R6は41.2。 ※標準偏差 : R1は39.9、R3は36.9、R6は38.0。 ※標準偏差 : R1は43.9、R3は41.9、R6は48.7。

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※集団属性情報【高校】 : 学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本 / 公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める / 4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める / 首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

1.2.4 高1 経年比較 4技能別の傾向 受信技能

「聞くこと」

- R1年度と比べて、CEFR A2以上の割合は、R6年度にやや増加
- CEFR-J A2.2以上の割合はやや増加、CEFR-J A1.2とA1.3の割合の合計は減少したため、ばらつきが増加（標準偏差が42.2→45.7→46.8へと変化）

「読むこと」

- R1年度と比べて、CEFR A2以上の割合は、R6年度にやや増加（特にCEFR-J A2.2以上が増加）

聞くこと Listening

やや増加

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
B1.2	2.3%	3.2%	3.6%
B1.1	4.5%	4.9%	5.2%
A2.2	10.3%	10.7%	10.9%
A2.1	20.3%	19.4%	20.1%
A1.3	29.4%	26.7%	25.7%
A1.2	27.9%	27.6%	26.5%
A1.1	4.2%	5.4%	5.7%
Pre-A1	1.3%	2.2%	2.2%

やや増加

減少

B1以上 (累計)	6.8%	8.1%	8.8%
A2以上 (累計)	37.3%	38.1%	39.8%

読むこと Reading

増加

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
B1.2	1.9%	2.4%	2.7%
B1.1	3.9%	4.1%	5.0%
A2.2	15.4%	15.7%	17.0%
A2.1	24.7%	25.5%	24.6%
A1.3	41.3%	40.2%	38.7%
A1.2	11.4%	10.9%	10.8%
A1.1	1.1%	1.0%	1.0%
Pre-A1	0.3%	0.1%	0.2%

やや増加

B1以上 (累計)	5.8%	6.5%	7.7%
A2以上 (累計)	45.9%	47.7%	49.3%

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。

※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

1.2.4 高1 経年比較 4 技能別の傾向 発信技能

「話すこと」

- R 1 年度と比べて、CEFR A2以上の割合は、R 6 年度にやや減少（特にCEFR-J A2.2とB1.1の割合の合計が大きく減少し、CEFR-J A2.1の割合は大きく増加）

「書くこと」

- CEFR A2以上の割合は、R 1 年度からR 3 年度にかけて大きく増加したが、R 6 年度に大きく減少（特にR 3 年度と比べて、CEFR-J A2.2以上の割合は、R 6 年度に減少）

話すこと Speaking

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
B1.2	0.0%	0.0%	0.0%
B1.1	14.1%	7.3%	6.0%
A2.2	31.9%	24.9%	27.2%
A2.1	38.5%	49.2%	48.8%
A1.3	12.4%	15.9%	15.3%
A1.2	2.4%	2.2%	2.1%
A1.1	0.4%	0.3%	0.0%
Pre-A1	0.3%	0.2%	0.5%

大きく増加

大きく減少

やや減少

B1以上 (累計)	14.1%	7.3%	6.0%
A2以上 (累計)	84.5%	81.4%	82.0%

書くこと Writing

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
B1.2	1.4%	0.5%	0.6%
B1.1	14.4%	14.1%	7.1%
A2.2	21.9%	20.6%	18.7%
A2.1	17.1%	33.0%	22.9%
A1.3	37.0%	26.2%	38.1%
A1.2	5.0%	2.1%	7.9%
A1.1	0.8%	1.0%	0.6%
Pre-A1	2.3%	2.4%	4.0%

減少

B1以上 (累計)	15.8%	14.6%	7.8%
A2以上 (累計)	54.8%	68.2%	49.4%

大きく増加

大きく減少

※「4 技能」の表記について、本調査は旧CS下の子生も対象としているため、「4 技能・5 領域」と表記していません。

※話すこと Speakingについて、BasicタイプはB1.2が測定範囲外です。

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。

※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

1.2.5 高2 経年比較 4技能総合

- R1年度と比べて、CEFR A2以上の割合は、R6年度にやや増加（特にCEFR B1以上の割合が大きく増加）

	旧CS下	旧CS下 ※中2から移行期間	現行CS下 ※中2から現行CS
CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
B2	1.5%	1.5%	2.7%
B1.2	5.3%	6.6%	11.4%
B1.1	16.1%	19.0%	23.7%
A2.2	37.1%	39.5%	33.3%
A2.1	30.9%	28.2%	22.7%
A1.3	7.5%	4.2%	4.6%
A1.2	1.1%	1.0%	1.4%
A1.1	0.4%	0.1%	0.1%
Pre-A1	0.1%	0.0%	0.0%

B1以上 (累計)	22.9%	27.1%	37.9%
A2以上 (累計)	90.9%	94.7%	93.9%

大きく増加

やや増加

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※「GTEC」では測定範囲の関係上、B2に到達していることを示すために、CEFR-J「B2.1」、「B2.2」と記載せず「B2」と表記しています。

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。

※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

1.2.6 高2 経年比較 4技能総合CEFRレベルと各技能との関係

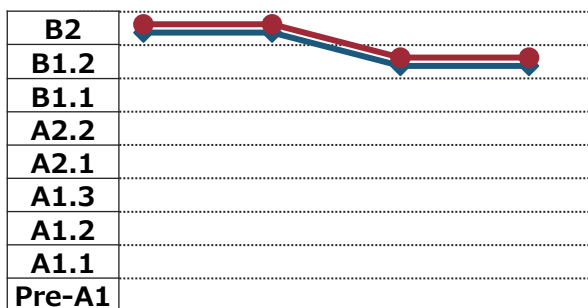
<R3年度とR6年度の比較>

上昇：A2「聞くこと」、B1「読むこと」（CEFR-Jレベル1段階）

下降：A1・A2「書くこと」、B1「話すこと」（CEFR-Jレベル1段階）

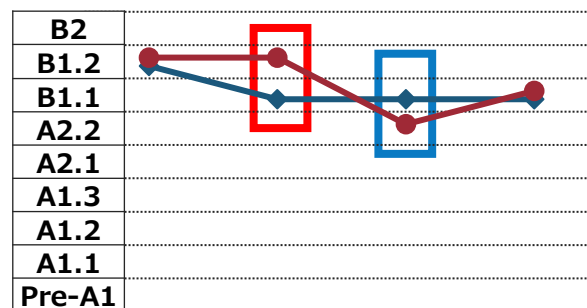
◆ R3 ● R6

4技能総合 B2



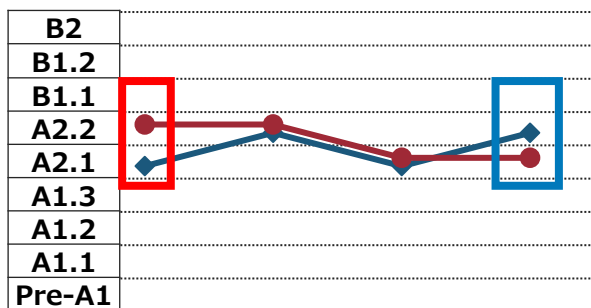
聞く 読む 話す 書く

4技能総合 B1



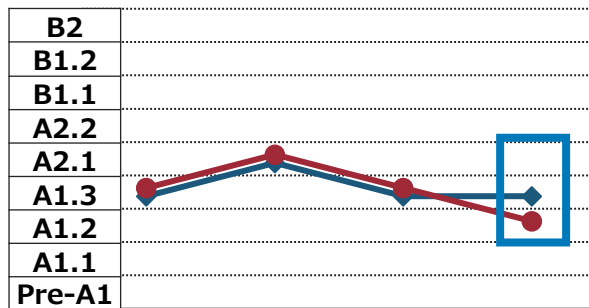
聞く 読む 話す 書く

4技能総合 A2



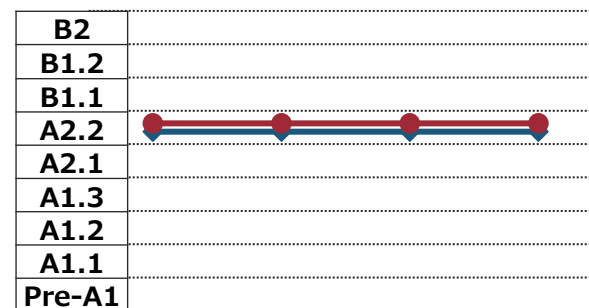
聞く 読む 話す 書く

4技能総合 A1



聞く 読む 話す 書く

全体



聞く 読む 話す 書く

※「4技能」の表記について、本調査はJCS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※「GTEC」では、測定範囲の関係上、B2に到達していることを示すために、CEFR-J「B2.1」、「B2.2」と記載せず、「B2」と表記しています。

※【高2 (b)】 R3年度の各CEFRレベルの集計人数は、B2: 665人、B1: 11,163人、A2: 29,522人、A1: 2,282人、Pre-A1: 18人。R6年度の各CEFRレベルの集計人数は、B2: 1,054人、B1: 13,710人、A2: 21,872人、A1: 2,378人、Pre-A1: 13人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。

※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占めます。

1.2.6 高2 経年比較 4技能総合CEFRレベルと各技能との関係

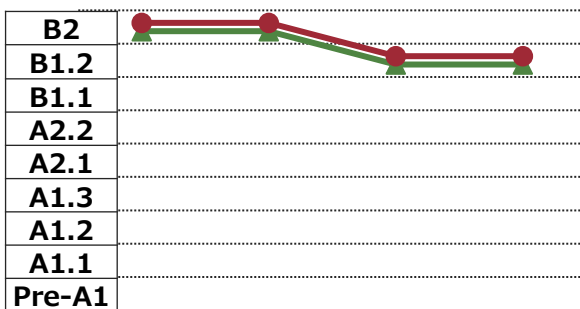
<R1年度とR6年度の比較>

上昇：A1「読むこと」、A2「聞くこと」「読むこと」、B1「読むこと」(CEFR-Jレベル1段階)

下降：A1「書くこと」、A2「話すこと」「書くこと」、B1「話すこと」(CEFR-Jレベル1段階)

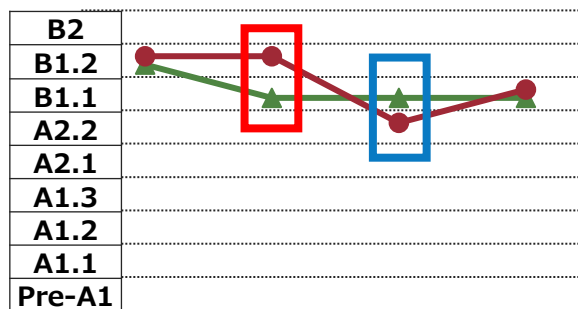
▲ R1 ● R6

4技能総合 B2



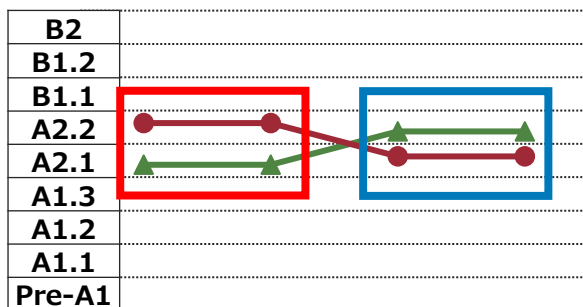
聞く 読む 話す 書く

4技能総合 B1



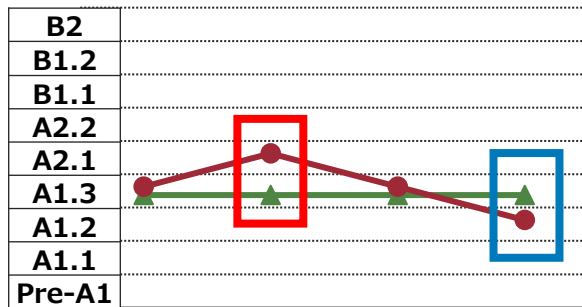
聞く 読む 話す 書く

4技能総合 A2



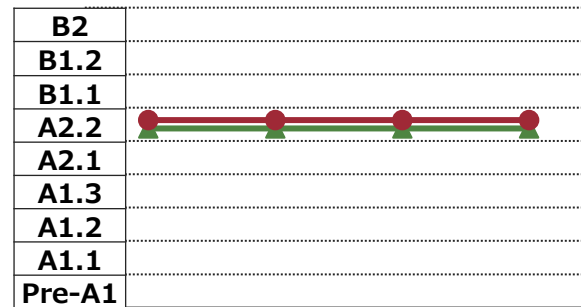
聞く 読む 話す 書く

4技能総合 A1



聞く 読む 話す 書く

全体



聞く 読む 話す 書く

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※「GTEC」では、測定範囲の関係上、B2に到達していることを示すために、CEFR-J「B2.1」、「B2.2」と記載せず、「B2」と表記しています。

※【高2 (b)】 R1年度の各CEFRレベルの集計人数は、B2: 604人、B1: 8,801人、A2: 27,907人、A1: 3,687人、Pre-A1: 36人。R6年度の各CEFRレベルの集計人数は、B2: 1,054人、B1: 13,710人、A2: 21,872人、A1: 2,378人、Pre-A1: 13人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。

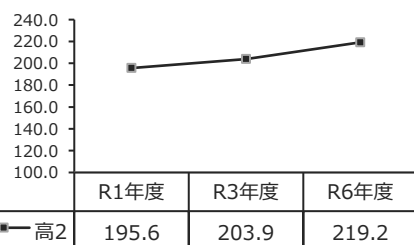
※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占めます。

1.2.7 高2 経年比較 4 技能別の傾向

- 「聞くこと」はR1年度からR3年度は「横ばい～上昇」、R3年度からR6年度は「上昇」
- 「読むこと」は「上昇」
- 「話すこと」は「横ばい」
- 「書くこと」はR1年度からR3年度は「横ばい」、R3年度からR6年度は「低下」

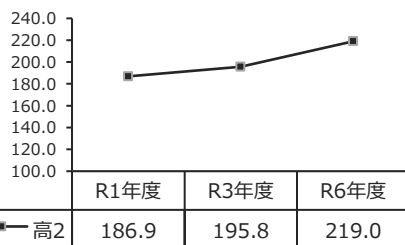
各技能 全国平均スコア

聞くこと Listening



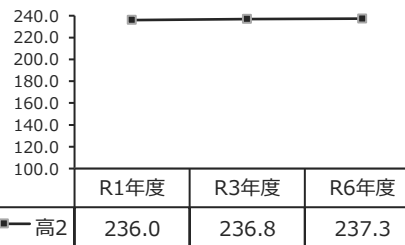
※ η^2 : 0.036
 ※Cohen's d : R1-R3 -0.170 ; R3-R6 -0.299

読むこと Reading



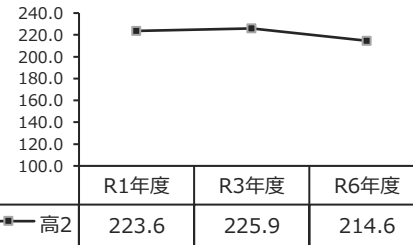
※ η^2 : 0.097

話すこと Speaking



※ η^2 : 0.000

書くこと Writing



※ η^2 : 0.015
 ※Cohen's d : R1-R3 -0.055 ; R3-R6 0.287

平均 CEFR	A2	A2	A2
平均 CEFR-J	A2.2	A2.2	A2.2

平均 CEFR	A2	A2	A2
平均 CEFR-J	A2.2	A2.2	A2.2

平均 CEFR	A2	A2	A2
平均 CEFR-J	A2.2	A2.2	A2.2

平均 CEFR	A2	A2	A2
平均 CEFR-J	A2.2	A2.2	A2.2

※標準偏差 : R1は45.7、R3は48.7、R6は52.4。 ※標準偏差 : R1は37.3、R3は37.9、R6は45.9。 ※標準偏差 : R1は42.0、R3は36.3、R6は33.1。 ※標準偏差 : R1は41.6、R3は34.7、R6は45.9。

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※集団属性情報【高校】 : 学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本 / 公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める / 4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める / 首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

1.2.7 高2 経年比較 4 技能別の傾向 受信技能

「聞くこと」

- R 1 年度と比べて、CEFR A2以上の割合は、R 6 年度に増加（特に CEFR-J B1.1以上の割合が約21ポイント増加）

「読むこと」

- R 1 年度と比べて、CEFR A2以上の割合は、R 6 年度に大きく増加（特にCEFR-J B1.1以上の割合は約27ポイント増加）

聞くこと Listening

大きく増加

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
B2	4.6%	6.8%	11.7%
B1.2	7.5%	10.5%	16.2%
B1.1	13.4%	15.4%	19.0%
A2.2	24.5%	24.6%	22.0%
A2.1	29.4%	25.8%	18.9%
A1.3	16.3%	13.1%	9.3%
A1.2	3.9%	3.5%	2.7%
A1.1	0.3%	0.2%	0.2%
Pre-A1	0.1%	0.1%	0.1%

増加

B1以上 (累計)	25.5%	32.7%	46.9%
A2以上 (累計)	79.5%	83.1%	87.8%

読むこと Reading

大きく増加

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
B2	2.7%	3.8%	12.3%
B1.2	4.0%	5.7%	11.8%
B1.1	9.8%	12.7%	19.7%
A2.2	34.9%	39.1%	35.4%
A2.1	36.3%	33.0%	18.1%
A1.3	12.0%	5.7%	2.7%
A1.2	0.2%	0.1%	0.1%
A1.1	0.0%	0.0%	0.0%
Pre-A1	0.0%	0.0%	0.0%

大きく増加

B1以上 (累計)	16.5%	22.1%	43.8%
A2以上 (累計)	87.7%	94.2%	97.2%

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。
 ※「GTEC」では測定範囲の関係上、B2に到達していることを示すために、CEFR-J「B2.1」、「B2.2」と記載せず「B2」と表記しています。
 ※文章内のポイント表記は小数点以下第1位を四捨五入しています。
 ※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。
 ※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。
 ※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

1.2.7 高2 経年比較 4 技能別の傾向 発信技能

「話すこと」

- R1年度と比べて、CEFR A2以上の割合は、R6年度に増加
- CEFR-J A2.1とA2.2の割合の合計は増加したが、CEFR-J B1.1以上の割合は減少したため、ばらつきが減少（標準偏差が42.0→36.3→33.1へと変化）

「書くこと」

- CEFR A2以上の割合はR1年度からR3年度にかけて増加したが、R6年度に大きく減少（ボリュームゾーンがCEFR-J B1.1からA2.2に移動）

話すこと Speaking

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
B2	3.1%	1.4%	0.8%
B1.2	5.2%	4.5%	3.0%
B1.1	19.7%	18.1%	19.1%
A2.2	33.3%	37.8%	41.3%
A2.1	30.7%	32.4%	31.7%
A1.3	6.3%	4.9%	3.3%
A1.2	1.2%	0.7%	0.6%
A1.1	0.3%	0.0%	0.0%
Pre-A1	0.3%	0.2%	0.2%

減少

増加

B1以上 (累計)	28.0%	24.1%	22.9%
A2以上 (累計)	92.0%	94.2%	95.9%

書くこと Writing

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
B2	0.6%	0.0%	2.5%
B1.2	8.7%	4.6%	5.2%
B1.1	40.7%	53.2%	24.4%
A2.2	24.2%	28.8%	30.0%
A2.1	15.0%	8.6%	22.1%
A1.3	8.1%	3.0%	13.1%
A1.2	0.8%	0.1%	0.2%
A1.1	0.0%	0.0%	0.0%
Pre-A1	1.9%	1.6%	2.5%

移動

増加

大きく減少

B1以上 (累計)	50.1%	57.9%	32.1%
A2以上 (累計)	89.3%	95.3%	84.2%

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※「GTEC」では測定範囲の関係上、B2に到達しているという点を示すために、CEFR-J「B2.1」、「B2.2」と記載せず「B2」と表記しています。

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。

※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

1.2.8 高3 経年比較 4 技能総合

- R1年度と比べて、CEFR A2以上の割合は、R6年度に増加
- CEFR-J B1.1以上の割合は約11ポイント増加しているが、CEFR-J A2.1とA2.2の割合の合計は減少

	旧CS下	旧CS下 ※中3から移行期間	現行CS下 ※中3から現行CS
CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
B2	0.9%	0.9%	1.8%
B1.2	4.1%	5.1%	8.1%
B1.1	14.3%	15.5%	20.3%
A2.2	34.6%	34.9%	33.4%
A2.1	33.4%	32.5%	27.3%
A1.3	11.3%	9.6%	7.2%
A1.2	1.1%	1.3%	1.7%
A1.1	0.2%	0.2%	0.1%
Pre-A1	0.0%	0.1%	0.0%
B1以上 (累計)	19.3%	21.4%	30.3%
A2以上 (累計)	87.4%	88.8%	91.0%

大きく増加

減少

増加

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。
 ※「GTEC」では測定範囲の関係上、B2に到達しているということを示すために、CEFR-J「B2.1」、「B2.2」と記載せず「B2」と表記しています。
 ※文章内のポイント表記は小数点以下第1位を四捨五入しています。
 ※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。
 ※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。
 ※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

1.2.9 高3 経年比較 4技能総合CEFRLレベルと各技能との関係

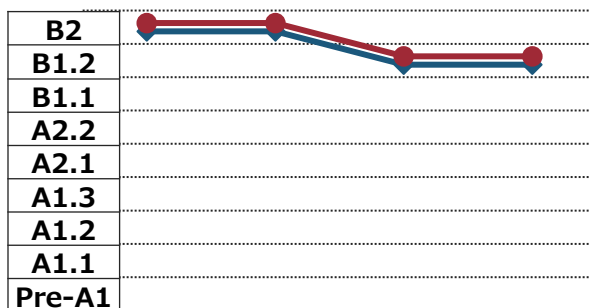
<R3年度とR6年度の比較>

上昇：A2「聞くこと」、B1「読むこと」(CEFRLレベル1段階)

下降：A1・A2「書くこと」(CEFRLレベル1段階)

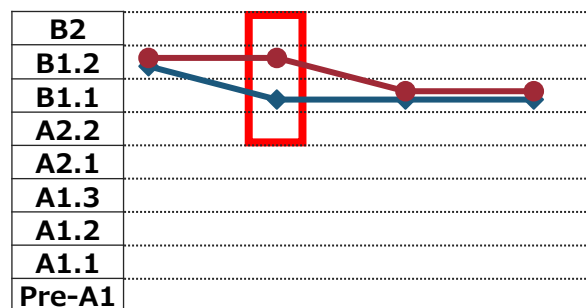
◆ R3 ● R6

4技能総合 B2



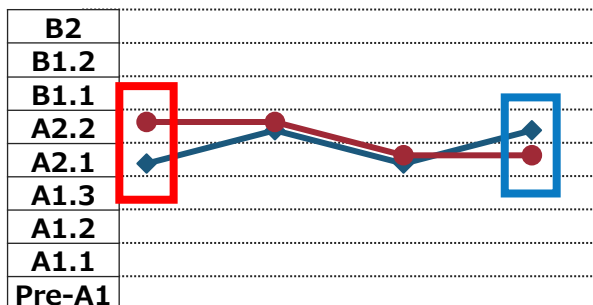
聞く 読む 話す 書く

4技能総合 B1



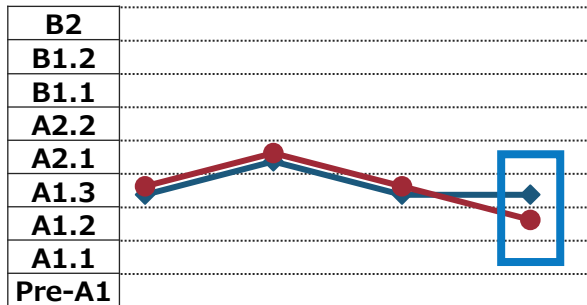
聞く 読む 話す 書く

4技能総合 A2



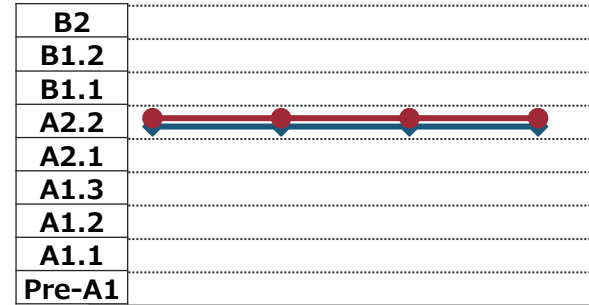
聞く 読む 話す 書く

4技能総合 A1



聞く 読む 話す 書く

全体



聞く 読む 話す 書く

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※「GTEC」では、測定範囲の関係上、B2に到達していることを示すために、CEFRL「B2.1」、「B2.2」と記載せず、「B2」と表記しています。

※【高3 (b)】 R3年度の各CEFRLレベルの集計人数は、B2: 131人、B1: 3,095人、A2: 10,161人、A1: 1,675人、Pre-A1: 10人。R6年度の各CEFRLレベルの集計人数は、B2: 289人、B1: 4,474人、A2: 9,549人、A1: 1,421人、Pre-A1: 3人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。

※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占めます。

1.2.9 高3 経年比較 4技能総合CEFRLレベルと各技能との関係

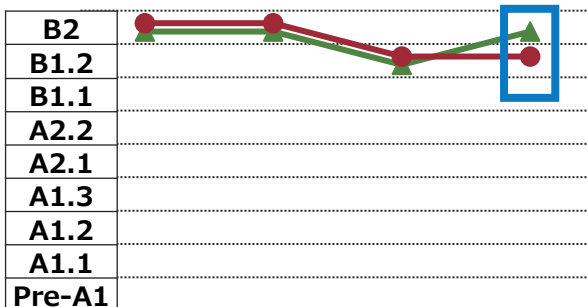
<R1年度とR6年度の比較>

上昇：A1「読むこと」、A2「聞くこと」「読むこと」、B1「聞くこと」「読むこと」(CEFRLレベル1段階)

下降：A1「書くこと」、A2「話すこと」「書くこと」、B1・B2「書くこと」(CEFRLレベル1段階)

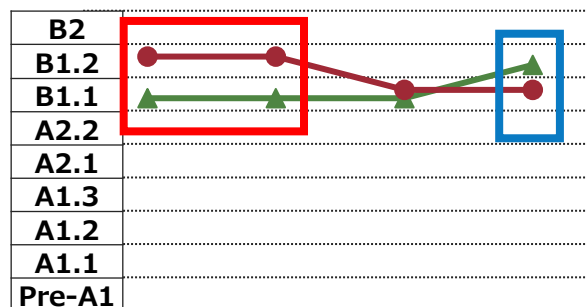
▲ R1 ● R6

4技能総合 B2



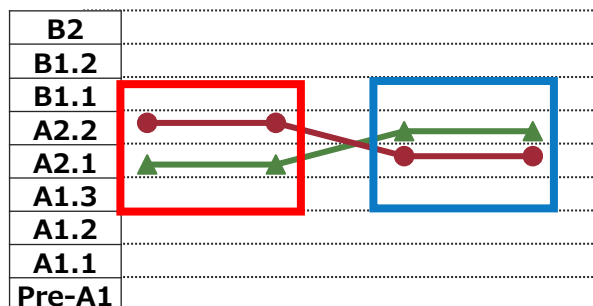
聞く 読む 話す 書く

4技能総合 B1



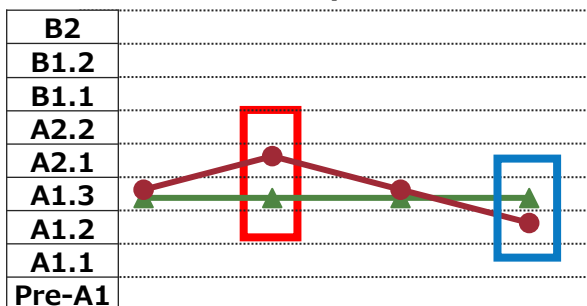
聞く 読む 話す 書く

4技能総合 A2



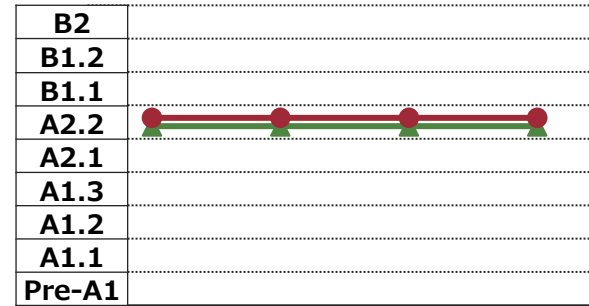
聞く 読む 話す 書く

4技能総合 A1



聞く 読む 話す 書く

全体



聞く 読む 話す 書く

※「4技能」の表記について、本調査はBCS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※「GTCE」では、測定範囲の関係上、B2に到達していることを示すために、CEFRL「B2.1」、「B2.2」と記載せず、「B2」と表記しています。

※【高3 (b)】 R1年度の各CEFRLレベルの集計人数は、B2: 135人、B1: 2,643人、A2: 9,776人、A1: 1,804人、Pre-A1: 4人。R6年度の各CEFRLレベルの集計人数は、B2: 289人、B1: 4,474人、A2: 9,549人、A1: 1,421人、Pre-A1: 3人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。

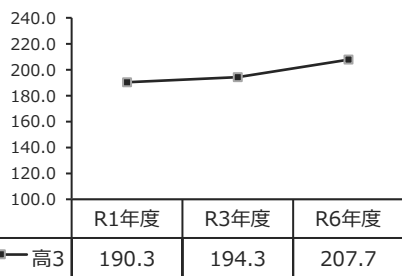
※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占めます。

1.2.10 高3 経年比較 4技能別の傾向

- 「聞くこと」はR 1年度からR 3年度は「横ばい」、R 3年度からR 6年度は「上昇」
- 「読むこと」は「上昇」
- 「話すこと」「書くこと」は「横ばい」

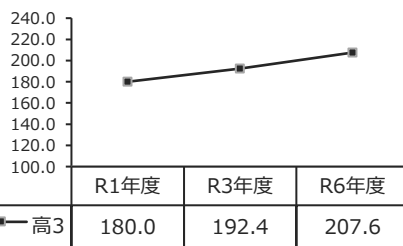
各技能 全国平均スコア

聞くこと Listening



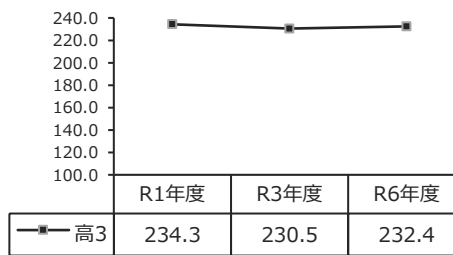
※ η^2 : 0.026
 ※Cohen's d : R1-R3 -0.092 ; R3-R6 -0.280

読むこと Reading



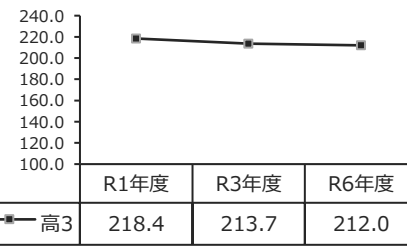
※ η^2 : 0.081
 ※Cohen's d : R1-R3 -0.357 ; R3-R6 -0.376

話すこと Speaking



※ η^2 : 0.001

書くこと Writing



※ η^2 : 0.004

平均 CEFR	A2	A2	A2
平均 CEFR-J	A2.2	A2.2	A2.2

平均 CEFR	A2	A2	A2
平均 CEFR-J	A2.2	A2.2	A2.2

平均 CEFR	A2	A2	A2
平均 CEFR-J	A2.2	A2.2	A2.2

平均 CEFR	A2	A2	A2
平均 CEFR-J	A2.2	A2.2	A2.2

※標準偏差 : R1は42.2、R3は45.6、R6は49.8。 ※標準偏差 : R1は31.9、R3は36.7、R6は43.7。 ※標準偏差 : R1は42.3、R3は40.6、R6は37.4。 ※標準偏差 : R1は44.1、R3は37.6、R6は43.4。

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の子供も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

1.2.10 高3 経年比較 4技能別の傾向 受信技能

「聞くこと」

- R1年度と比べて、CEFR A2以上の割合は、R6年度に増加（特にCEFR-J B1.1以上の割合が大きく増加）

「読むこと」

- R1年度と比べて、CEFR A2以上の割合が、R6年度に増加（特にCEFR-J B1.1以上の割合が大きく増加）

聞くこと Listening

大きく増加

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
B2	2.2%	3.9%	7.3%
B1.2	6.4%	7.4%	12.1%
B1.1	13.8%	14.7%	18.1%
A2.2	25.5%	24.6%	24.3%
A2.1	28.7%	26.7%	22.1%
A1.3	17.4%	17.0%	11.6%
A1.2	5.5%	5.4%	4.0%
A1.1	0.3%	0.3%	0.3%
Pre-A1	0.1%	0.0%	0.1%

増加

B1以上 (累計)	22.4%	26.1%	37.6%
A2以上 (累計)	76.6%	77.3%	84.0%

読むこと Reading

大きく増加

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
B2	1.2%	2.9%	8.2%
B1.2	2.5%	4.8%	8.7%
B1.1	7.1%	12.3%	16.1%
A2.2	31.6%	38.6%	38.1%
A2.1	44.4%	33.0%	24.2%
A1.3	13.1%	8.2%	4.6%
A1.2	0.1%	0.1%	0.1%
A1.1	0.0%	0.0%	0.0%
Pre-A1	0.0%	0.0%	0.0%

B1以上 (累計)	10.8%	20.0%	33.0%
A2以上 (累計)	86.8%	91.7%	95.3%

増加

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※「GTEC」では測定範囲の関係上、B2に到達していることを示すために、CEFR-J「B2.1」、「B2.2」と記載せず「B2」と表記しています。

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。

※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

1.2.10 高3 経年比較 4技能別の傾向 発信技能

「話すこと」

- R1年度と比べて、CEFR-J A2.1とA2.2の割合の合計は、R6年度に増加しているが、CEFR-J B1.1以上の割合は減少しており、ばらつきが減少（標準偏差が42.3→40.6→37.4へと変化）

「書くこと」

- CEFR A2以上の割合はR1年度からR3年度に増加したが、R6年度に減少（特にCEFR-J B1.2の割合が大きく減少）

話すこと Speaking			
CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
B2	2.8%	1.5%	0.8%
B1.2	4.6%	4.2%	2.9%
B1.1	19.2%	16.0%	16.9%
A2.2	33.4%	34.8%	37.8%
A2.1	30.2%	33.7%	34.0%
A1.3	8.0%	8.5%	6.4%
A1.2	1.1%	1.0%	0.8%
A1.1	0.4%	0.2%	0.0%
Pre-A1	0.3%	0.3%	0.3%
B1以上 (累計)	26.7%	21.6%	20.6%
A2以上 (累計)	90.3%	90.1%	92.4%

書くこと Writing			
CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
B2	2.3%	0.0%	2.0%
B1.2	14.2%	3.8%	2.2%
B1.1	26.5%	33.8%	30.4%
A2.2	18.2%	23.3%	21.8%
A2.1	15.5%	25.0%	25.2%
A1.3	20.5%	11.8%	15.8%
A1.2	1.2%	0.6%	0.4%
A1.1	0.4%	0.0%	0.1%
Pre-A1	1.1%	1.8%	2.1%
B1以上 (累計)	43.1%	37.6%	34.6%
A2以上 (累計)	76.8%	85.8%	81.6%

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。
 ※「GTEC」では測定範囲の関係上、B2に到達しているということを示すために、CEFR-J「B2.1」、「B2.2」と記載せず「B2」と表記しています。
 ※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。
 ※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。
 ※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

1.3.1 高校の全体傾向「聞くこと」

パート	問うている力	合計	Advanced		Basic	
			設問数	時間 (分)	設問数	時間 (分)
			40	約25	40	約25
A 写真・イラスト説明問題	写真、図表やイラストなど与えられた視覚的情報をもとに、ある状況や場面、事物を描写説明した単文レベルの英文を正しく聞き分ける力		10	約25	10	約25
B 会話応答問題	事前予測ができる情報がない中で、相手からの問いかけに対する適当な応答英文を素早く判断し、処理する力		10		10	
C 課題解決問題	日本語で事前に与えられる状況設定および視覚的情報と音声情報から、その場面で求められている課題（タスク）を解決する力		10		10	
D 要点理解問題	一定以上の長さの英文の音声の中から、事前に与えられた英文の質問に答えるために必要な情報を選択して引き出し、求められている解答を導くための適切な判断を行う力		10		10	

※高1はBasicタイプ、高2・3はAdvancedタイプを受検しています。

1.3.1 高校の全体傾向「聞くこと」パート別平均正解率（R6年度）

- いずれの学年においても、パートA（単文レベルの英文を正しく聞き分ける力を問う）の正解率が76%以上と、全パートのなかで最も正解率が高い
- いずれの学年においても、全パートのなかで最も正解率が低いパートは、正解率50%以下であり、高1でパートC、高2でパートD、高3ではパートB

	パートA 写真・イラスト説明問題	パートB 会話応答問題	パートC 課題解決問題	パートD 要点理解問題
高1	76.3%	54.1%	47.6%	57.5%
高2	78.5%	57.8%	62.7%	46.5%
高3	76.8%	45.7%	57.9%	46.1%

※R6年度使用問題版の解答状況をもとに分析しています。毎年の傾向や特徴を表した結果ではありません。

※高1はBasicタイプ、高2・3はAdvancedタイプを受検しています。

※受検している問題が異なるため、学年間の比較はできません。

※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占めます。

1.3.2 高校の全体傾向「読むこと」

パート	問うている力	合計	Advanced		Basic	
			設問数	時間(分)	設問数	時間(分)
			43	約45	36	約45
A 短文文脈理解問題	短い英文の中で文脈的なつながりを理解し、語彙選択上最も適切な表現を正確に判断する力		14	7	12	6
B 概要把握問題 情報検索問題	<ul style="list-style-type: none"> 全体を大づかみして概要を理解する概要把握 (skimming) の力 短時間の中で必要な情報を引き出す情報検索 (scanning) の力 		14	14	12	14
C 要点理解問題	まとまった量の英文に対して、英文の主旨に関する内容や詳細部分の要点について、英文を理解し、必要な情報を読み取る力 出題テーマはフィクション、人文系論説文、科学系論説文の3題		15	24	12	25

1.3.2 高校の全体傾向「読むこと」パート別平均正解率（R6年度）

- 高1・2では、パートB（概要を素早く理解する力・必要な情報を素早く見つけ出す力を問う）の正解率が全パートのなかで最も低く、他のパートと10ポイント前後の差
- 高3ではパート間の正解率に大きな差なし

	パートA 短文文脈理解問題	パートB 概要把握問題/情報検索問題	パートC 要点理解問題
高1	51.7%	38.9%	52.1%
高2	55.8%	45.8%	55.2%
高3	42.2%	43.0%	42.9%

※R6年度使用問題版の解答状況をもとに分析しています。毎年の傾向や特徴を表した結果ではありません。

※高1はBasicタイプ、高2・3はAdvancedタイプを受検しています。

※受検している問題が異なるため、学年間の比較はできません。

※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占めます。

1.3.3 高校の全体傾向「話すこと」

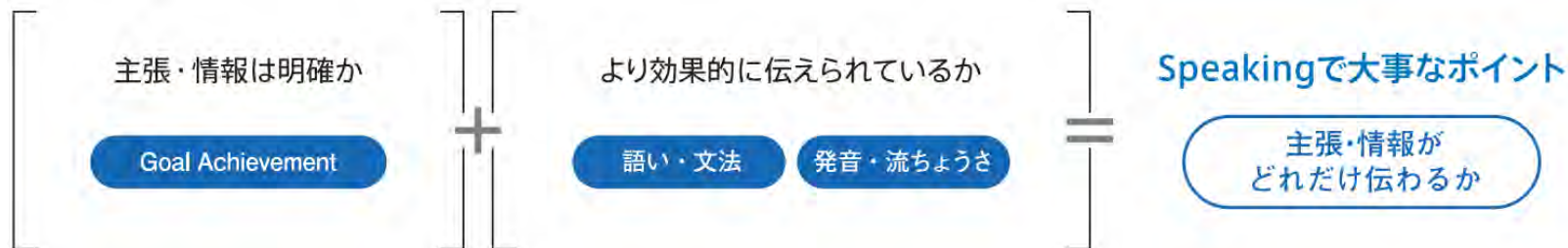
			Advanced Basic	
			設問数	時間 (分)
パート	問うている力	合計	8	約15
A 音読	英文を読み上げる形式の出題で、状況や英文を理解した上で、正確な発音と適切な流暢さで音読ができる力		2	約15
B 相手とのやり取り	図示された情報を読み取って質問に応答したり、課題解決のために質問したりする力		4	
	Advanced/Basic			
	No.1	与えられた情報をもとに適切に答える問題		
	No.2	与えられた情報をもとに適切に答える問題		
	No.3	与えられた情報をもとに課題を特定し、その課題を解決する方法を適切に伝える問題		
	No.4	図示された情報を読み取り、それに関する質問をする問題		
C ストーリーを英語で話す	日常的な出来事について、話の流れを踏まえて相手に伝わるように状況を説明する力		1	
D 自分の意見を述べる	身近で社会的なテーマに対して、自分の意見とその意見をサポートする理由が言える力		1	

※高1はBasicタイプ、高2・3はAdvancedタイプを受検しています。
 ※Speakingについては、AdvancedタイプとBasicタイプが同一の問題です。ただし、スコアの上限値は受検タイプのものが適用されます。

1.3.3 高校の全体傾向「話すこと」

採点観点・採点基準（要約版）

- Goal Achievement : 「聞き手に情報や主張が伝わるか」を評価。各パートで求められるGoalの内容は下記表を参照。
- 「語彙・文法」「発音・流暢さ」: 情報や主張を「どれだけ効果的に伝えられているか」の観点から評価。
- 「Goal Achievement」「語彙・文法」「発音・流暢さ」はそれぞれ独立して評価。



		0点	1点	2点	3点	4点
Goal Achievement	パートB	各設問において、必要な内容を伝えてやり取りをすることができている。				
	パートC	各コマの内容を伝えることができています。				
	意見	意見を伝えることができています。				
	理由	[○]意見をサポートする理由を具体例や説明とともに伝えることができています。 [○]意見をサポートする理由を伝えることができています。 ※Coreで受検した場合は [○]の評価はありません。				
	語彙・文法	出題意図から明らかに外れている。／英語ではない、あるいは、英語として通じない。／力を測るために十分な量の発話がない。	使用する語いや文法が非常に限られているが、簡単に具体的なことであれば、語や句をつなげながら表現することができています。	限られた語いや文法で、簡単な描写を羅列したり、簡単にアイデアをつなげたりすることができています。	複雑な内容を説明するときに誤りが見られることもあるが、語いや文法を適切に使用し、アイデアを順序立ててつなげることができています。	豊富で幅広い語いや文法を、柔軟に使用することができています。アイデア間の関係性を整理して示すことができ、聞き手に効果的に内容を伝えられている。
	発音・流ちょうさ	出題意図から明らかに外れている。／英語ではない、あるいは英語として通じない。／力を測るために十分な量の発話がない。	全体を通して、発音やイントネーション、リズムの誤り、また、不自然な沈黙や言いよどみが多いため、聞き手に大きく負担がかかるが、簡単な単語や句の強弱は正しい。	部分的な発音やイントネーション、リズムの誤り、また、不自然な沈黙や言いよどみのため、聞き手にやや負担がかかるが、理解できる発音である。	全体を通して正しい発音、イントネーション、リズムで話すことができています。不自然な沈黙がなく、聞き手に負担がかからない。	

※高1はBasicタイプ、高2・3はAdvancedタイプを受検しています。
 ※Speaking については、Advancedタイプと Basicタイプが同一の問題です。ただし、スコアの上限値は受検タイプのものが適用されます。

1.3.3 高校の全体傾向「話すこと」採点観点別結果分析（R6年度）

- いずれの学年においても、パートB（相手とのやり取り）は、パートD（自分の意見を述べる）の「意見」に比べて正解率が低い傾向
- いずれの学年においても、パートC・Dでは「語彙・文法」の平均点が2点未満（満点4点）であり、使用する語彙や文法が非常に限られており、簡単な描写を羅列したり、簡単なアイデアをつなげたりすることができていない傾向
- 高2において、パートDでは「意見」の正解率が約91%

採点観点	パートA 音読		パートB 相手とのやり取り				パートC ストーリーを英語で話す					パートD 自分の意見を述べる				
	発音・流暢さ		Goal Achievement				Goal Achievement				語彙・文法	発音・流暢さ	意見	理由	語彙・文法	発音・流暢さ
	No.1	No.2	応答		課題解決	質問	各コマの内容を伝える									
採点段階	0～3点	0～3点	No.1	No.2	No.3	No.4	1コマ	2コマ	3コマ	4コマ	0～4点	0～3点	×,○	0～2点	0～4点	0～3点
高1	1.9点	1.8点	18.7%	36.8%	27.2%	51.9%	62.2%	44.5%	67.4%	15.3%	1.5点	1.9点	64.2%	0.5点	1.2点	1.6点
高2	2.0点	2.0点	12.6%	61.5%	30.7%	67.0%	91.2%	28.0%	46.1%	88.1%	1.9点	2.0点	90.9%	1.0点	1.6点	1.9点
高3	2.1点	2.0点	30.9%	51.6%	44.2%	56.7%	74.4%	63.8%	76.1%	22.1%	1.7点	1.9点	78.1%	0.7点	1.5点	1.8点

※R6年度使用問題版の解答状況をもとに分析しています。毎年傾向や特徴を表した結果ではありません。
 ※高1はBasicタイプ、高2・3はAdvancedタイプを受検しています。
 ※受検している問題が異なるため、学年間の比較はできません。
 ※採点する段階数が3以上の多段階採点（例：0～3点）の観点については、「平均点」を示しています。正誤判定（×,○）の観点については、「正解率（%）」を示しています。
 ※SpeakingパートDの「理由」は、「×」「○」「◎」で採点をしています。表中では便宜上、0点「×」、1点「○」、2点「◎」と点数化しています。
 ※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占めます。

1.3.4 高校の全体傾向「書くこと」

パート	問うている力	合計	Advanced		Basic	
			設問数	時間(分)	設問数	時間(分)
			2	約25	2	約25
A Eメール問題	与えられたEメールで問われる内容について、限られた時間の中で適切な解答を表現する力		1	5	1	5
B 意見展開問題	与えられたテーマに対して、限られた時間の中で自分の意見を説得力を持って表現する力		1	20	1	20

1.3.4 高校の全体傾向「書くこと」

採点観点・採点基準（要約版）

- パートA Task Achievement、パートB Goal Achievement：「読み手に情報や主張が伝わるか」を評価。各パートで求められるGoalの内容は下記表を参照。
- パートA「正確さ」「構成」、パートB「語彙」「文法」「構成・展開」：情報や主張を「どれだけ効果的に伝えられているか」の観点から評価。
- 「Task Achievement」「Goal Achievement」「正確さ」「構成」「語彙」「文法」「構成・展開」はそれぞれ独立して評価。



Task Achievement	パートA	タスク	Eメール内の質問に対して、イラストに沿った内容を適切に回答できている。
	パートB	意見	課題に対する自分の意見を伝えることができている。

Goal Achievement	パートA	理由	自分の意見をサポートする理由や具体例などを伝えることができている。
	パートB	理由	自分の意見をサポートする理由や具体例などを伝えることができている。

	0点	1点	2点	3点
正確さ	英文が書かれていない。または、力を測るために十分な量が書かれていない。	語いや文法の誤りにより、意図した内容の理解が困難な部分がある。	語いや文法の誤りがあっても、意図した内容を伝えることができている。	語いや文法を適切に用いて、意図した内容を伝えることができている。
構成	英文が書かれていない。または、質問された内容に文で十分に解答できていない。	質問された内容に文で十分に解答できていない部分がある。	質問された内容に文で十分に解答できている。	質問された内容に文で十分に解答でき、メールとしても自然な文面を構成できている。

	0点	0.5～1.5点	2～3.5点	4～5.5点	6～8点
語彙	英文が書かれていない。または、全体を通して出題のテーマから外れたことが書かれている。	使える語いが基本的なものに限られている。または、語いの誤りが多く、意図した内容が伝わらない。	使える語いが限られている。または、意味理解を妨げるような誤りが見られ、意図した内容が伝わりにくい部分が多くある。	必要な語いを使って、簡単な内容を表現することができる。誤りがあっても、意図した内容を伝えることができている。	さまざまな語いを使って、自分の考えや物事を詳しく説明することができる。一部誤りがあっても、意図した内容を十分に伝えることができている。
文法	英文が書かれていない。または、全体を通して出題のテーマから外れたことが書かれている。	定型表現を使うことや、いくつかの単語を組み合わせることはできる。	使える文法が限られている。または、意味理解を妨げるような誤りが見られ、意図した内容が伝わりにくい部分が多くある。	基本的な文法を使うことができる。誤りがあっても、意図した内容を伝えることができている。	基本的な文法に加えて、複雑な文法を使うことができる。一部誤りがあっても、意図した内容を十分に伝えることができている。
構成・展開	英文が書かれていない。または、全体を通して出題のテーマから外れたことが書かれている。	単語や文は書かれているが、内容のつながりが見られない。	いくつかのアイデアが書かれているが、内容のつながりが見えにくい。	アイデアのつながりが見えにくい部分があるが、書かれている内容にある程度まとまりが見られる。	書かれている内容のつながりがわかりやすく、全体としてよく構成されている。

※高1はBasicタイプ、高2・3はAdvancedタイプを受検しています。

1.3.4 高校の全体傾向「書くこと」採点観点別結果分析（R6年度）

- いずれの学年においても、パートAでは「正確さ」「構成」の平均点が2点以上（満点3点）、パートBでは「語彙」「文法」「構成・展開」の平均点が2.9～3.5点（満点8点）である
- いずれの学年においても、パートBでは「理由」の正解率が70%以上である。また、「意見」に比べて「理由」の正解率が高い

採点観点	パートA Eメール問題				パートB 意見展開問題				
	タスク1	タスク2	正確さ	構成	意見	理由	語彙	文法	構成・展開
採点段階	×,○	×,○	0～3点	0～3点	×,○	×,○	0～8点	0～8点	0～8点
高1	63.2%	61.1%	2.1点	2.4点	52.3%	70.0%	2.9点	2.9点	2.9点
高2	53.4%	52.8%	2.2点	2.5点	71.0%	87.5%	3.5点	3.5点	3.5点
高3	66.3%	76.6%	2.3点	2.6点	74.3%	79.6%	3.3点	3.3点	3.3点

※R6年度使用問題版の解答状況をもとに分析しています。毎年の傾向や特徴を表した結果ではありません。

※高1はBasicタイプ、高2・3はAdvancedタイプを受検しています。

※受検している問題が異なるため、学年間の比較はできません。

※採点する段階数が3以上の多段階採点（例：0～3点）の観点については、「平均点」を示しています。正誤判定（×,○）の観点については、「正解率（％）」を示しています。

※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占めます。

1.3.5 高1「聞くこと」のCEFRレベル別に見たパート別平均正解率（R6年度）

- CEFR A1～B1において、パートAは全パートのなかで正解率が最も高く、パートCは全パートのなかで最も低い

	パートA イラスト説明問題	パートB 会話応答問題	パートC 課題解決問題	パートD 要点理解問題
B1	97.2%	88.5%	78.5%	88.0%
A2	88.9%	69.1%	57.4%	72.2%
A1	68.3%	42.4%	38.9%	46.8%
全体	76.3%	54.1%	47.6%	57.5%

※R6年度使用問題版の解答状況をもとに分析しています。毎年の傾向や特徴を表した結果ではありません。
 ※高1はBasicタイプ、高2・3はAdvancedタイプを受検しています。
 ※Basicタイプ（高1）の測定可能範囲は、CEFRレベルはB1、CEFR-JレベルはB1.2までの測定です。なお、SpeakingのみCEFR-JレベルはB1.1までの測定範囲です。
 ※【高1 (b)・L】各CEFRレベルの集計人数は、B1: 2,808人、A2: 9,851人、A1: 18,491人、Pre-A1: 706人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。
 ※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占めます。

1.3.6 高1「読むこと」のCEFRレベル別に見たパート別平均正解率（R6年度）

- CEFR A1～B1において、パートB（概要を素早く理解する力・必要な情報を素早く見つけ出す力を問う）よりも、パートC（まとまった量の英文から必要な情報を読みとる力を問う）の正解率の方が高い
- CEFRレベル間で最も大きな差は、パートCにおけるA1とA2の約37ポイント差

	パートA 短文文脈理解問題	パートB 概要把握問題/情報検索問題	パートC 要点理解問題
B1	89.9%	69.7%	95.1%
A2	62.8%	45.1%	68.8%
A1	37.1%	29.4%	32.0%
			36.8pt差
全体	51.7%	38.9%	52.1%

※R6年度使用問題版の解答状況をもとに分析しています。毎年の傾向や特徴を表した結果ではありません。

※高1はBasicタイプ、高2・3はAdvancedタイプを受検しています。

※Basicタイプ（高1）の測定可能範囲は、CEFRレベルはB1、CEFR-JレベルはB1.2までの測定です。なお、SpeakingのみCEFR-JレベルはB1.1までの測定範囲です。

※【高1 (b)・R】各CEFRレベルの集計人数は、B1: 2,453人、A2: 13,252人、A1: 16,072人、Pre-A1: 79人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。

※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占めます。

1.3.7 高1「話すこと」のCEFRレベル別に見た採点観点別結果分析（R6年度）

- CEFR A2・B1と異なり、A1では自分の意見を述べるパートDの「発音・流暢さ」がパートA・Cと比べて大きく低下
- パートD「意見」において、CEFR A1は約10%、A2では約75%の正解率であり、CEFR A1とA2で約65ポイント差

採点観点	パートA 音読		パートB 相手とのやり取り				パートC ストーリーを英語で話す				パートD 自分の意見を述べる					
	発音・流暢さ		Goal Achievement				Goal Achievement 各コマの内容を伝える				語彙・ 文法	発音・ 流暢さ	意見	理由	語彙・ 文法	発音・ 流暢さ
	No.1	No.2	応答		課題解決	質問	1コマ	2コマ	3コマ	4コマ						
採点段階	0~3点	0~3点	x,○	x,○	x,○	x,○	x,○	x,○	x,○	x,○	0~4点	0~3点	x,○	0~2点	0~4点	0~3点
B1	2.2点	2.2点	60.0%	65.7%	71.3%	85.7%	90.2%	89.1%	90.5%	57.1%	2.1点	2.1点	99.0%	1.4点	2.0点	2.1点
A2	2.0点	1.9点	18.8%	38.1%	28.6%	56.2%	67.4%	48.8%	72.7%	15.1%	1.6点	2.0点	74.5%	0.6点	1.3点	1.8点
A1	1.6点	1.4点	4.8%	22.2%	7.3%	23.4%	31.8%	12.4%	38.5%	2.9%	0.9点	1.4点	9.9%	0.0点	0.4点	0.5点
全体	1.9点	1.8点	18.7%	36.8%	27.2%	51.9%	62.2%	44.5%	67.4%	15.3%	1.5点	1.9点	64.2%	0.5点	1.2点	1.6点

※R6年度使用問題版の解答状況をもとに分析しています。毎年の傾向や特徴を表した結果ではありません。
 ※高1はBasicタイプ、高2・3はAdvancedタイプを受検しています。
 ※Basicタイプ（高1）の測定可能範囲は、CEFRレベルはB1、CEFR-JレベルはB1.2までの測定です。なお、SpeakingのみCEFR-JレベルはB1.1までの測定範囲です。
 ※採点する段階数が3以上の多段階採点（例：0~3点）の観点については、「平均点」を示しています。正誤判定（x,○）の観点については、「正解率（%）」を示しています。
 ※SpeakingパートDの「理由」は、「x」「○」「◎」で採点をしています。表中では便宜上、0点「x」、1点「○」、2点「◎」と点数化しています。
 ※【高1 (b)・S】各CEFRレベルの集計人数は、B1: 1,918人、A2: 24,226人、A1: 5,553人、Pre-A1: 159人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。
 ※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占めます。

1.3.8 高1「書くこと」のCEFRLレベル別に見た採点観点別結果分析（R6年度）

- CEFRL A1とA2との間で、パートAの「タスク1」「タスク2」、パートBの「意見」「理由」の正解率に大きな差
- パートA「構成」において、CEFRL A1以上では2.2点以上（満点3点）であり、質問された内容に文で十分に解答
- パートB「構成・展開」では、CEFRL A1・A2で2.4～3.5点（満点8点）となり、いくつかのアイデアが書かれているが、内容のつながりが見えにくい傾向

採点観点	パートA Eメール問題				パートB 意見展開問題				
	タスク1	タスク2	正確さ	構成	意見	理由	語彙	文法	構成・展開
採点段階	x,○	x,○	0～3点	0～3点	x,○	x,○	0～8点	0～8点	0～8点
B1	99.7%	98.9%	3.0点	3.0点	98.8%	100.0%	4.1点	4.1点	4.1点
A2	86.2%	80.1%	2.4点	2.7点	78.6%	99.6%	3.5点	3.5点	3.5点
A1	42.2%	43.2%	1.9点	2.2点	25.7%	44.7%	2.5点	2.4点	2.4点
全体	63.2%	61.1%	2.1点	2.4点	52.3%	70.0%	2.9点	2.9点	2.9点

※R6年度使用問題版の解答状況をもとに分析しています。毎年の傾向や特徴を表した結果ではありません。
 ※高1はBasicタイプ、高2・3はAdvancedタイプを受検しています。
 ※Basicタイプ（高1）の測定可能範囲は、CEFRLレベルはB1、CEFRL-JレベルはB1.2までの測定です。なお、SpeakingのみCEFRL-JレベルはB1.1までの測定範囲です。
 ※採点する段階数が3以上の多段階採点（例：0～3点）の観点については、「平均点」を示しています。正誤判定（x,○）の観点については、「正解率（%）」を示しています。
 ※【高1（b）・W】各CEFRLレベルの集計人数は、B1: 2,483人、A2: 13,237人、A1: 14,862人、Pre-A1: 1,274人。なお、Pre-A1は分析対象外としています。
 ※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占めます。

1.3.9 高2「聞くこと」のCEFRレベル別に見たパート別平均正解率（R6年度）

- CEFR A1～B2では、パートAの正解率が最も高く、パートDが最も低い

	パートA 写真・イラスト説明問題	パートB 会話応答問題	パートC 課題解決問題	パートD 要点理解問題
B2	95.5%	87.6%	90.4%	82.9%
B1	86.2%	67.1%	75.7%	56.9%
A2	74.2%	48.6%	54.0%	34.5%
A1	54.8%	32.9%	28.6%	22.1%
全体	78.5%	57.8%	62.7%	46.5%

※R6年度使用問題版の解答状況をもとに分析しています。毎年の傾向や特徴を表した結果ではありません。
 ※高1はBasicタイプ、高2・3はAdvancedタイプを受検しています。
 ※【高2 (b)・L】各CEFRレベルの集計人数は、B2: 4,557人、B1: 13,728人、A2: 15,952人、A1: 4,761人、Pre-A1: 29人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。
 ※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占めます。

1.3.10 高2「読むこと」のCEFRLレベル別に見たパート別平均正解率（R6年度）

- CEFRL B1・B2において、全パートのうちパートC（まとまった量の英文から必要な情報を読みとる力を問う）は正解率が最も高く、パートB（概要を素早く理解する力・必要な情報を素早く見つけ出す力を問う）が最も低い
- CEFRLレベル間で最も大きな差は、パートCにおけるCEFRL A2とB1の約34ポイント差
- CEFRL A1では、いずれのパートも正解率が20%を下回る

	パートA 短文文脈理解問題	パートB 概要把握問題/情報検索問題	パートC 要点理解問題
B2	88.4%	78.5%	93.4%
B1	68.0%	52.7%	72.4%
A2	43.0%	35.5%	38.3%
A1	19.5%	19.2%	15.6%
全体	55.8%	45.8%	55.2%

※R6年度使用問題版の解答状況をもとに分析しています。毎年の傾向や特徴を表した結果ではありません。

※高1はBasicタイプ、高2・3はAdvancedタイプを受検しています。

※【高2 (b)・R】各CEFRLレベルの集計人数は、B2: 4,791人、B1: 12,284人、A2: 20,869人、A1: 1,083人、Pre-A1: 0人。なお、Pre-A1は、該当者がいないことから分析対象外としています。

※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占めます。

1.3.11 高2「話すこと」のCEFRレベル別に見た採点観点別結果分析 (R6年度)

- いずれのCEFRレベルにおいても、パートBではNo.4「質問」の正解率が最も高いが、CEFR A1とA2、A2とB1の間でそれぞれ大きな差がある
- パートDの各項目において、CEFR A1とA2との間に大きな差があり、A1では約21%しか「意見」を述べていることができていない (A2と約72ポイント差)
- CEFR A2以上と異なり、A1では自分の意見を述べるパートDの「発音・流暢さ」がパートA・Cと比べて大きく低下

採点観点	パートA 音読		パートB 相手とのやり取り				パートC ストーリーを英語で話す				パートD 自分の意見を述べる					
	発音・流暢さ		Goal Achievement				Goal Achievement				語彙・文法	発音・流暢さ	意見	理由	語彙・文法	発音・流暢さ
	No.1	No.2	応答		課題解決	質問	各コマの内容を伝える									
採点段階	0~3点	0~3点	No.1	No.2	No.3	No.4	1コマ	2コマ	3コマ	4コマ	0~4点	0~3点	x,○	0~2点	0~4点	0~3点
B2	2.8点	2.8点	67.9%	93.7%	86.7%	93.7%	95.6%	83.5%	96.2%	99.4%	2.9点	2.9点	99.7%	1.9点	2.9点	2.9点
B1	2.2点	2.1点	33.5%	87.1%	63.3%	90.0%	97.2%	52.4%	85.1%	98.7%	2.0点	2.0点	99.8%	1.4点	2.0点	2.1点
A2	2.0点	2.0点	6.3%	55.8%	21.7%	62.4%	91.4%	21.2%	36.0%	87.9%	1.9点	2.0点	92.2%	0.9点	1.5点	1.9点
A1	1.4点	1.5点	0.4%	17.5%	2.0%	19.3%	57.7%	5.9%	4.4%	34.5%	0.9点	1.4点	20.5%	0.1点	0.5点	0.7点
全体	2.0点	2.0点	12.6%	61.5%	30.7%	67.0%	91.2%	28.0%	46.1%	88.1%	1.9点	2.0点	90.9%	1.0点	1.6点	1.9点

※R6年度使用問題版の解答状況をもとに分析しています。毎年の傾向や特徴を表した結果ではありません。
 ※高1はBasicタイプ、高2・3はAdvancedタイプを受検しています。
 ※採点する段階数が3以上の多段階採点 (例：0~3点) の観点については、「平均点」を示しています。正誤判定 (x, ○) の観点については、「正解率 (%)」を示しています。
 ※Speaking パートDの「理由」は、「x」「○」「◎」で採点をしています。表中では便宜上、0点「x」、1点「○」、2点「◎」と点数化しています。
 ※【高2 (b)・S】各CEFRレベルの集計人数は、B2: 312人、B1: 8,596人、A2: 28,500人、A1: 1,526人、Pre-A1: 93人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。
 ※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占めます。

1.3.12 高2「書くこと」のCEFRレベル別に見た採点観点別結果分析（R6年度）

- パートA「タスク1」「タスク2」において、CEFR A2とB1との間で大きな差（約41～46ポイント差）
- パートB「意見」「理由」において、CEFR A1とA2との間で大きな差（約54～66ポイント差）
- パートB「構成・展開」において、CEFR B1以上は4点以上（満点8点）である。一方、CEFR A1・A2では、2.2～3.6点である

採点観点	パートA Eメール問題				パートB 意見展開問題				
	タスク1	タスク2	正確さ	構成	意見	理由	語彙	文法	構成・展開
採点段階	×,○	×,○	0～3点	0～3点	×,○	×,○	0～8点	0～8点	0～8点
B2	99.2%	98.2%	3.0点	3.0点	99.4%	100.0%	5.2点	5.2点	5.1点
B1	86.2% 40.6pt差	88.5% 45.6pt差	2.7点	2.8点	95.1%	100.0%	4.2点	4.2点	4.1点
A2	45.6%	42.9%	2.1点	2.5点	72.9% 54.3pt差	98.2% 65.8pt差	3.6点	3.6点	3.6点
A1	13.4%	14.1%	1.7点	1.9点	18.6%	32.4%	2.2点	2.2点	2.2点
全体	53.4%	52.8%	2.2点	2.5点	71.0%	87.5%	3.5点	3.5点	3.5点

※R6年度使用問題版の解答状況をもとに分析しています。毎年の傾向や特徴を表した結果ではありません。

※高1はBasicタイプ、高2・3はAdvancedタイプを受検しています。

※採点する段階数が3以上の多段階採点（例：0～3点）の観点については、「平均点」を表示しています。正誤判定（×,○）の観点については、「正解率（%）」を表示しています。

※【高2（b）・W】各CEFRレベルの集計人数は、B2：976人、B1：11,554人、A2：20,332人、A1：5,189人、Pre-A1：976人。なお、Pre-A1は分析対象外としています。

※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占めます。

1.3.13 高3「聞くこと」のCEFRレベル別に見たパート別平均正解率（R6年度）

- CEFR A1～B2において、パートA（単文レベルの英文を正しく聞き分ける力を問う）の正解率が全パートのなかで最も高い
- CEFR A2・B1では、パートB（相手からの問いかけに対する適当な応答を判断する力を問う）の正解率が最も低い

	パートA 写真・イラスト説明問題	パートB 会話応答問題	パートC 課題解決問題	パートD 要点理解問題
B2	97.2%	82.2%	86.3%	76.8%
B1	89.2%	55.5%	71.7%	58.0%
A2	74.6%	39.0%	53.3%	40.7%
A1	50.8%	30.1%	32.4%	25.3%
全体	76.8%	45.7%	57.9%	46.1%

※R6年度使用問題版の解答状況をもとに分析しています。毎年の傾向や特徴を表した結果ではありません。

※高1はBasicタイプ、高2・3はAdvancedタイプを受検しています。

※【高3 (b)・L】各CEFRレベルの集計人数は、B2: 1,156人、B1: 4,760人、A2: 7,309人、A1: 2,493人、Pre-A1: 18人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。

※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占めます。

1.3.14 高3「読むこと」のCEFRレベル別に見たパート別平均正解率（R6年度）

- CEFR B1・B2については、パートB（概要を素早く理解する力・必要な情報を素早く見つけ出す力を問う）の正解率が他のパートと比べて低いが、CEFR A1・A2では、パートC（まとまった量の英文から必要な情報を読みとる力を問う）の正解率が低い
- CEFRレベル間で最も大きな差は、パートCのCEFR A2とB1との間で、約29ポイント差

	パートA 短文文脈理解問題	パートB 概要把握問題/情報検索問題	パートC 要点理解問題
B2	83.8%	75.2%	83.8%
B1	57.5%	54.2%	61.5%
A2	32.7%	36.0%	29.3pt差 32.2%
A1	15.2%	19.9%	14.5%
全体	42.2%	43.0%	42.9%

※R6年度使用問題版の解答状況をもとに分析しています。毎年の傾向や特徴を表した結果ではありません。

※高1はBasicタイプ、高2・3はAdvancedタイプを受検しています。

※【高3 (b)・R】各CEFRレベルの集計人数は、B2: 1,290人、B1: 3,903人、A2: 9,803人、A1: 740人、Pre-A1: 0人。なお、Pre-A1は、該当者がいないことから分析対象外としています。

※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占めます。

1.3.15 高3「話すこと」のCEFRレベル別に見た採点観点別結果分析 (R6年度)

- CEFR A2以上と異なり、A1では自分の意見を述べるパートD「発音・流暢さ」がパートA・Cと比べて大きく低下
- 内容を伝えるパートCの1～3コマでは、CEFR A1とA2との間で42ポイント以上の差
- パートD「意見」について、CEFR A1とA2との間で約61ポイント差

採点観点	パートA 音読		パートB 相手とのやり取り				パートC ストーリーを英語で話す						パートD 自分の意見を述べる				
	発音・流暢さ		Goal Achievement				Goal Achievement 各コマの内容を伝える				語彙・ 文法	発音・ 流暢さ	意見	理由	語彙・ 文法	発音・ 流暢さ	
	No.1	No.2	応答		課題解決	質問	1コマ	2コマ	3コマ	4コマ							
採点段階	0～3点	0～3点	x,○	x,○	x,○	x,○	x,○	x,○	x,○	x,○	x,○	0～4点	0～3点	x,○	0～2点	0～4点	0～3点
B2	2.9点	2.9点	75.4%	92.4%	96.6%	94.9%	91.5%	98.3%	94.9%	86.4%	2.8点	2.9点	100.0%	1.9点	2.9点	2.9点	
B1	2.4点	2.3点	55.0%	70.7%	75.0%	80.0%	91.2%	91.4%	90.4%	54.1%	2.0点	2.0点	98.1%	1.3点	2.0点	2.0点	
A2	2.0点	2.0点	26.4%	48.4%	39.1%	54.0%	74.2%	61.1%	76.5%	14.7%	1.7点	2.0点	78.8%	0.6点	1.4点	1.9点	
A1	1.6点	1.4点	7.0%	28.8%	7.1%	18.0%	31.5%	14.4%	34.4%	1.4%	0.9点	1.3点	18.1%	0.0点	0.6点	0.7点	
全体	2.1点	2.0点	30.9%	51.6%	44.2%	56.7%	74.4%	63.8%	76.1%	22.1%	1.7点	1.9点	78.1%	0.7点	1.5点	1.8点	

※R6年度使用問題版の解答状況をもとに分析しています。毎年の傾向や特徴を表した結果ではありません。
 ※高1はBasicタイプ、高2・3はAdvancedタイプを受検しています。
 ※採点する段階数が3以上の多段階採点(例：0～3点)の観点については、「平均点」を示しています。正誤判定(x,○)の観点については、「正解率(%)」を示しています。
 ※SpeakingパートDの「理由」は、「×」「○」「◎」で採点をしています。表中では便宜上、0点「×」、1点「○」、2点「◎」と点数化しています。
 ※【高3(b)・S】各CEFRレベルの集計人数は、B2: 126人、B1: 3,116人、A2: 11,309人、A1: 1,133人、Pre-A1: 52人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。
 ※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占めます。

1.3.16 高3「書くこと」のCEFRレベル別に見た採点観点別結果分析（R6年度）

- CEFR B1・B2は、パートA「タスク1」「タスク2」およびパートB「意見」「理由」において、正解率が約96%以上
- パートB「意見」「理由」において、CEFR A1とA2との間で大きな差（約60～90ポイント差）
- CEFR A1は、パートA「構成」では2.4点（満点3点）だが、パートB「構成・展開」では1.7点（満点8点）である

採点観点	パートA Eメール問題				パートB 意見展開問題				
	タスク1	タスク2	正確さ	構成	意見	理由	語彙	文法	構成・展開
採点段階	×,○	×,○	0～3点	0～3点	×,○	×,○	0～8点	0～8点	0～8点
B2	100.0%	99.4%	3.0点	3.0点	99.7%	100.0%	5.1点	5.1点	5.1点
B1	96.1%	97.6%	2.6点	2.8点	96.8%	100.0%	4.0点	4.0点	4.1点
A2	58.5%	74.1%	2.2点	2.6点	79.9%	94.2%	3.4点	3.3点	3.4点
A1	33.7%	48.5%	2.0点	2.4点	60.3pt差 19.6%	89.7pt差 4.5%	1.8点	1.7点	1.7点
全体	66.3%	76.6%	2.3点	2.6点	74.3%	79.6%	3.3点	3.3点	3.3点

※R6年度使用問題版の解答状況をもとに分析しています。毎年の傾向や特徴を表した結果ではありません。

※高1はBasicタイプ、高2・3はAdvancedタイプを受検しています。

※採点する段階数が3以上の多段階採点（例：0～3点）の観点については、「平均点」を示しています。正誤判定（×,○）の観点については、「正解率（%）」を示しています。

※【高3 (b)・W】各CEFRレベルの集計人数は、B2: 314人、B1: 5,130人、A2: 7,396人、A1: 2,566人、Pre-A1: 330人。なお、Pre-A1は分析対象外としています。

※【集団属性情報【高校】】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占めます。

1.4 同一学校群における3年間のスコア推移の年度間比較

同一の学校群において、3カ年連続で受検した生徒の結果の推移を比較する。

比較対象は旧CS下のR 1年度入学生と現行CS下のR 4年度入学生で、以下の条件で抽出する。

データ抽出条件：

下記の①～⑥すべてについて80人以上の生徒が受検した学校の生徒

- ①R 1年度・高 1・Basicタイプ ②R 2年度・高 2・Advancedタイプ ③R 3年度・高 3・Advancedタイプ
④R 4年度・高 1・Basicタイプ ⑤R 5年度・高 2・Advancedタイプ ⑥R 6年度・高 3・Advancedタイプ

※ ①～③ および ④～⑥はそれぞれほぼ同一の生徒群である

属性情報：

- 4年制大学に進学する生徒が約9割を占める学校の生徒が95%以上
- 学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本
- 公立高校が約7割、私立高校が約3割
- 首都圏・近畿の受検者が約5割

	R 1年度入学生（旧CS下）			R 4年度入学生（現行CS下）		
	R1（高1）	R2（高2）	R3（高3）	R4（高1）	R5（高2）	R6（高3）
人数	2,111	2,316	2,411	2,046	2,358	2,349

1.4 同一学校群における3年間のスコア推移の年度間比較

- 平均CEFR-JレベルがA2.2に到達したのは、R1年度入学生が高3で、R4年度入学生が高2
- 高3においてCEFR-J A2.1以上の割合は、R1年度入学生は約91%、R4年度入学生は約92%。CEFR-J B1.1以上の割合は、R1年度入学生は約22%、R4年度入学生は約28%

4 技能総合

	R1年度入学生（旧CS下）			R4年度入学生（現行CS下）		
	R1（高1）	R2（高2）	R3（高3）	R4（高1）	R5（高2）	R6（高3）
B2	0.0%	0.1%	1.0%	0.0%	1.1%	1.9%
B1.2	1.5%	2.1%	4.9%	0.2%	3.4%	6.1%
B1.1	4.1%	7.7%	15.6%	4.8%	12.7%	20.4%
A2.2	14.6%	33.0%	36.8%	15.6%	32.4%	36.1%
A2.1	40.2%	45.6%	32.5%	45.2%	37.9%	27.1%
A1.3	34.2%	10.1%	7.7%	31.5%	10.6%	6.4%
A1.2	4.8%	1.3%	1.3%	2.4%	1.8%	1.7%
A1.1	0.4%	0.0%	0.0%	0.2%	0.1%	0.0%
Pre-A1	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%
平均スコア	712.5	796.2	837.5	725.5	813.8	858.2
平均CEFR-J	A2.1	A2.1	A2.2	A2.1	A2.2	A2.2

※ η^2 : 0.144
 ※Cohen's d : R1-R2 -0.690 ; R2-R3 -0.338
 ※標準偏差 : R1(高1)は131.3、R2(高2)は111.5、R3(高3)は131.6。

※ η^2 : 0.145
 ※Cohen's d : R4-R5 -0.705 ; R5-R6 -0.322
 ※標準偏差 : R4(高1)は115.0、R5(高2)は133.6、R6(高3)は141.2。

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。
 ※割合は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とならないことがあります。
 ※集団属性情報【3年間推移】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約7割、私立高校が約3割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が95%以上を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。
 ※平均CEFR-Jレベルは、平均スコアから換算。

1.4 同一学校群における3年間のスコア推移の年度間比較

「聞くこと」「読むこと」

- R1年度入学生、R4年度入学生ともに学年が上がるにつれて「上昇」
- R1年度入学生と比較して、R4年度入学生は高1からのスコアの伸び率が高い

「話すこと」

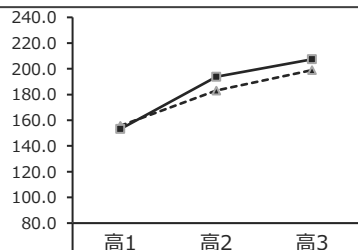
- R1年度入学生、R4年度入学生ともに高1から高2にかけて「上昇」するが、高2から高3では「横ばい～上昇」
- いずれの学年においてもR4年度入学生の方が平均スコアが高いが、高1時点での差が最も大きい

「書くこと」

- R1年度入学生、R4年度入学生ともに全体的に「横ばい」
- いずれの学年においてもR1年度入学生の方が平均スコアが高い

各技能 平均スコア

聞くこと Listening

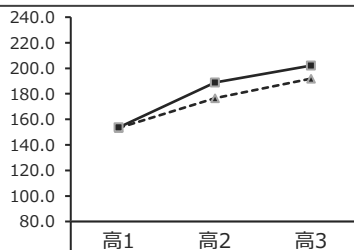


	高1	高2	高3
R1入学生	155.7	183.1	199.0
R4入学生	153.2	193.9	207.4

※R1入学生 - η^2 : 0.102
Cohen's d: R1-R2 -0.529; R2-R3 -0.305
※R4入学生 - η^2 : 0.137
Cohen's d: R4-R5 -0.646; R5-R6 -0.311

--- R1入学生
— R4入学生

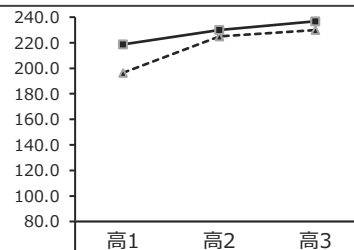
読むこと Reading



	高1	高2	高3
R1入学生	153.3	176.6	191.9
R4入学生	153.7	188.8	202.1

※R1入学生 - η^2 : 0.109
Cohen's d: R1-R2 -0.476; R2-R3 -0.423
※R4入学生 - η^2 : 0.152
Cohen's d: R4-R5 -0.679; R5-R6 -0.360

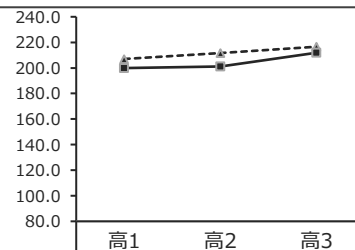
話すこと Speaking



	高1	高2	高3
R1入学生	196.5	225.0	229.9
R4入学生	218.7	230.0	236.8

※R1入学生 - η^2 : 0.125
Cohen's d: R1-R2 -0.744; R2-R3 -0.128
※R4入学生 - η^2 : 0.046
Cohen's d: R4-R5 -0.361; R5-R6 -0.197

書くこと Writing



	高1	高2	高3
R1入学生	207.0	211.6	216.6
R4入学生	199.9	201.1	211.9

※R1入学生 - η^2 : 0.009
※R4入学生 - η^2 : 0.009

R1入学生	A2.1	A2.1	A2.2
R4入学生	A2.1	A2.2	A2.2

※標準偏差
R1入学生: 高1は41.8、高2は27.4、高3は35.4。
R4入学生: 高1は35.3、高2は35.9、高3は40.9。

R1入学生	A2.1	A2.1	A2.1
R4入学生	A2.1	A2.2	A2.2

※標準偏差
R1入学生: 高1は41.4、高2は35.1、高3は37.4。
R4入学生: 高1は28.4、高2は33.1、高3は36.7。

R1入学生	A2.1	A2.2	A2.2
R4入学生	A2.1	A2.1	A2.2

※標準偏差
R1入学生: 高1は36.9、高2は35.5、高3は35.8。
R4入学生: 高1は32.7、高2は43.4、高3は45.2。

※R1入学生は旧CS下、R4入学生は現行CS下の生徒です。

※集団属性情報【3年間推移】: 学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本/公立高校が約7割、私立高校が約3割を占める/4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が95%以上を占める/首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

1.5 英語学習調査（令和6年度）

集計対象：以下の条件を満たすR6年度の生徒が集計対象である。

1つの学年次において、

(a) - R1年度～R6年度の全年度で「GTEC」を80名以上で実施した学校の生徒

(b) - (a)かつ指定の問題版（※）を受検している生徒

(c) - (a)かつ(b)かつスタディサポートを受験した生徒

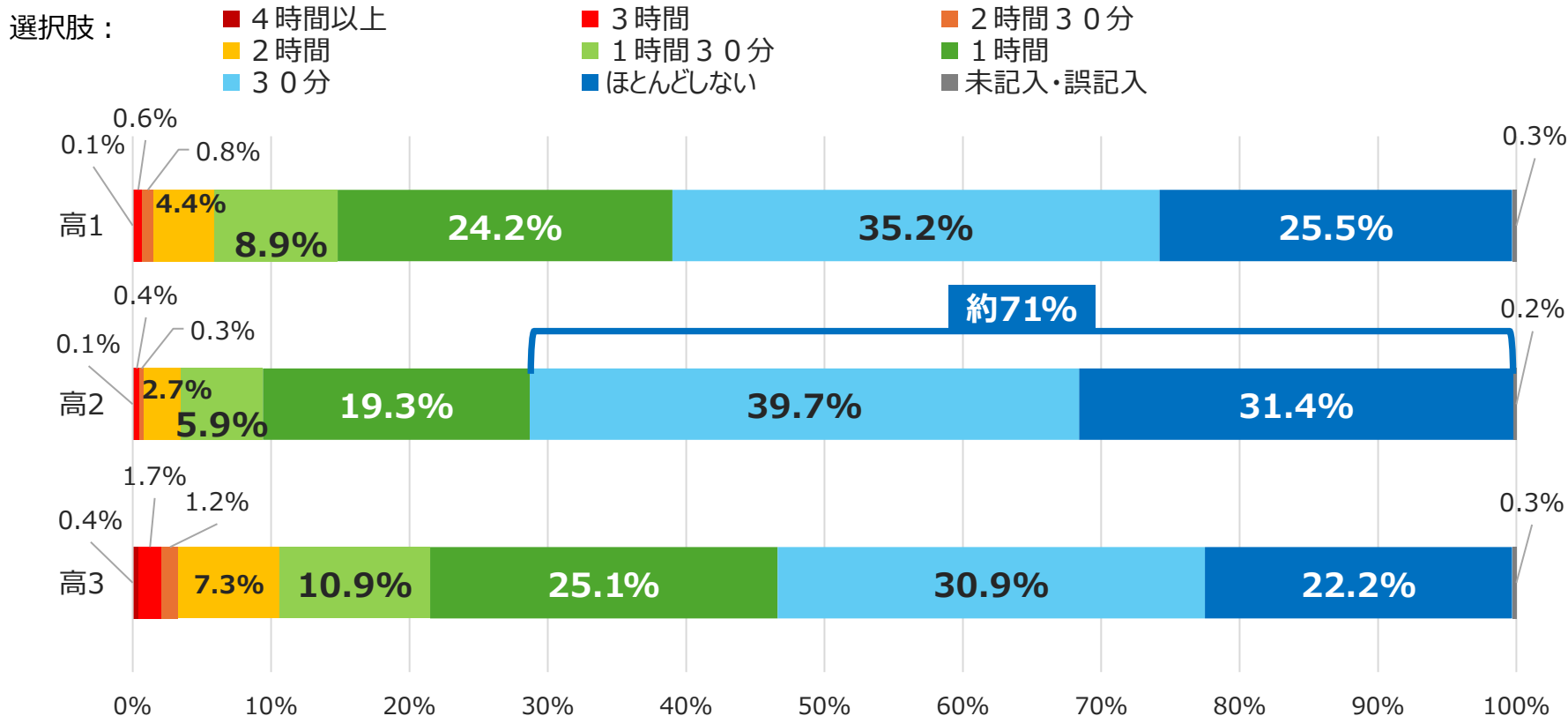
※指定の問題版とは、高1 - Basicタイプの第38回、第48回、第66回 高2 - Advancedタイプの通算回第39回、第49回、第67回 高3 - Advancedタイプの通算回第38回、第48回、第66回である。

集計対象人数： 高1 - 27,541人、高2 - 23,828人、高3 - 5,826人である。

1.5.1 英語の平日の学習時間【R6年度】

- 高2の約71%が、平日の学習時間が30分以下

質問：英語について、1日にどの程度、自主学習をしていますか。
最も近い時間を平日について1つ選んでください。

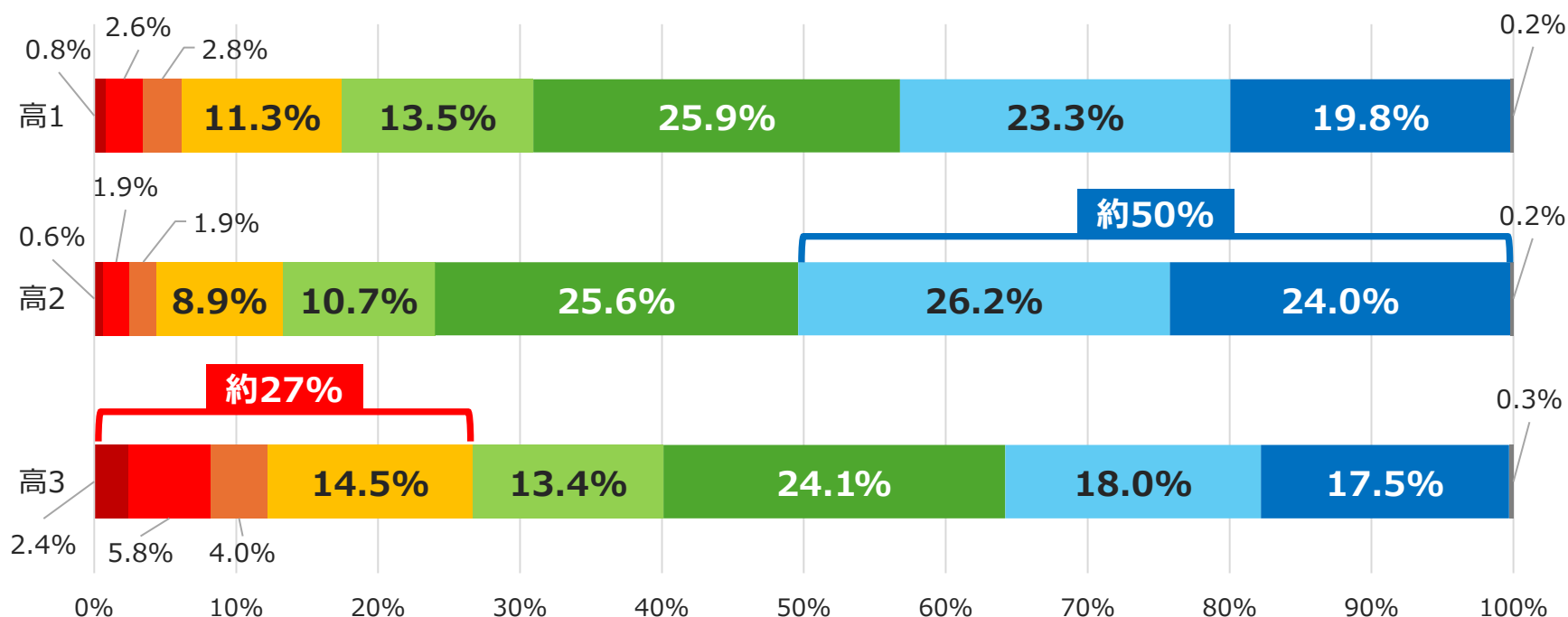


1.5.2 英語の休日の学習時間【R6年度】

- 高2の約50%が、英語の休日の学習時間が30分以下
- 高3の約27%が2時間以上学習

質問：英語について、1日にどの程度、自主学習をしていますか。
最も近い時間を休日について1つ選んでください。

- 選択肢：
- 4時間以上
 - 3時間
 - 2時間30分
 - 2時間
 - 1時間30分
 - 1時間
 - 30分
 - ほとんどしない
 - 未記入・誤記入



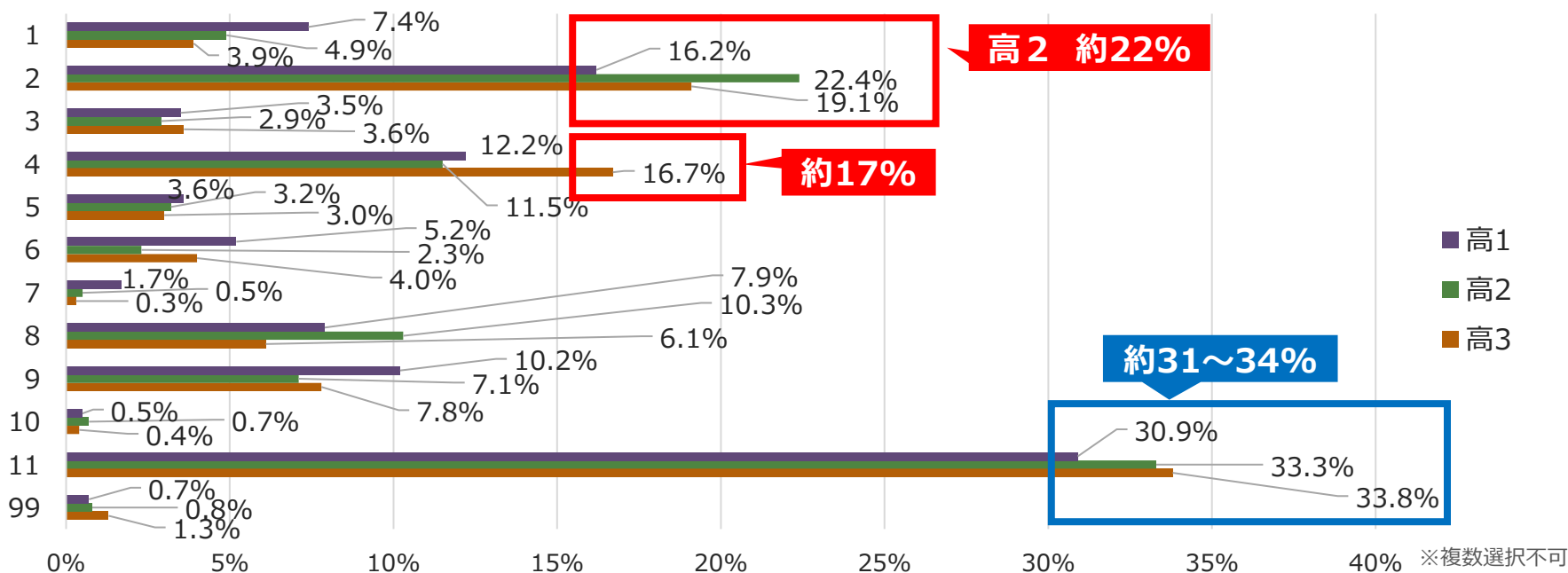
※集計対象人数は、高1：27,541人、高2：23,828人、高3：5,826人。

1.5.3 英語の授業の予習への取り組み【R6年度】

- いずれの学年も、「英語の予習はしていない」生徒の割合は約31～34%
- 予習内容は、いずれの学年も「新出の単語や熟語を辞書で調べる」が最も多く、高2では約22%
- 高3では「本文を訳しておく」生徒の割合が高1・2に比べて多く約17%

質問：英語について、授業の予習への取り組み方に最も近いものは次のうちどれですか。

- 選択肢：1. 教科書の本文を声に出して読む 2. 新出の単語や熟語を辞書で調べる
 3. 本文を要約しておく 4. 本文を訳しておく（または訳を考えておく）
 5. わからない文法事項を参考書などで調べる 6. 本文をノートに写し授業で書き込むよう準備
 7. 教科書のリスニングCDを聞く 8. 予習用のワークブックやプリントに取り組む
 9. その他／その他の取り組み方で予習をする 10. 予習しないよう指示されている
 11. 予習はしていない 99. 未記入・誤記入



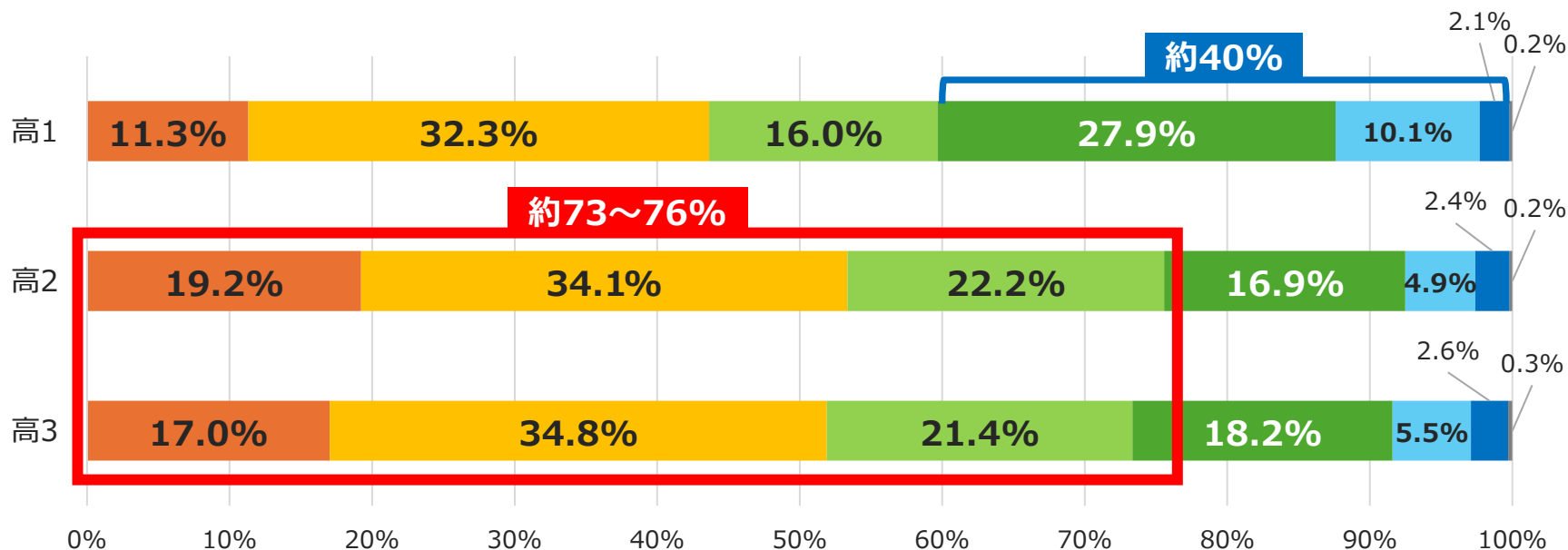
※集計対象人数は、高1：27,541人、高2：23,828人、高3：5,826人。

1.5.4 授業理解度（英語）【R6年度】

- 授業に対して、高1が最も不安を感じており、約40%が「わからないところがあり不安」または「ついていけない」と回答
- 高2・3になると「授業を理解できている」生徒が増え、約73～76%の生徒が「授業についていけている」と回答

質問：英語について、授業についての印象に最も近いものを次のうちから1つ選んでください。

- 選択肢：
- 1 - 理解できており今のところ不安はない
 - 2 - 理解できているが少し不安である
 - 3 - 不明点は少しあるが頑張ればついていける
 - 4 - 少しわからないところがあり不安である
 - 5 - 授業についていけず非常に不安である
 - 6 - 授業についていけずあきらめかけている
 - 99 - 未記入・誤記入

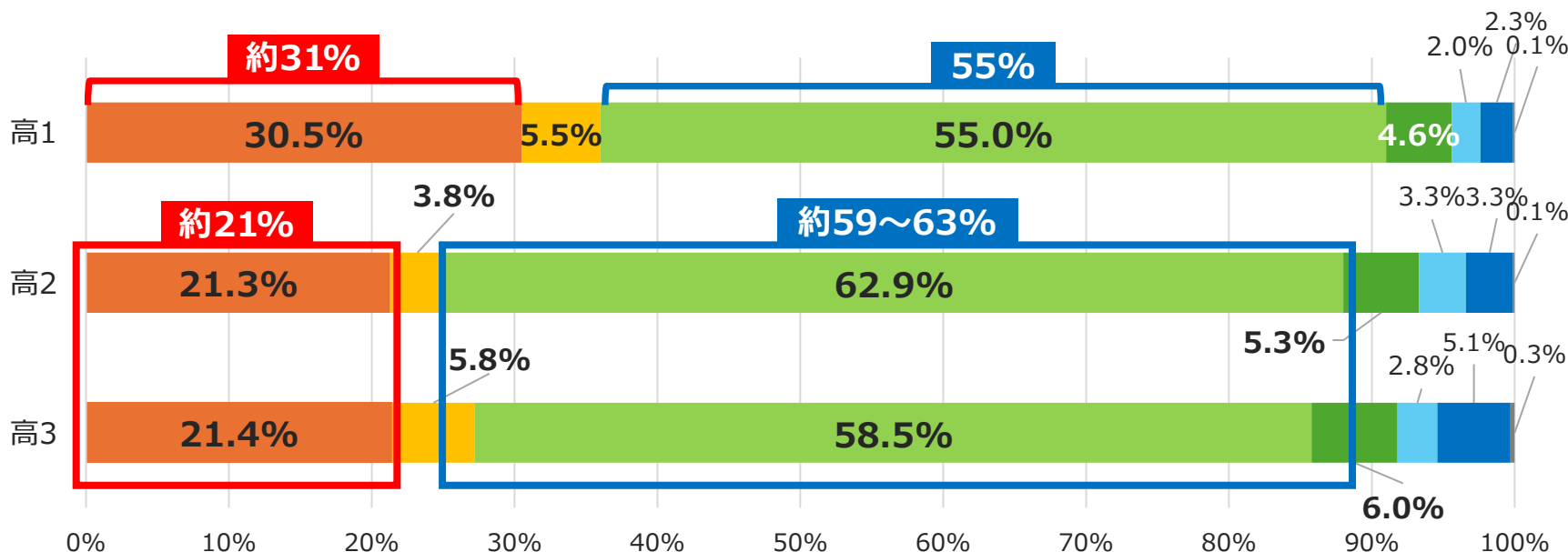


1.5.5 英語の宿題・授業の復習への取り組み【R6年度】

- 「宿題と復習を必ずする」生徒の割合は、高1が最も多く約31%で、高2・3は約21%に大きく減少
- 「宿題のみ取り組む」生徒の割合はいずれの学年も最も高く、高1は55%、高2・3は約59~63%

質問：英語について、宿題・授業の復習への取り組み方に最も近いものを次のうちから1つ選んでください。

- 選択肢：
- 1 - 宿題と復習は必ずする
 - 2 - 宿題はしていないが復習はする
 - 3 - 宿題はしているが復習はしていない
 - 4 - 宿題は完全にできず復習も手が回らない
 - 5 - 復習はせず宿題は写させてもらうことが多い
 - 6 - 宿題も復習もしていない
 - 99 - 未記入・誤記入



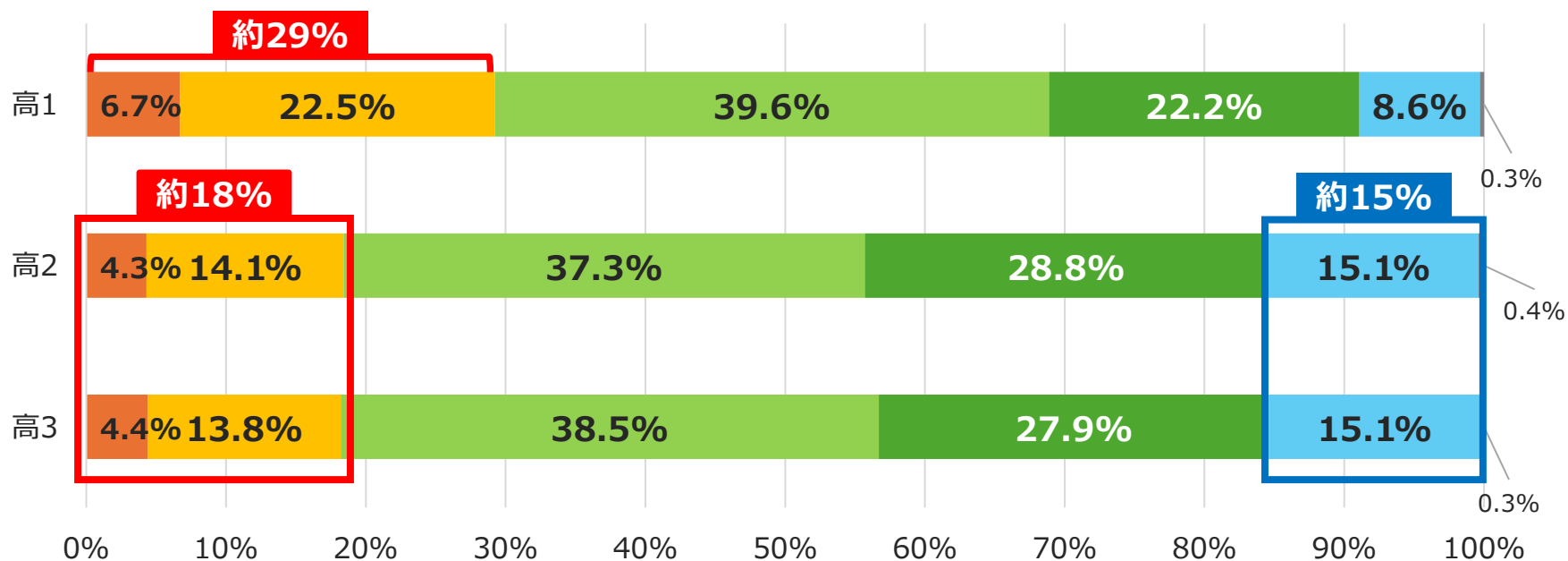
※集計対象人数は、高1：27,541人、高2：23,828人、高3：5,826人。

1.5.6 英語の定期試験後の復習【R6年度】

- 定期試験後に「（すべてあるいは間違えたところの）解きなおしの復習まで行う」生徒の割合は、高1が約29%と最も高く、高2・3は約18%
- 「復習を全くしない」生徒の割合は高2・3で約15%

質問：英語について、定期試験などの校内で行うテスト後、どのように復習に取り組めますか。
最も近いものを次のうちから1つ選んでください。

- 選択肢：
- 1 - 間違えたところだけでなくすべて復習する
 - 2 - 間違えたところを確認し解けるまで復習する
 - 3 - 間違えた理由を確認したりして理解する
 - 4 - 間違えたところだけは確認する
 - 5 - 復習は全くしていない
 - 99 - 未記入・誤記入

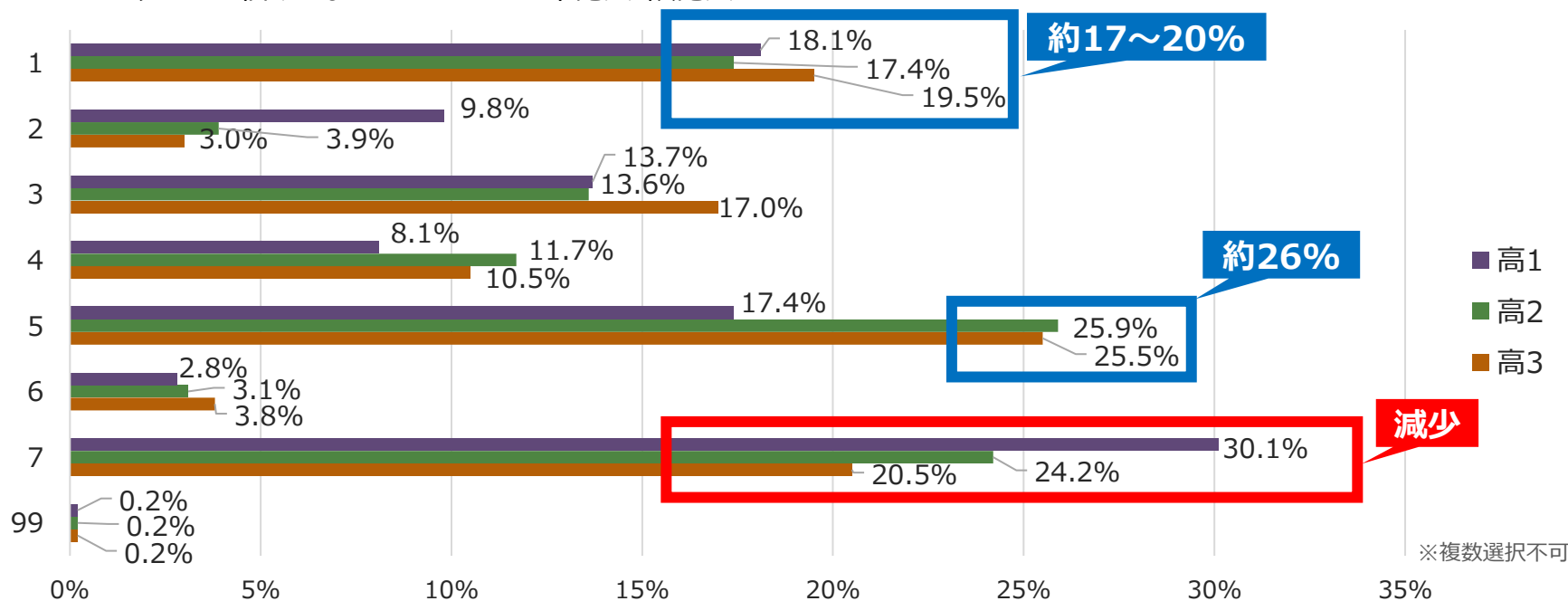


1.5.7 英語の学習上の悩み【R6年度】

- 高1から高3にかけて「学習上の悩みがない」生徒の割合は減少
- いずれの学年も「学習方法がわからない」生徒の割合は約17~20%おり、高1で最も多い悩み
- 高2・3では、「計画を実行できない・長続きしない」生徒の割合が高1より増加し、約26%を占める最も多い悩み

質問：英語について、学習するうえで、悩んでいることは何ですか。最も近いものを次のうちから1つ選んでください。

- 選択肢：1. 学習の方法がわからない 2. 授業の進度についていけない 3. 真面目に取り組んでいるのに成績が伸びない
 4. 学習に集中できない 5. 計画を実行できない、または長続きしない 6. その他
 7. 今のところ悩みはない 99. 未記入・誤記入



※集計対象人数は、高1：27,541人、高2：23,828人、高3：5,826人。

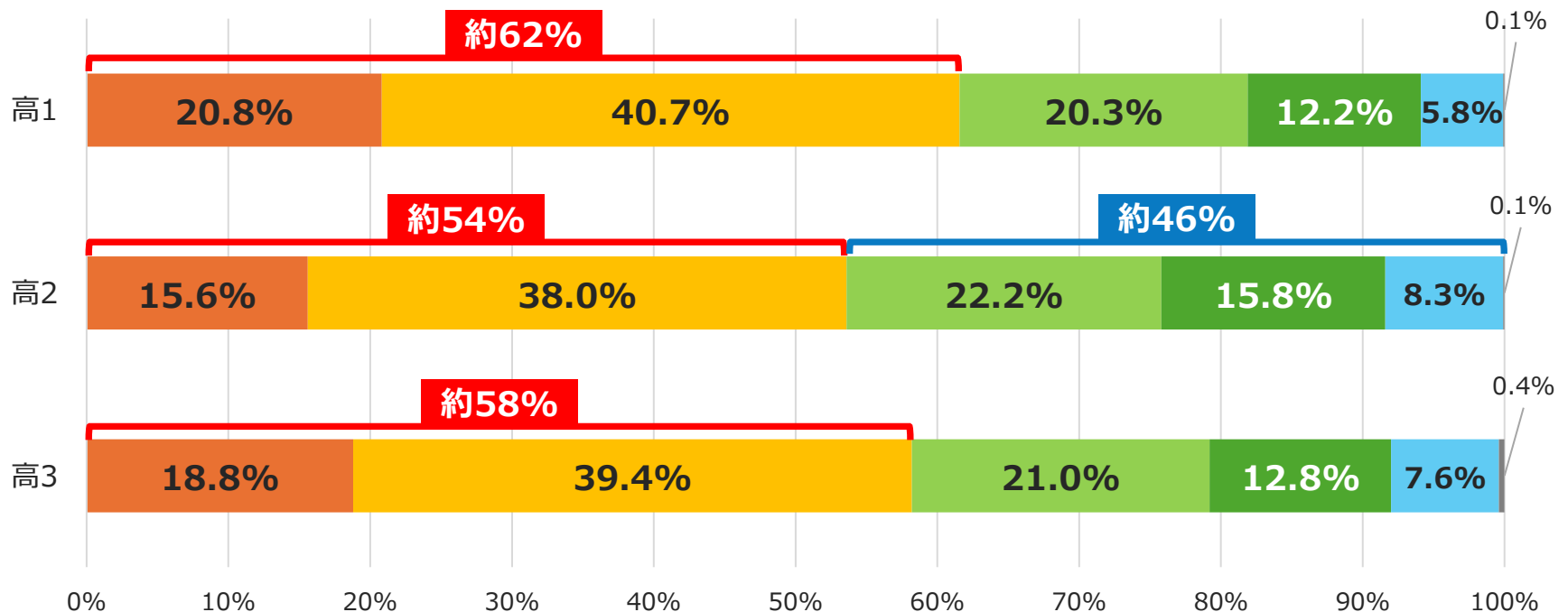
1.5.8 英語の授業における目標・目的の有無【R6年度】

- いずれの学年も、「授業に目標や目的をもって取り組む」生徒の割合は約54～62%
- 高2については、半数近くが授業に目標や目的をもって取り組んでいるとは言えない

質問：次の内容について、あなたが日頃の英語学習で心がけていることを振り返って、最も近いものを次の1～5のうちから選び回答してください。

「目標や目的をもって授業に取り組むようにしている」

- 選択肢：
- 1 - とてもあてはまる
 - 2 - ややあてはまる
 - 3 - どちらともいえない
 - 4 - あまりあてはまらない
 - 5 - あてはまらない
 - 99 - 未記入・誤記入

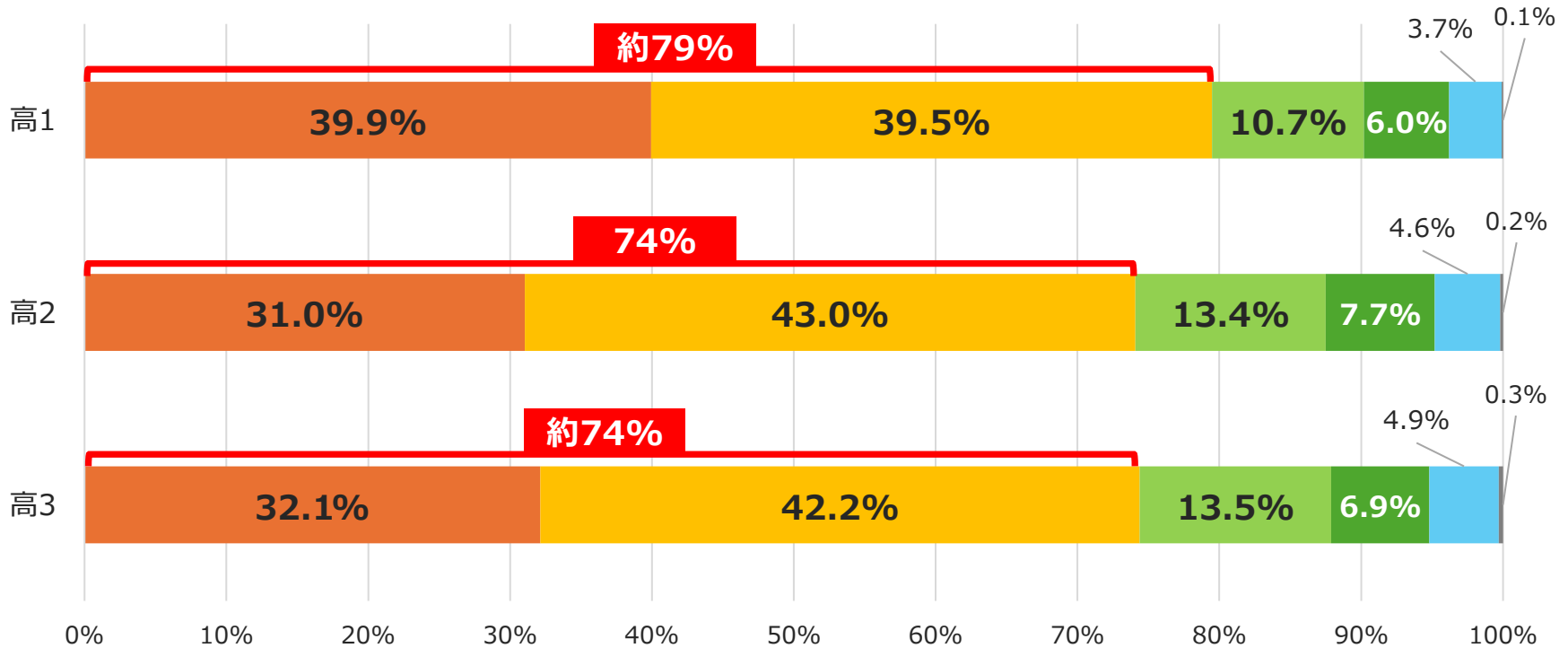


1.5.9 英語の疑問点があった場合の質問行動の有無【R6年度】

- 「とてもあてはまる」または「ややあてはまる」と回答した生徒は高1で約79%であり、高2・3よりも多い

質問：次の内容について、あなたが日頃の英語学習で心がけていることを振り返って、最も近いものを次の1～5のうちから選び回答してください。
 「理解できない点や疑問点は、先生や友人に質問をして解決するようにしている」

選択肢： ■ 1 - とてもあてはまる ■ 2 - ややあてはまる ■ 3 - どちらともいえない
■ 4 - あまりあてはまらない ■ 5 - あてはまらない ■ 99 - 未記入・誤記入



※集計対象人数は、高1：27,541人、高2：23,828人、高3：5,826人。

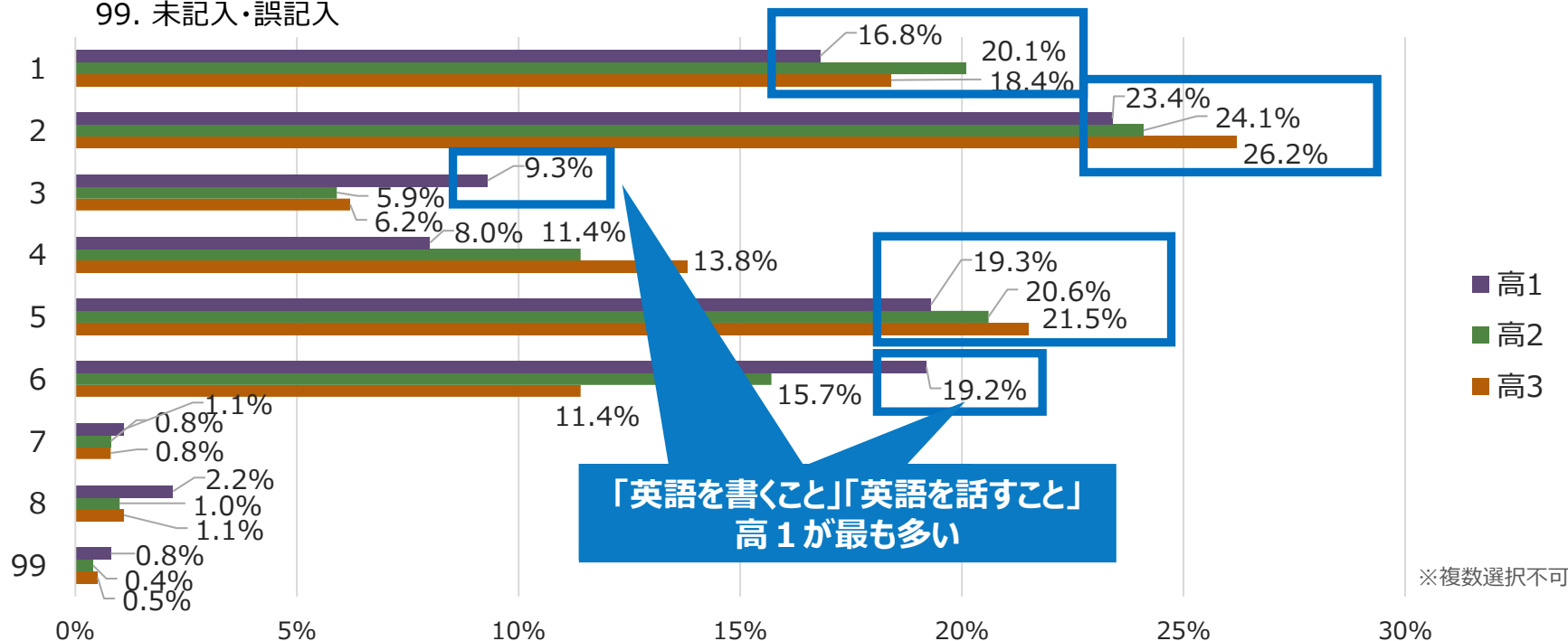
1.5.10 英語の苦手な事項【R6年度】

- いずれの学年も「単語を覚えること」「文法を理解すること」「英語を聴き取ること」を苦手とする生徒の割合は高く、またそれぞれの割合は高1より高2のほうが高い
- 「文法を理解すること」「英語を聴き取ること」の割合は、高2よりも高3のほうが高い
- 発信技能である「英語を書くこと」「英語を話すこと」が苦手な生徒の割合は、高1が最も高い

質問：英語について、最も苦手だ（わかりにくい）と思うことは次のうちどれですか。

- 選択肢： 1. 単語を覚えること 2. 文法を理解すること 3. 英語を書くこと 4. 英語を読むこと
 5. 英語を聴き取ること 6. 英語を話すこと 7. その他 8. 苦手なことはない

99. 未記入・誤記入



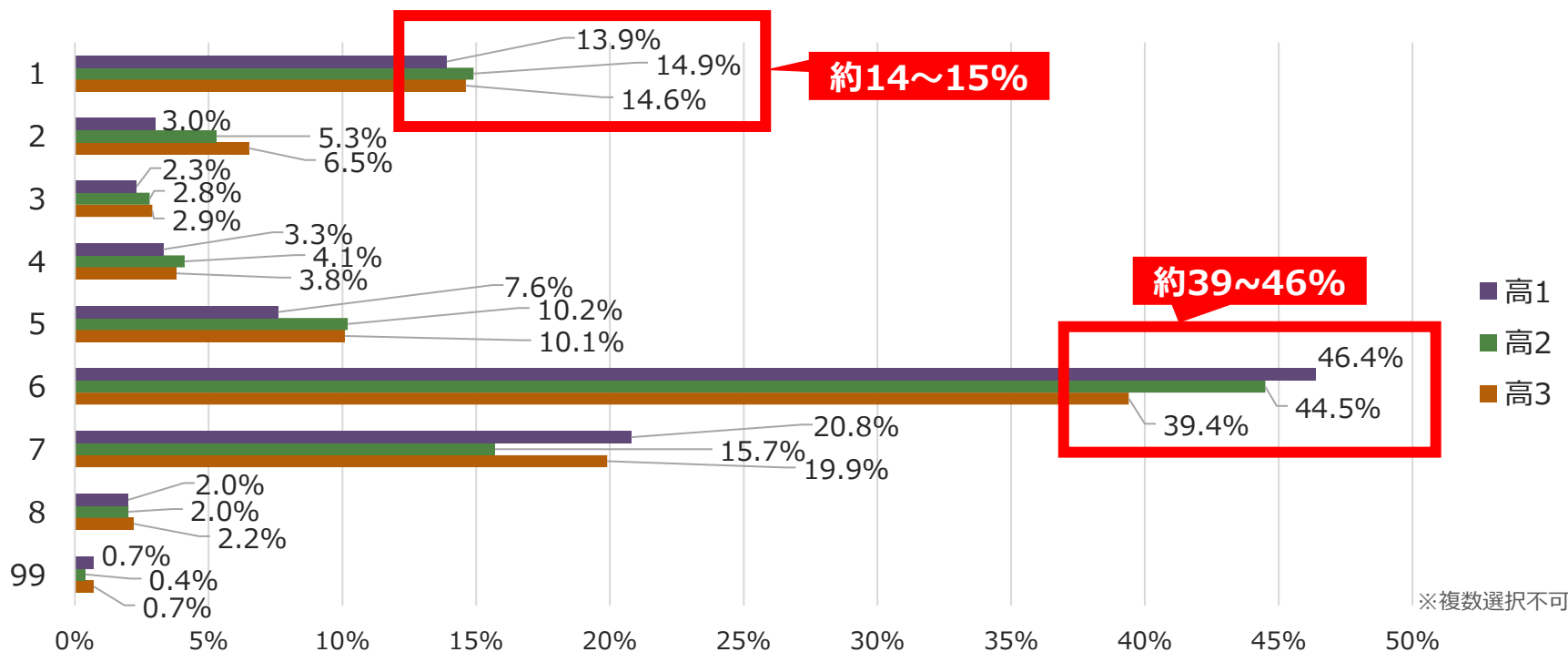
※集計対象人数は、高1：27,541人、高2：23,828人、高3：5,826人。

1.5.11 英語を身につけたい程度【R6年度】

- いずれの学年も、「日常的な会話をして楽しめるくらい」と回答した生徒の割合は約39～46%を占めており、最も高い
- 「国際社会で活躍できるくらい」と回答した生徒の割合は約14～15%

質問：現在、英語をどの程度まで身につけたいと思っていますか。最も近いものを次のうちから選んでください。

- 選択肢：1. 国際社会で活躍できるくらい 2. 大学での専門教育を英語で学べるくらい
 3. 海外進学をめざせるくらい 4. 海外の高校の授業に参加できるくらい
 5. ホームステイや語学研修を楽しめるくらい 6. 英語で日常的な会話をし楽しめるくらい
 7. 特に利用を考えていない 8. その他 99. 未記入・誤記入



※複数選択不可

1.5.12 文脈から語句の意味を推測して調べること【R6年度】

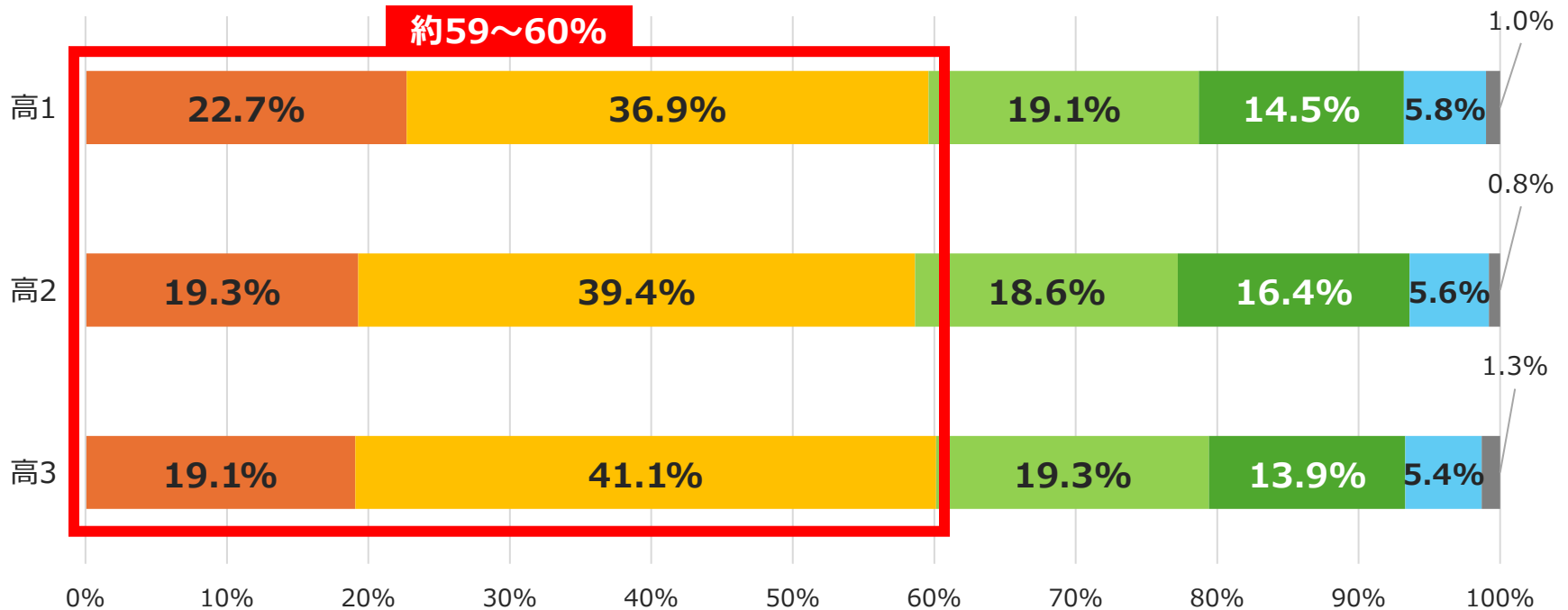
- いずれの学年も、約59～60%の生徒が「文脈から語句の意味を推測する」ことを実践

質問：英語の学習における次の内容について、最も近いものを次の1～5のうちから1つ選んでください。

「知らない単語や表現は、前後の文脈から語句の意味を考え、推測してから辞書などで確認するようにしている」

選択肢：

- 1 - とてもあてはまる
- 2 - ややあてはまる
- 3 - どちらともいえない
- 4 - あまりあてはまらない
- 5 - あてはまらない
- 99 - 未記入・誤記入



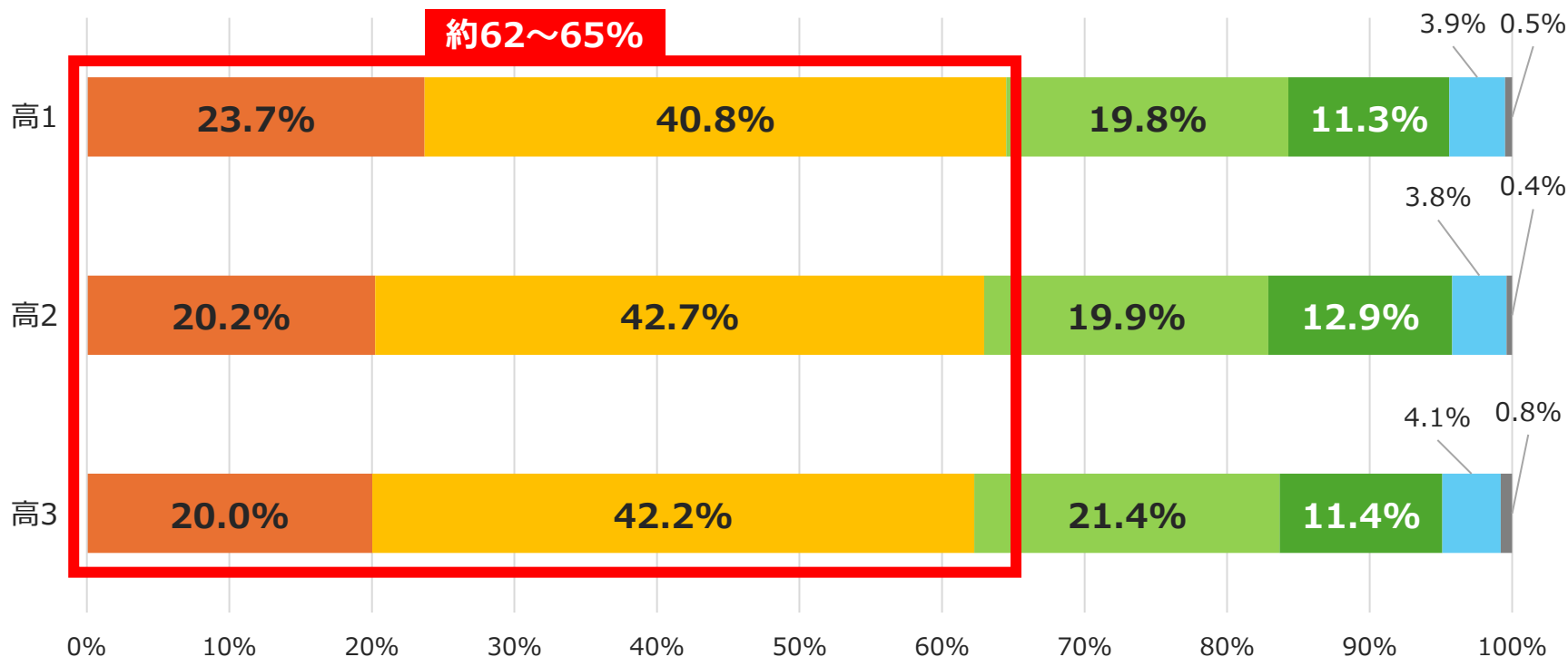
1.5.13 英文の構造を理解しながら読むこと【R6年度】

• いずれの学年も、約62～65%の生徒が「英文の構造を理解しながら読む」ことを実践

質問：英語の学習における次の内容について、最も近いものを次の1～5のうちから1つ選んでください。

「英語を読むとき、英文の構造（主語・動詞や節のまとまりなど）を理解するようにしている」

- 選択肢：
- 1 - とてもあてはまる
 - 2 - ややあてはまる
 - 3 - どちらともいえない
 - 4 - あまりあてはまらない
 - 5 - あてはまらない
 - 99 - 未記入・誤記入



※集計対象人数は、高1：27,541人、高2：23,828人、高3：5,826人。

1.5.14 意味の区切りを意識して英語を聞いて話すこと【R6年度】

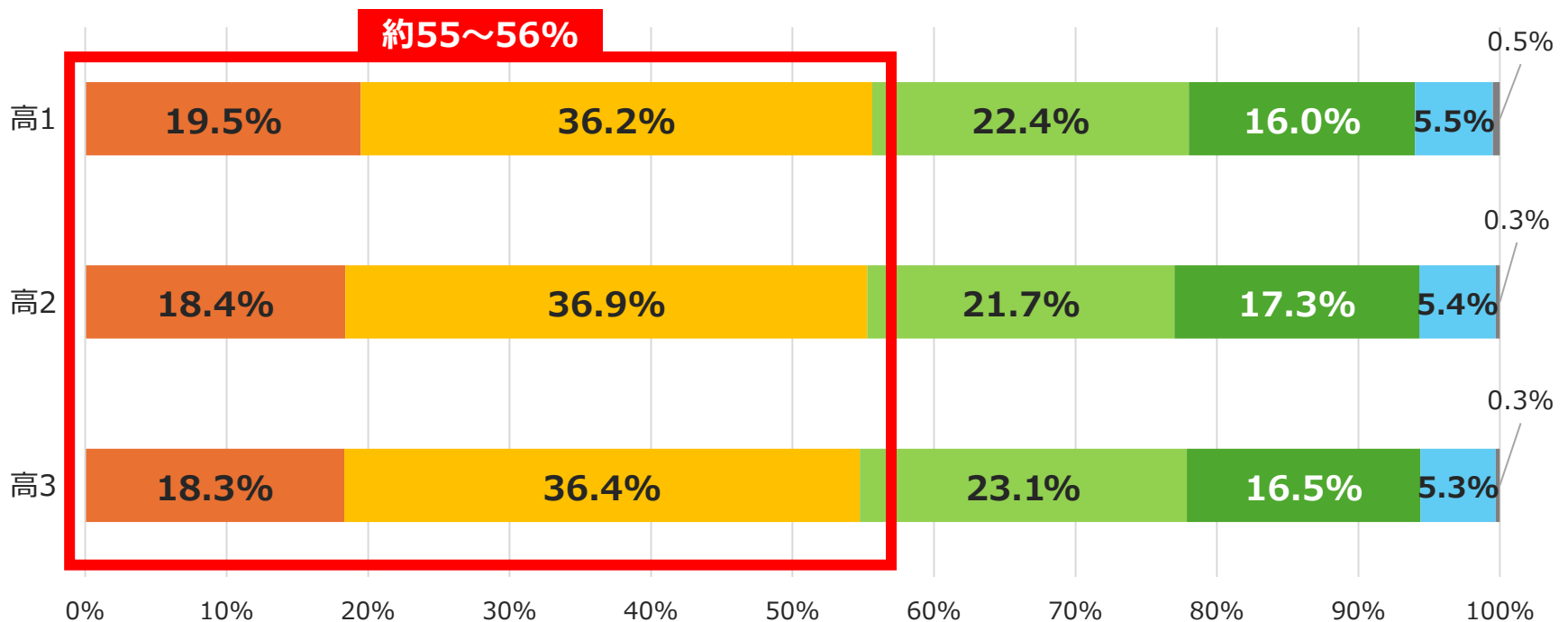
- いずれの学年も、約55～56%の生徒が「音や意味の区切りを意識して聞く、話す」ことを実践

質問：英語の学習における次の内容について、最も近いものを次の1～5のうちから1つ選んでください。

「英語を聞いたり話したりするとき、発音、リズム、イントネーション、意味の区切りなど意識するようにしている」

選択肢：

- 1 - とてもあてはまる
- 2 - ややあてはまる
- 3 - どちらともいえない
- 4 - あまりあてはまらない
- 5 - あてはまらない
- 99 - 未記入・誤記入

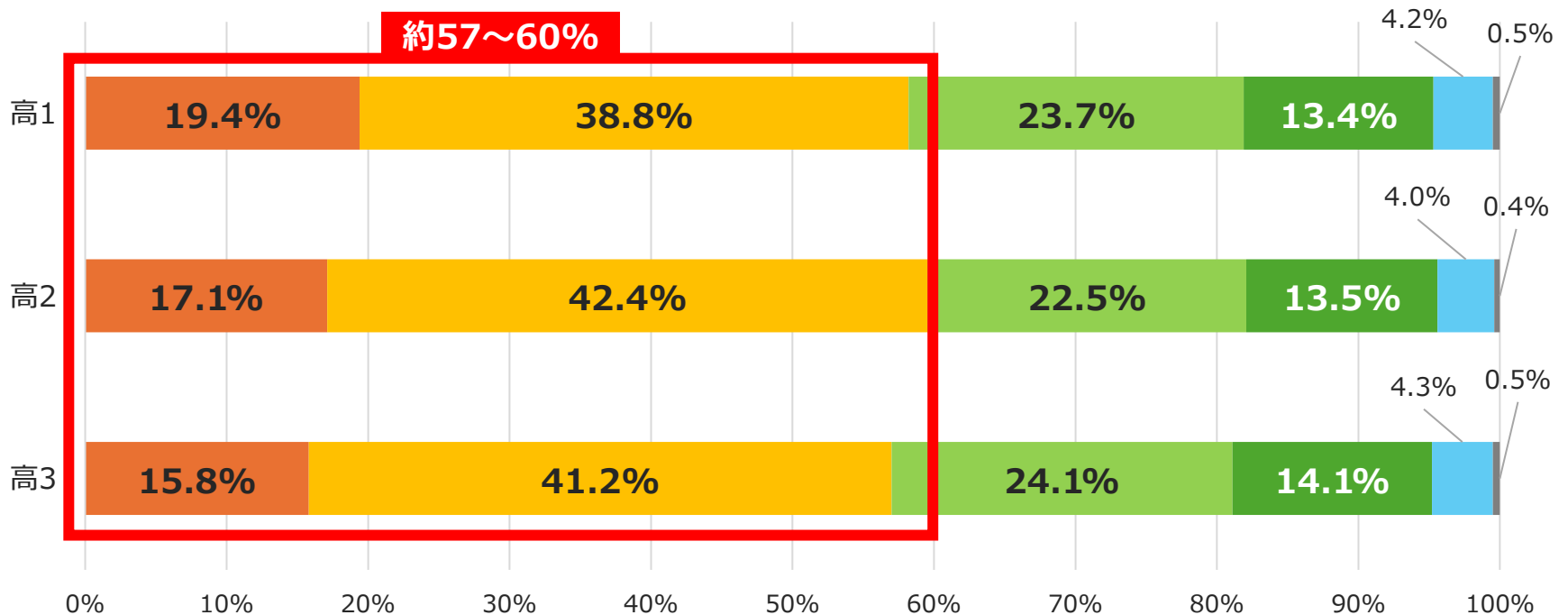


1.5.15 英文の主旨や筆者の主張をとらえること【R6年度】

- いずれの学年も、約57～60%の生徒が「英文の主旨や筆者の主張をとらえる」ことを実践

質問：英語の学習における次の内容について、最も近いものを次の1～5のうちから1つ選んでください。
「英語を読んだり聞いたりするとき、ある程度のまとまりで主旨を把握したり
文章全体の筆者の主張をとらえたりするようにしている」

- 選択肢：
- 1 - とてもあてはまる
 - 2 - ややあてはまる
 - 3 - どちらともいえない
 - 4 - あまりあてはまらない
 - 5 - あてはまらない
 - 99 - 未記入・誤記入



※集計対象人数は、高1：27,541人、高2：23,828人、高3：5,826人。

1.5.16 英文から筆者の意図や心情を推測すること【R6年度】

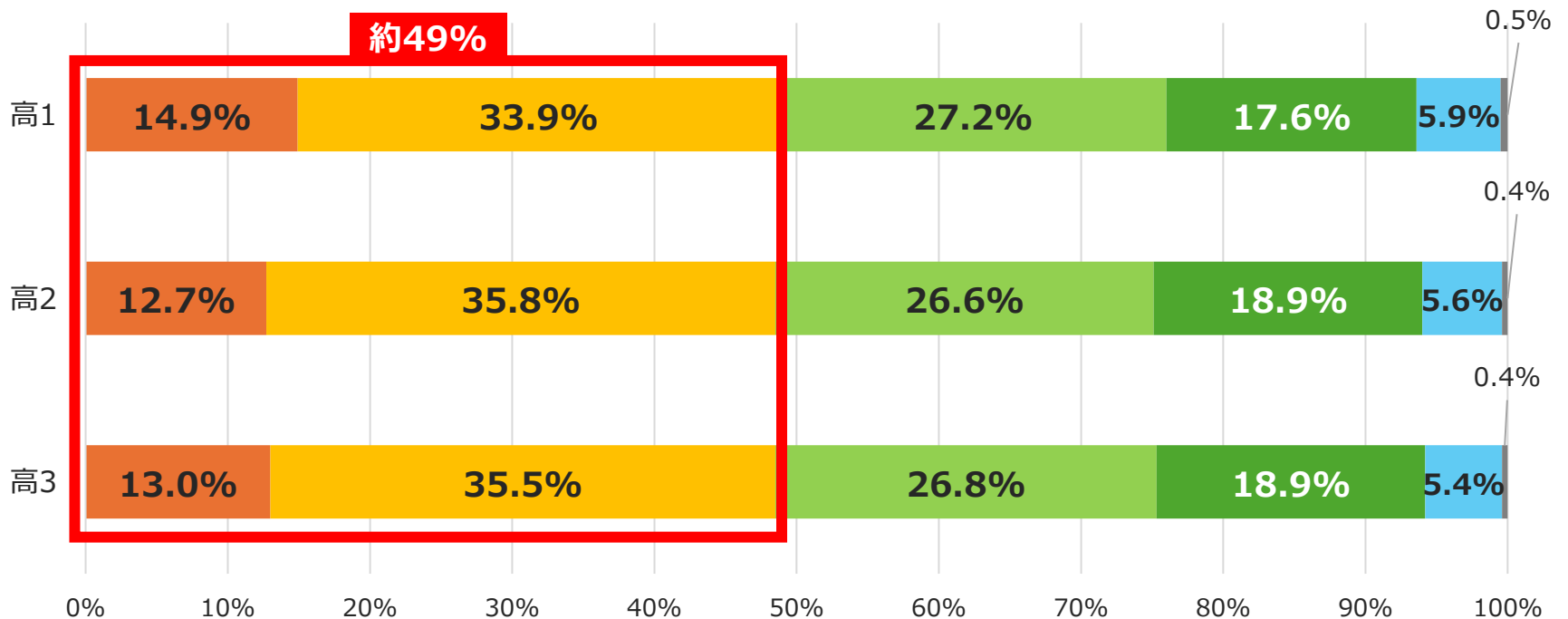
- いずれの学年も、約49%の生徒が「英文から筆者の意図や心情を推測する」ことを実践

質問：英語の学習における次の内容について、最も近いものを次の1～5のうちから1つ選んでください。

「英語を読んだり聞いたりするとき、文章全体を通して筆者の意図や気持ちを推測してとらえるようにしている」

選択肢：

- 1 - とてもあてはまる
- 2 - ややあてはまる
- 3 - どちらともいえない
- 4 - あまりあてはまらない
- 5 - あてはまらない
- 99 - 未記入・誤記入



※集計対象人数は、高1：27,541人、高2：23,828人、高3：5,826人。

1.5.17 英文の情報を詳細にとらえ要点を把握すること【R6年度】

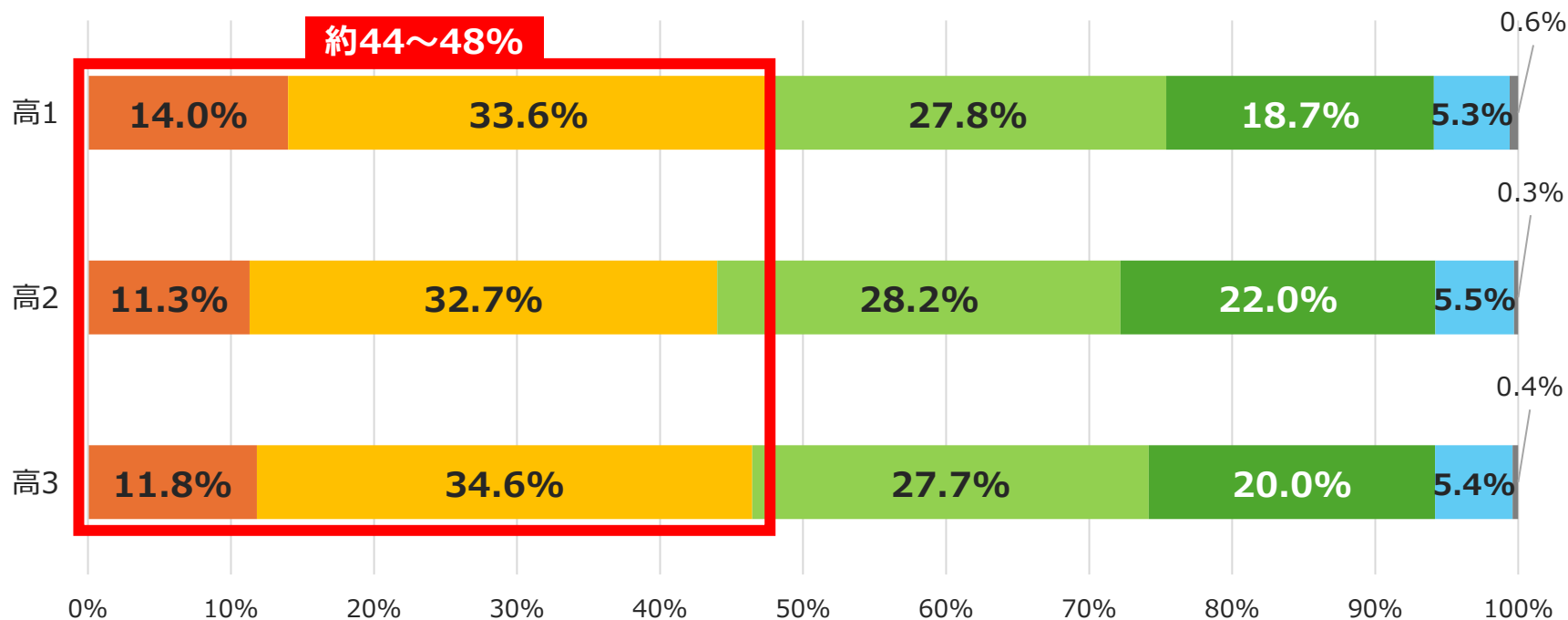
- いずれの学年も、約44～48%の生徒が「英文の情報を詳細にとらえ要点を把握する」ことを実践

質問：英語の学習における次の内容について、最も近いものを次の1～5のうちから1つ選んでください。

「英語を読んだり聞いたりするとき、要点を把握するうえで必要な情報を細部まで正確にとらえるように意識している」

選択肢：

- 1 - とてもあてはまる
- 2 - ややあてはまる
- 3 - どちらともいえない
- 4 - あまりあてはまらない
- 5 - あてはまらない
- 99 - 未記入・誤記入

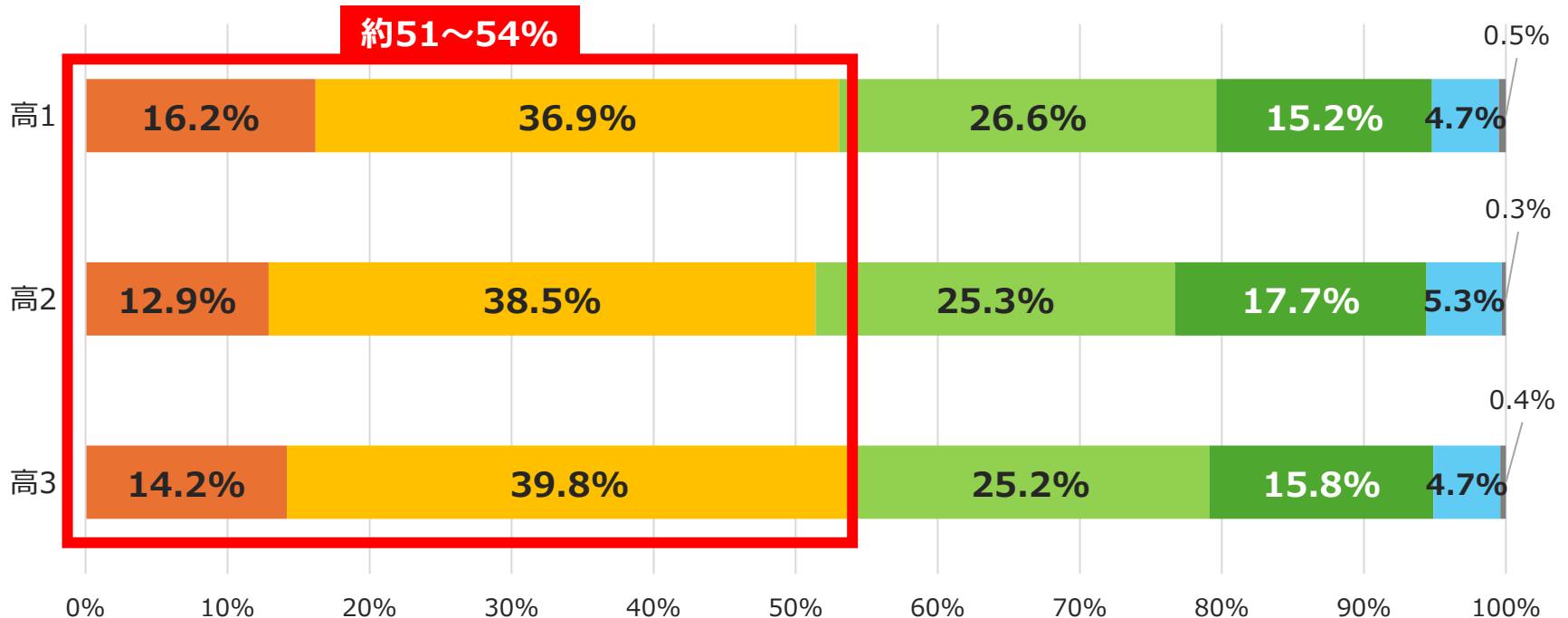


1.5.18 段落の関係を意識して英文の内容を理解すること【R6年度】

- いずれの学年も、約51～54%の生徒が「段落の関係を意識して英文内容を理解する」ことを実践

質問：英語の学習における次の内容について、最も近いものを次の1～5のうちから1つ選んでください。
「英語を読んだり聞いたりするとき、段落どうしの関係に注意して、内容を理解するようにしている」

選択肢： ■ 1 - とてもあてはまる ■ 2 - ややあてはまる ■ 3 - どちらともいえない
■ 4 - あまりあてはまらない ■ 5 - あてはまらない ■ 99 - 未記入・誤記入

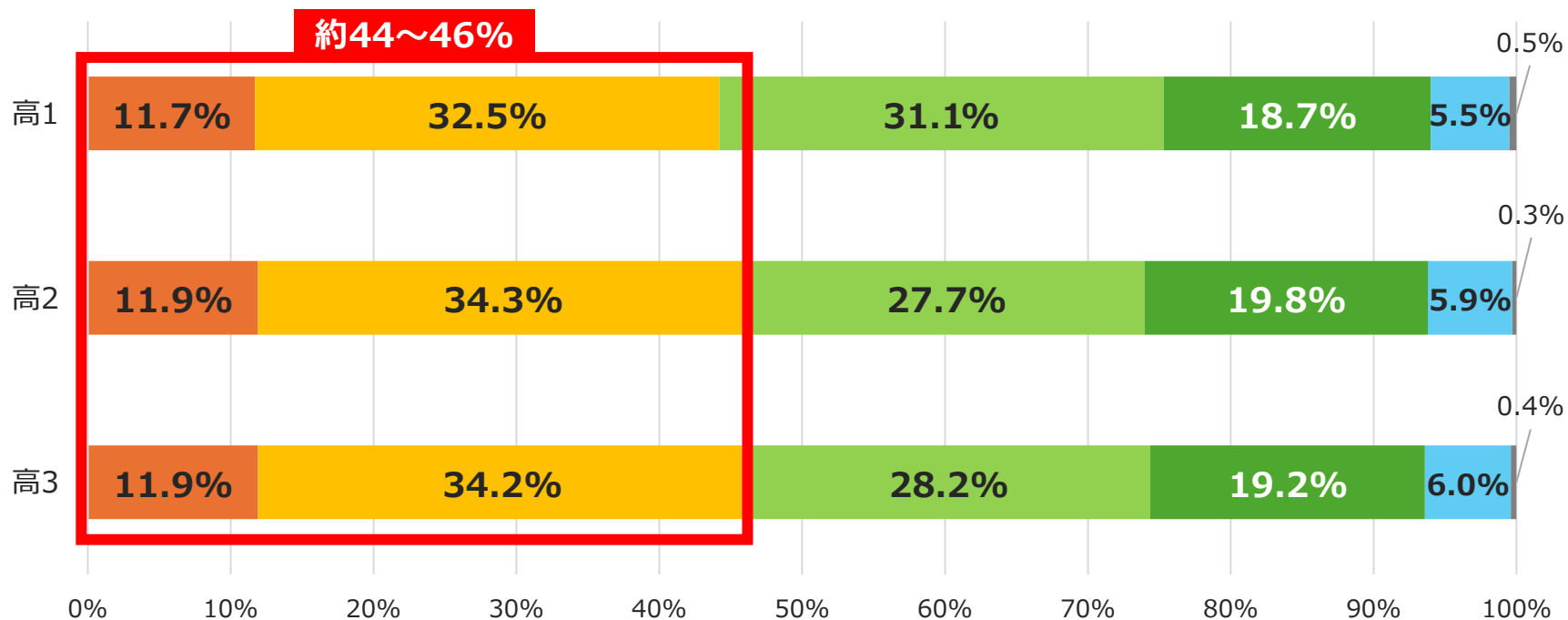


1.5.19 英語で産出する際の適切な表現の選択と論理性への注意の有無【R6年度】

- いずれの学年も、約44～46%の生徒が「場面に応じた表現の使用や論理性に注意して発信する」ことを実践

質問：英語の学習における次の内容について、最も近いものを次の1～5のうちから1つ選んでください。
「英語で話したり書いたりするとき、話題や伝える場面に応じた表現を使って、
論理性に注意しながら伝えるようにしている」

- 選択肢：
- 1 - とてもあてはまる
 - 2 - ややあてはまる
 - 3 - どちらともいえない
 - 4 - あまりあてはまらない
 - 5 - あてはまらない
 - 99 - 未記入・誤記入



1.5.20 難しくてもあきらめずに英語で表現すること【R6年度】

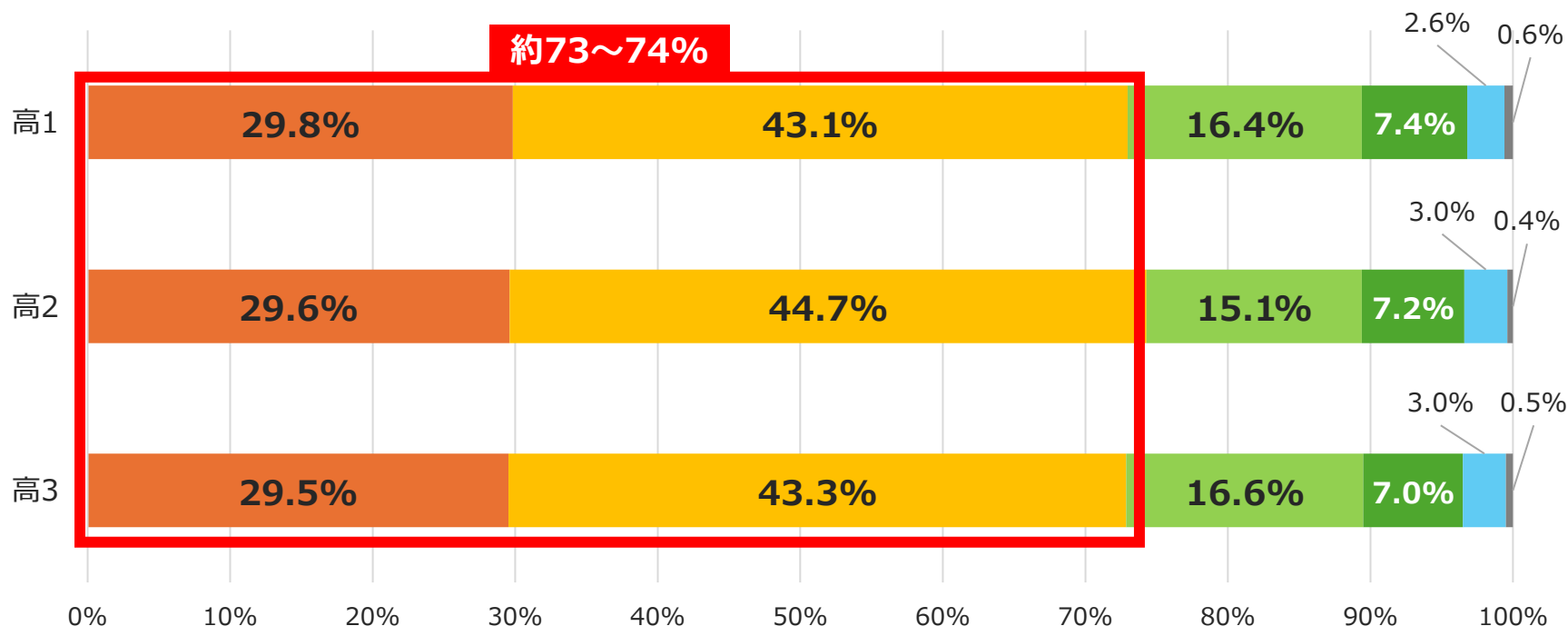
- いずれの学年も、「難しくてもあきらめずに知っている英語で表現しようとする」生徒の割合は約73～74%

質問：英語の学習における次の内容について、最も近いものを次の1～5のうちから1つ選んでください。

「英語で表現することが難しくても、あきらめずに知っている語彙や文法で表現しようとしている」

選択肢：

- 1 - とてもあてはまる
- 2 - ややあてはまる
- 3 - どちらともいえない
- 4 - あまりあてはまらない
- 5 - あてはまらない
- 99 - 未記入・誤記入



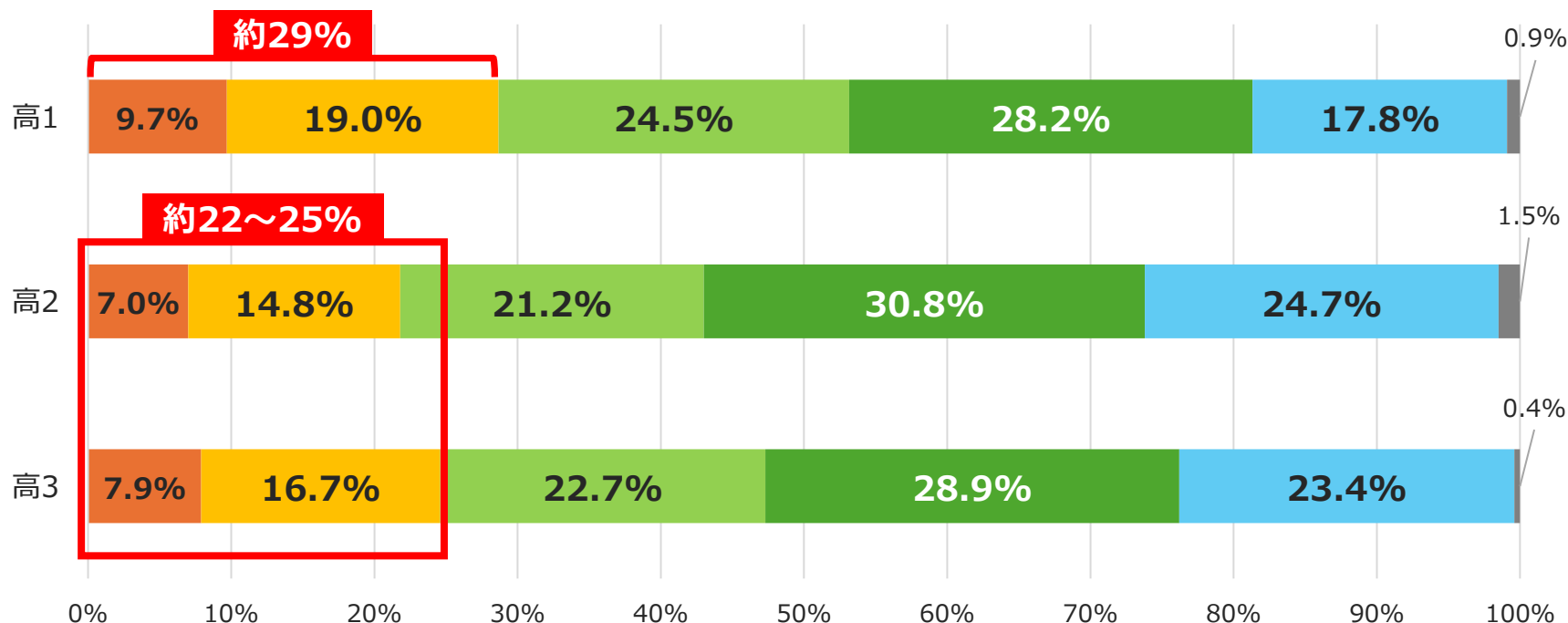
1.5.21 積極的に英語を話すようにしていること【R6年度】

- 「積極的に英語を話すようにしている」生徒の割合は、高1が最も高く約29%、高2・3は約22~25%

質問：英語の学習における次の内容について、最も近いものを次の1～5のうちから1つ選んでください。

「ネイティブの先生に英語で話しかけるなど、積極的に英語を話すようにしている」

- 選択肢：
- 1 - とてもあてはまる
 - 2 - ややあてはまる
 - 3 - どちらともいえない
 - 4 - あまりあてはまらない
 - 5 - あてはまらない
 - 99 - 未記入・誤記入

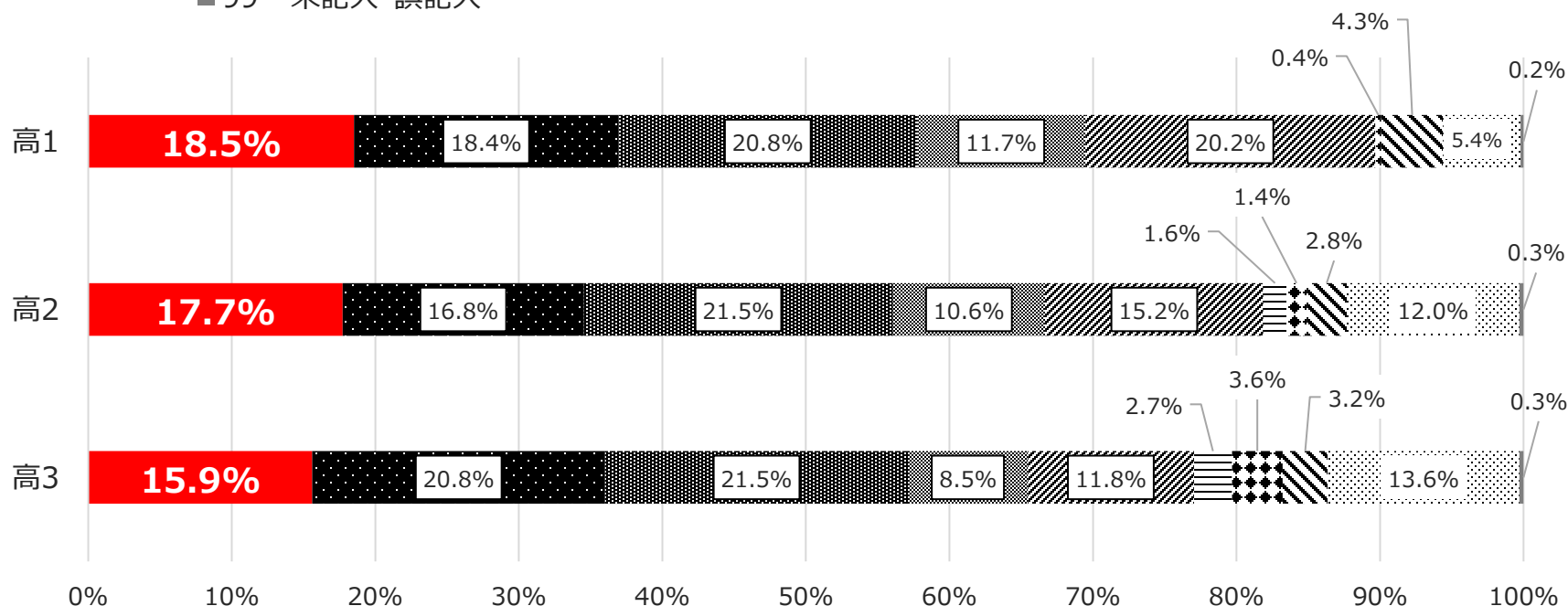


1.5.22 得意教科【R6年度】

- 「英語が最も得意だ」と感じる生徒は高1で約19%であり、学年が上がるにつれやや減少
- いずれの学年も「数学が最も得意だ」と感じる生徒の割合のほうが英語よりも高く、国語との比較でも、高1・2では同程度だが、高3になると約5ポイントの差がつく

質問：最も得意だと感じる教科はどれですか。1つ選んでください。

- 選択肢：
- 1 - 英語
 - 2 - 国語
 - 3 - 数学
 - 4 - 理科
 - 5 - 社会（地歴）
 - 6 - 社会（公民）
 - 7 - 情報
 - 8 - その他
 - 9 - なし
 - 99 - 未記入・誤記入



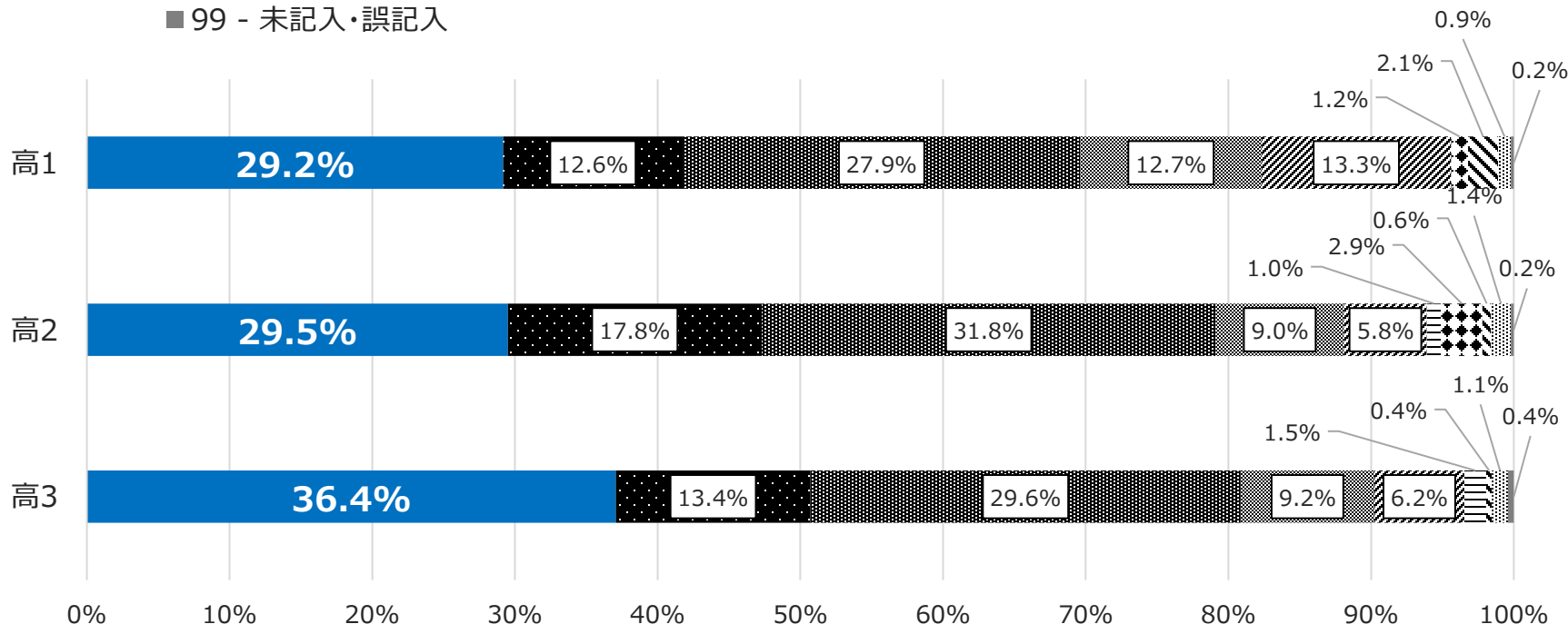
※集計対象人数は、高1：27,541人、高2：23,828人、高3：5,826人。

1.5.23 苦手教科【R6年度】

- 「英語が最も苦手だ」と感じる生徒は、高1・高2で約29～30%、高3になると約36%に増加
- 高2では「数学が最も苦手だ」と感じる生徒が最も多いが、高1・高3では「英語が苦手」と回答する生徒が最も多い

質問：最も苦手だ（わかりにくい）と感じる教科はどれですか。1つ選んでください。

- 選択肢：
- 1 - 英語
 - 2 - 国語
 - 3 - 数学
 - 4 - 理科
 - 5 - 社会（地歴）
 - 6 - 社会（公民）
 - 7 - 情報
 - 8 - その他
 - 9 - なし
 - 99 - 未記入・誤記入



※集計対象人数は、高1：27,541人、高2：23,828人、高3：5,826人。

1.6 英語学習調査（経年比較）

集計対象：以下の条件を満たすR1年度、R3年度、R6年度の生徒が集計対象である。

1つの学年次において、

- (a) - R1年度～R6年度の全年度で「GTEC」を80名以上で実施した学校の生徒
- (b) - (a)かつ指定の問題版（※）を受検している生徒
- (c) - (a)かつ(b)かつスタディサポートを受験した生徒

※指定の問題版とは、高1 - Basicタイプの第38回、第48回、第66回 高2 - Advancedタイプの通算回第39回、第49回、第67回 高3 - Advancedタイプの通算回第38回、第48回、第66回である。

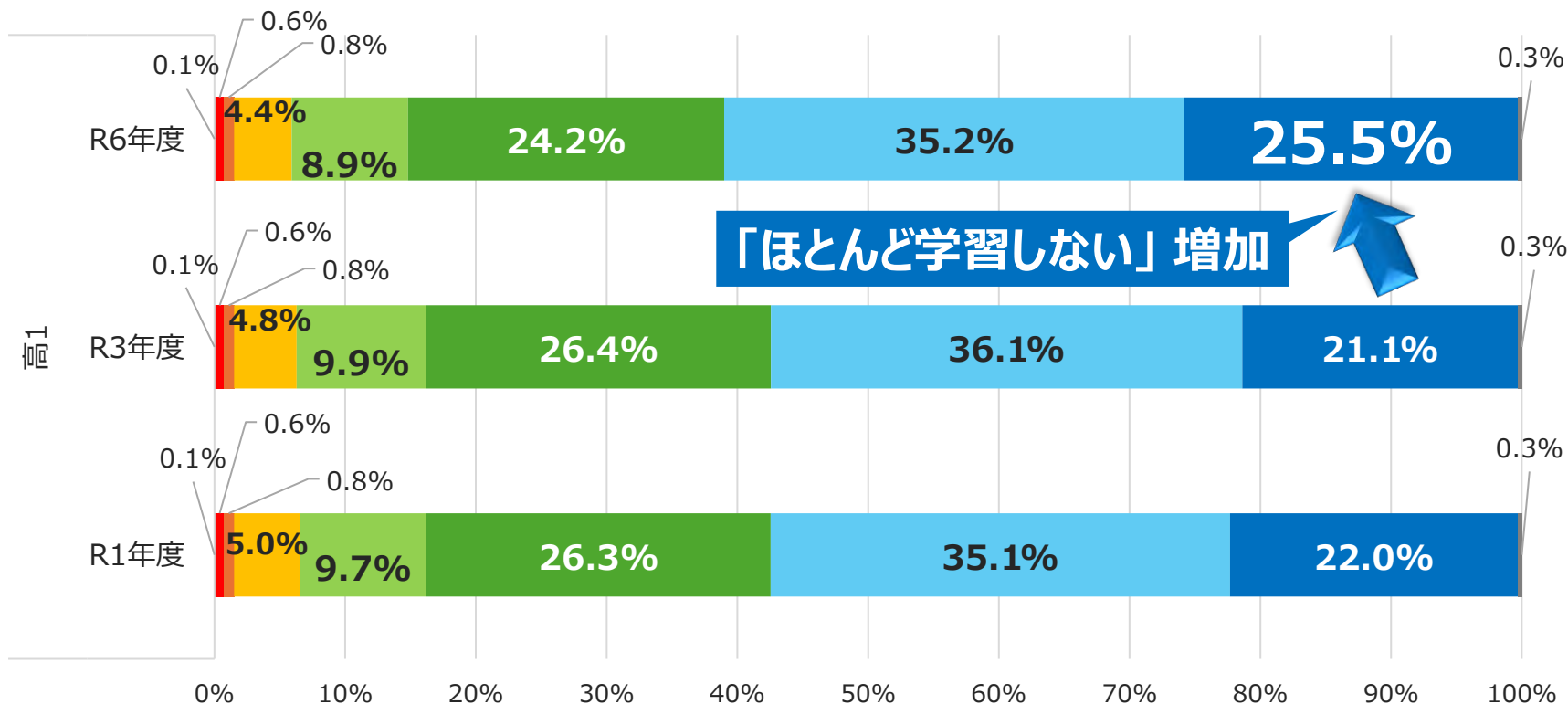
集計対象人数： R1 高1 - 34,349人、高2 - 29,439人、高3 - 6,096人
R3 高1 - 33,434人、高2 - 28,207人、高3 - 7,853人
R6 高1 - 27,541人、高2 - 23,828人、高3 - 5,826人

1.6.1.1 英語の平日の学習時間【高1】

- いずれの年度も、「30分」と回答した生徒が最も多い
- R3年度からR6年度にかけて、「ほとんど学習しない」生徒が増加

質問：英語について、中学生のとき、1日にどの程度、自主学習をしていますか。
 最も近い時間を平日について1つ選んでください。

- 選択肢：
- 4時間以上
 - 3時間
 - 2時間30分
 - 2時間
 - 1時間30分
 - 1時間
 - 30分
 - ほとんどしない
 - 未記入・誤記入

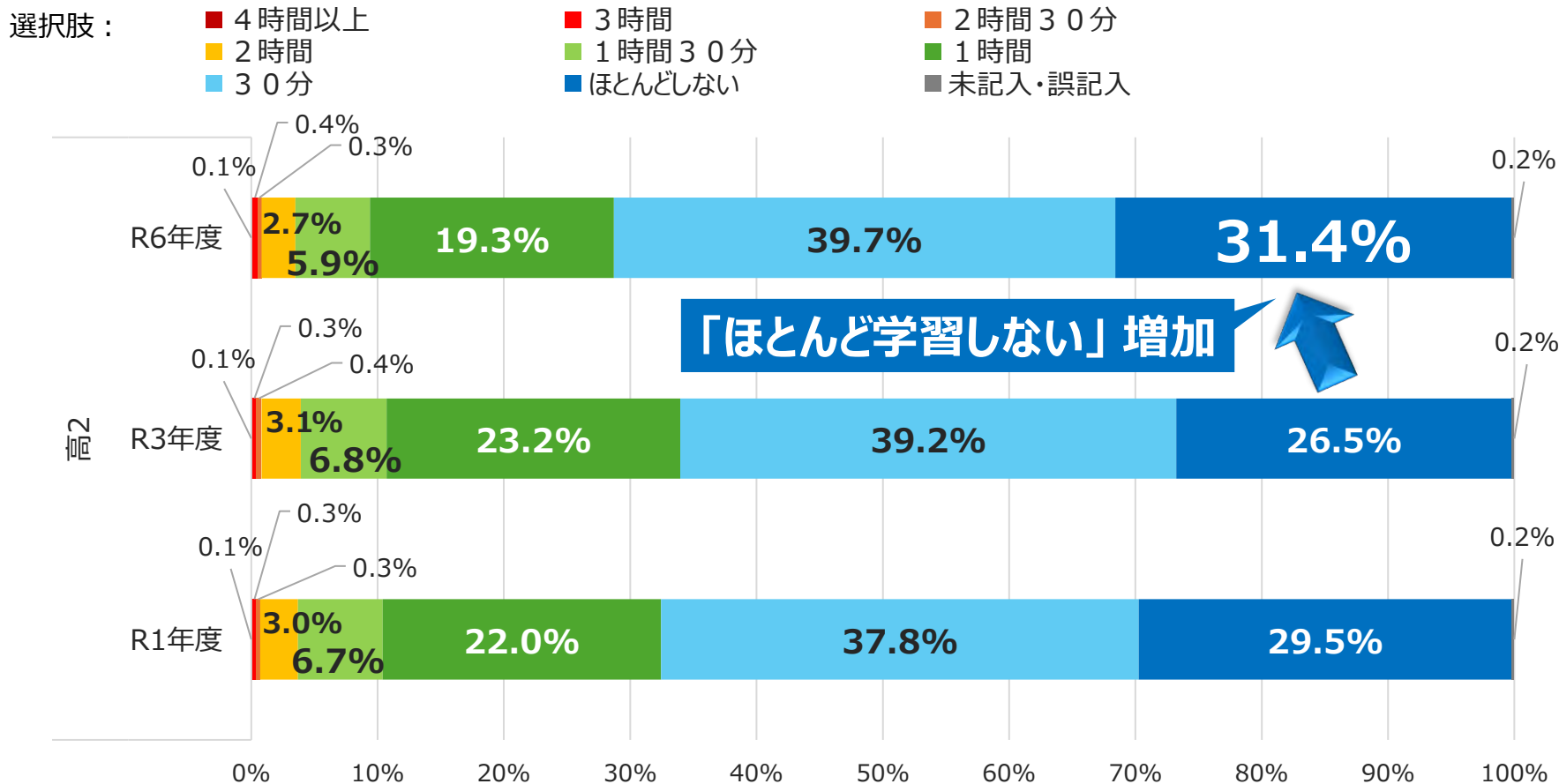


※集計対象人数は、R1 - 高1：34,349人、高2：29,439人、高3：6,096人。R3 - 高1：33,434人、高2：28,207人、高3：7,853人。R6 - 高1：27,541人、高2：23,828人、高3：5,826人。

1.6.1.2 英語の平日の学習時間【高2】

- いずれの年度も、「30分」と回答した生徒が最も多い
- R3年度からR6年度にかけて、「ほとんど学習しない」生徒が増加

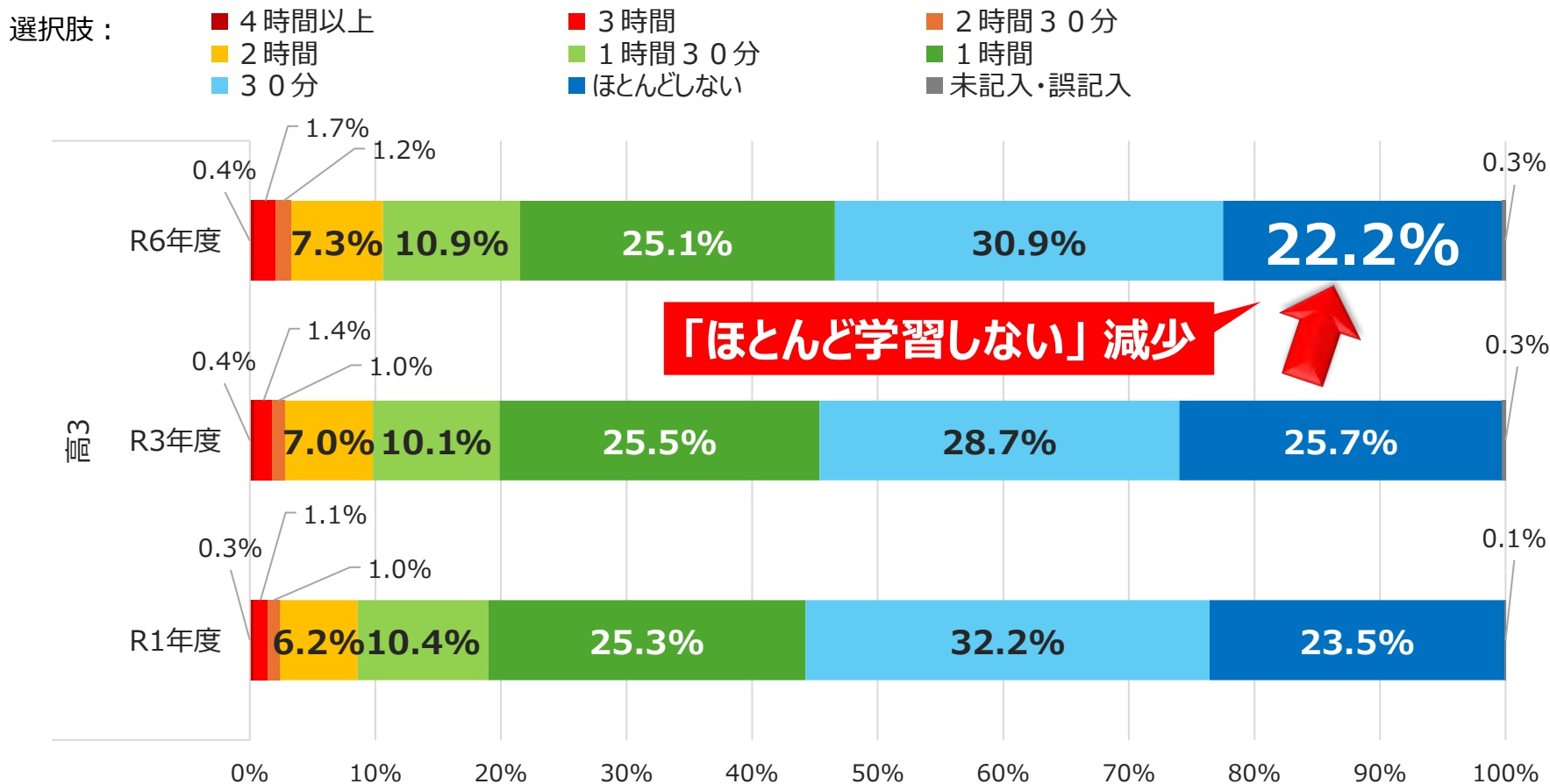
質問：英語について、1日にどの程度、自主学習をしていますか。最も近い時間を平日について1つ選んでください。



1.6.1.3 英語の平日の学習時間【高3】

- いずれの年度も、「30分」と回答した生徒が最も多い
- R3年度からR6年度にかけて、「ほとんど学習しない」生徒が減少

質問：英語について、1日にどの程度、自主学習をしていますか。最も近い時間を平日について1つ選んでください。



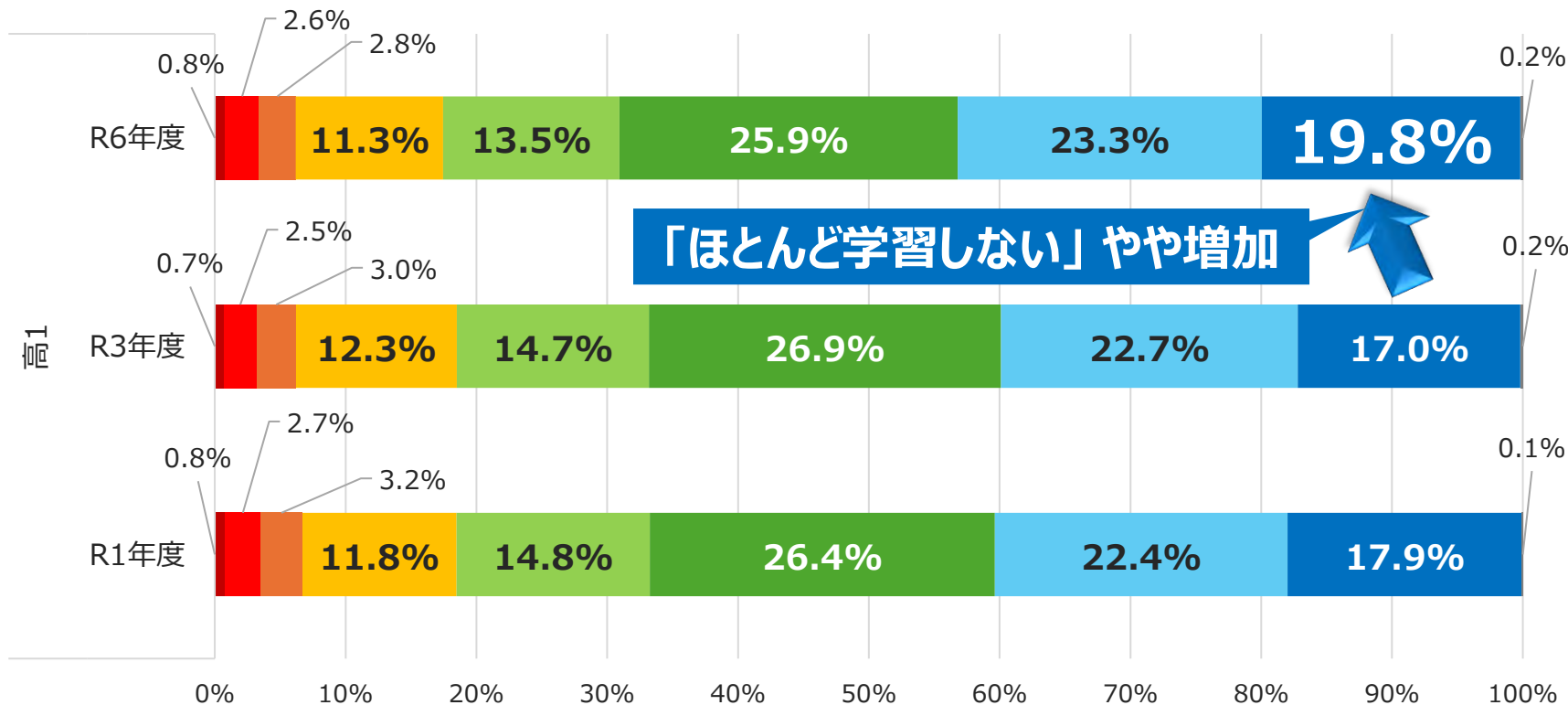
※集計対象人数は、R1 - 高1：34,349人、高2：29,439人、高3：6,096人。R3 - 高1：33,434人、高2：28,207人、高3：7,853人。R6 - 高1：27,541人、高2：23,828人、高3：5,826人。

1.6.2.1 英語の休日の学習時間【高1】

- いずれの年度も、「1時間」と回答した生徒が最も多い
- R3年度からR6年度にかけて、「ほとんど学習しない」生徒がやや増加

質問：英語について、中学生のとき、1日にどの程度、自主学習をしていますか。
最も近い時間を休日について1つ選んでください。

- 選択肢：
- 4時間以上
 - 3時間
 - 2時間30分
 - 2時間
 - 1時間30分
 - 1時間
 - 30分
 - ほとんどしない
 - 未記入・誤記入



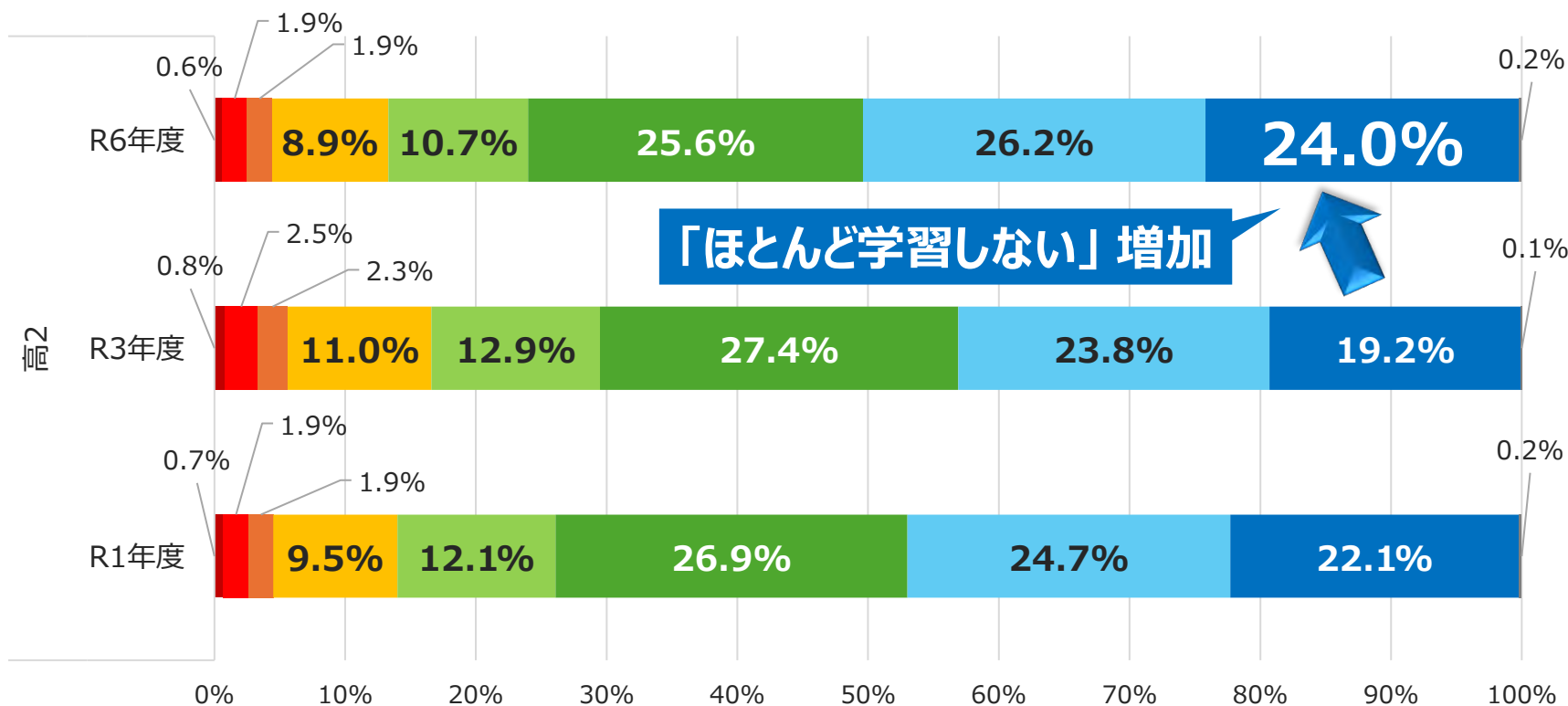
※集計対象人数は、R1 - 高1: 34,349人、高2: 29,439人、高3: 6,096人。R3 - 高1: 33,434人、高2: 28,207人、高3: 7,853人。R6 - 高1: 27,541人、高2: 23,828人、高3: 5,826人。

1.6.2.2 英語の休日の学習時間【高2】

・R3年度からR6年度にかけて、「ほとんど学習しない」生徒が増加

質問：英語について、1日にどの程度、自主学習をしていますか。最も近い時間を休日について1つ選んでください。

- 選択肢：
- 4時間以上
 - 3時間
 - 2時間30分
 - 2時間
 - 1時間30分
 - 1時間
 - 30分
 - ほとんどしない
 - 未記入・誤記入



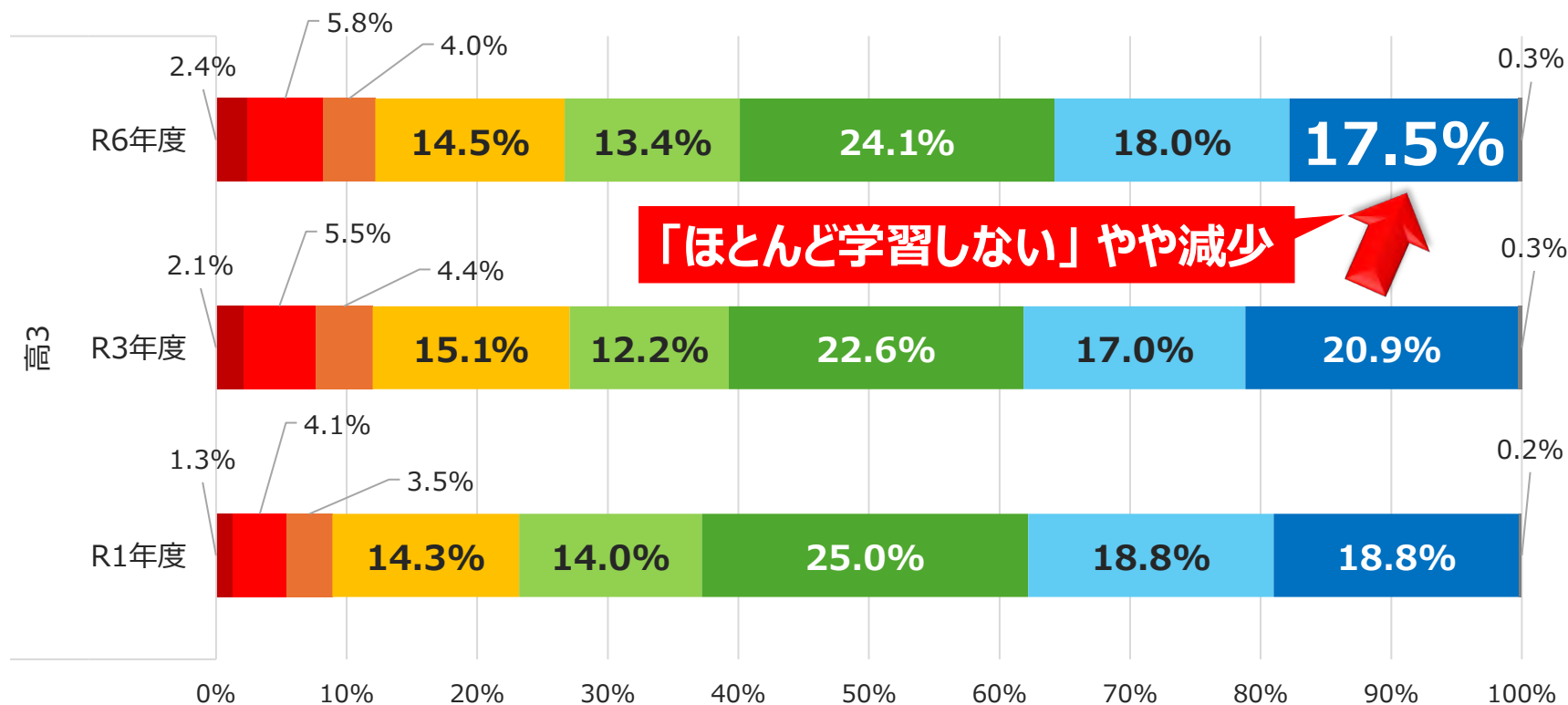
※集計対象人数は、R1 - 高1：34,349人、高2：29,439人、高3：6,096人。R3 - 高1：33,434人、高2：28,207人、高3：7,853人。R6 - 高1：27,541人、高2：23,828人、高3：5,826人。

1.6.2.3 英語の休日の学習時間【高3】

・R3年度からR6年度にかけて、「ほとんど学習しない」生徒がやや減少

質問：英語について、1日にどの程度、自主学習をしていますか。最も近い時間を休日について1つ選んでください。

- 選択肢：
- 4時間以上
 - 3時間
 - 2時間30分
 - 2時間
 - 1時間30分
 - 1時間
 - 30分
 - ほとんどしない
 - 未記入・誤記入



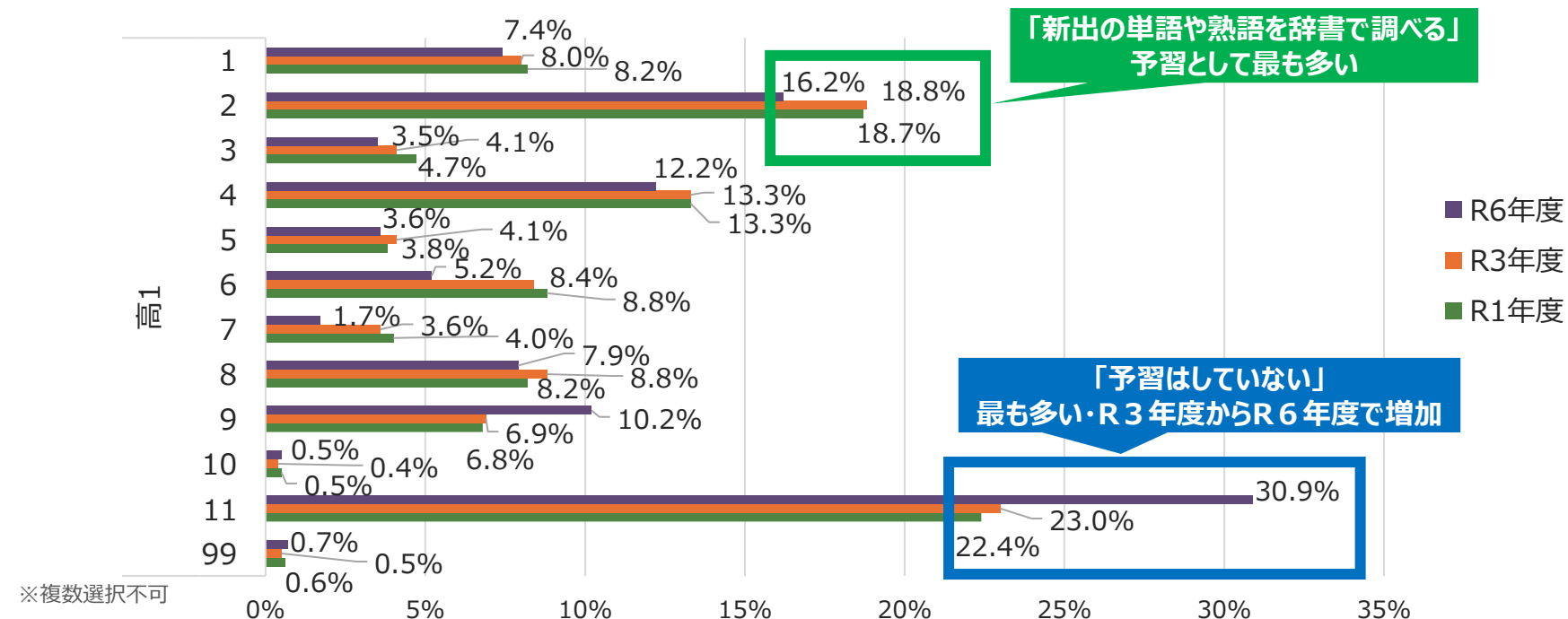
※集計対象人数は、R1 - 高1：34,349人、高2：29,439人、高3：6,096人。R3 - 高1：33,434人、高2：28,207人、高3：7,853人。R6 - 高1：27,541人、高2：23,828人、高3：5,826人。

1.6.3.1 英語の授業の予習への取り組み【高1】

- いずれの年度も、「予習はしていない」と回答した生徒が最も多く、R3年度からR6年度で増加
- いずれの年度も、予習として「新出の単語や熟語を辞書で調べる」生徒が最も多い

質問：英語について、中学生のときの授業の予習への取り組み方に最も近いものは次のうちどれですか。

- 選択肢： 1. 教科書の本文を声に出して読む 2. 新出の単語や熟語を辞書で調べる
 3. 本文を要約しておく 4. 本文を訳しておく（または訳を覚えておく）
 5. わからない文法事項を参考書などで調べる 6. 本文をノートに写し授業で書き込むよう準備
 7. 教科書のリスニングCDを聞く 8. 予習用のワークブックやプリントに取り組む
 9. その他／その他の取り組み方で予習をする 10. 予習しないよう指示されている
 11. 予習はしていない 99. 未記入・誤記入



「新出の単語や熟語を辞書で調べる」
予習として最も多い

「予習はしていない」
最も多い・R3年度からR6年度で増加

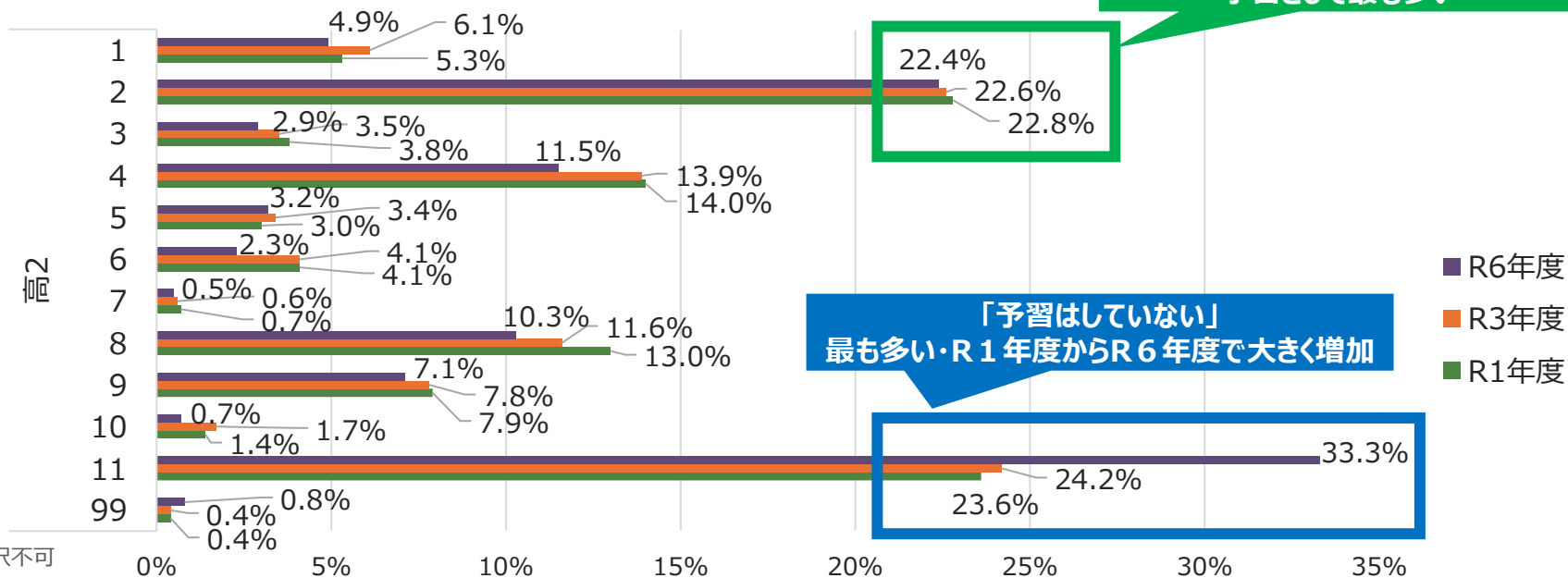
※集計対象人数は、R1- 高1：34,349人、高2：29,439人、高3：6,096人。R3- 高1：33,434人、高2：28,207人、高3：7,853人。R6- 高1：27,541人、高2：23,828人、高3：5,826人。

1.6.3.2 英語の授業の予習への取り組み【高2】

- いずれの年度も、「予習はしていない」と回答した生徒が最も多く、R1年度からR6年度で大きく増加
- いずれの年度も、予習として「新出の単語や熟語を辞書で調べる」生徒が最も多い

質問：英語について、授業の予習への取り組み方に最も近いものは次のうちどれですか。

- 選択肢：
- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1. 教科書の本文を声に出して読む | 2. 新出の単語や熟語を辞書で調べる |
| 3. 本文を要約しておく | 4. 本文を訳しておく（または訳を考えておく） |
| 5. わからない文法事項を参考書などで調べる | 6. 本文をノートに写し授業で書き込むよう準備 |
| 7. 教科書のリスニングCDを聞く | 8. 予習用のワークブックやプリントに取り組む |
| 9. その他／その他の取り組み方で予習をする | 10. 予習しないよう指示されている |
| 11. 予習はしていない | 99. 未記入・誤記入 |



「新出の単語や熟語を辞書で調べる」
予習として最も多い

「予習はしていない」
最も多い・R1年度からR6年度で大きく増加

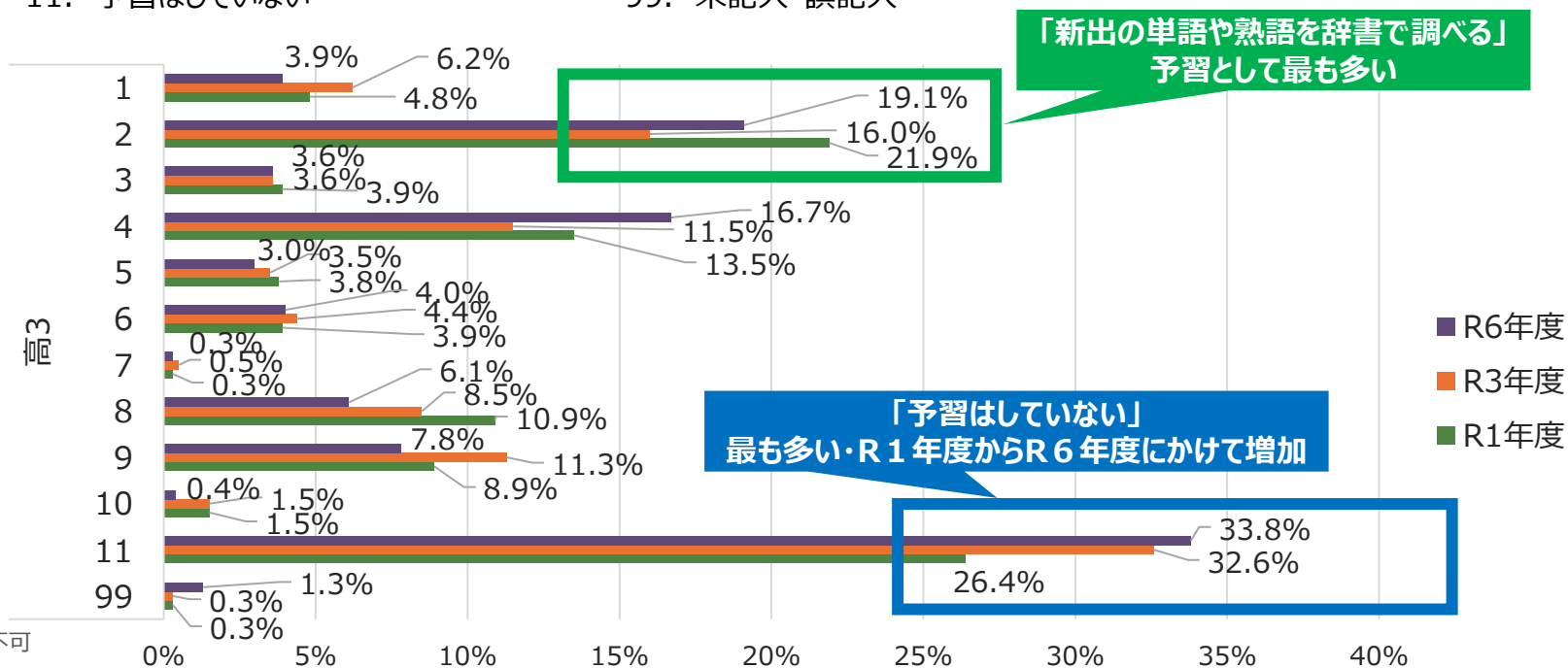
※集計対象人数は、R1- 高1：34,349人、高2：29,439人、高3：6,096人。R3- 高1：33,434人、高2：28,207人、高3：7,853人。R6- 高1：27,541人、高2：23,828人、高3：5,826人。

1.6.3.3 英語の授業の予習への取り組み【高3】

- いずれの年度も、「予習はしていない」と回答した生徒が最も多く、R1年度からR6年度にかけて増加
- いずれの年度も、予習として「新出の単語や熟語を辞書で調べる」生徒が最も多い

質問：英語について、授業の予習への取り組み方に最も近いものは次のうちどれですか。

- 選択肢：
- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1. 教科書の本文を声に出して読む | 2. 新出の単語や熟語を辞書で調べる |
| 3. 本文を要約しておく | 4. 本文を訳しておく（または訳を考えておく） |
| 5. わからない文法事項を参考書などで調べる | 6. 本文をノートに写し授業で書き込むよう準備 |
| 7. 教科書のリスニングCDを聞く | 8. 予習用のワークブックやプリントに取り組む |
| 9. その他／その他の取り組み方で予習をする | 10. 予習しないよう指示されている |
| 11. 予習はしていない | 99. 未記入・誤記入 |



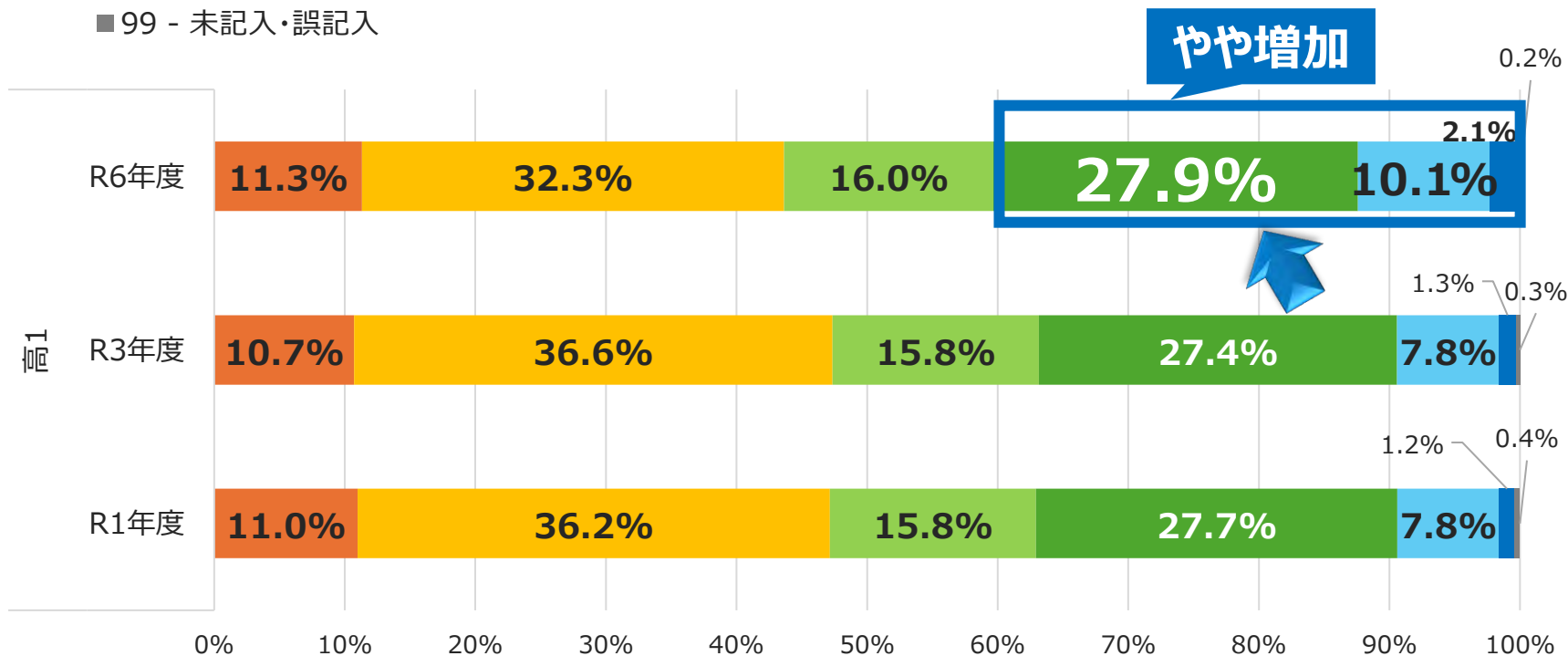
※複数選択不可

1.6.4.1 授業理解度（英語）【高1】

- いずれの年度も、「理解できているが少し不安である」と回答した生徒が最も多い
- R3年度からR6年度にかけて、「（非常に）不安である」や「あきらめかけている」生徒はやや増加

質問：英語について、授業についての印象に最も近いものを次のうちから1つ選んでください。

- 選択肢：
- 1 - 理解できており今のところ不安はない
 - 2 - 理解できているが少し不安である
 - 3 - 不明点は少しあるが頑張ればついていける
 - 4 - 少しわからないところがあり不安である
 - 5 - 授業についていけず非常に不安である
 - 6 - 授業についていけずあきらめかけている
 - 99 - 未記入・誤記入



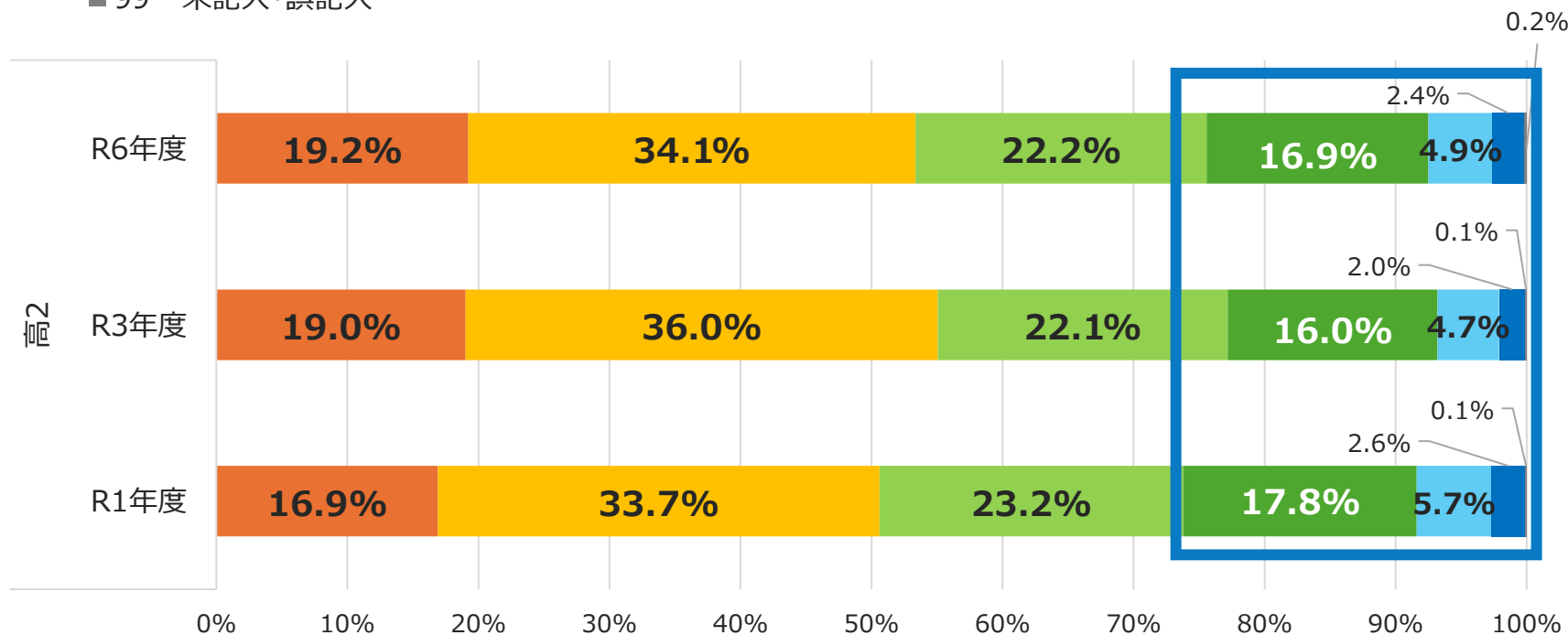
※集計対象人数は、R1 - 高1：34,349人、高2：29,439人、高3：6,096人。R3 - 高1：33,434人、高2：28,207人、高3：7,853人。R6 - 高1：27,541人、高2：23,828人、高3：5,826人。

1.6.4.2 授業理解度（英語）【高2】

- いずれの年度も、「理解できているが少し不安である」と回答した生徒が最も多い
- 「（非常に）不安である」や「あきらめかけている」生徒も一定割合存在

質問：英語について、授業についての印象に最も近いものを次のうちから1つ選んでください。

- 選択肢：
- 1 - 理解できており今のところ不安はない
 - 2 - 理解できているが少し不安である
 - 3 - 不明点は少しあるが頑張ればついていける
 - 4 - 少しわからないところがあり不安である
 - 5 - 授業についていけず非常に不安である
 - 6 - 授業についていけずあきらめかけている
 - 99 - 未記入・誤記入

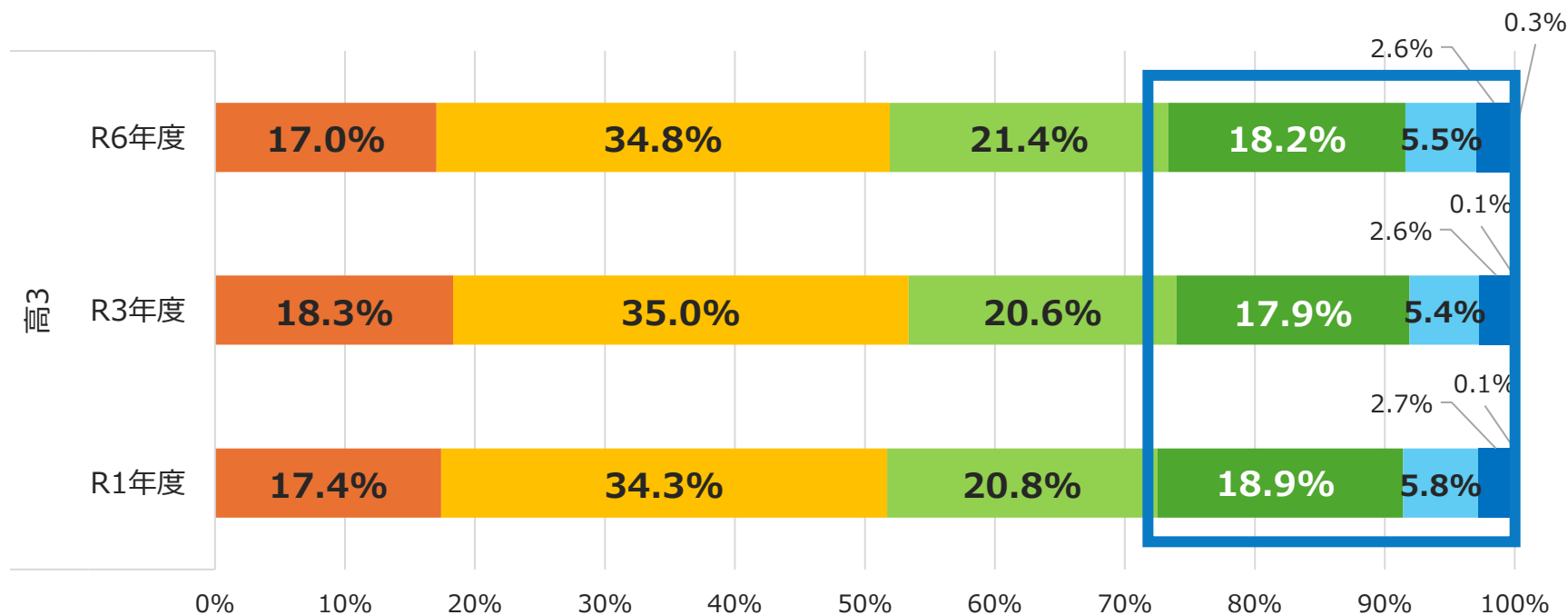


1.6.4.3 授業理解度（英語）【高3】

- いずれの年度も、「理解できているが少し不安である」と回答した生徒が最も多い
- 「（非常に）不安である」や「あきらめかけている」生徒も一定割合存在

質問：英語について、授業についての印象に最も近いものを次のうちから1つ選んでください。

- 選択肢：
- 1 - 理解できており今のところ不安はない
 - 2 - 理解できているが少し不安である
 - 3 - 不明点は少しあるが頑張ればついていける
 - 4 - 少しわからないところがあり不安である
 - 5 - 授業についていけず非常に不安である
 - 6 - 授業についていけずあきらめかけている
 - 99 - 未記入・誤記入

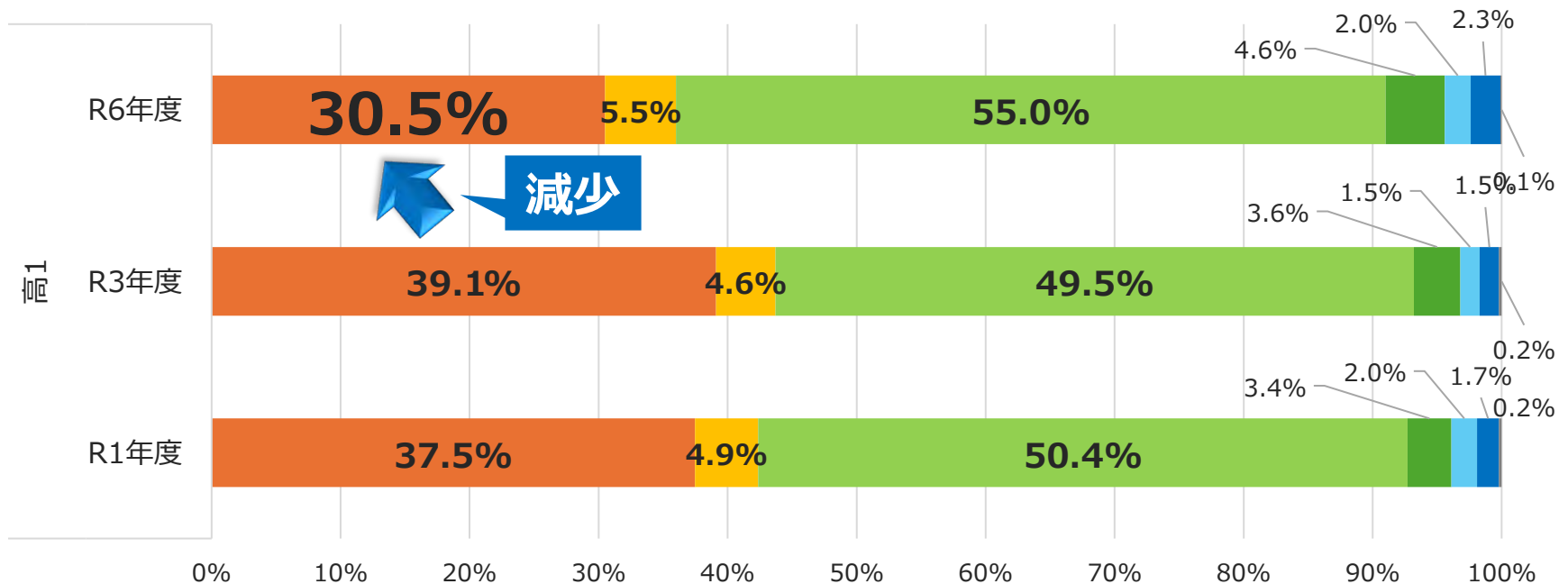


1.6.5.1 英語の宿題・授業の復習への取り組み【高1】

- いずれの年度も、「宿題はしているが復習はしていない」と回答した生徒が最も多い（約50～55%）
- R3年度からR6年度にかけて、「宿題と復習は必ずする」と回答した生徒は減少

質問：英語について、中学生のときの宿題・授業の復習への取り組み方に最も近いものを次のうちから1つ選んでください。

- 選択肢：
- 1 - 宿題と復習は必ずする
 - 2 - 宿題はしていないが復習はする
 - 3 - 宿題はしているが復習はしていない
 - 4 - 宿題は完全にできず復習も手が回らない
 - 5 - 復習はせず宿題は写させてもらうことが多い
 - 6 - 宿題も復習もしていない
 - 99 - 未記入・誤記入



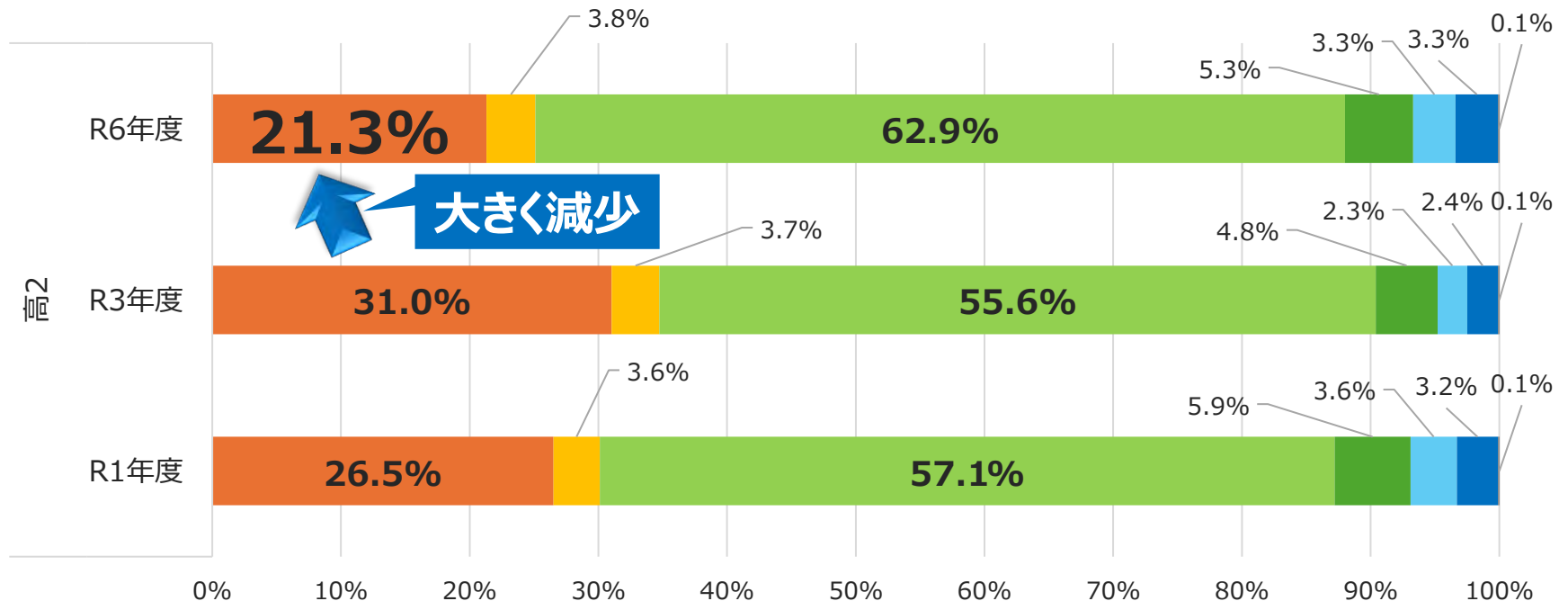
※集計対象人数は、R1 - 高1：34,349人、高2：29,439人、高3：6,096人。R3 - 高1：33,434人、高2：28,207人、高3：7,853人。R6 - 高1：27,541人、高2：23,828人、高3：5,826人。

1.6.5.2 英語の宿題・授業の復習への取り組み【高2】

- いずれの年度も、「宿題はしているが復習はしていない」と回答した生徒が最も多い（約56～63%）
- R3年度からR6年度にかけて、「宿題と復習は必ずする」と回答した生徒は大きく減少

質問：英語について、宿題・授業の復習への取り組み方に最も近いものを次のうちから1つ選んでください。

- 選択肢：
- 1 - 宿題と復習は必ずする
 - 2 - 宿題はしていないが復習はする
 - 3 - 宿題はしているが復習はしていない
 - 4 - 宿題は完全にできず復習も手が回らない
 - 5 - 復習はせず宿題は写させてもらうことが多い
 - 6 - 宿題も復習もしていない
 - 99 - 未記入・誤記入



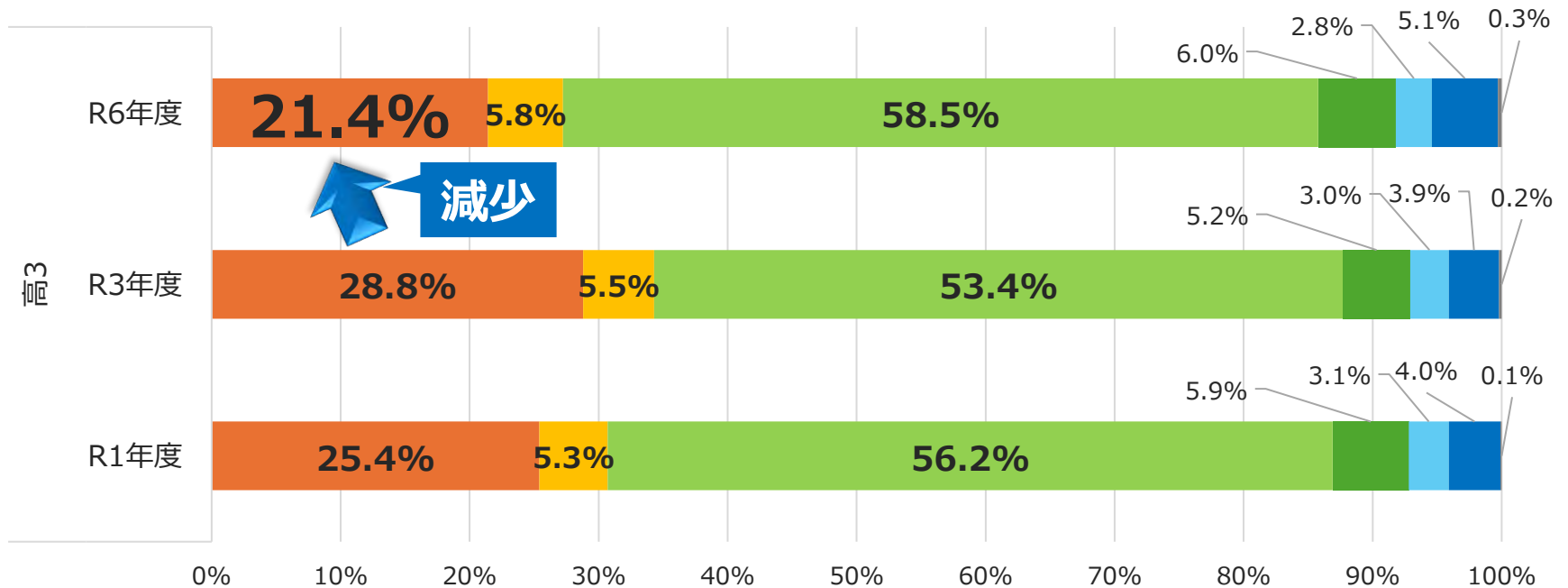
※集計対象人数は、R1- 高1：34,349人、高2：29,439人、高3：6,096人。R3- 高1：33,434人、高2：28,207人、高3：7,853人。R6- 高1：27,541人、高2：23,828人、高3：5,826人。

1.6.5.3 英語の宿題・授業の復習への取り組み【高3】

- いずれの年度も、「宿題はしているが復習はしていない」と回答した生徒が最も多い（約53～59%）
- R3年度からR6年度にかけて、「宿題と復習は必ずする」と回答した生徒は減少

質問：英語について、宿題・授業の復習への取り組み方に最も近いものを次のうちから1つ選んでください。

- 選択肢：
- 1 - 宿題と復習は必ずする
 - 2 - 宿題はしていないが復習はする
 - 3 - 宿題はしているが復習はしていない
 - 4 - 宿題は完全にできず復習も手が回らない
 - 5 - 復習はせず宿題は写させてもらうことが多い
 - 6 - 宿題も復習もしていない
 - 99 - 未記入・誤記入



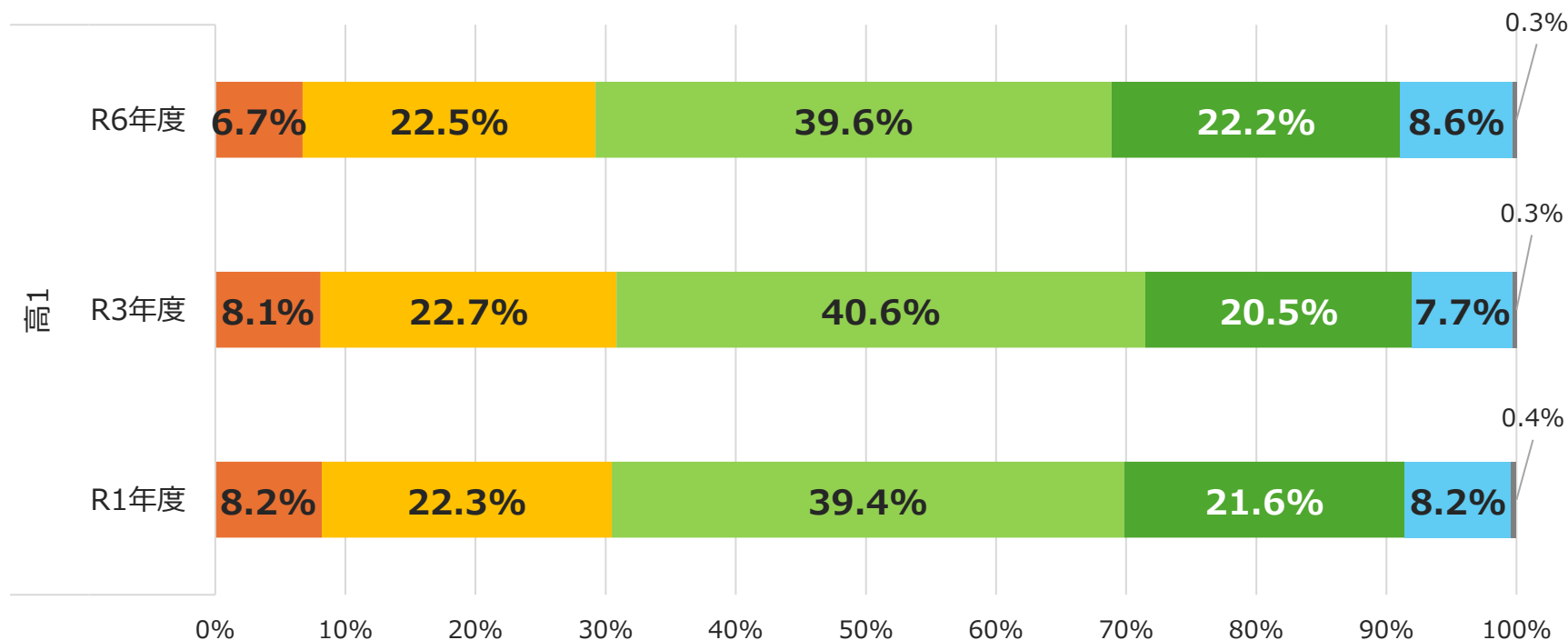
※集計対象人数は、R1 - 高1：34,349人、高2：29,439人、高3：6,096人。R3 - 高1：33,434人、高2：28,207人、高3：7,853人。R6 - 高1：27,541人、高2：23,828人、高3：5,826人。

1.6.6.1 英語の定期試験後の復習【高1】

- いずれの年度も、「間違えた理由を確認したりして理解する」と回答した生徒が最も多い

質問：英語について、中学生のとき、定期試験などの校内で行うテスト後、どのように復習に取り組みますか。
最も近いものを次のうちから1つ選んでください。

- 選択肢： ■ 1 - 間違えたところだけでなくすべて復習する ■ 2 - 間違えたところを確認し解けるまで復習する
■ 3 - 間違えた理由を確認したりして理解する ■ 4 - 間違えたところだけは確認する
■ 5 - 復習は全くしていない ■ 99 - 未記入・誤記入



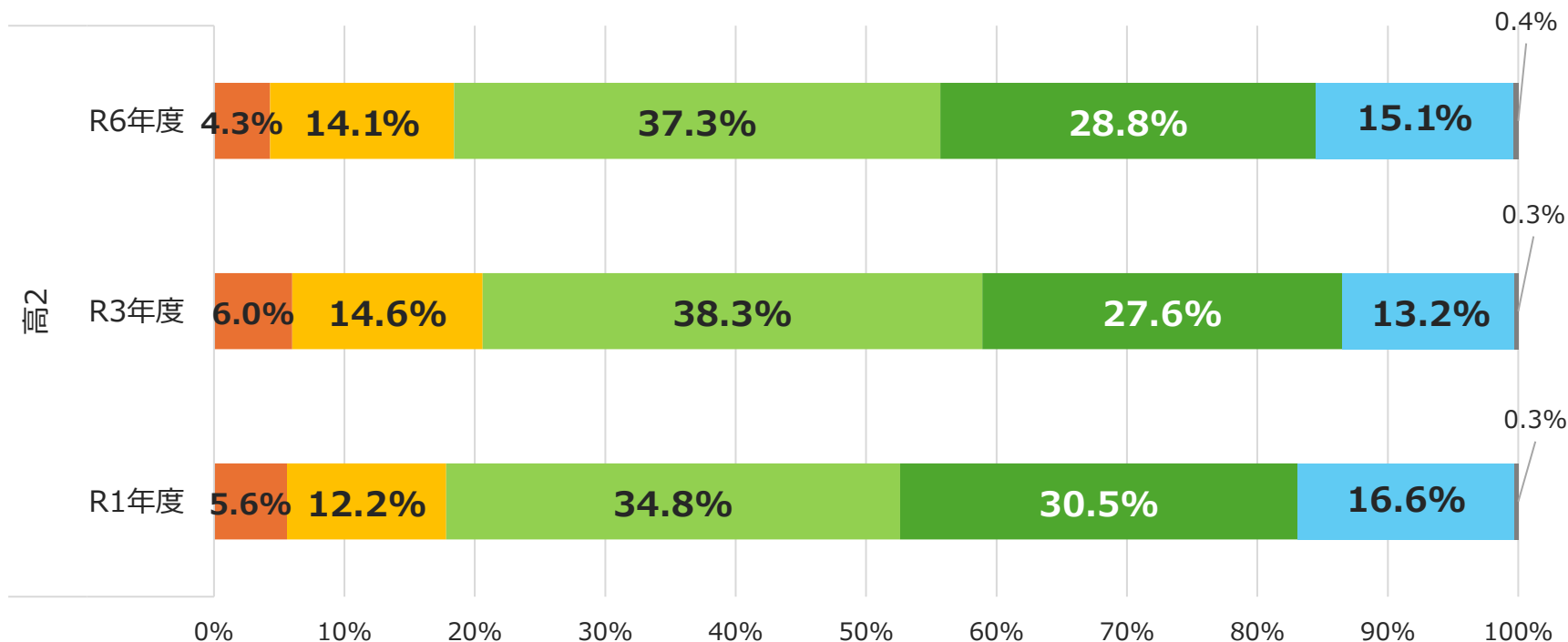
※集計対象人数は、R1 - 高1：34,349人、高2：29,439人、高3：6,096人。R3 - 高1：33,434人、高2：28,207人、高3：7,853人。R6 - 高1：27,541人、高2：23,828人、高3：5,826人。

1.6.6.2 英語の定期試験後の復習【高2】

- いずれの年度も、「間違えた理由を確認したりして理解する」と回答した生徒が最も多い

質問：英語について、定期試験などの校内で行うテスト後、どのように復習に取り組めますか。
最も近いものを次のうちから1つ選んでください。

- 選択肢： ■ 1 - 間違えたところだけでなくすべて復習する ■ 2 - 間違えたところを確認し解けるまで復習する
■ 3 - 間違えた理由を確認したりして理解する ■ 4 - 間違えたところだけは確認する
■ 5 - 復習は全くしていない ■ 99 - 未記入・誤記入

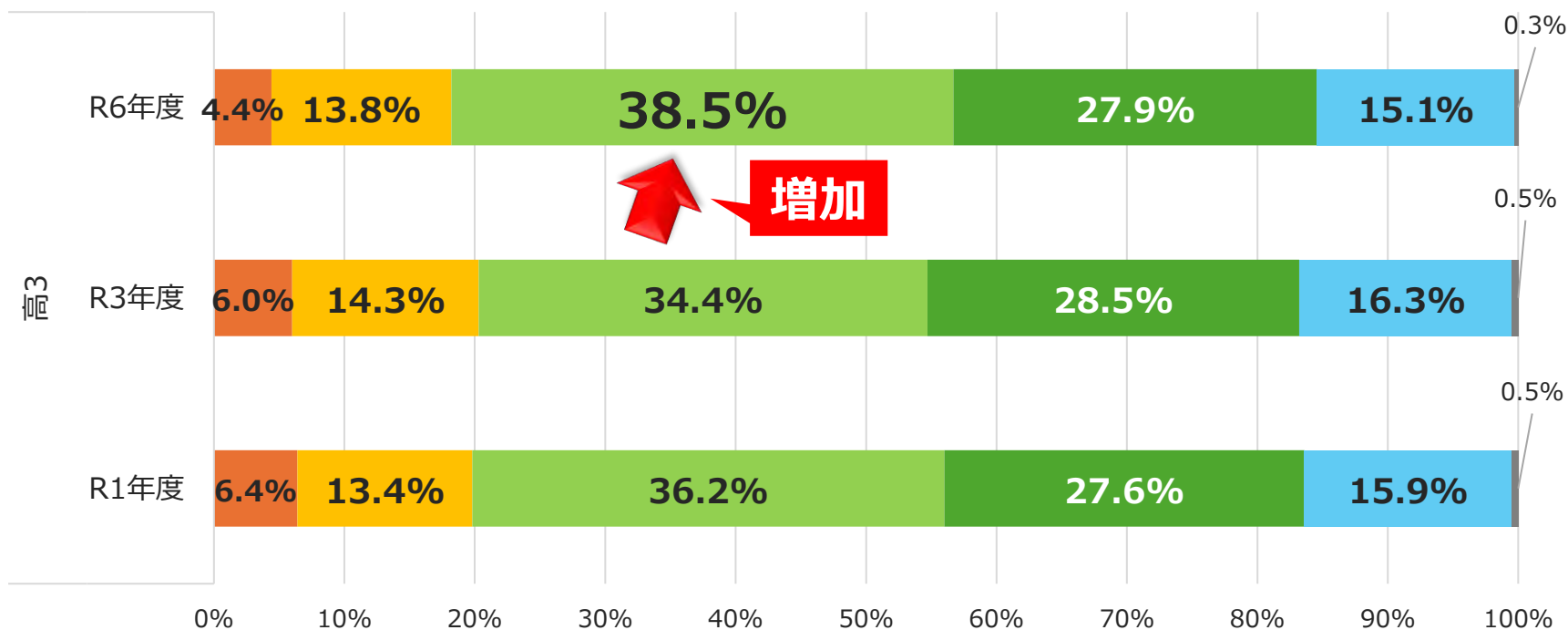


1.6.6.3 英語の定期試験後の復習【高3】

- いずれの年度も、「間違えた理由を確認したりして理解する」と回答した生徒が最も多く、R3年度からR6年度にかけて増加

質問：英語について、定期試験などの校内で行うテスト後、どのように復習に取り組みますか。
最も近いものを次のうちから1つ選んでください。

- 選択肢： ■ 1 - 間違えたところだけでなくすべて復習する ■ 2 - 間違えたところを確認し解けるまで復習する
■ 3 - 間違えた理由を確認したりして理解する ■ 4 - 間違えたところだけは確認する
■ 5 - 復習は全くしていない ■ 99 - 未記入・誤記入

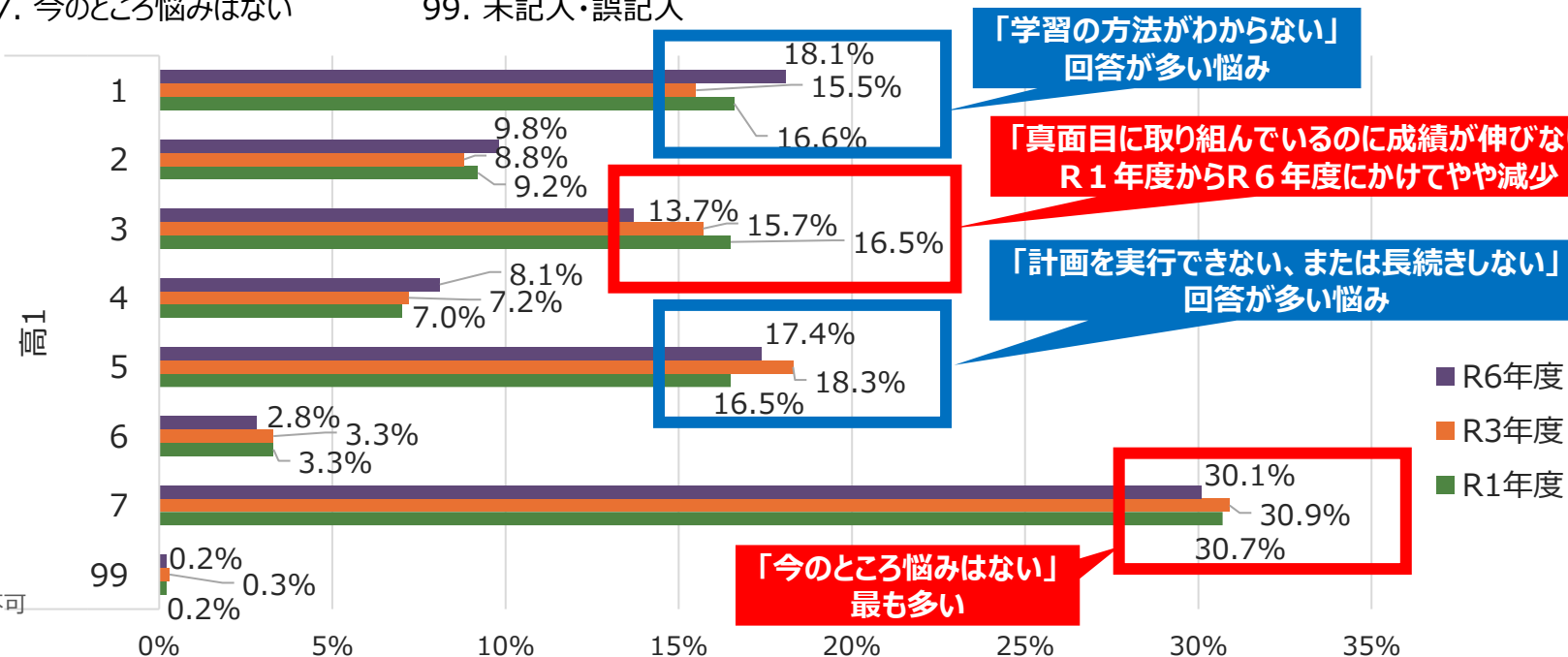


1.6.7.1 英語の学習上の悩み【高1】

- いずれの年度も、「今のところ悩みはない」と回答した生徒が最も多い
- 悩みの中では、「学習の方法がわからない」「計画を実行できない・長続きしない」が多い
- 「真面目に取り組んでいるのに成績が伸びない」と回答した生徒は、R1年度からR6年度にかけてやや減少

質問：英語について、学習するうえで、悩んでいることは何ですか。
最も近いものを次のうちから1つ選んでください。

- 選択肢：1. 学習の方法がわからない 2. 授業の進度についていけない 3. 真面目に取り組んでいるのに成績が伸びない
4. 学習に集中できない 5. 計画を実行できない、または長続きしない 6. その他
7. 今のところ悩みはない 99. 未記入・誤記入



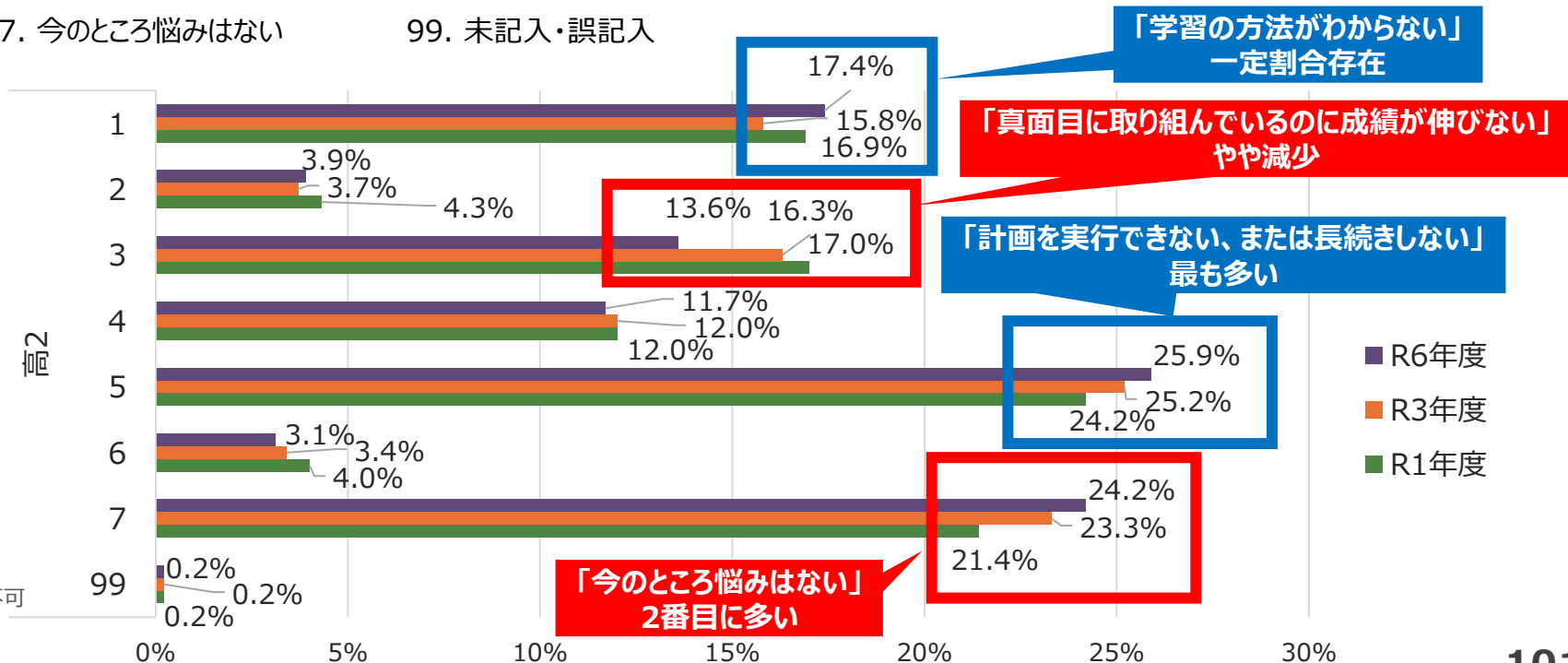
※複数選択不可

1.6.7.2 英語の学習上の悩み【高2】

- いずれの年度も、「計画を実行できない・長続きしない」と回答した生徒が最も多く、次いで「今のところ悩みはない」生徒が多い
- 「真面目に取り組んでいるのに成績が伸びない」と回答した生徒は、R1年度からR6年度にかけてやや減少
- 「学習の方法がわからない」生徒も一定割合存在

質問：英語について、学習するうえで、悩んでいることは何ですか。
最も近いものを次のうちから1つ選んでください。

- 選択肢：1. 学習の方法がわからない 2. 授業の進度についていけない 3. 真面目に取り組んでいるのに成績が伸びない
4. 学習に集中できない 5. 計画を実行できない、または長続きしない 6. その他
7. 今のところ悩みはない 99. 未記入・誤記入

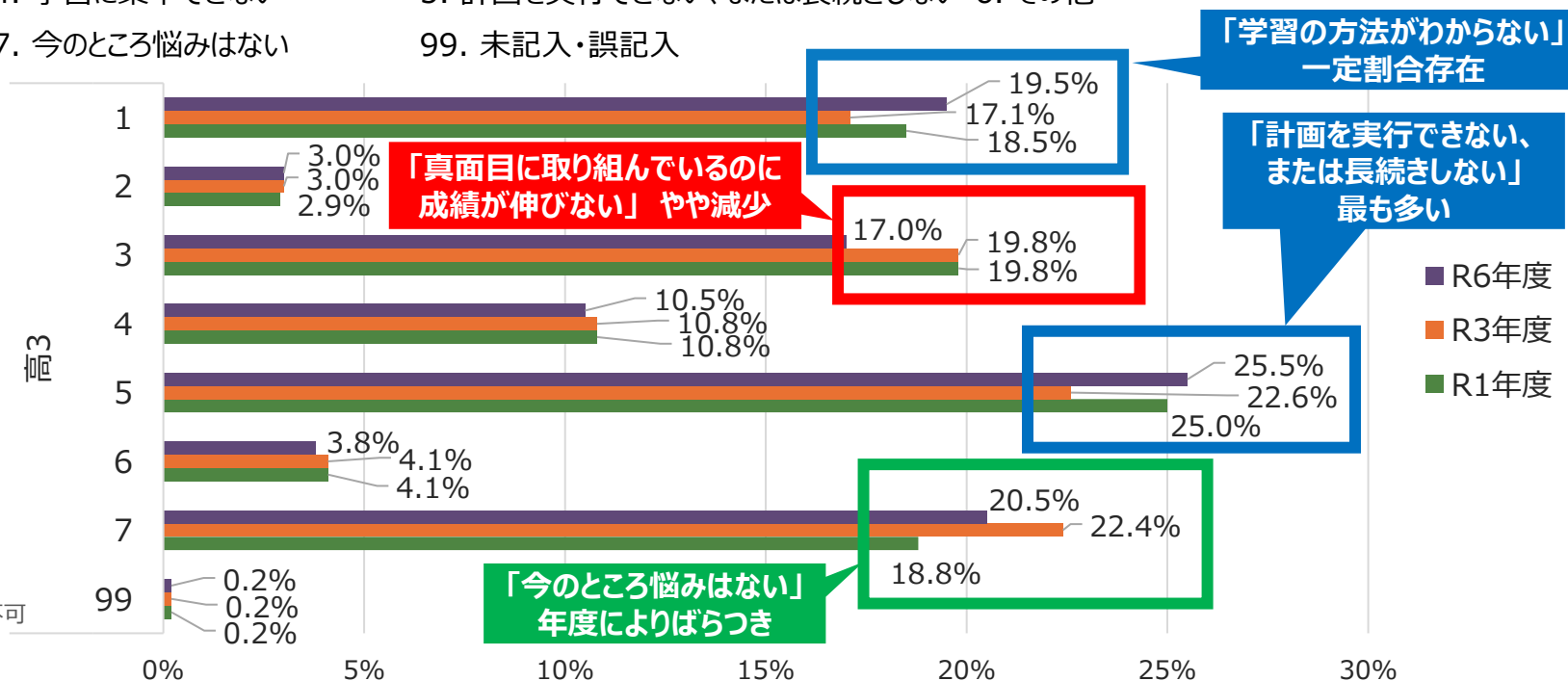


1.6.7.3 英語の学習上の悩み【高3】

- いずれの年度も、「計画を実行できない・長続きしない」と回答した生徒が最も多い
- 「今のところ悩みはない」と回答した生徒は、年度により約19～22%と、ばらつきあり
- 「真面目に取り組んでいるのに成績が伸びない」と回答した生徒は、R1年度からR6年度にかけてやや減少
- 「学習の方法がわからない」生徒も一定割合存在

質問：英語について、学習するうえで、悩んでいることは何ですか。
最も近いものを次のうちから1つ選んでください。

- 選択肢： 1. 学習の方法がわからない 2. 授業の進度についていけない 3. 真面目に取り組んでいるのに成績が伸びない
4. 学習に集中できない 5. 計画を実行できない、または長続きしない 6. その他
7. 今のところ悩みはない 99. 未記入・誤記入



「学習の方法がわからない」一定割合存在

「計画を実行できない、または長続きしない」最も多い

「真面目に取り組んでいるのに成績が伸びない」やや減少

「今のところ悩みはない」年度によりばらつき

※集計対象人数は、R1- 高1: 34,349人、高2: 29,439人、高3: 6,096人。R3- 高1: 33,434人、高2: 28,207人、高3: 7,853人。R6- 高1: 27,541人、高2: 23,828人、高3: 5,826人。

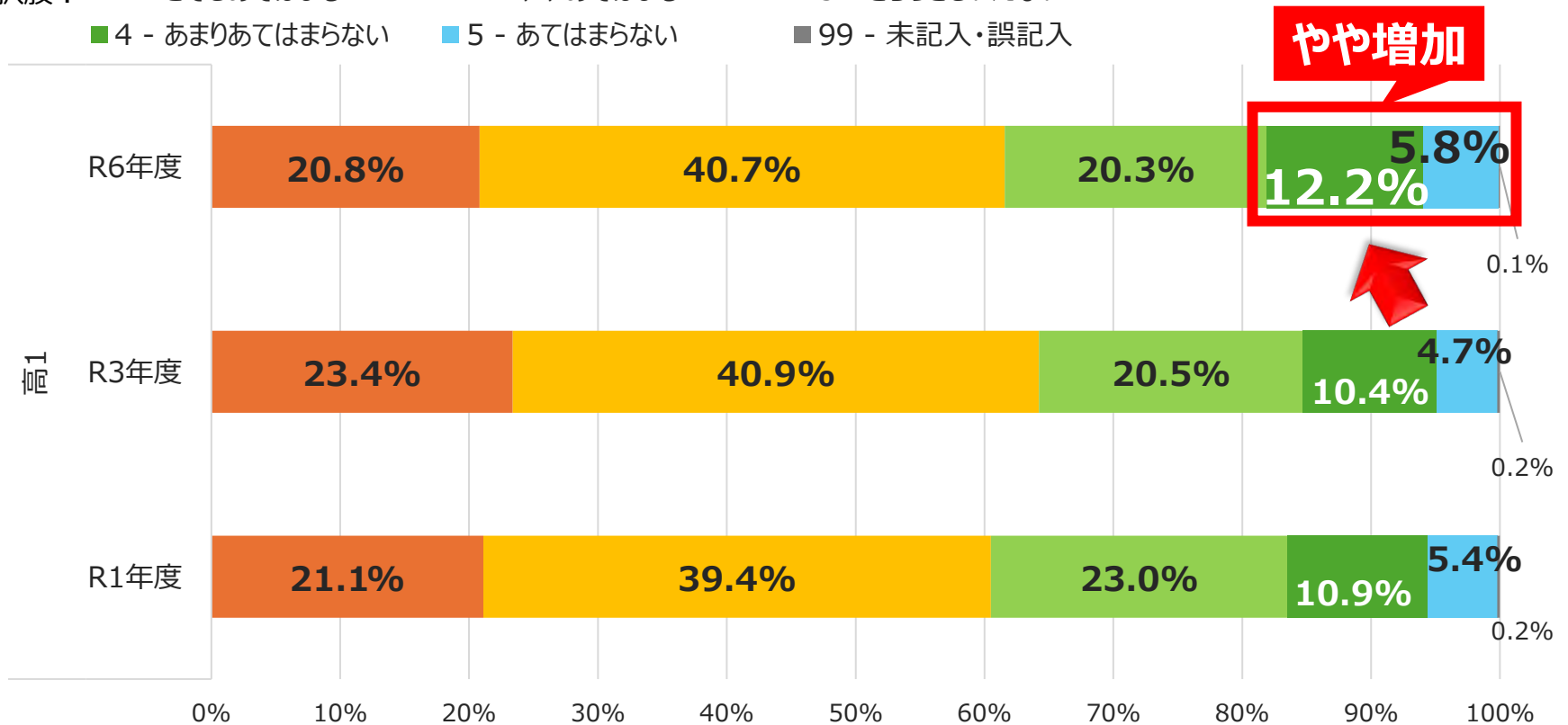
1.6.8.1 英語の授業における目標・目的の有無【高1】

- いずれの年度も、「ややあてはまる」と回答した生徒が最も多い（約39～41%）
- R3年度からR6年度にかけて、「（あまり）あてはまらない」と回答した生徒が、やや増加

質問：次の内容について、あなたが日頃の英語学習で心がけていることを振り返って、最も近いものを次の1～5のうちから選び回答してください。

「目標や目的をもって授業に取り組むようにしている」

- 選択肢： ■ 1 - とてもあてはまる ■ 2 - ややあてはまる ■ 3 - どちらともいえない
■ 4 - あまりあてはまらない ■ 5 - あてはまらない ■ 99 - 未記入・誤記入



※集計対象人数は、R1 - 高1: 34,349人、高2: 29,439人、高3: 6,096人。R3 - 高1: 33,434人、高2: 28,207人、高3: 7,853人。R6 - 高1: 27,541人、高2: 23,828人、高3: 5,826人。

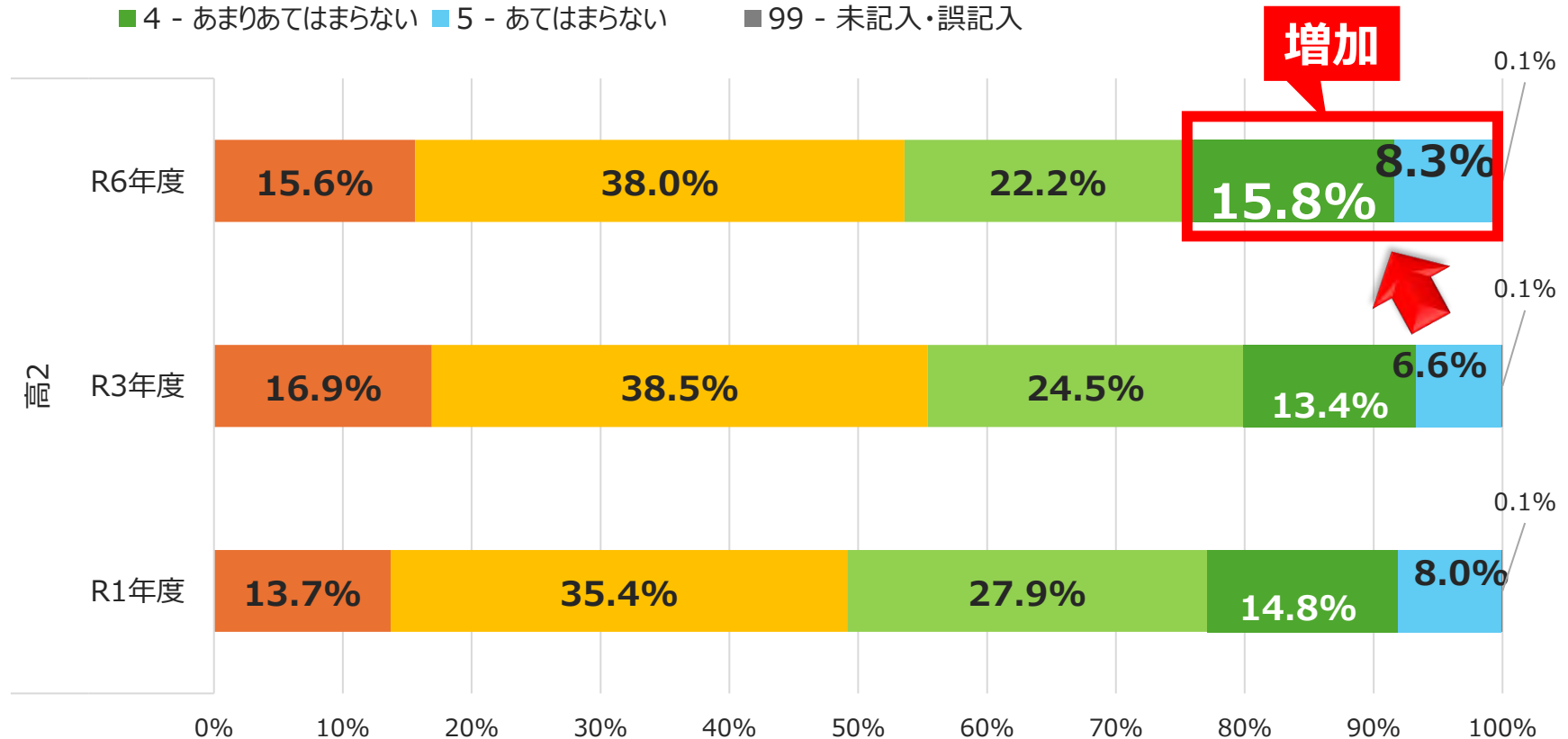
1.6.8.2 英語の授業における目標・目的の有無【高2】

- いずれの年度も、「ややあてはまる」と回答した生徒が最も多い（約35～39%）
- R3年度からR6年度にかけて、「（あまり）あてはまらない」と回答した生徒が増加

質問：次の内容について、あなたが日頃の英語学習で心がけていることを振り返って、最も近いものを次の1～5のうちから選び回答してください。

「目標や目的をもって授業に取り組むようにしている」

- 選択肢： ■ 1 - とてもあてはまる ■ 2 - ややあてはまる ■ 3 - どちらともいえない
■ 4 - あまりあてはまらない ■ 5 - あてはまらない ■ 99 - 未記入・誤記入



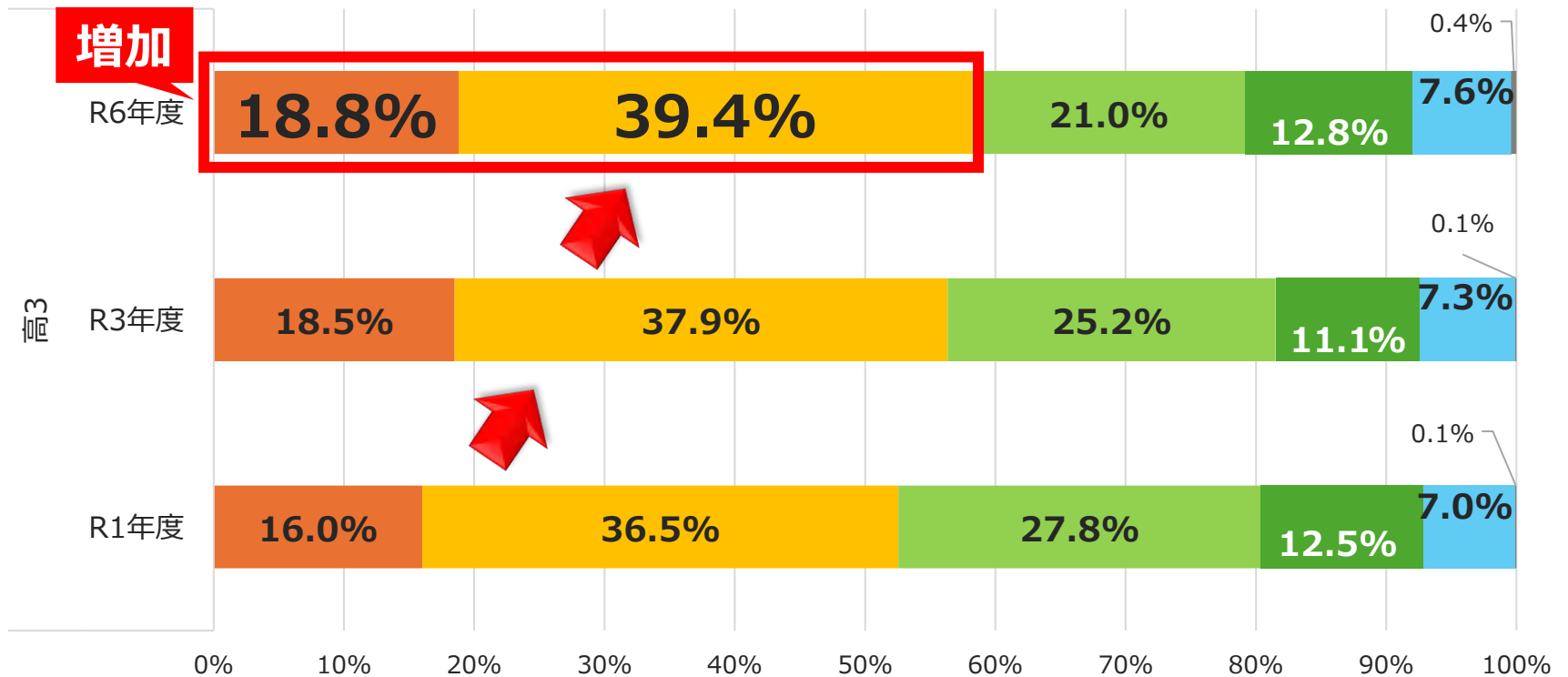
1.6.8.3 英語の授業における目標・目的の有無【高3】

- いずれの年度も、「ややあてはまる」と回答した生徒が最も多い（約37～39%）
- R1年度からR6年度にかけて、「（やや）あてはまる」と回答した生徒が増加

質問：次の内容について、あなたが日頃の英語学習で心がけていることを振り返って、最も近いものを次の1～5のうちから選び回答してください。

「目標や目的をもって授業に取り組むようにしている」

- 選択肢： ■ 1 - とてもあてはまる ■ 2 - ややあてはまる ■ 3 - どちらともいえない
■ 4 - あまりあてはまらない ■ 5 - あてはまらない ■ 99 - 未記入・誤記入



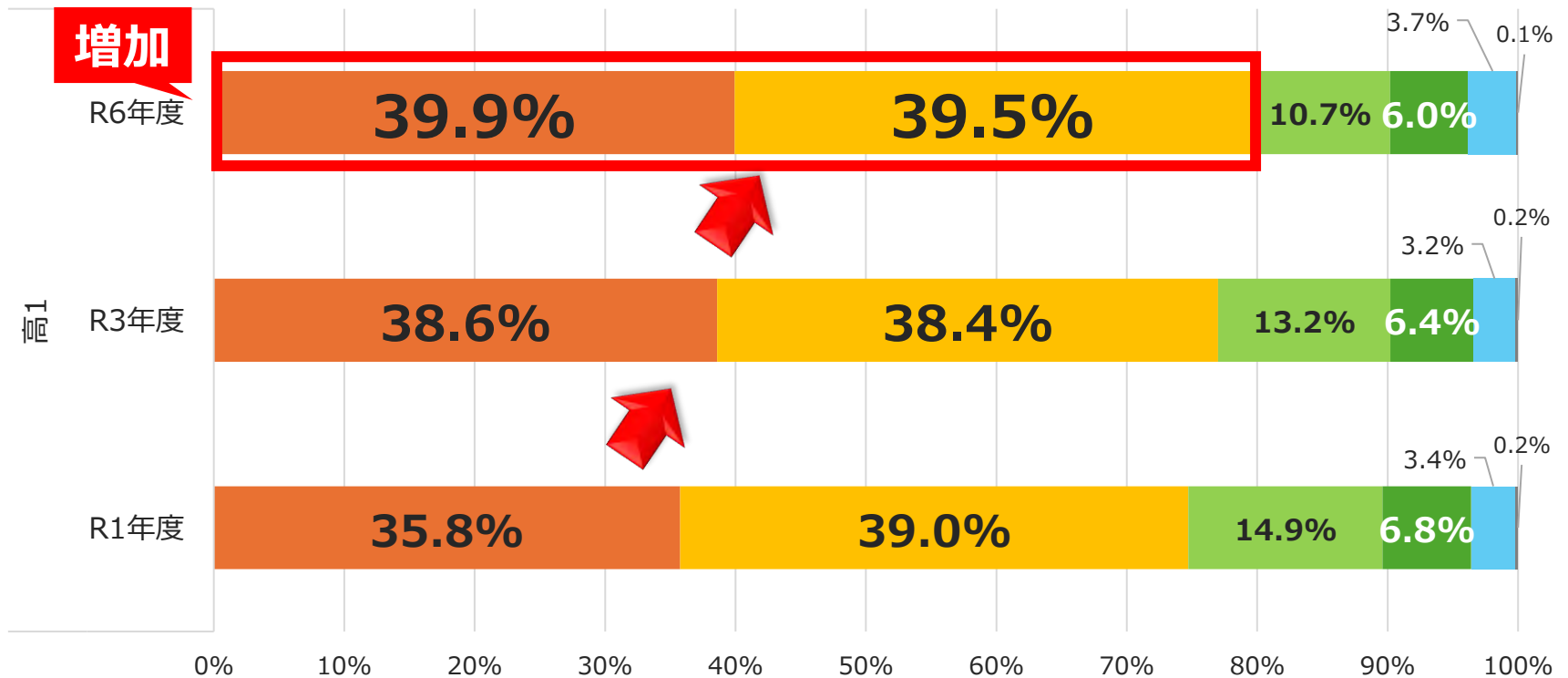
1.6.9.1 英語の疑問点があった場合の質問行動の有無【高1】

- R1年度からR6年度にかけて、「理解できない点や疑問点は、先生や友人に質問して解決する」と回答した生徒が増加

質問：次の内容について、あなたが日頃の英語学習で心がけていることを振り返って、最も近いものを次の1～5のうちから選び回答してください。

「理解できない点や疑問点は、先生や友人に質問をして解決するようにしている」

- 選択肢： ■ 1 - とてもあてはまる ■ 2 - ややあてはまる ■ 3 - どちらともいえない
 ■ 4 - あまりあてはまらない ■ 5 - あてはまらない ■ 99 - 未記入・誤記入



※集計対象人数は、R1 - 高1: 34,349人、高2: 29,439人、高3: 6,096人。R3 - 高1: 33,434人、高2: 28,207人、高3: 7,853人。R6 - 高1: 27,541人、高2: 23,828人、高3: 5,826人。

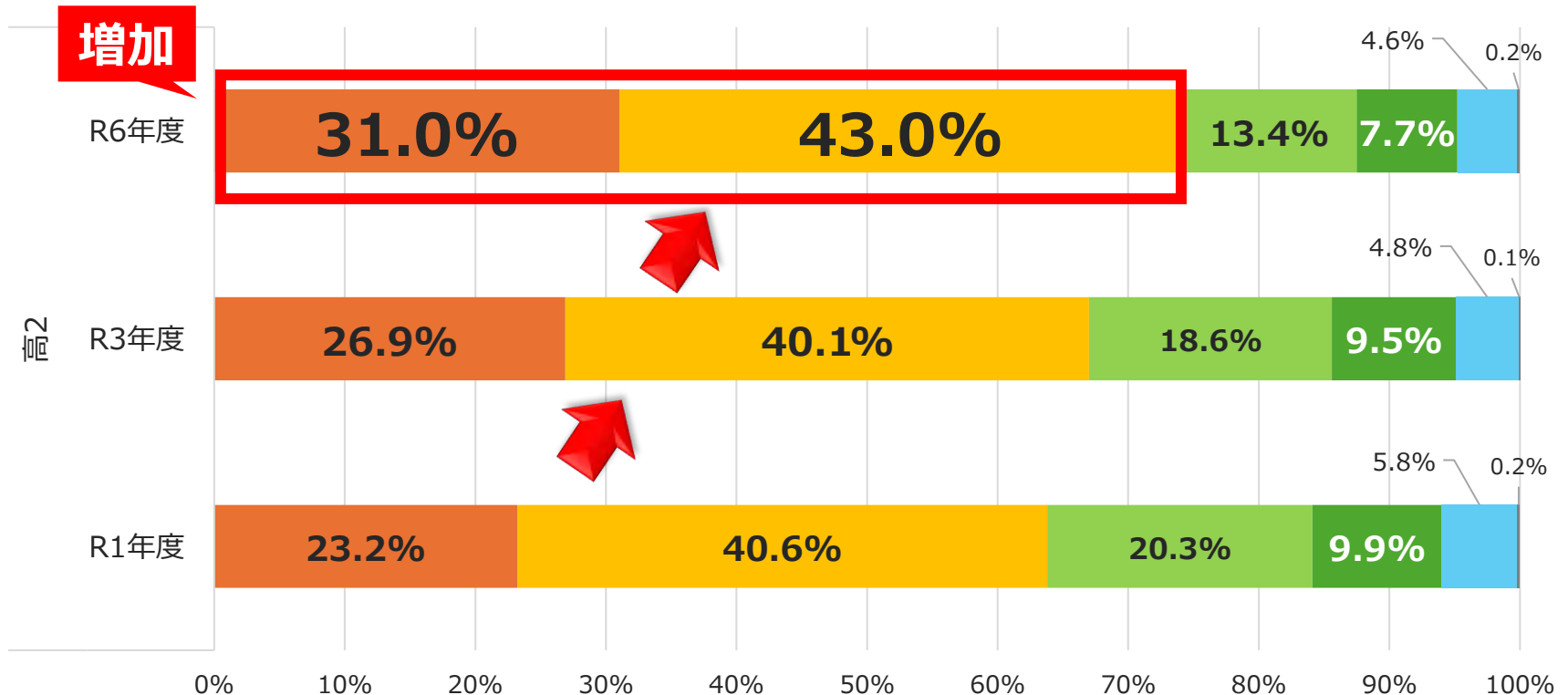
1.6.9.2 英語の疑問点があった場合の質問行動の有無【高2】

- いずれの年度も、「理解できない点や疑問点は、先生や友人に質問して解決する」生徒が多く、R1年度からR6年度にかけて増加

質問：次の内容について、あなたが日頃の英語学習で心がけていることを振り返って、最も近いものを次の1～5のうちから選び回答してください。

「理解できない点や疑問点は、先生や友人に質問をして解決するようにしている」

- 選択肢： ■ 1 - とてもあてはまる ■ 2 - ややあてはまる ■ 3 - どちらともいえない
■ 4 - あまりあてはまらない ■ 5 - あてはまらない ■ 99 - 未記入・誤記入



1.6.9.3 英語の疑問点があった場合の質問行動の有無【高3】

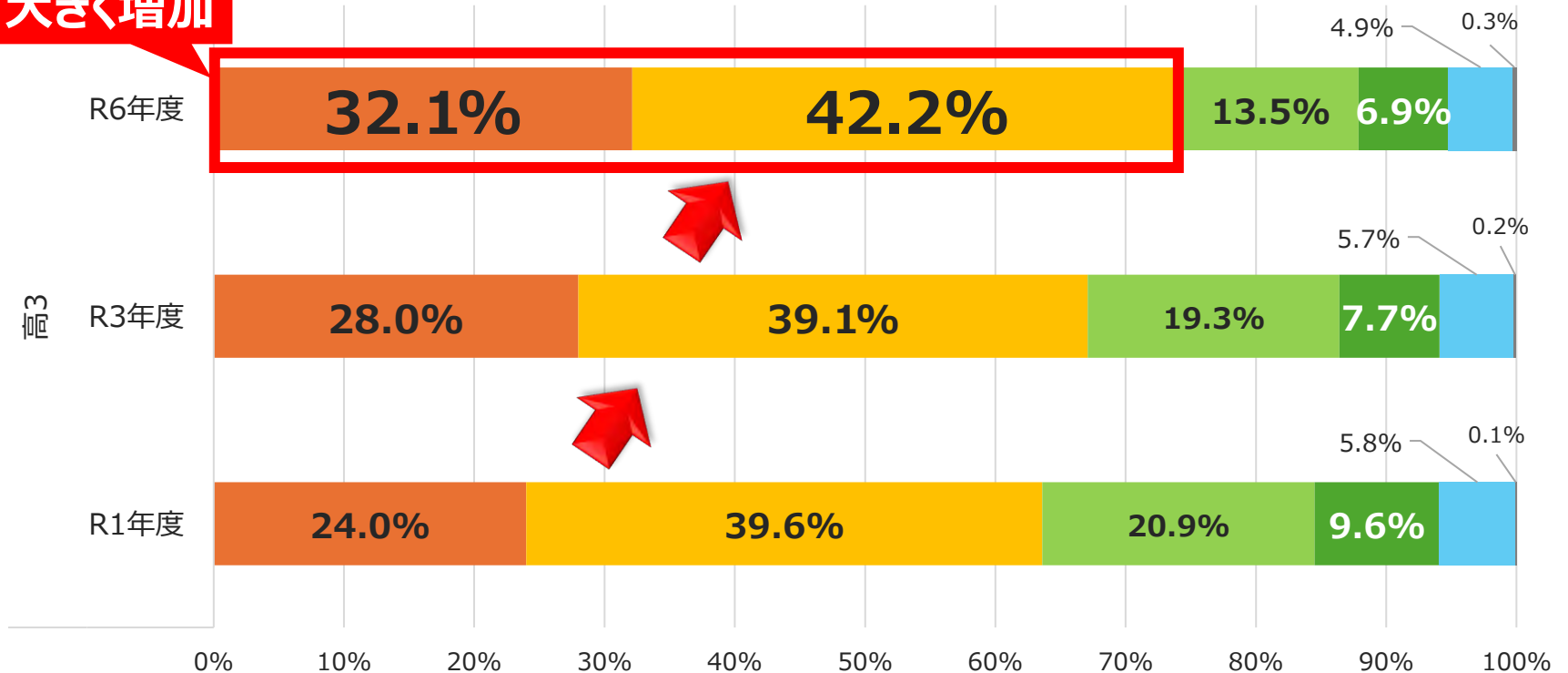
• いずれの年度も、「理解できない点や疑問点は、先生や友人に質問して解決する」生徒が多く、R1年度からR6年度にかけて大きく増加

質問：次の内容について、あなたが日頃の英語学習で心がけていることを振り返って、最も近いものを次の1～5のうちから選び回答してください。

「理解できない点や疑問点は、先生や友人に質問をして解決するようにしている」

選択肢： ■ 1 - とてもあてはまる ■ 2 - ややあてはまる ■ 3 - どちらともいえない
 ■ 4 - あまりあてはまらない ■ 5 - あてはまらない ■ 99 - 未記入・誤記入

大きく増加



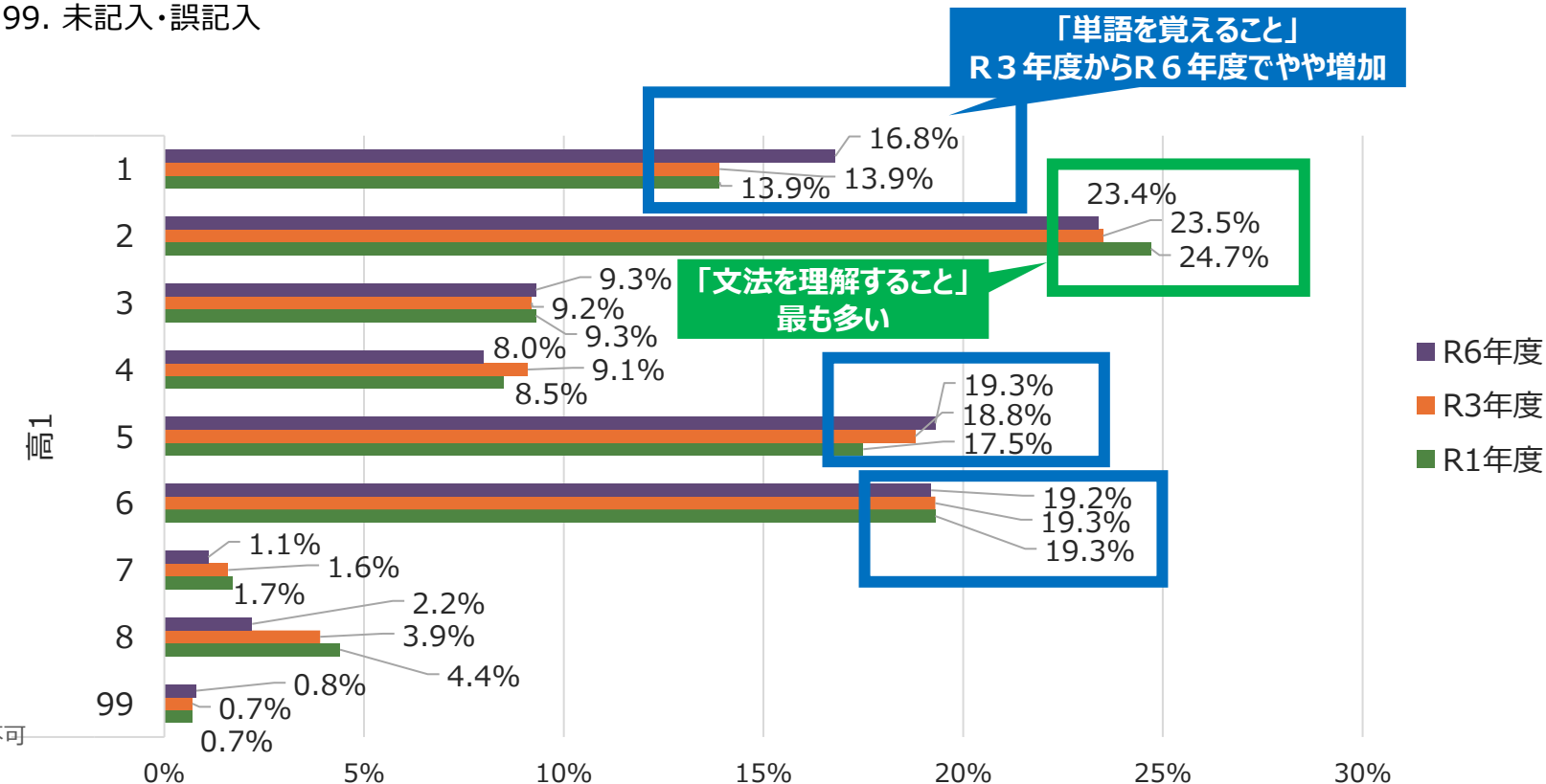
※集計対象人数は、R1 - 高1：34,349人、高2：29,439人、高3：6,096人。R3 - 高1：33,434人、高2：28,207人、高3：7,853人。R6 - 高1：27,541人、高2：23,828人、高3：5,826人。

1.6.10.1 英語の最も苦手な事項【高1】

- いずれの年度も、「文法を理解することが最も苦手だ」と回答した生徒が最も多い
- 「英語を聴き取ること」「英語を話すこと」「単語を覚えること」も多い。「単語を覚えること」が苦手な生徒はR3年度からR6年度にかけてやや増加

質問：英語について、最も苦手だ（わかりにくい）と思うことは次のうちどれですか。

- 選択肢：1. 単語を覚えること 2. 文法を理解すること 3. 英語を書くこと 4. 英語を読むこと
 5. 英語を聴き取ること 6. 英語を話すこと 7. その他 8. 苦手なことはない
 99. 未記入・誤記入



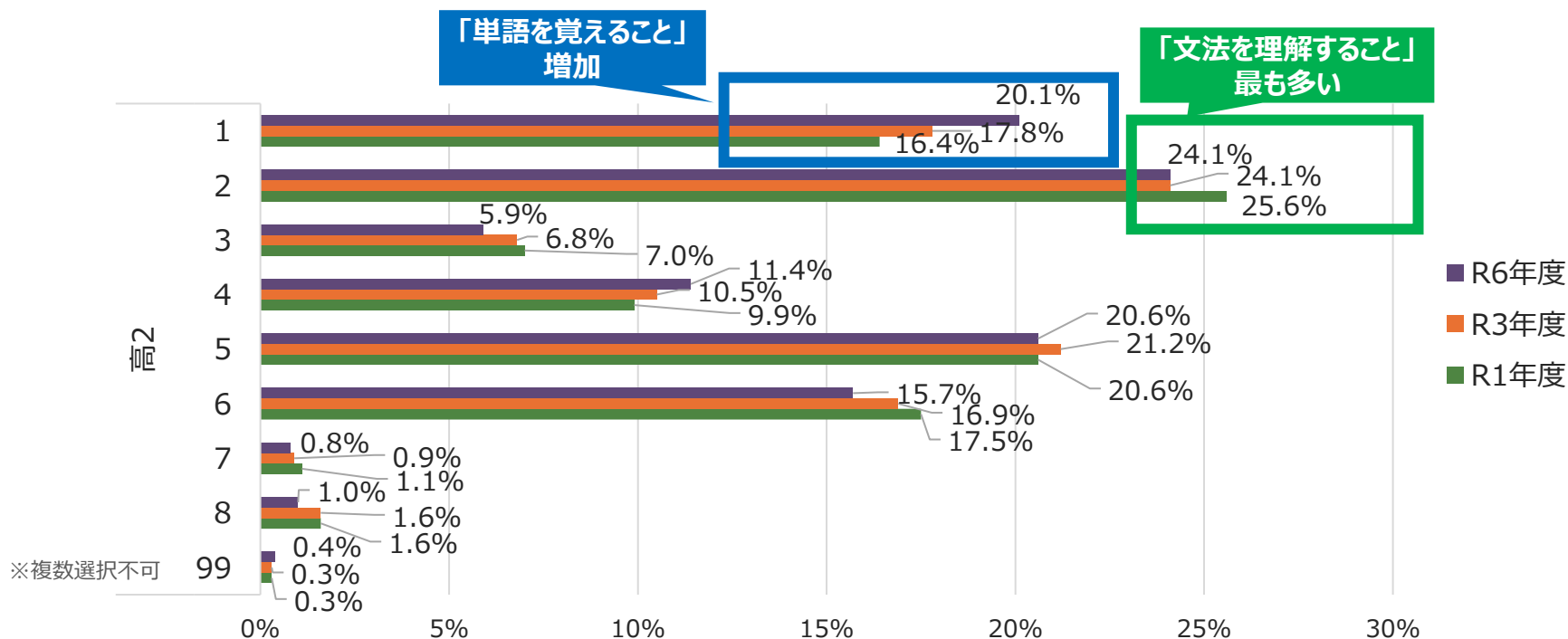
※複数選択不可

1.6.10.2 英語の最も苦手な事項【高2】

- いずれの年度も、「文法を理解することが最も苦手だ」と回答した生徒が最も多い
- 「単語を覚えることが最も苦手だ」と回答した生徒は、R1年度からR6年度にかけて増加

質問：英語について、最も苦手だ（わかりにくい）と思うことは次のうちどれですか。

- 選択肢：1. 単語を覚えること 2. 文法を理解すること 3. 英語を書くこと 4. 英語を読むこと
 5. 英語を聴き取ること 6. 英語を話すこと 7. その他 8. 苦手なことはない
 99. 未記入・誤記入



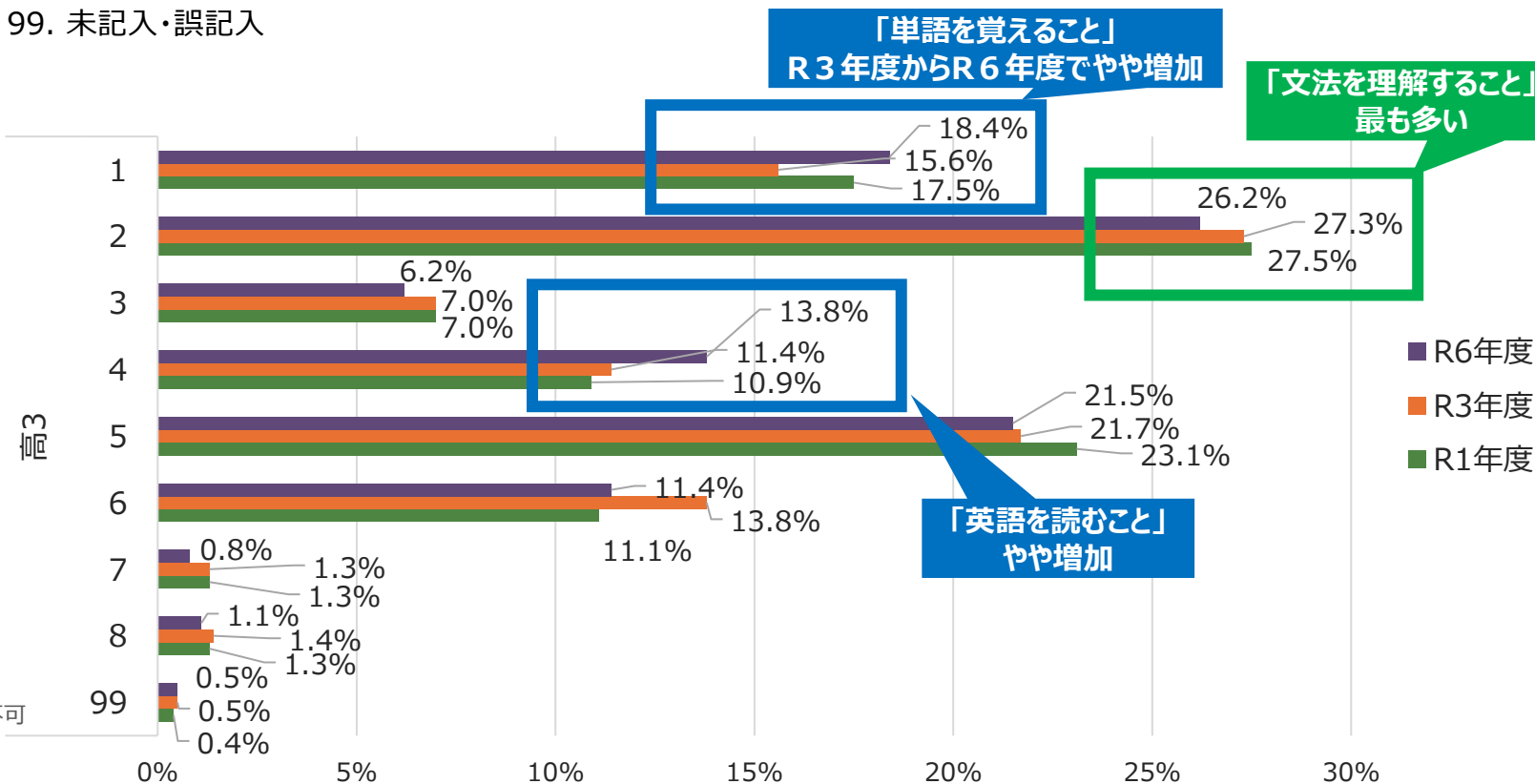
※集計対象人数は、R1- 高1：34,349人、高2：29,439人、高3：6,096人。R3- 高1：33,434人、高2：28,207人、高3：7,853人。R6- 高1：27,541人、高2：23,828人、高3：5,826人。

1.6.10.3 英語の最も苦手な事項【高3】

- いずれの年度も、「文法を理解することが最も苦手だ」と回答した生徒が最も多い
- 「単語を覚えることが最も苦手だ」と回答した生徒はR3年度からR6年度にかけてやや増加し、「英語を読むことが最も苦手だ」と回答した生徒はR1年度からR6年度にかけてやや増加

質問：英語について、最も苦手だ（わかりにくい）と思うことは次のうちどれですか。

- 選択肢：1. 単語を覚えること 2. 文法を理解すること 3. 英語を書くこと 4. 英語を読むこと
 5. 英語を聴き取ること 6. 英語を話すこと 7. その他 8. 苦手なことはない
 99. 未記入・誤記入

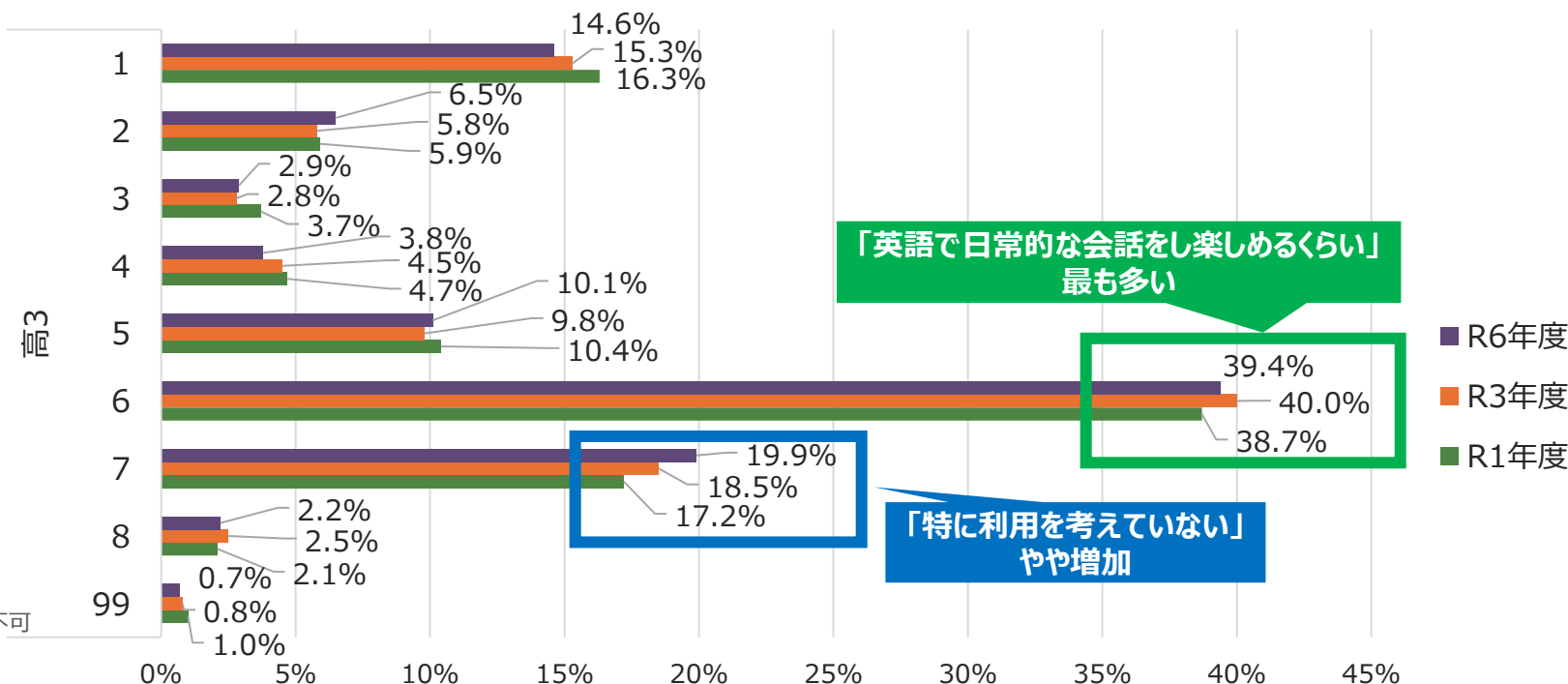


1.6.11.3 英語を身につけたい程度【高3】

- いずれの年度も、「英語で日常的な会話をし楽しめるくらい」と回答した生徒が最も多い
- 「特に利用を考えていない」と回答した生徒は、R1年度からR6年度にかけてやや増加

質問：現在、英語をどの程度まで身につけたいと思っていますか。最も近いものを次のうちから選んでください。

- 選択肢：1. 国際社会で活躍できるくらい 2. 大学での専門教育を英語で学べるくらい
 3. 海外進学をめざせるくらい 4. 海外の高校の授業に参加できるくらい
 5. ホームステイや語学研修を楽しめるくらい 6. 英語で日常的な会話をし楽しめるくらい
 7. 特に利用を考えていない 8. その他 99. 未記入・誤記入



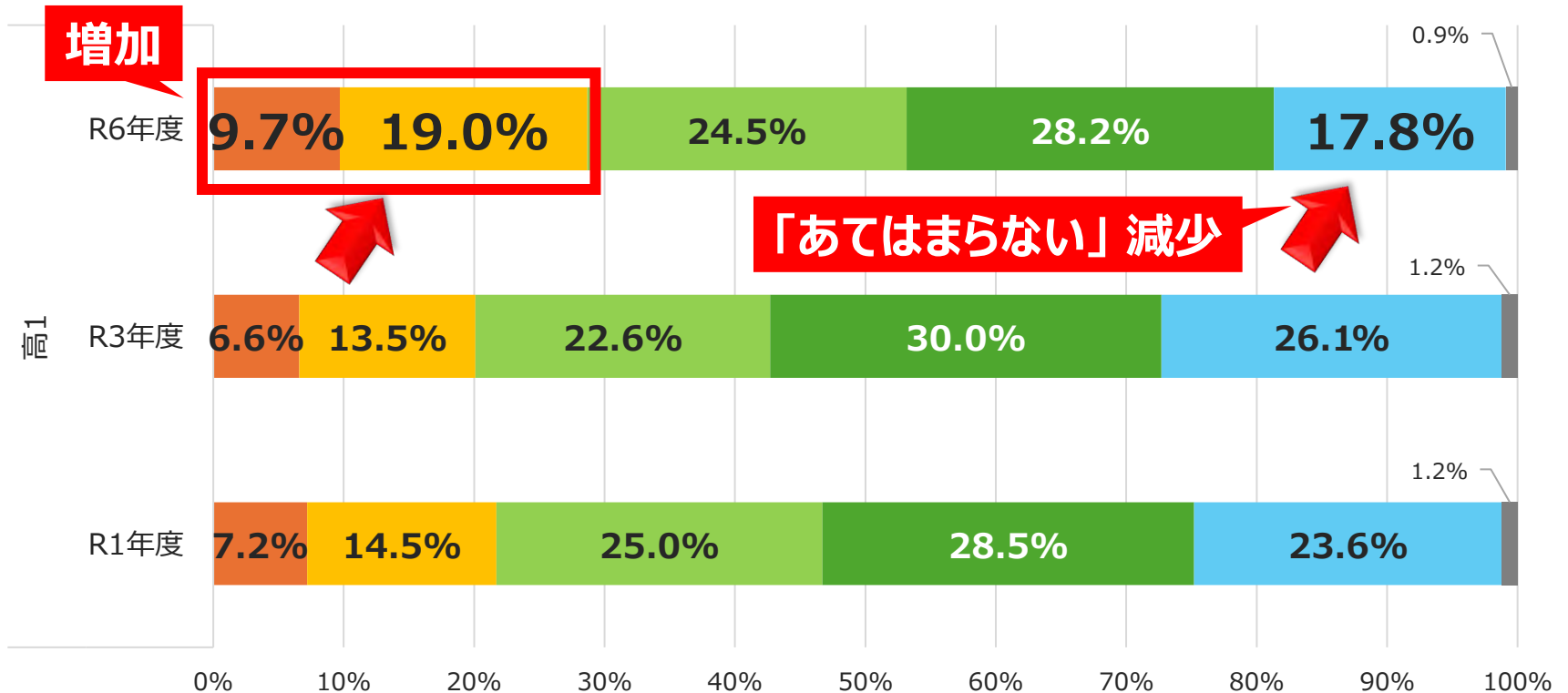
※複数選択不可

1.6.12.1 積極的に英語を話すようにしていること【高1】

- R3年度からR6年度にかけて、「とても（やや）あてはまる」と回答した生徒は増加
- R3年度からR6年度にかけて、「あてはまらない」と回答した生徒は減少

質問：英語の学習における次の内容について、最も近いものを次の1～5のうちから1つ選んでください。
「ネイティブの先生に英語で話しかけるなど、積極的に英語を話すようにしている」

選択肢： ■ 1 - とてもあてはまる ■ 2 - ややあてはまる ■ 3 - どちらともいえない
 ■ 4 - あまりあてはまらない ■ 5 - あてはまらない ■ 99 - 未記入・誤記入



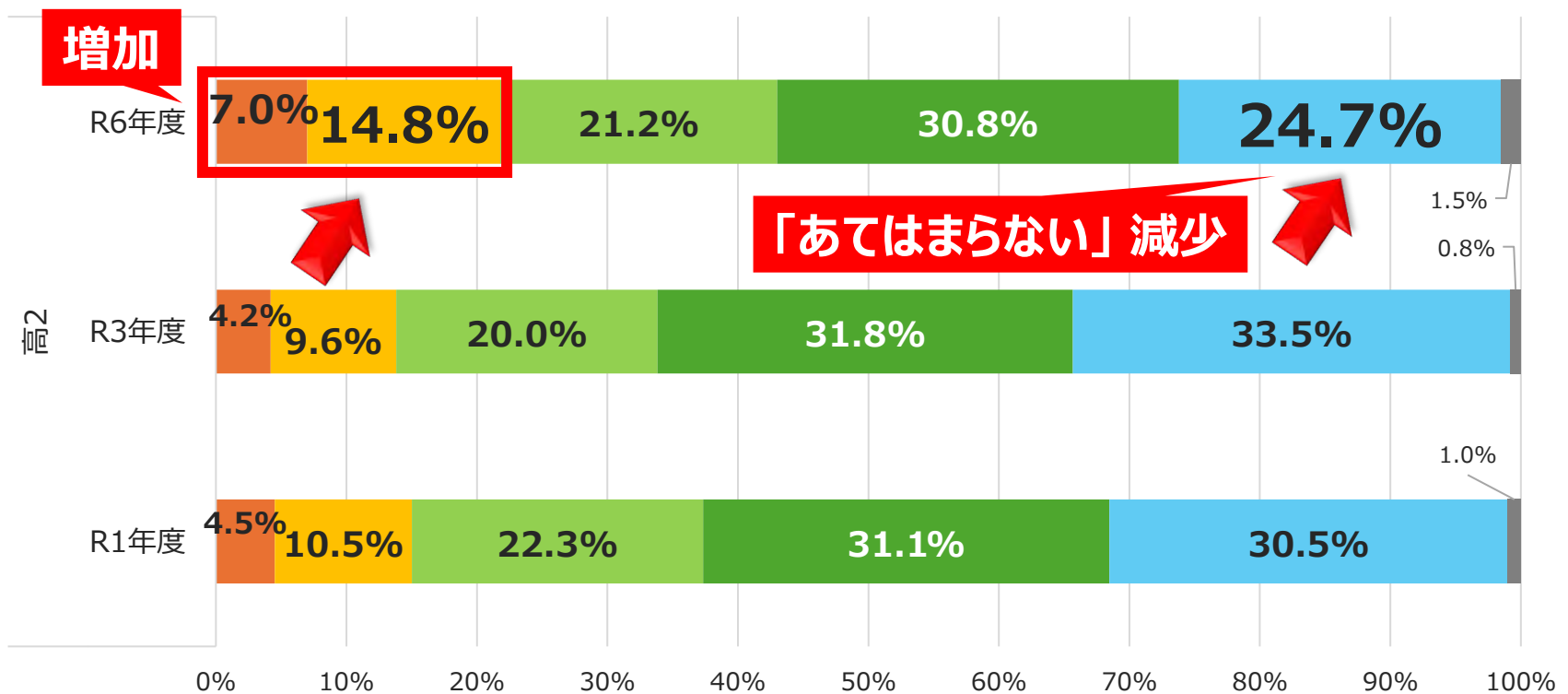
※集計対象人数は、R1 - 高1：34,349人、高2：29,439人、高3：6,096人。R3 - 高1：33,434人、高2：28,207人、高3：7,853人。R6 - 高1：27,541人、高2：23,828人、高3：5,826人。

1.6.12.2 積極的に英語を話すようにしていること【高2】

- R3年度からR6年度にかけて、「とても（やや）あてはまる」と回答した生徒は増加
- R3年度からR6年度にかけて、「あてはまらない」と回答した生徒は減少

質問：英語の学習における次の内容について、最も近いものを次の1～5のうちから1つ選んでください。
「ネイティブの先生に英語で話しかけるなど、積極的に英語を話すようにしている」

選択肢： ■ 1 - とてもあてはまる ■ 2 - ややあてはまる ■ 3 - どちらともいえない
 ■ 4 - あまりあてはまらない ■ 5 - あてはまらない ■ 99 - 未記入・誤記入

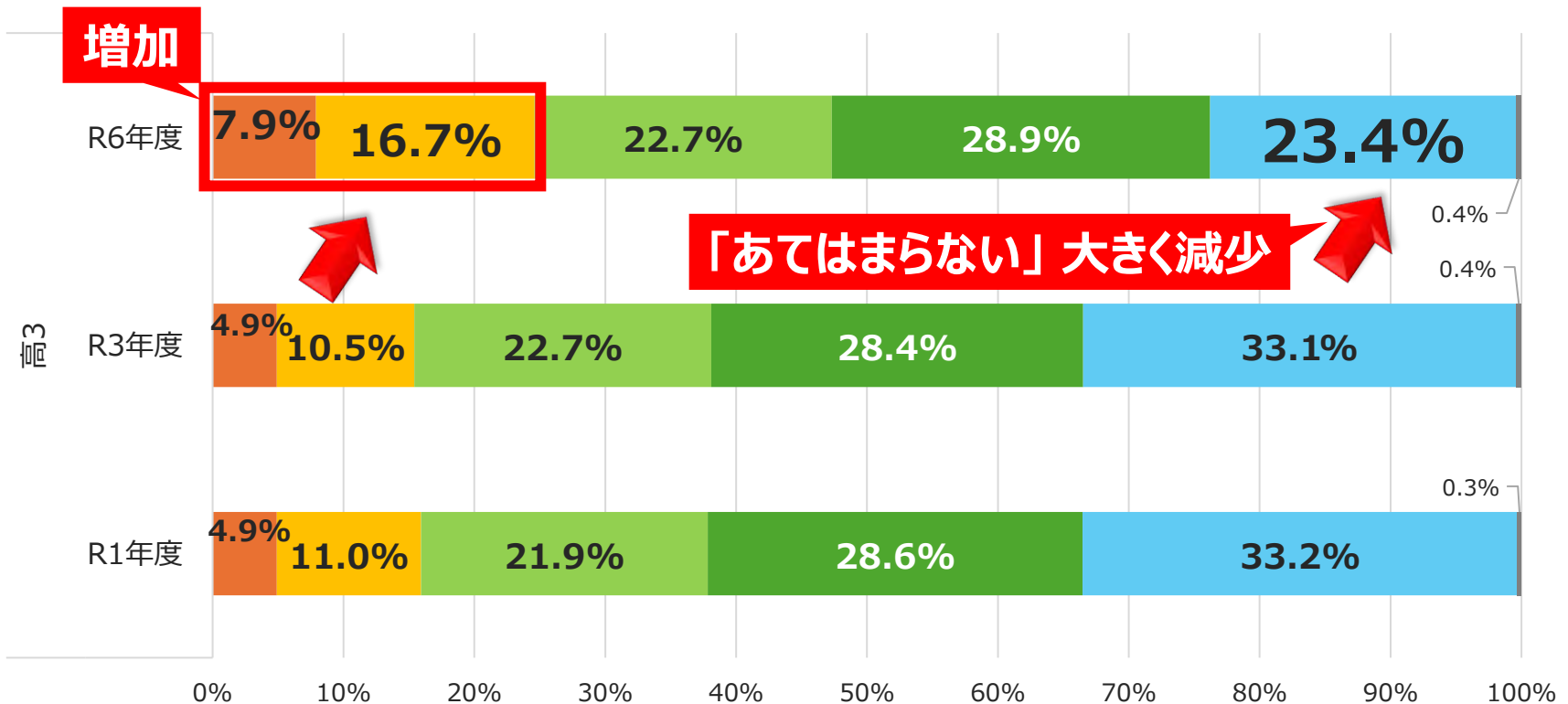


1.6.12.3 積極的に英語を話すようにしていること【高3】

- R3年度からR6年度にかけて、「とても（やや）あてはまる」と回答した生徒は増加
- R3年度からR6年度にかけて、「あてはまらない」と回答した生徒は大きく減少

質問：英語の学習における次の内容について、最も近いものを次の1～5のうちから1つ選んでください。
 「ネイティブの先生に英語で話しかけるなど、積極的に英語を話すようにしている」

選択肢： ■ 1 - とてもあてはまる ■ 2 - ややあてはまる ■ 3 - どちらともいえない
■ 4 - あまりあてはまらない ■ 5 - あてはまらない ■ 99 - 未記入・誤記入



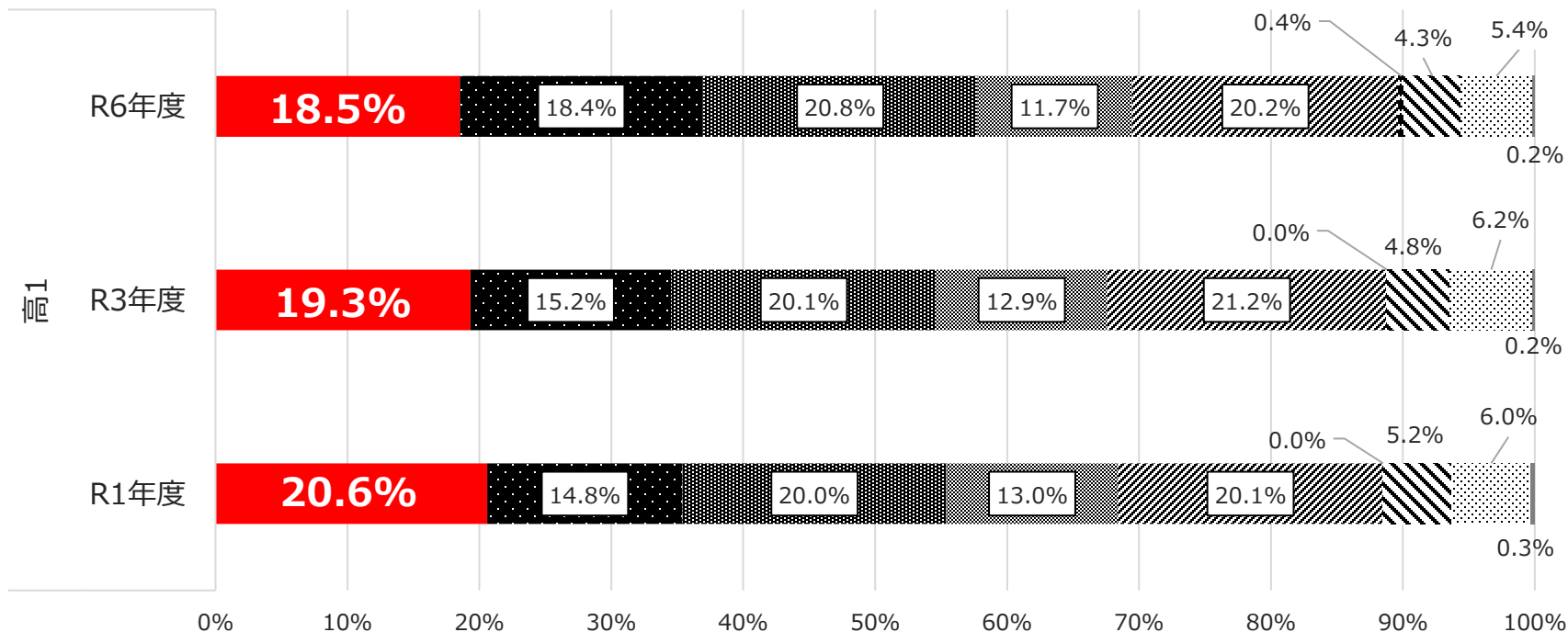
※集計対象人数は、R1 - 高1：34,349人、高2：29,439人、高3：6,096人。R3 - 高1：33,434人、高2：28,207人、高3：7,853人。R6 - 高1：27,541人、高2：23,828人、高3：5,826人。

1.6.13.1 得意教科【高1】

• いずれの年度も、「英語が最も得意だ」と回答した生徒は約19～21%

質問：最も得意だと感じる教科はどれですか。1つ選んでください。

- 選択肢：
- 1 - 英語
 - 2 - 国語
 - 3 - 数学
 - 4 - 理科
 - 5 - 社会（地歴）
 - 7 - 情報
 - 8 - その他
 - 9 - なし
 - 99 - 未記入・誤記入



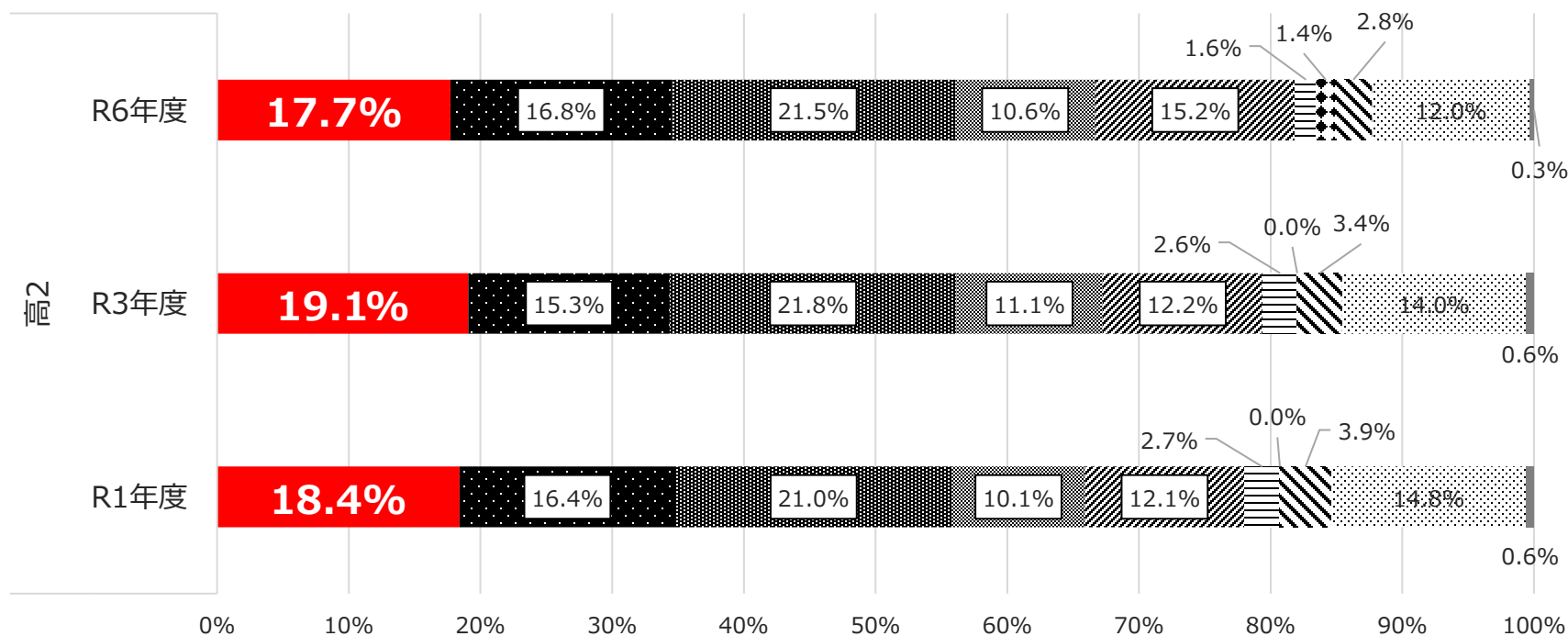
※集計対象人数は、R1 - 高1：34,349人、高2：29,439人、高3：6,096人。R3 - 高1：33,434人、高2：28,207人、高3：7,853人。R6 - 高1：27,541人、高2：23,828人、高3：5,826人。

1.6.13.2 得意教科【高2】

• いずれの年度も、「英語が最も得意だ」と回答した生徒は約18～19%

質問：最も得意だと感じる教科はどれですか。1つ選んでください。

- 選択肢：
- 1 - 英語
 - 2 - 国語
 - 3 - 数学
 - 4 - 理科
 - 5 - 社会（地歴）
 - ≡ 6 - 社会（公民）
 - 7 - 情報
 - 8 - その他
 - 9 - なし
 - 99 - 未記入・誤記入



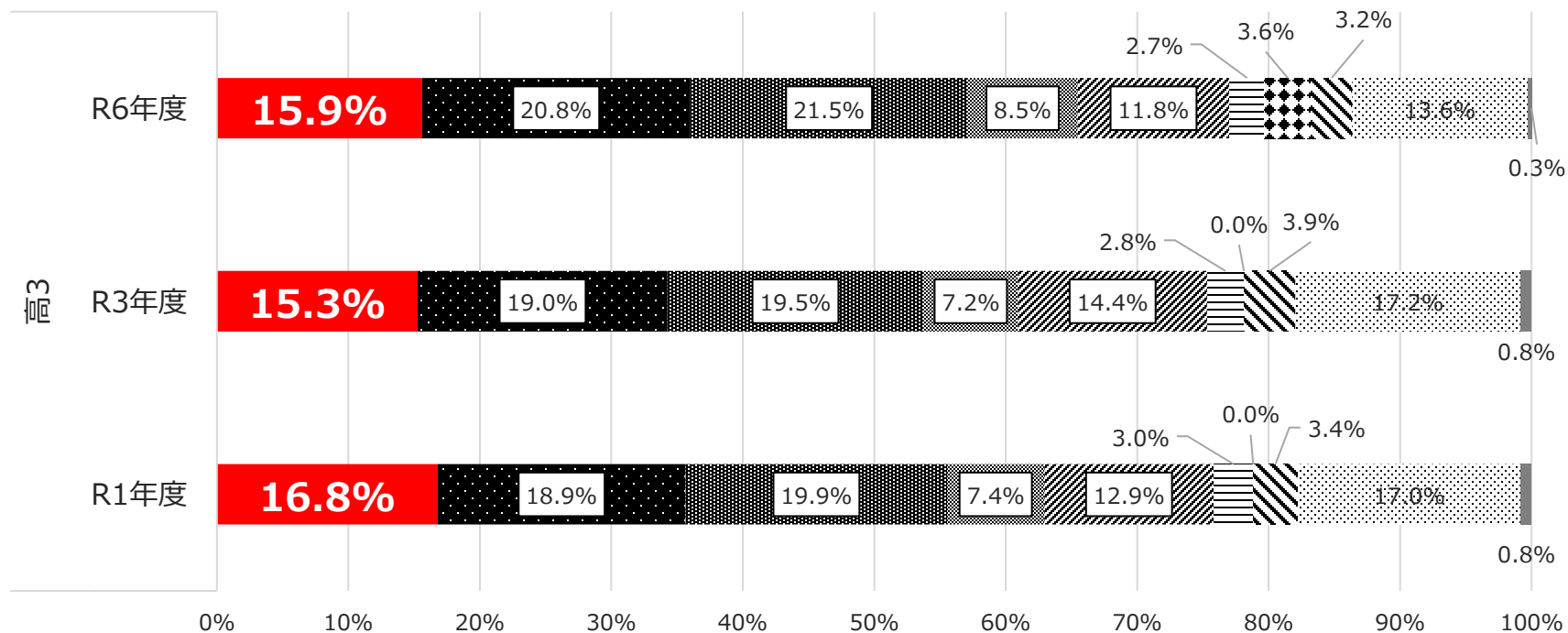
※集計対象人数は、R1- 高1：34,349人、高2：29,439人、高3：6,096人。R3- 高1：33,434人、高2：28,207人、高3：7,853人。R6- 高1：27,541人、高2：23,828人、高3：5,826人。

1.6.13.3 得意教科【高3】

• いずれの年度も、「英語が最も得意だ」と回答した生徒は約15～17%

質問：最も得意だと感じる教科はどれですか。1つ選んでください。

- 選択肢：
- 1 - 英語
 - 2 - 国語
 - 3 - 数学
 - 4 - 理科
 - 5 - 社会（地歴）
 - 6 - 社会（公民）
 - 7 - 情報
 - 8 - その他
 - 9 - なし
 - 99 - 未記入・誤記入



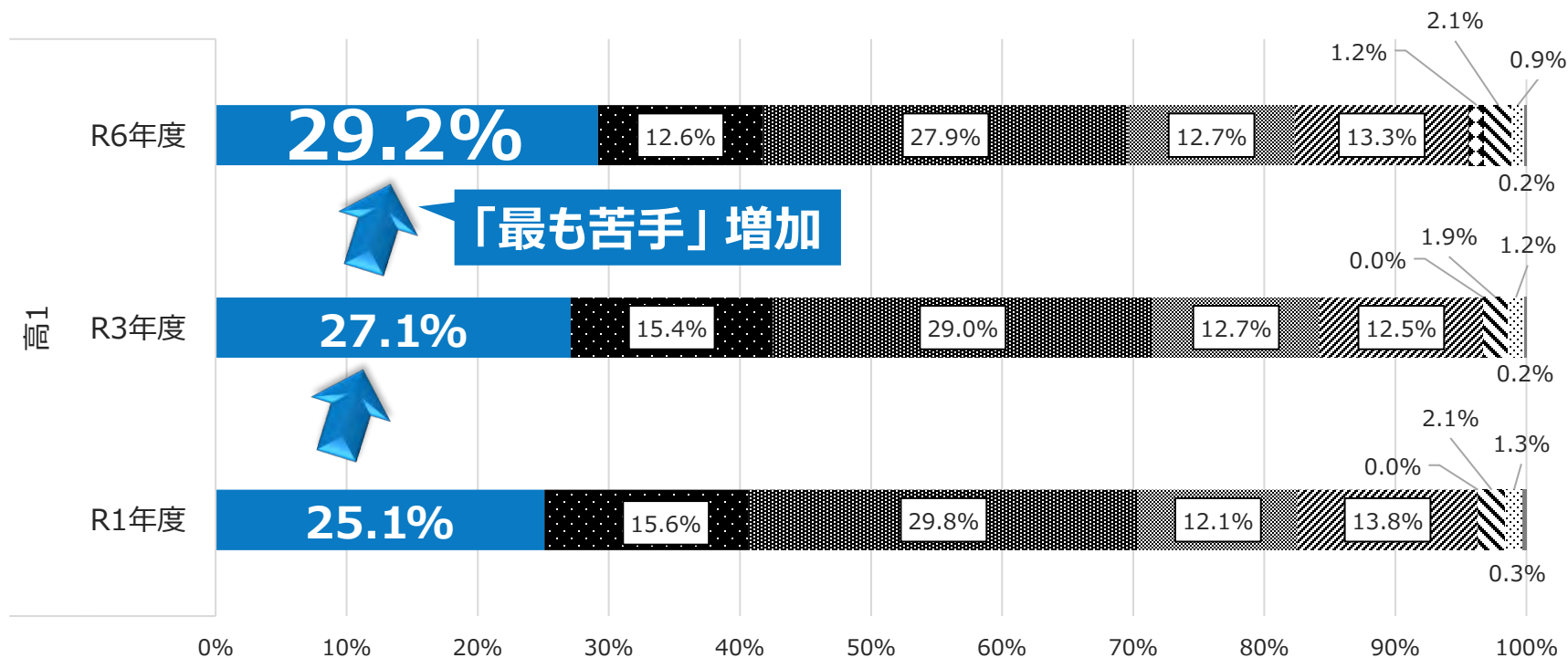
※集計対象人数は、R1 - 高1：34,349人、高2：29,439人、高3：6,096人。R3 - 高1：33,434人、高2：28,207人、高3：7,853人。R6 - 高1：27,541人、高2：23,828人、高3：5,826人。

1.6.14.1 苦手教科【高1】

- 「英語が最も苦手だ」と回答した生徒は、R1年度からR6年度にかけて増加
- R6年度において、英語は「最も苦手だ」という回答が一番多かった教科

質問：最も苦手だ（わかりにくい）と感じる教科はどれですか。1つ選んでください。

- 選択肢：
- 1 - 英語
 - 2 - 国語
 - 3 - 数学
 - 4 - 理科
 - 5 - 社会（地歴）
 - 7 - 情報
 - 8 - その他
 - 9 - なし
 - 99 - 未記入・誤記入



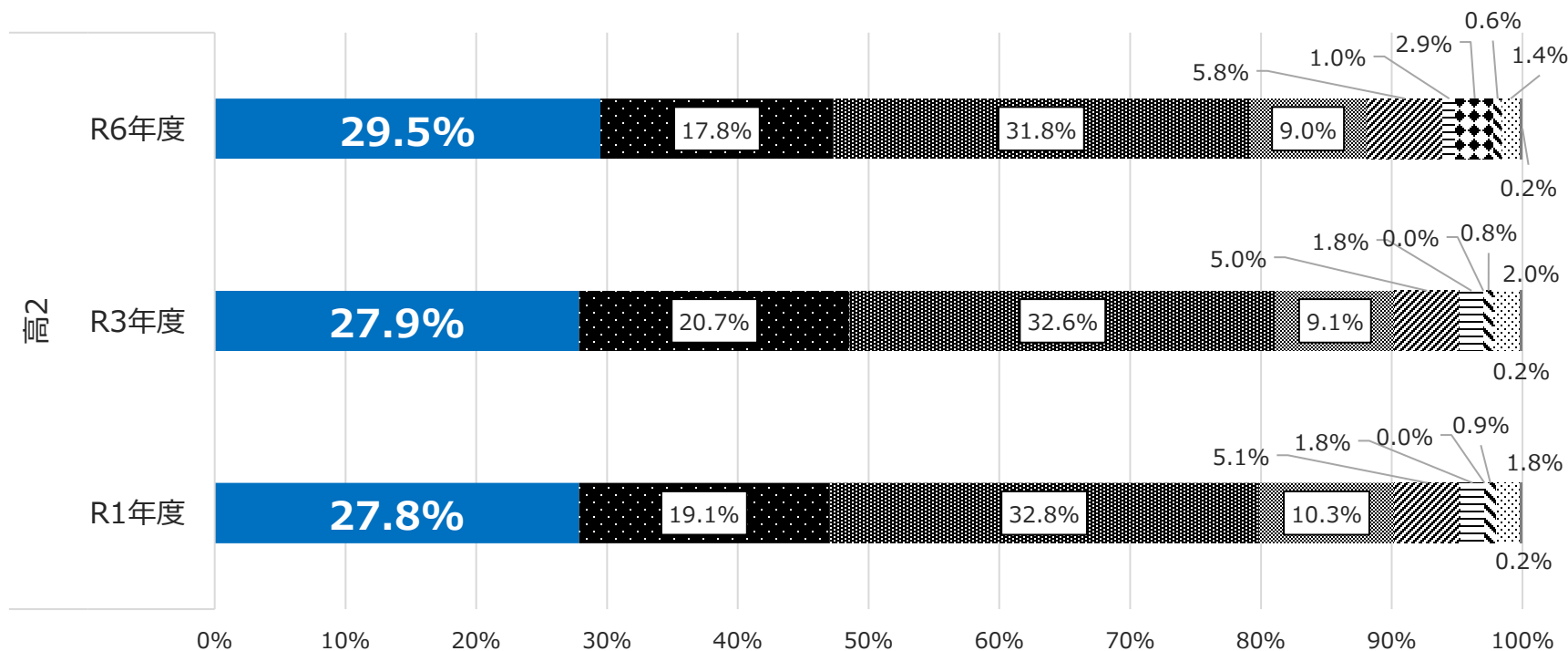
※集計対象人数は、R1 - 高1：34,349人、高2：29,439人、高3：6,096人。R3 - 高1：33,434人、高2：28,207人、高3：7,853人。R6 - 高1：27,541人、高2：23,828人、高3：5,826人。

1.6.14.2 苦手教科【高2】

• いずれの年度も、「英語が最も苦手だ」と回答した生徒は約28～30%

質問：最も苦手だ（わかりにくい）と感じる教科はどれですか。1つ選んでください。

- 選択肢：
- 1 - 英語
 - 2 - 国語
 - 3 - 数学
 - 4 - 理科
 - 5 - 社会（地歴）
 - 6 - 社会（公民）
 - 7 - 情報
 - 8 - その他
 - 9 - なし
 - 99 - 未記入・誤記入



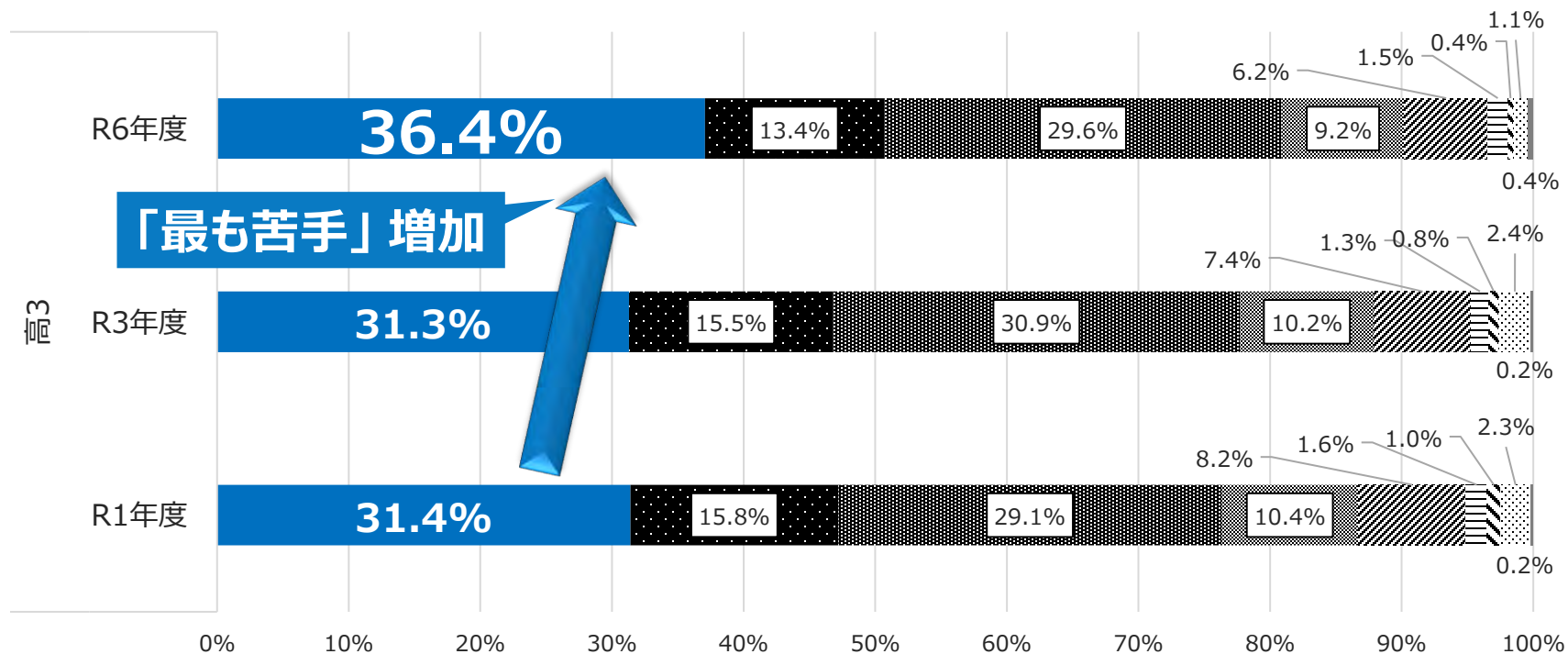
※集計対象人数は、R1- 高1：34,349人、高2：29,439人、高3：6,096人。R3- 高1：33,434人、高2：28,207人、高3：7,853人。R6- 高1：27,541人、高2：23,828人、高3：5,826人。

1.6.14.3 苦手教科【高3】

- R1年度に比べて、R6年度は「英語が最も苦手だ」と回答した生徒が増加
- いずれの年度も、英語は「最も苦手だ」という回答が一番多かった教科

質問：最も苦手だ（わかりにくい）と感じる教科はどれですか。1つ選んでください。

- 選択肢：
- 1 - 英語
 - 2 - 国語
 - 3 - 数学
 - 4 - 理科
 - 5 - 社会（地歴）
 - 6 - 社会（公民）
 - 8 - その他
 - 9 - なし



※集計対象人数は、R1 - 高1：34,349人、高2：29,439人、高3：6,096人。R3 - 高1：33,434人、高2：28,207人、高3：7,853人。R6 - 高1：27,541人、高2：23,828人、高3：5,826人。

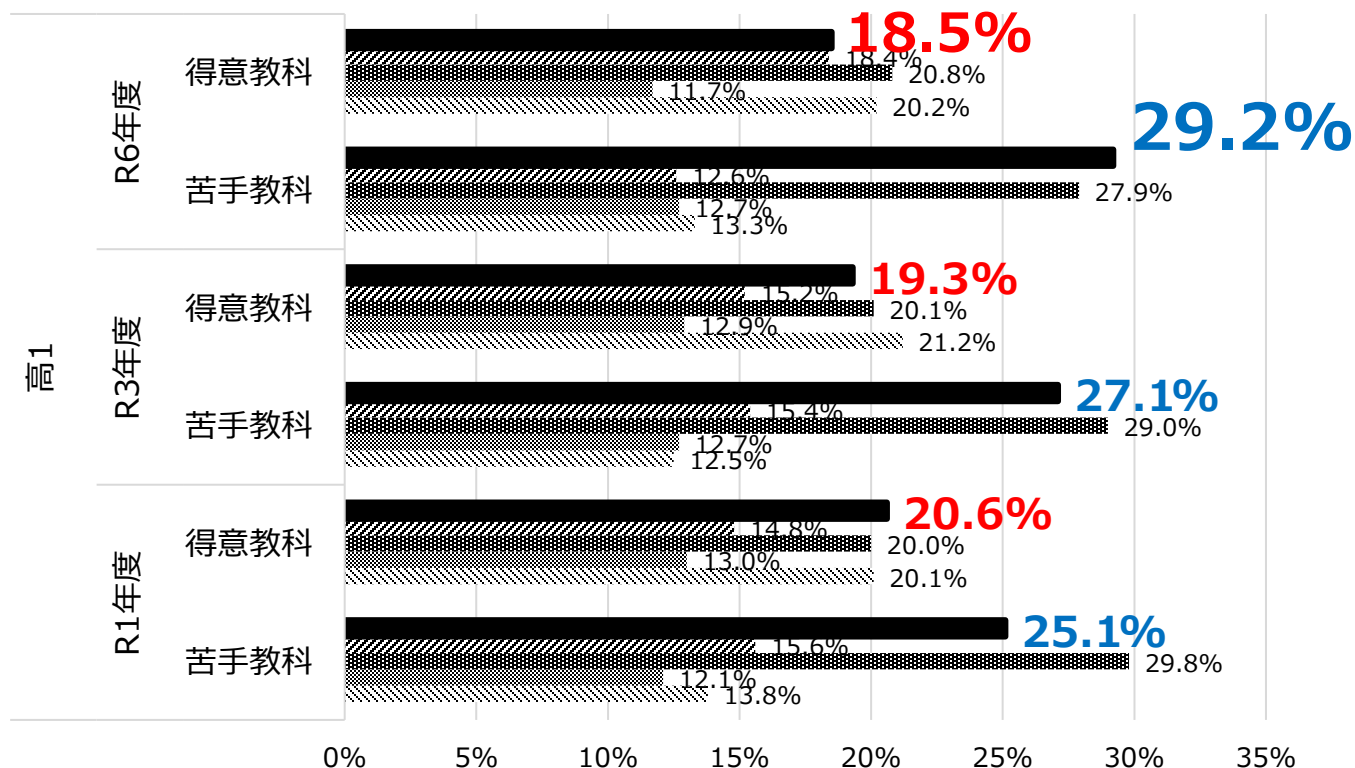
1.6.15.1 得意教科・苦手教科【高1】

- いずれの年度も、「英語が最も得意だ」と回答した生徒は約19～21%
- 「英語が最も苦手だ」と回答した生徒はR 1年度からR 6年度にかけて増加
- R 6年度において、「英語が最も苦手だ」と回答した生徒が最も多い

質問：最も得意だと感じる教科はどれですか。1つ選んでください。

最も苦手だ（わかりにくい）と感じる教科はどれですか。1つ選んでください。

選択肢： ■ 1 - 英語 ▨ 2 - 国語 ▩ 3 - 数学 ■ 4 - 理科 ≡ 5 - 社会（地歴） ※左記の選択肢の割合のみ掲載



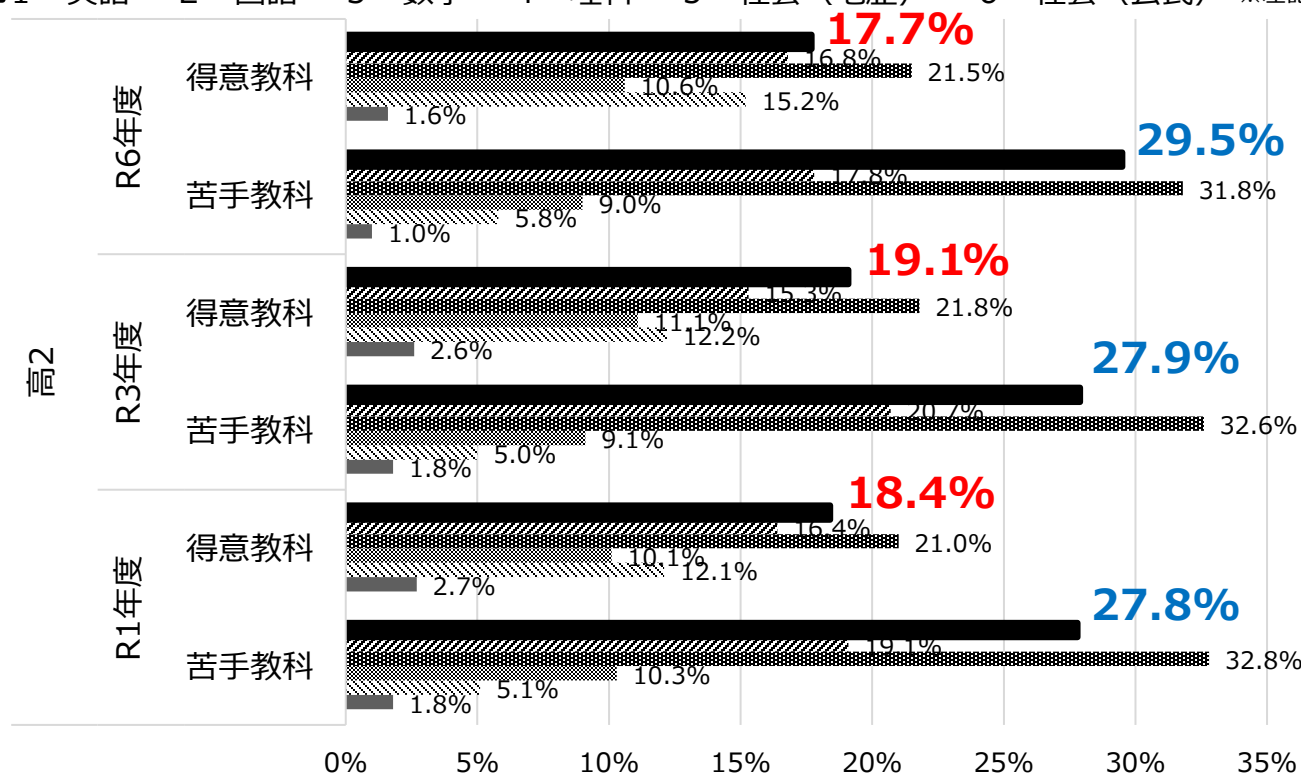
1.6.15.2 得意教科・苦手教科【高2】

- いずれの年度も、「英語が最も得意だ」と回答した生徒は約18～19%
- いずれの年度も、「英語が最も苦手だ」と回答した生徒は約28～30%

質問：最も得意だと感じる教科はどれですか。1つ選んでください。

最も苦手だ（わかりにくい）と感じる教科はどれですか。1つ選んでください。

選択肢： ■ 1 - 英語 ▨ 2 - 国語 ▩ 3 - 数学 ■ 4 - 理科 ≡ 5 - 社会（地歴） ■ 6 - 社会（公民） ※左記の選択肢の割合のみ掲載



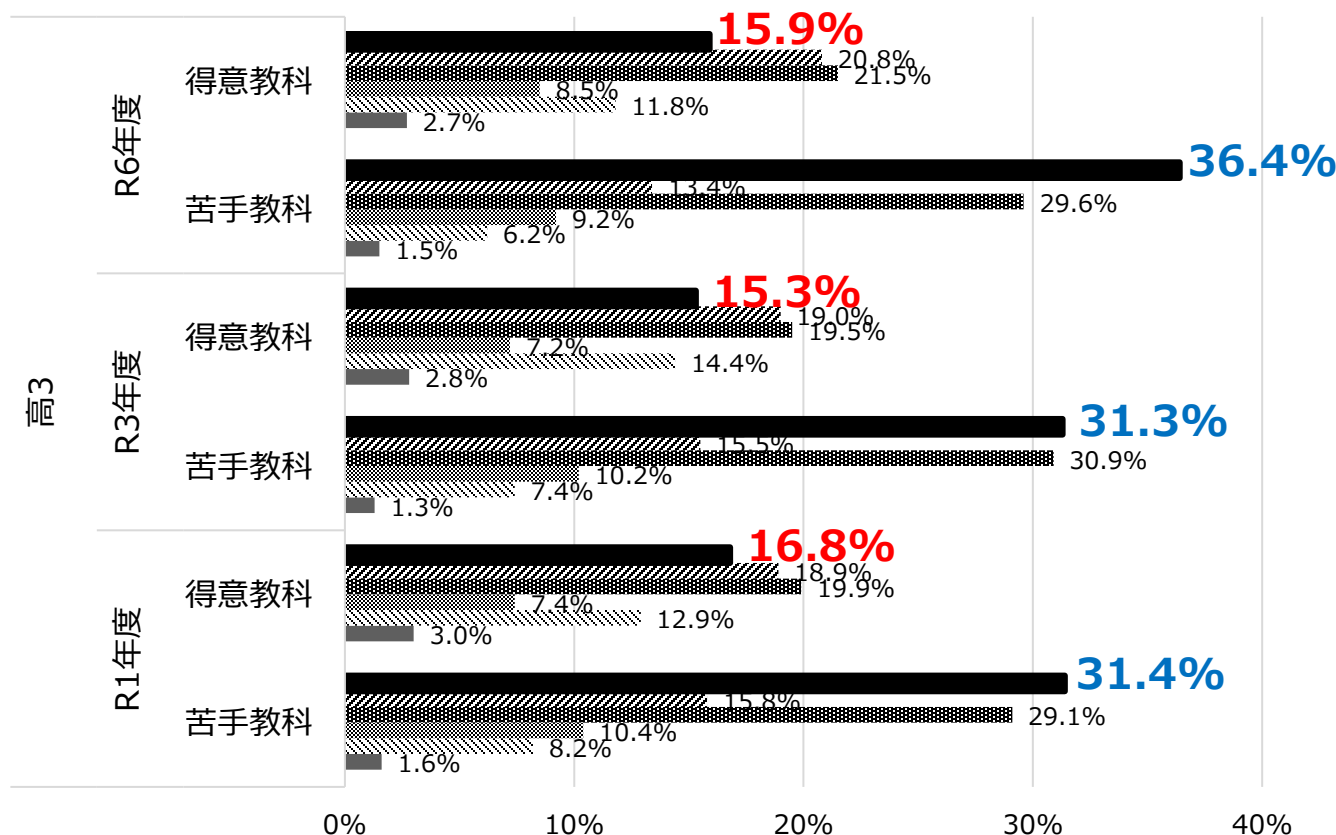
1.6.15.3 得意教科・苦手教科【高3】

- いずれの年度も、「英語が最も得意だ」と回答した生徒は約15～17%
- R1年度と比べて、R6年度は「英語が最も苦手だ」と回答した生徒が増加
- いずれの年度も、英語は「最も苦手だ」という回答が一番多かった教科

質問：最も得意だと感じる教科はどれですか。1つ選んでください。

最も苦手だ（わかりにくい）と感じる教科はどれですか。1つ選んでください。

選択肢： ■ 1 - 英語 〳 2 - 国語 〳 3 - 数学 〳 4 - 理科 〳 5 - 社会（地歴） ■ 6 - 社会（公民） ※左記の選択肢の割合のみ掲載



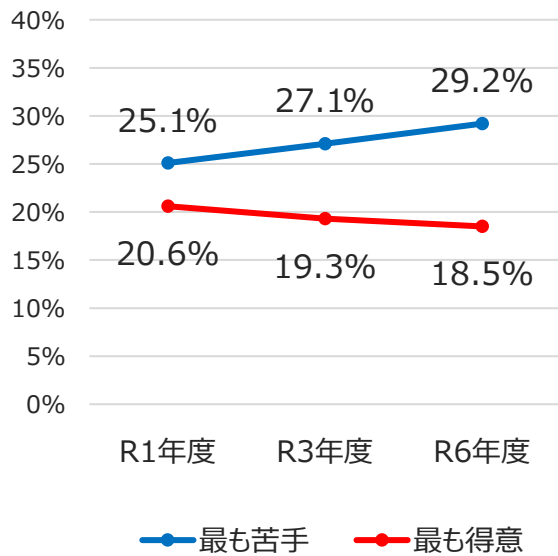
※集計対象人数は、R1- 高1: 34,349人、高2: 29,439人、高3: 6,096人。R3- 高1: 33,434人、高2: 28,207人、高3: 7,853人。R6- 高1: 27,541人、高2: 23,828人、高3: 5,826人。

1.6.16 英語が得意教科・苦手教科であること【3 学年】

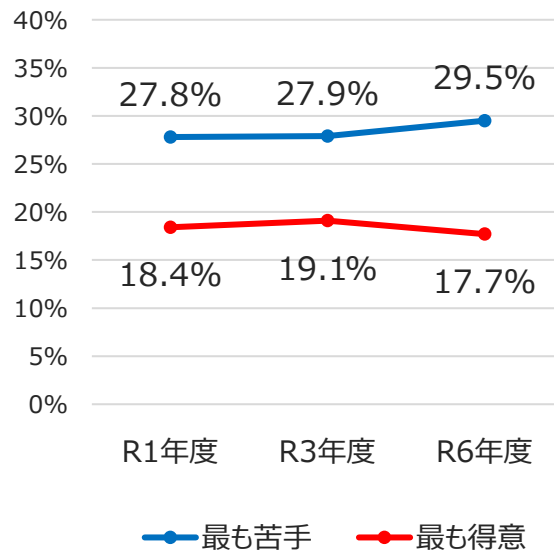
• いずれの学年も、「英語が最も苦手だ」と回答した生徒は、「英語が最も得意だ」と回答した生徒よりも多い

質問：最も得意だと感じる教科はどれですか。1つ選んでください。
最も苦手だ（わかりにくい）と感じる教科はどれですか。1つ選んでください。

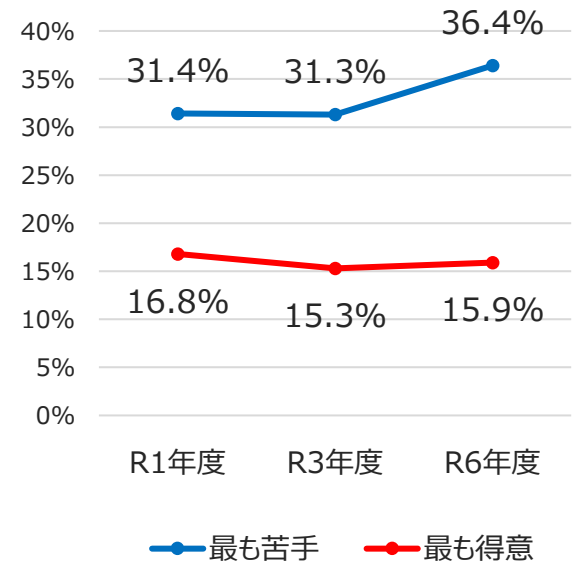
選択肢：英語、国語、数学、理科、社会（地歴）、社会（公民）
※上記の選択肢のうち、「英語」についての回答のみを抜粋



高1



高2



高3

1.7 英語学習調査（クロス分析：高2）

集計対象：以下の条件を満たすR6年度・高2の生徒が集計対象である。

1つの学年次において、

- (a) - R1年度～R6年度の全年度で「GTEC」を80名以上で実施した学校の生徒
- (b) - (a)かつ指定の問題版（※）を受検している生徒
- (c) - (a)かつ(b)かつスタディサポートを受験した生徒

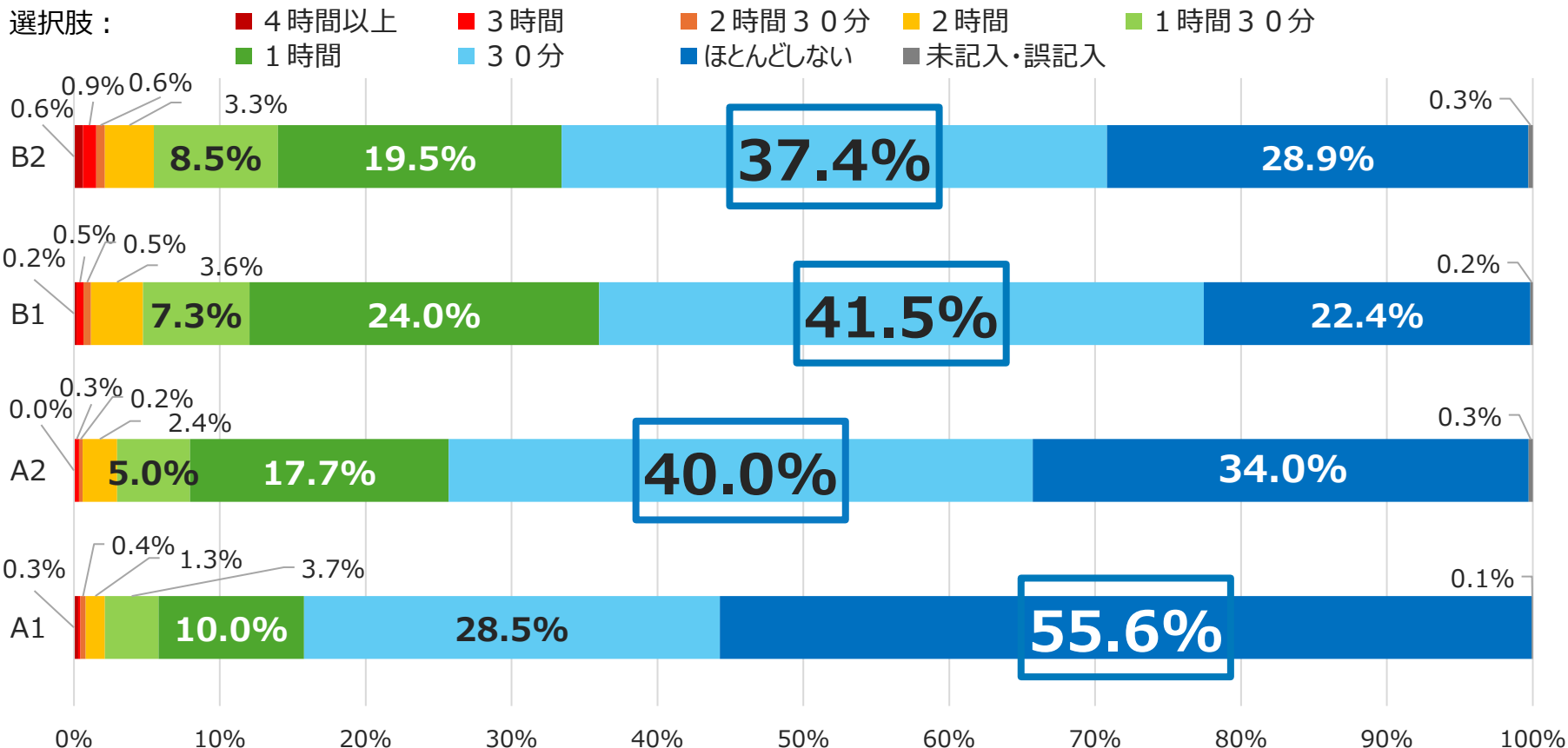
※指定の問題版とは、高1 - Basicタイプの第38回、第48回、第66回 高2 - Advancedタイプの通算回第39回、第49回、第67回 高3 - Advancedタイプの通算回第38回、第48回、第66回である。

集計対象人数：各CEFRLレベルの集計人数は、B2: 376人、B1: 7,172人、A2: 14,710人、A1: 1,560人、Pre-A1: 10人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としている。

1.7.1 英語の平日の学習時間【高2 CEFR別】

- CEFR A2以上では「30分」と回答した生徒の割合が最も多く約37～42%
- CEFR A1では「ほとんどしない」が半数以上

質問：英語について、1日にどの程度、自主学習をしていますか。
最も近い時間を平日について1つ選んでください。



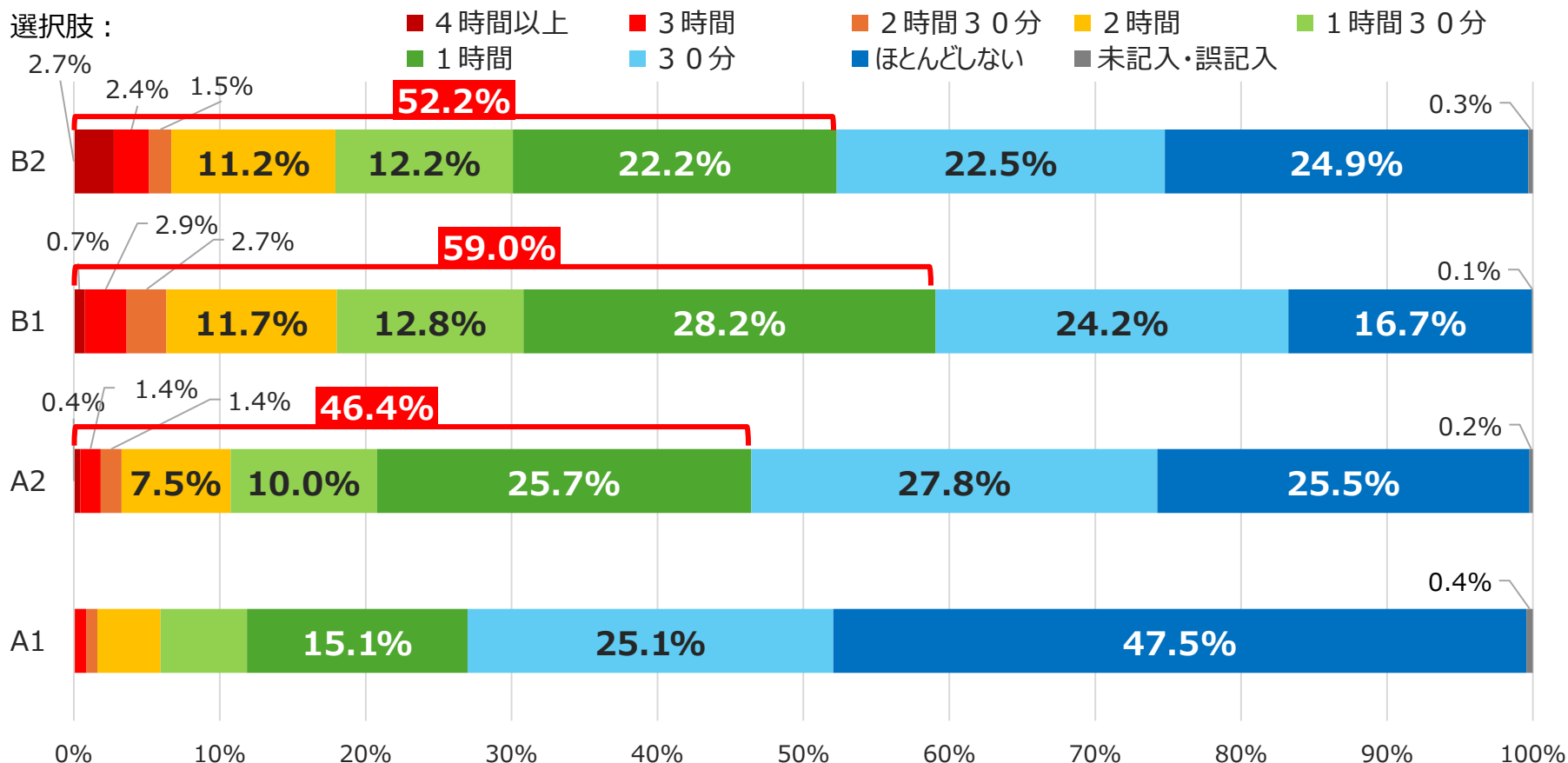
※高1はCEFR B2が測定範囲外であること、高3は大学入学試験の影響等があることから高2のみを対象に分析。

※【高2(c)】各CEFRレベルの集計人数は、B2: 376人、B1: 7,172人、A2: 14,710人、A1: 1,560人、Pre-A1: 10人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。

1.7.2 英語の休日の学習時間【高2 CEFR別】

- 1時間以上学習している割合は、CEFR B1・B2で約52～59%、CEFR A2では約46%となり半数を下回る

質問：英語について、1日にどの程度、自主学習をしていますか。
最も近い時間を休日について1つ選んでください。



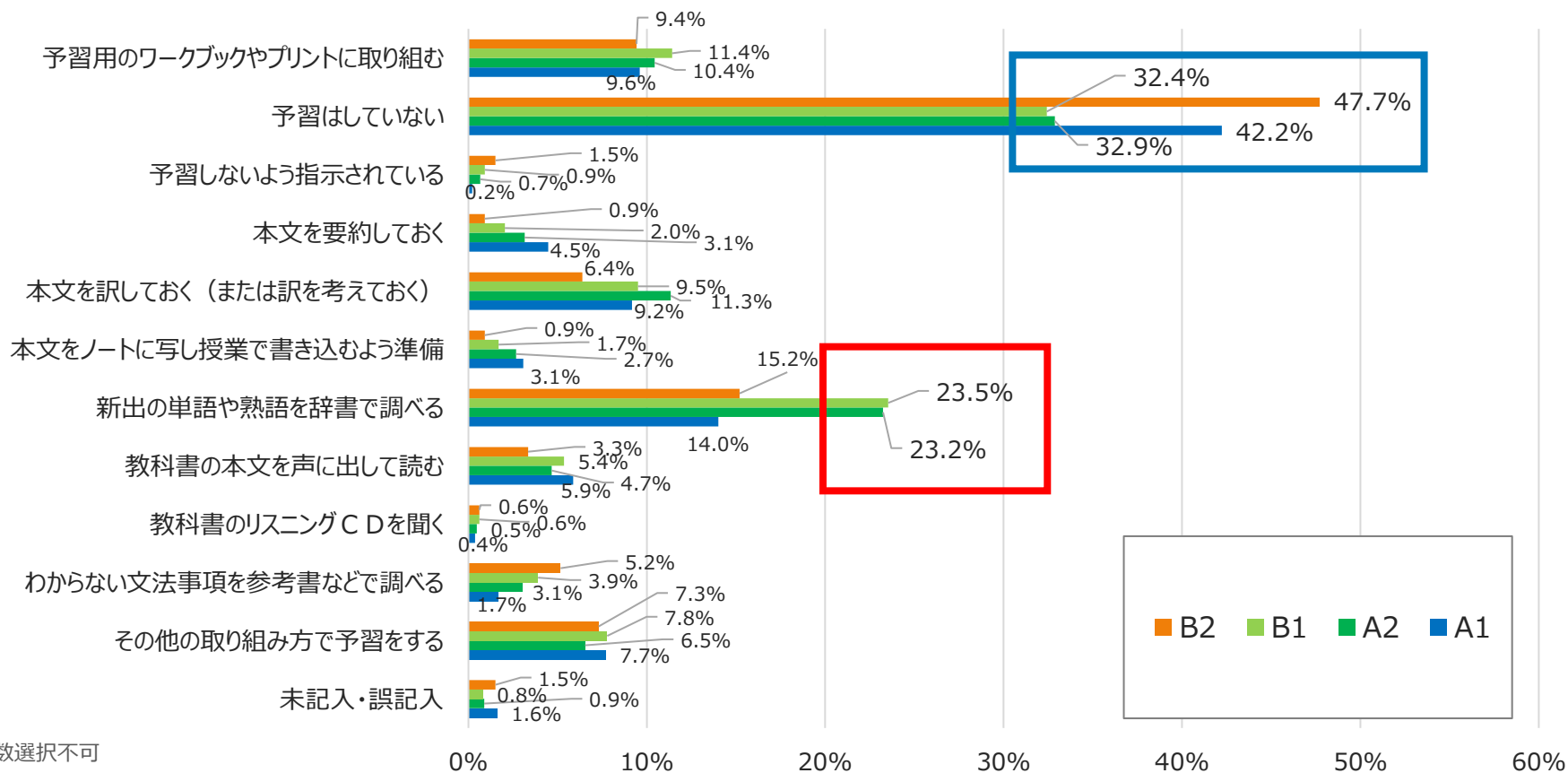
※高1はCEFR B2が測定範囲外であること、高3は大学入学試験の影響等があることから高2のみを対象に分析。

※【高2(c)】各CEFRレベルの集計人数は、B2: 376人、B1: 7,172人、A2: 14,710人、A1: 1,560人、Pre-A1: 10人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。

1.7.3 英語の授業の予習への取り組み【高2 CEFRL別】

- いずれのCEFRレベルにおいても、「予習はしていない」が最も多い
- 「新出の単語や熟語を辞書で調べる」はCEFR A2・B1で多く、A1・B2で少ない

質問：英語について、授業の予習への取り組み方に最も近いものは次のうちどれですか。



※複数選択不可

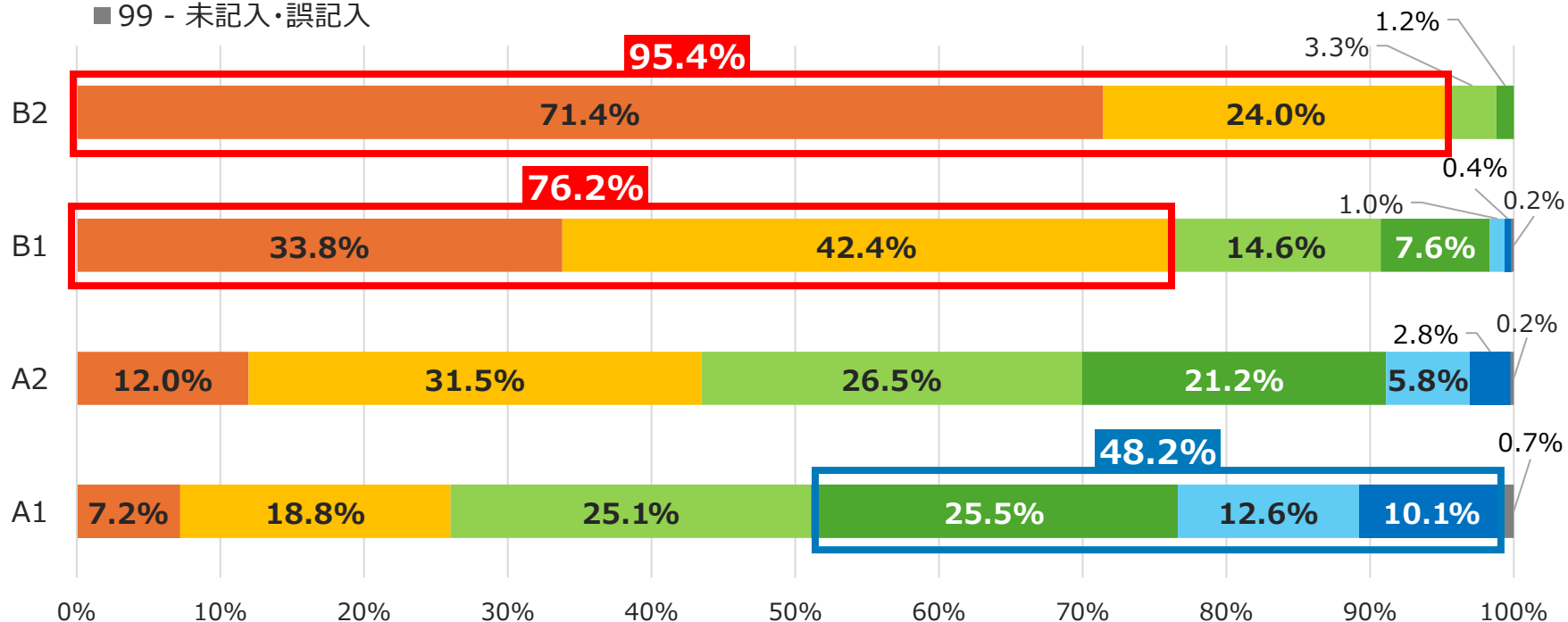
※高1はCEFR B2が測定範囲外であること、高3は大学入学試験の影響等があることから高2のみを対象に分析。
 ※【高2(c)】各CEFRレベルの集計人数は、B2: 376人、B1: 7,172人、A2: 14,710人、A1: 1,560人、Pre-A1: 10人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。

1.7.4 授業理解度（英語）【高2 CEFR別】

- CEFR A1では約48%が「少しわからないところがあり不安」「授業についていけない」と回答
- CEFR B1・B2では、約76～95%が「理解できている」と回答

質問：英語について、授業についての印象に最も近いものを次のうちから1つ選んでください。

- 選択肢：
- 1 - 理解できており今のところ不安はない
 - 2 - 理解できているが少し不安である
 - 3 - 不明点は少しあるが頑張ればついていける
 - 4 - 少しわからないところがあり不安である
 - 5 - 授業についていけず非常に不安である
 - 6 - 授業についていけずあきらめかけている
 - 99 - 未記入・誤記入



※高1はCEFR B2が測定範囲外であること、高3は大学入学試験の影響等があることから高2のみを対象に分析。
 ※【高2(c)】各CEFRレベルの集計人数は、B2: 376人、B1: 7,172人、A2: 14,710人、A1: 1,560人、Pre-A1: 10人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。

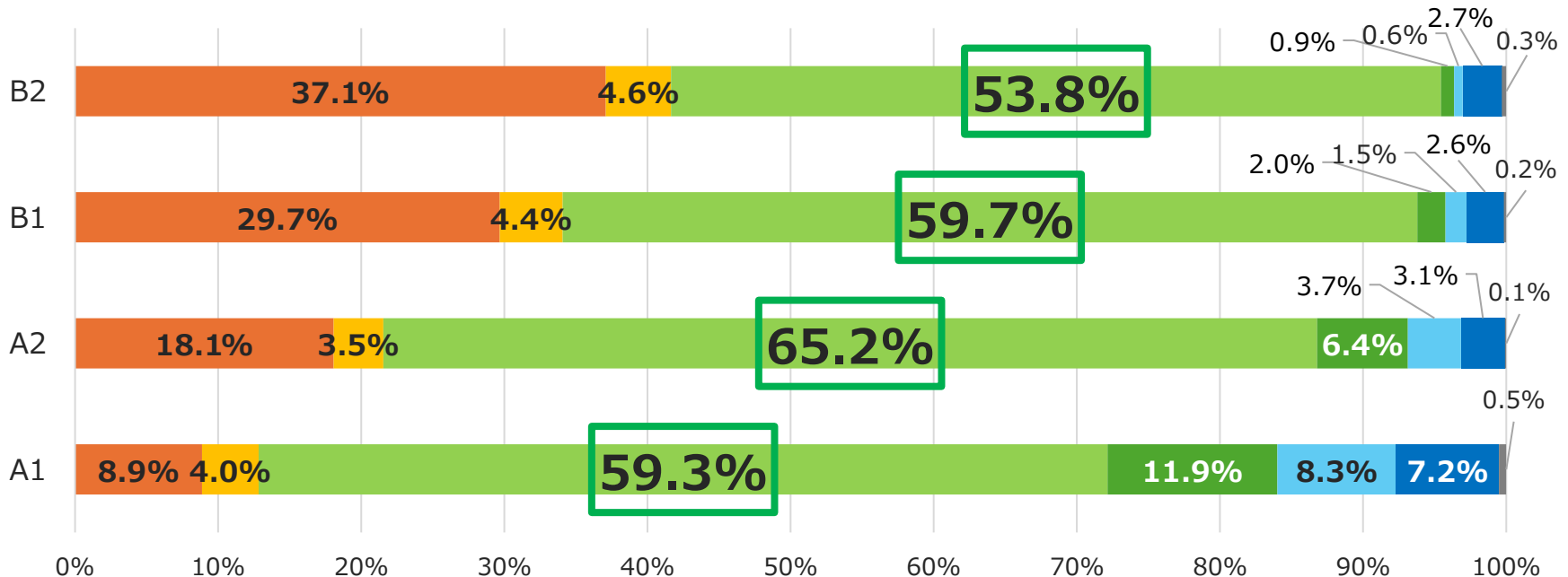
1.7.5 英語の宿題・授業の復習への取り組み【高2 CEFR別】

• いずれのCEFRレベルにおいても、「宿題は完全にできず復習も手が回らない」と回答した割合は50%以上

質問：英語について、宿題・授業の復習への取り組み方に最も近いものを次のうちから1つ選んでください。

選択肢：

- 1 - 宿題と復習は必ずする
- 2 - 宿題はしていないが復習はする
- 3 - 宿題はしているが復習はしていない
- 4 - 宿題は完全にできず復習も手が回らない
- 5 - 復習はせず宿題は写させてもらうことが多い
- 6 - 宿題も復習もしていない
- 99 - 未記入・誤記入



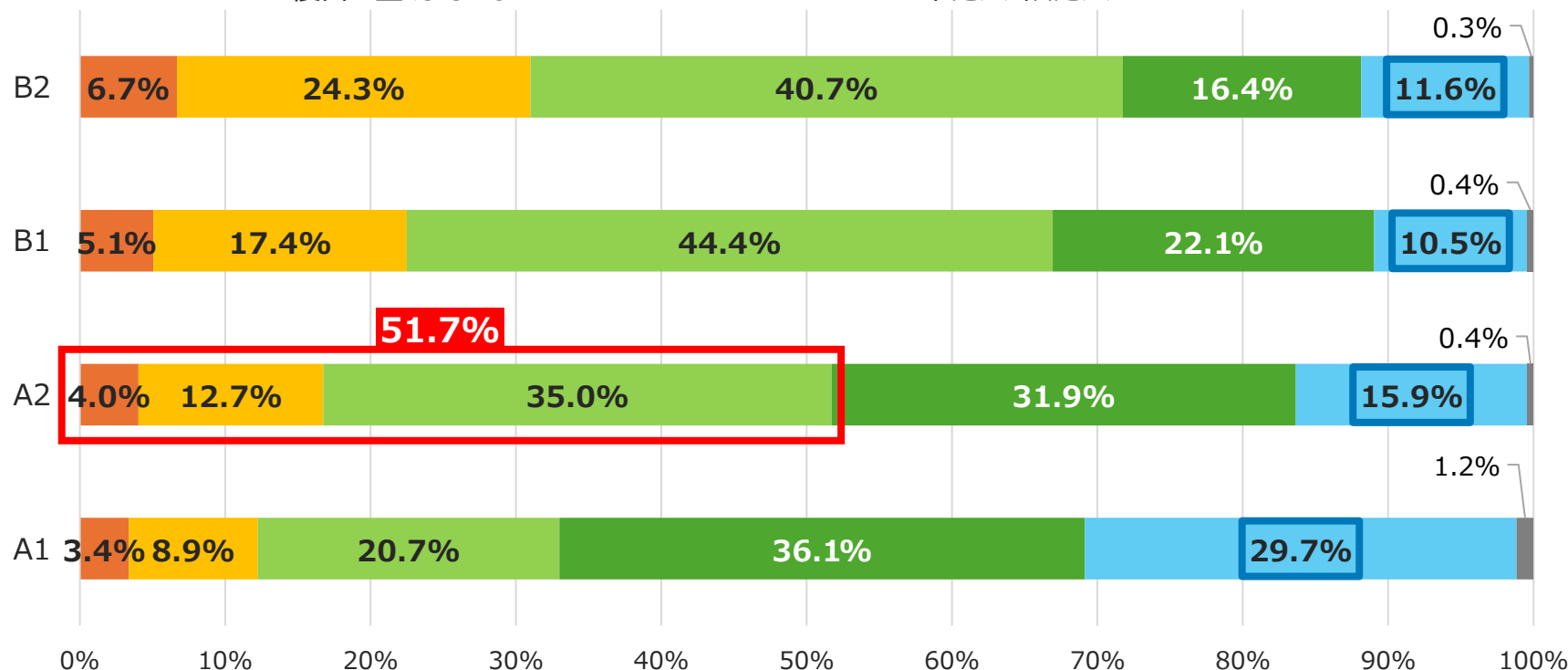
※高1はCEFR B2が測定範囲外であること、高3は大学入学試験の影響等があることから高2のみを対象に分析。
 ※【高2 (c)】各CEFRレベルの集計人数は、B2: 376人、B1: 7,172人、A2: 14,710人、A1: 1,560人、Pre-A1: 10人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。

1.7.6 英語の定期試験後の復習【高2 CEFR別】

- いずれのCEFRレベルにおいても、「復習は全くしていない」は10%以上で、CEFR A1では約30%
- 「すべて復習」「解けるまで復習」「理由を確認したりして理解」する割合は、CEFR A2において約52%

質問：英語について、定期試験などの校内で行うテスト後、どのように復習に取り組みますか。
最も近いものを次のうちから1つ選んでください。

- 選択肢：
- 1 - 間違えたところだけでなくすべて復習する
 - 2 - 間違えたところを確認し解けるまで復習する
 - 3 - 間違えた理由を確認したりして理解する
 - 4 - 間違えたところだけは確認する
 - 5 - 復習は全くしていない
 - 99 - 未記入・誤記入



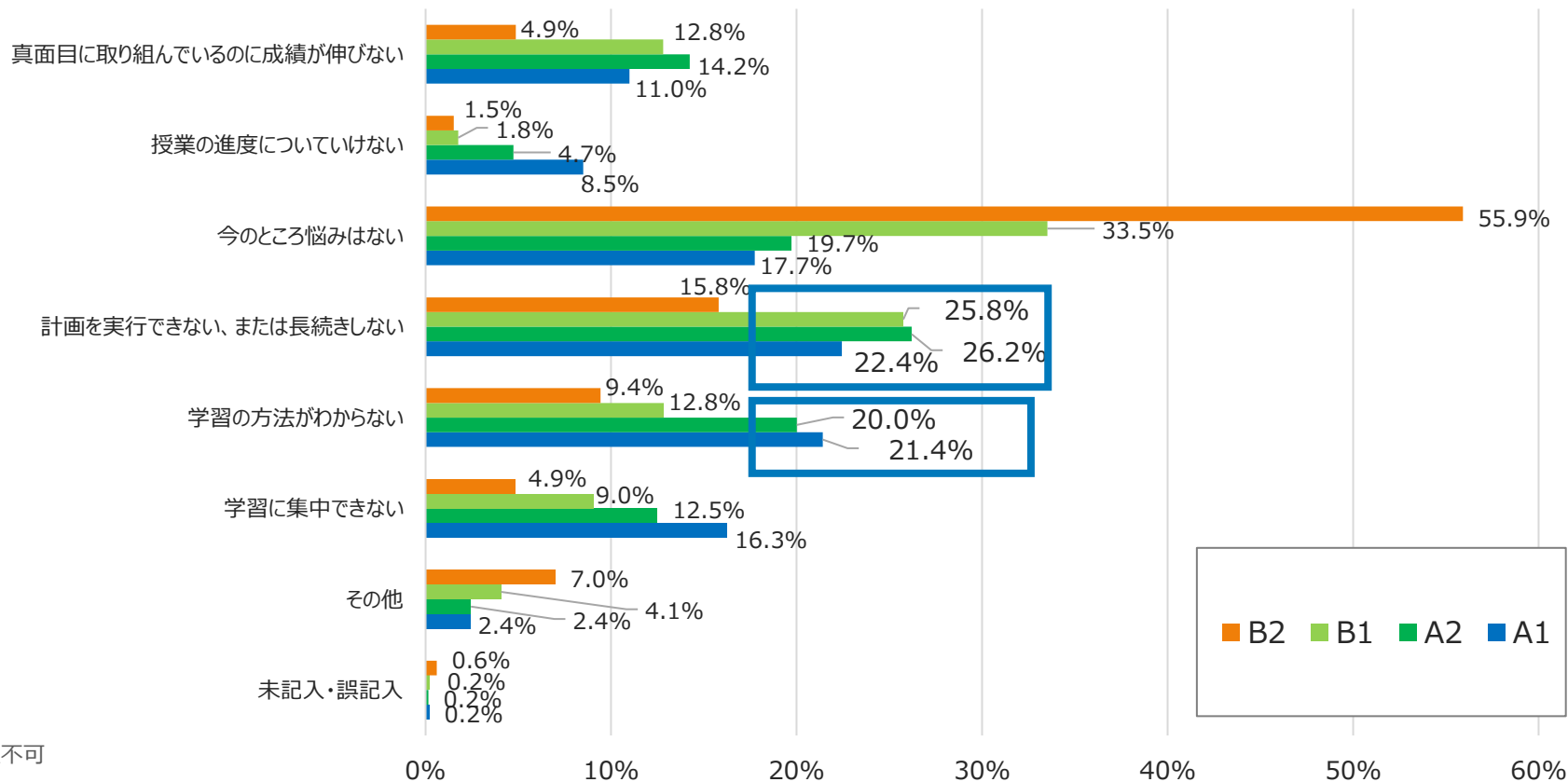
※高1はCEFR B2が測定範囲外であること、高3は大学入学試験の影響等があることから高2のみを対象に分析。

※【高2(c)】各CEFRレベルの集計人数は、B2: 376人、B1: 7,172人、A2: 14,710人、A1: 1,560人、Pre-A1: 10人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。

1.7.7 英語の学習上の悩み【高2 CEFR別】

- 「学習の方法がわからない」割合は、CEFR A1・A2で約20～21%
- 「計画を実行できない、または長続きしない」割合はCEFR A1～B1において、約22～26%

質問：英語について、学習するうえで、悩んでいることは何ですか。最も近いものを次のうちから1つ選んでください。



※複数選択不可

※高1はCEFR B2が測定範囲外であること、高3は大学入学試験の影響等があることから高2のみを対象に分析。
 ※【高2(c)】各CEFRレベルの集計人数は、B2: 376人、B1: 7,172人、A2: 14,710人、A1: 1,560人、Pre-A1: 10人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。

1.7.8 英語の授業における目標・目的の有無【高2 CEFR別】

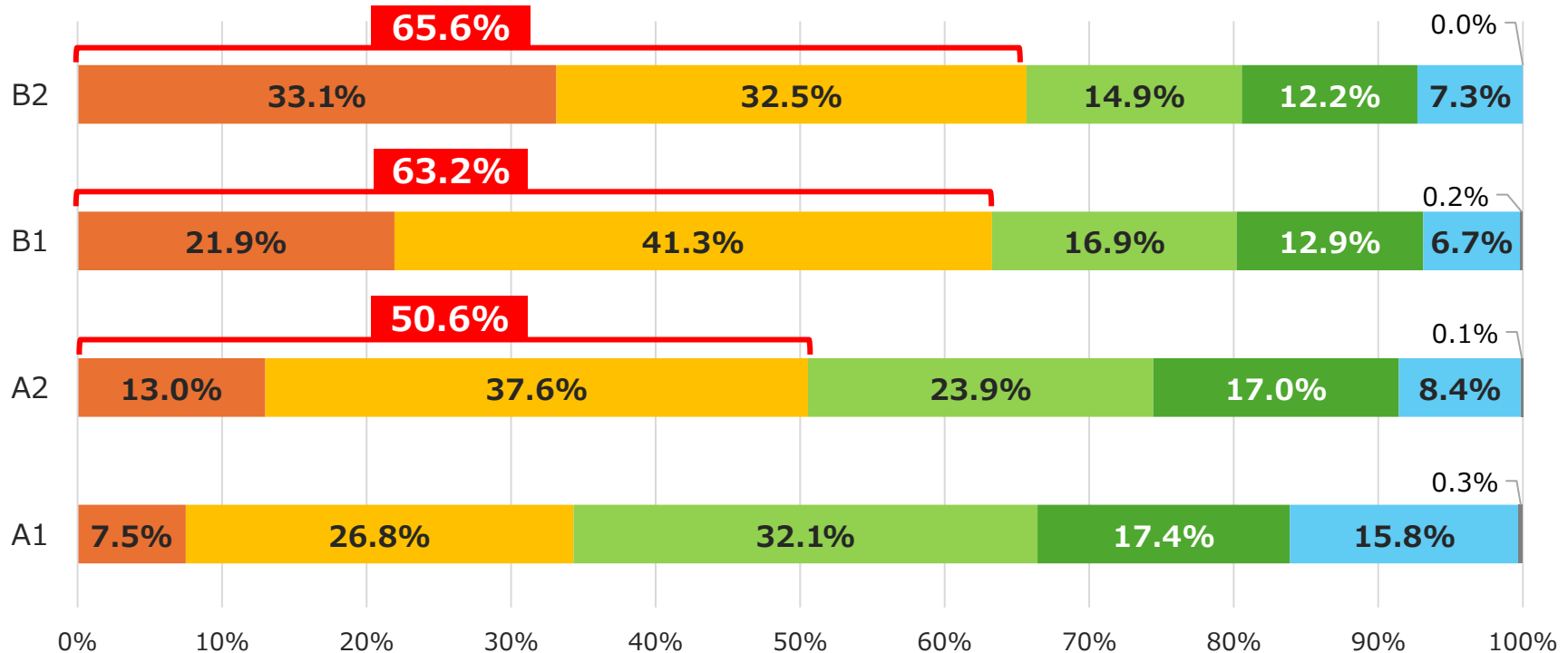
・「目標や目的をもって授業に取り組むようにしている」割合はCEFR B1・B2で約63～66%、CEFR A2では約51%に低下

質問：次の内容について、あなたが日頃の英語学習で心がけていることを振り返って、最も近いものを次の1～5のうちから選び回答してください。

「目標や目的をもって授業に取り組むようにしている」

選択肢：

- 1 - とてもあてはまる
- 2 - ややあてはまる
- 3 - どちらともいえない
- 4 - あまりあてはまらない
- 5 - あてはまらない
- 99 - 未記入・誤記入



※高1はCEFR B2が測定範囲外であること、高3は大学入学試験の影響等があることから高2のみを対象に分析。
 ※【高2 (c)】各CEFRレベルの集計人数は、B2: 376人、B1: 7,172人、A2: 14,710人、A1: 1,560人、Pre-A1: 10人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。

1.7.9 英語の疑問点があった場合の質問行動の有無【高2 CEFR別】

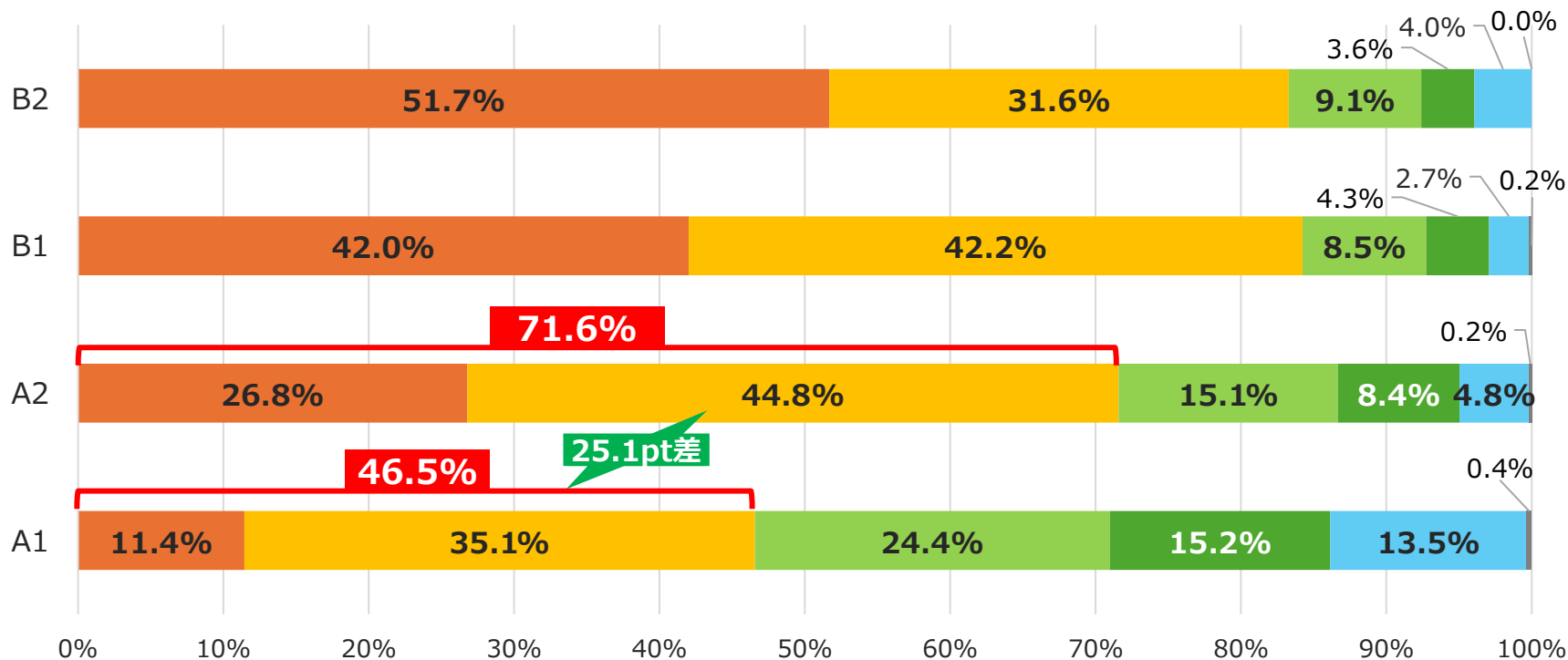
- CEFR A1とA2との間で、「とても（やや）あてはまる」と回答した割合に大きな差（約25ポイント差）

質問：次の内容について、あなたが日頃の英語学習で心がけていることを振り返って、最も近いものを次の1～5のうちから選び回答してください。

「理解できない点や疑問点は、先生や友人に質問をして解決するようにしている」

選択肢：

- 1 - とてもあてはまる
- 2 - ややあてはまる
- 3 - どちらともいえない
- 4 - あまりあてはまらない
- 5 - あてはまらない
- 99 - 未記入・誤記入



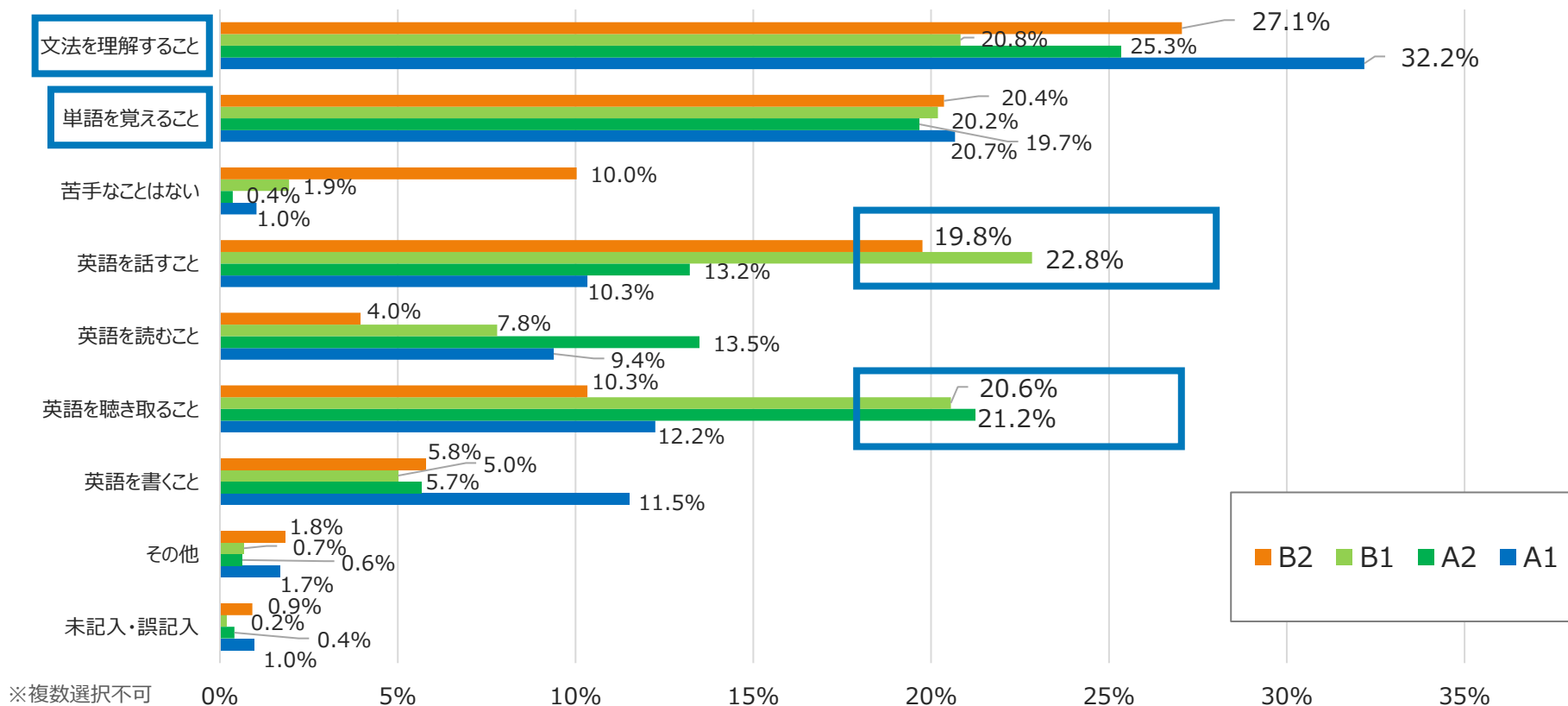
※高1はCEFR B2が測定範囲外であること、高3は大学入学試験の影響等があることから高2のみを対象に分析。

※【高2(c)】各CEFRレベルの集計人数は、B2: 376人、B1: 7,172人、A2: 14,710人、A1: 1,560人、Pre-A1: 10人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。

1.7.10 英語の苦手な事項【高2 CEFR別】

- いずれのCEFRレベルにおいても、「文法を理解すること」は20%以上であり、CEFR A1・B2で最も多い回答
- いずれのCEFRレベルにおいても、「単語を覚えること」は約20～21%
- 「英語を話すこと」はCEFR B1・B2が多く、「英語を聞き取ること」はA2・B1の割合が多い

質問：英語について、最も苦手だ（わかりにくい）と思うことは次のうちどれですか。

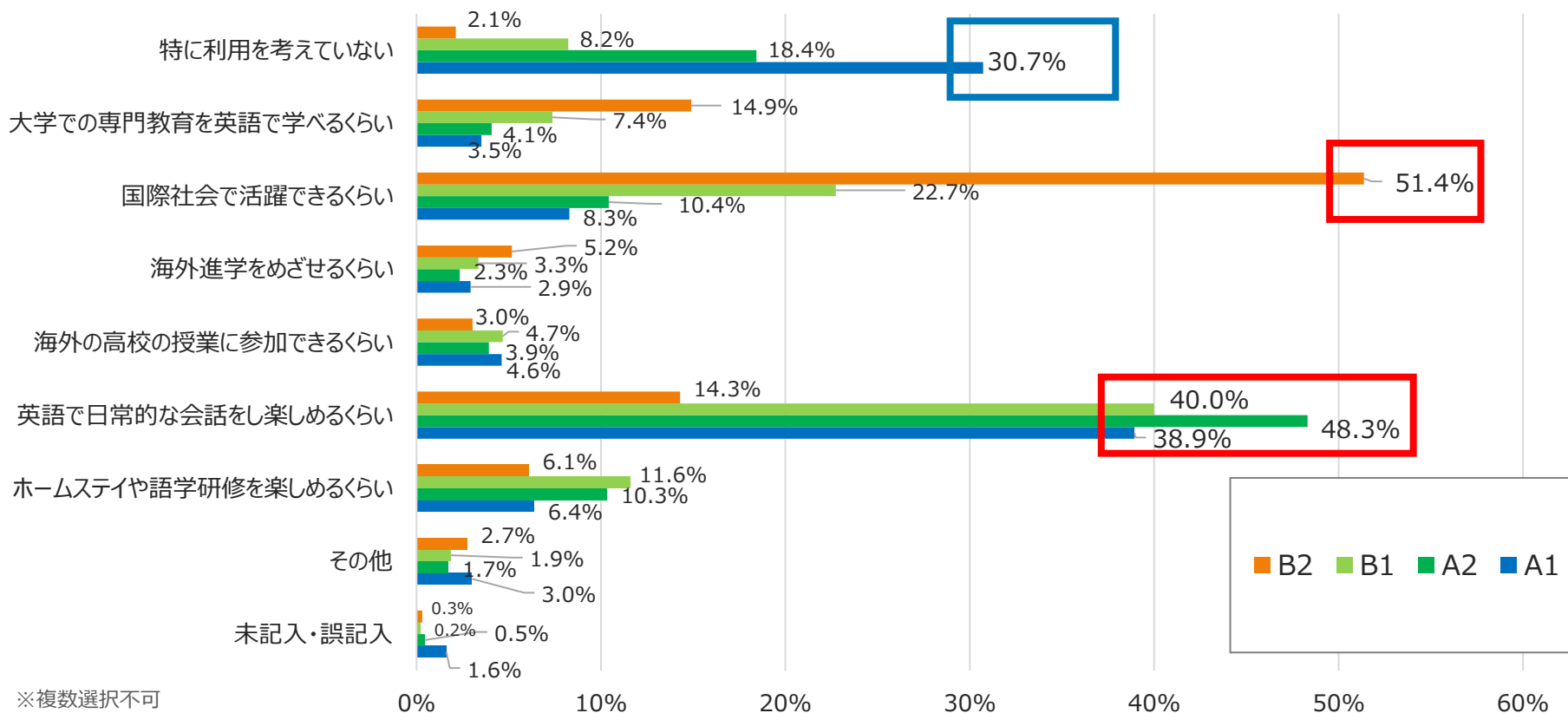


※高1はCEFR B2が測定範囲外であること、高3は大学入学試験の影響等があることから高2のみを対象に分析。
 ※【高2 (c)】各CEFRレベルの集計人数は、B2: 376人、B1: 7,172人、A2: 14,710人、A1: 1,560人、Pre-A1: 10人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。

1.7.11 英語を身につけたい程度【高2 CEFR別】

- CEFR B2では、約51%が「国際社会で活躍できるくらい」と回答
- CEFR A1～B1では、「英語で日常的な会話をし楽しめるくらい」と回答した割合が最も多い
- CEFR A1では、「特に利用を考えていない」という生徒が約31%

質問：現在、英語をどの程度まで身につけたいと思っていますか。最も近いものを次のうちから選んでください。



※複数選択不可

※高1はCEFR B2が測定範囲外であること、高3は大学入学試験の影響等があることから高2のみを対象に分析。
 ※【高2 (c)】各CEFRレベルの集計人数は、B2: 376人、B1: 7,172人、A2: 14,710人、A1: 1,560人、Pre-A1: 10人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。

1.7.12 文脈から語句の意味を推測して調べること【高2 CEFR別】

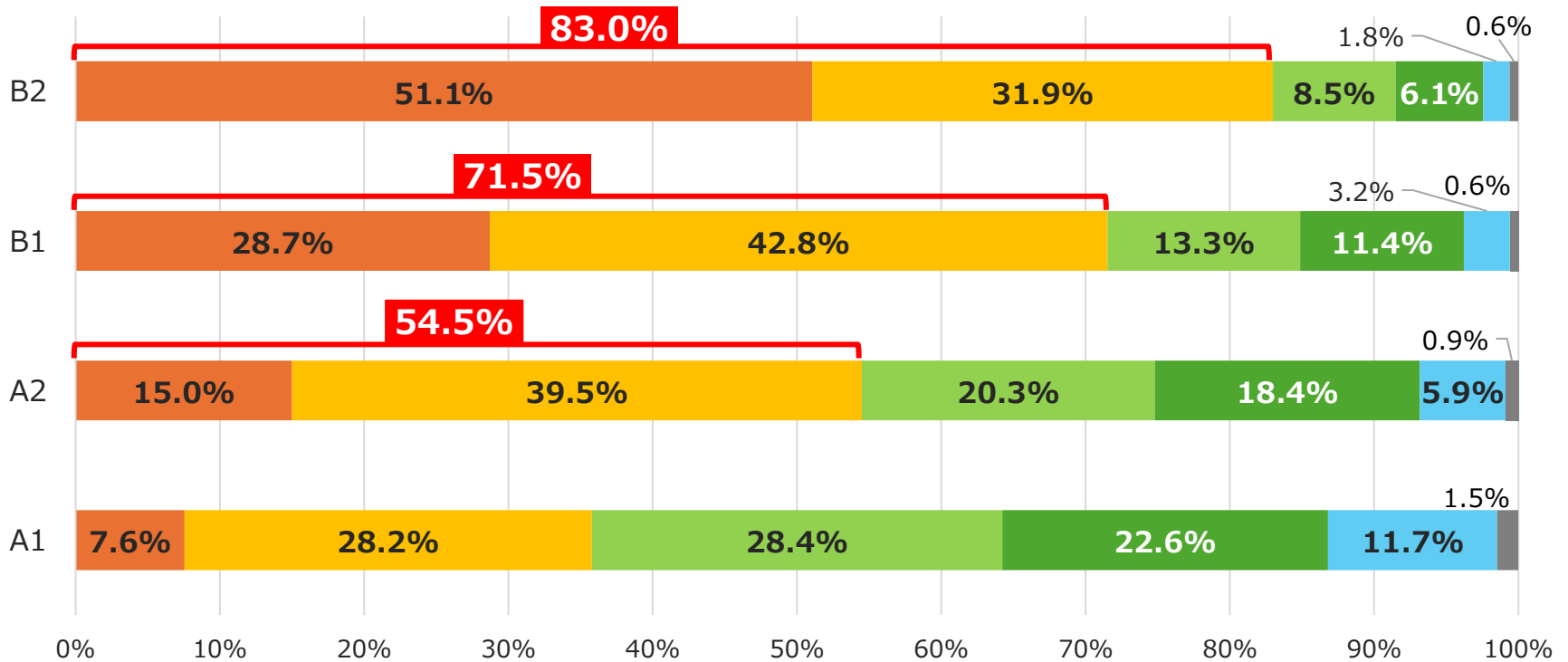
- CEFR B1・B2では約72～83%が「とても（やや）あてはまる」と回答しているが、A2では約55%

質問：英語の学習における次の内容について、最も近いものを次の1～5のうちから1つ選んでください。

「知らない単語や表現は、前後の文脈から語句の意味を考え、推測してから辞書などで確認するようにしている」

選択肢：

- 1 - とてもあてはまる
- 2 - ややあてはまる
- 3 - どちらともいえない
- 4 - あまりあてはまらない
- 5 - あてはまらない
- 99 - 未記入・誤記入



※高1はCEFR B2が測定範囲外であること、高3は大学入学試験の影響等があることから高2のみを対象に分析。
 ※【高2(c)】各CEFRレベルの集計人数は、B2: 376人、B1: 7,172人、A2: 14,710人、A1: 1,560人、Pre-A1: 10人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。

1.7.13 英文の構造を理解しながら読むこと【高2 CEFR別】

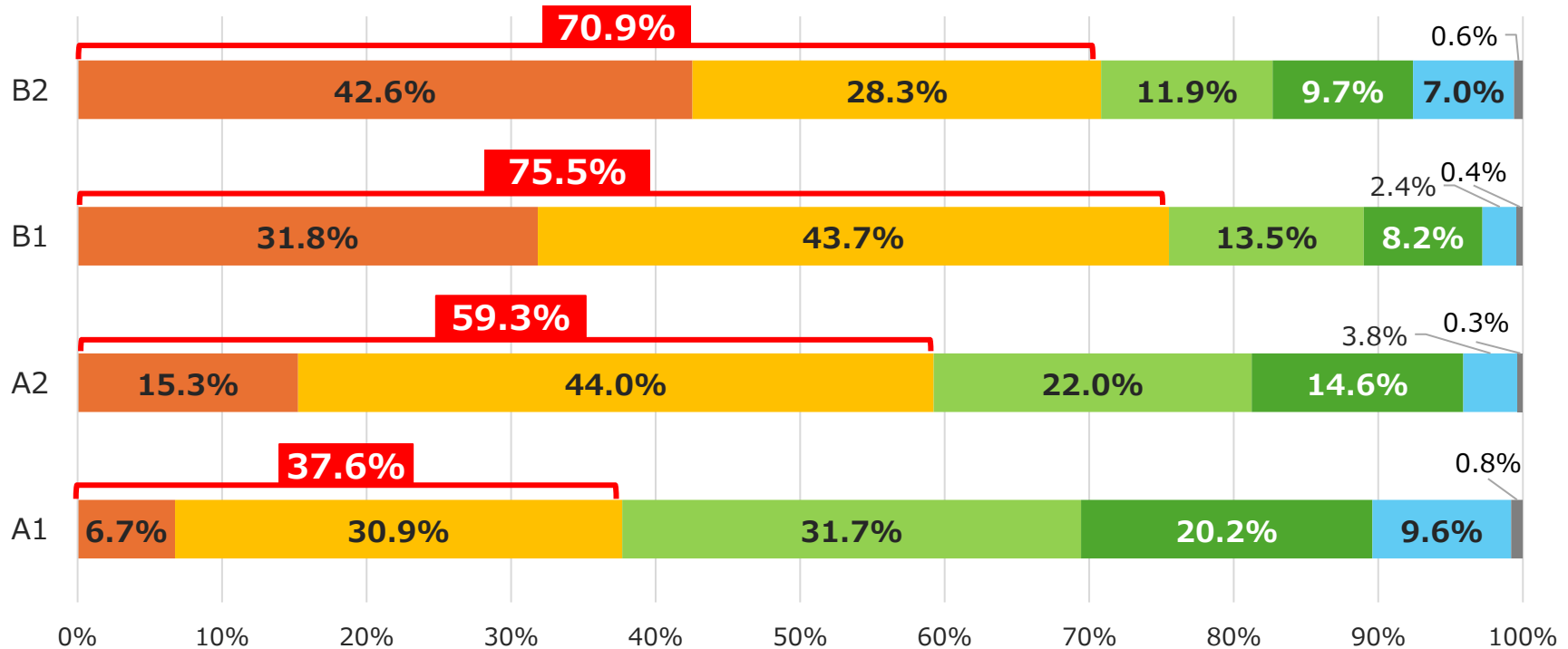
- CEFR B1・B2では約71%以上、A2では約59%が「とても（やや）あてはまる」と回答し、A1では約38%

質問：英語の学習における次の内容について、最も近いものを次の1～5のうちから1つ選んでください。

「英語を読むとき、英文の構造（主語・動詞や節のまとまりなど）を理解するようにしている」

選択肢：

- 1 - とてもあてはまる
- 2 - ややあてはまる
- 3 - どちらともいえない
- 4 - あまりあてはまらない
- 5 - あてはまらない
- 99 - 未記入・誤記入



※高1はCEFR B2が測定範囲外であること、高3は大学入学試験の影響等があることから高2のみを対象に分析。
 ※【高2 (c)】各CEFRレベルの集計人数は、B2: 376人、B1: 7,172人、A2: 14,710人、A1: 1,560人、Pre-A1: 10人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。

1.7.14 意味の区切りを意識して英語を聞いて話すこと【高2 CEFR別】

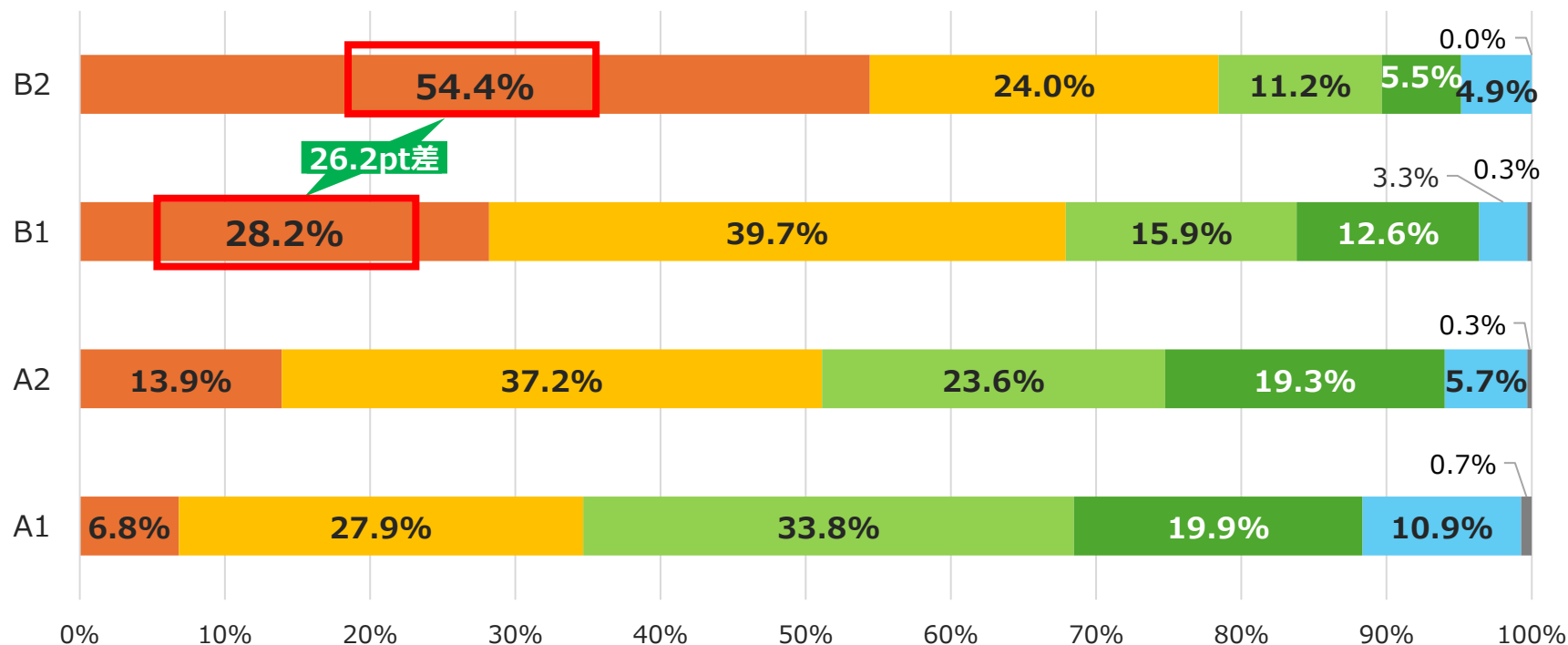
- CEFR B2で約54%が「とてもあてはまる」と回答し、B1との間に約26ポイントの差

質問：英語の学習における次の内容について、最も近いものを次の1～5のうちから1つ選んでください。

「英語を聞いたり話したりするとき、発音、リズム、イントネーション、意味の区切りなど意識するようにしている」

選択肢：

- 1 - とてもあてはまる
- 2 - ややあてはまる
- 3 - どちらともいえない
- 4 - あまりあてはまらない
- 5 - あてはまらない
- 99 - 未記入・誤記入



※高1はCEFR B2が測定範囲外であること、高3は大学入学試験の影響等があることから高2のみを対象に分析。

※【高2(c)】各CEFRレベルの集計人数は、B2: 376人、B1: 7,172人、A2: 14,710人、A1: 1,560人、Pre-A1: 10人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。

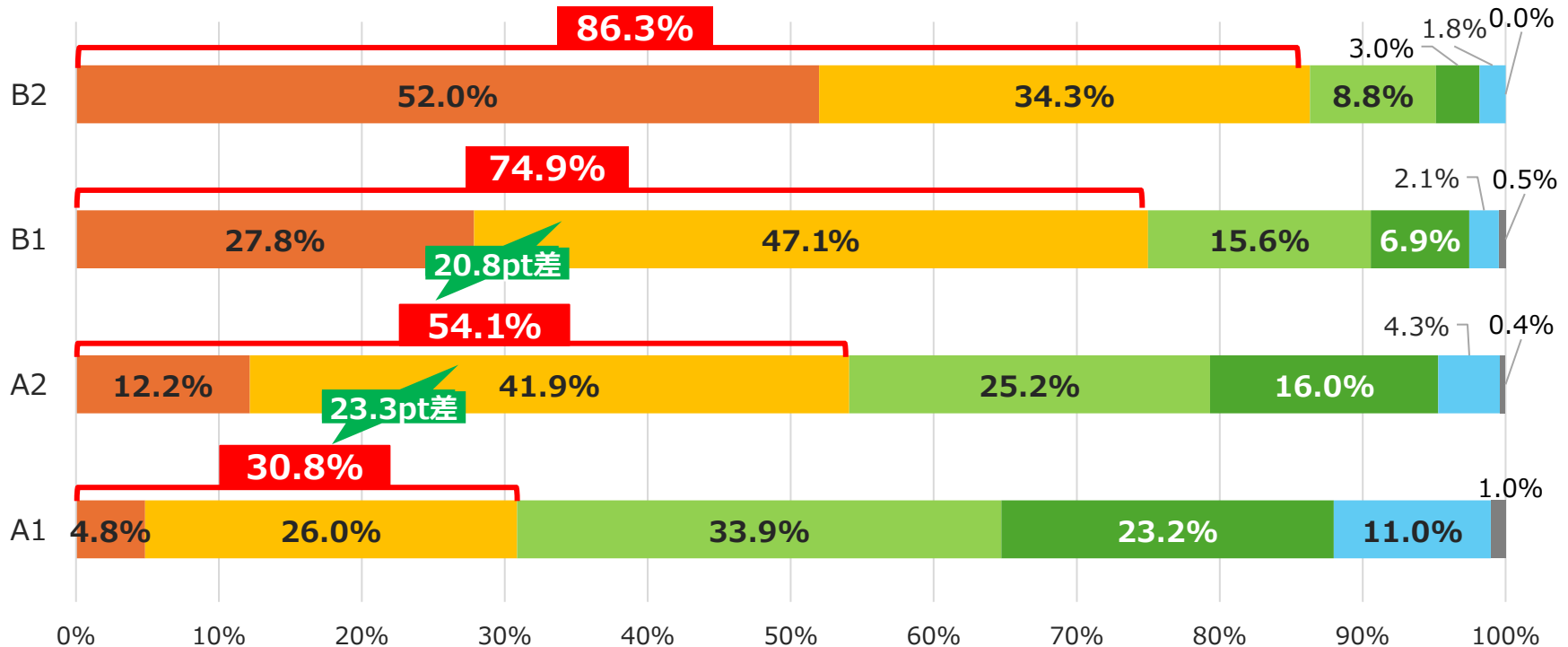
1.7.15 英文の主旨や筆者の主張をとらえること【高2 CEFR別】

- 「とても（やや）あてはまる」と回答した割合は、CEFR B1とA2、A2とA1との間でそれぞれ20ポイント以上差がある

質問：英語の学習における次の内容について、最も近いものを次の1～5のうちから1つ選んでください。
 「英語を読んだり聞いたりするとき、ある程度のまとまりで主旨を把握したり文章全体の筆者の主張をとらえたりするようにしている」

選択肢：

- 1 - とてもあてはまる
- 2 - ややあてはまる
- 3 - どちらともいえない
- 4 - あまりあてはまらない
- 5 - あてはまらない
- 99 - 未記入・誤記入



※高1はCEFR B2が測定範囲外であること、高3は大学入学試験の影響等があることから高2のみを対象に分析。
 ※【高2 (c)】各CEFRレベルの集計人数は、B2: 376人、B1: 7,172人、A2: 14,710人、A1: 1,560人、Pre-A1: 10人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。

1.7.16 英文から筆者の意図や心情を推測すること【高2 CEFR別】

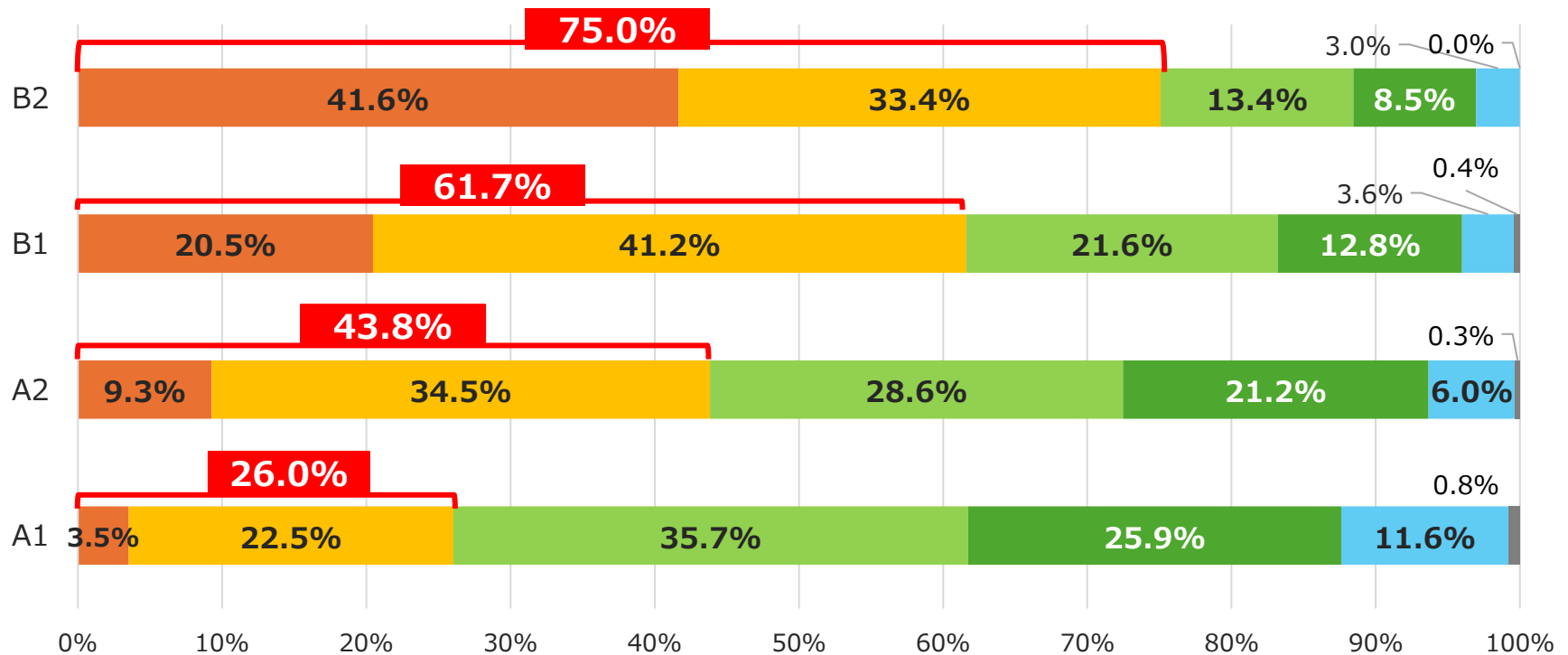
- CEFR B1・B2では、約62～75%が「とても（やや）あてはまる」と回答しているが、A1・A2では半数を下回る

質問：英語の学習における次の内容について、最も近いものを次の1～5のうちから1つ選んでください。

「英語を読んだり聞いたりするとき、文章全体を通して筆者の意図や気持ちを推測してとらえるようにしている」

選択肢：

- 1 - とてもあてはまる
- 2 - ややあてはまる
- 3 - どちらともいえない
- 4 - あまりあてはまらない
- 5 - あてはまらない
- 99 - 未記入・誤記入



※高1はCEFR B2が測定範囲外であること、高3は大学入学試験の影響等があることから高2のみを対象に分析。
 ※【高2 (c)】各CEFRレベルの集計人数は、B2: 376人、B1: 7,172人、A2: 14,710人、A1: 1,560人、Pre-A1: 10人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。

1.7.17 英文の情報を詳細にとらえ要点を把握すること【高2 CEFR別】

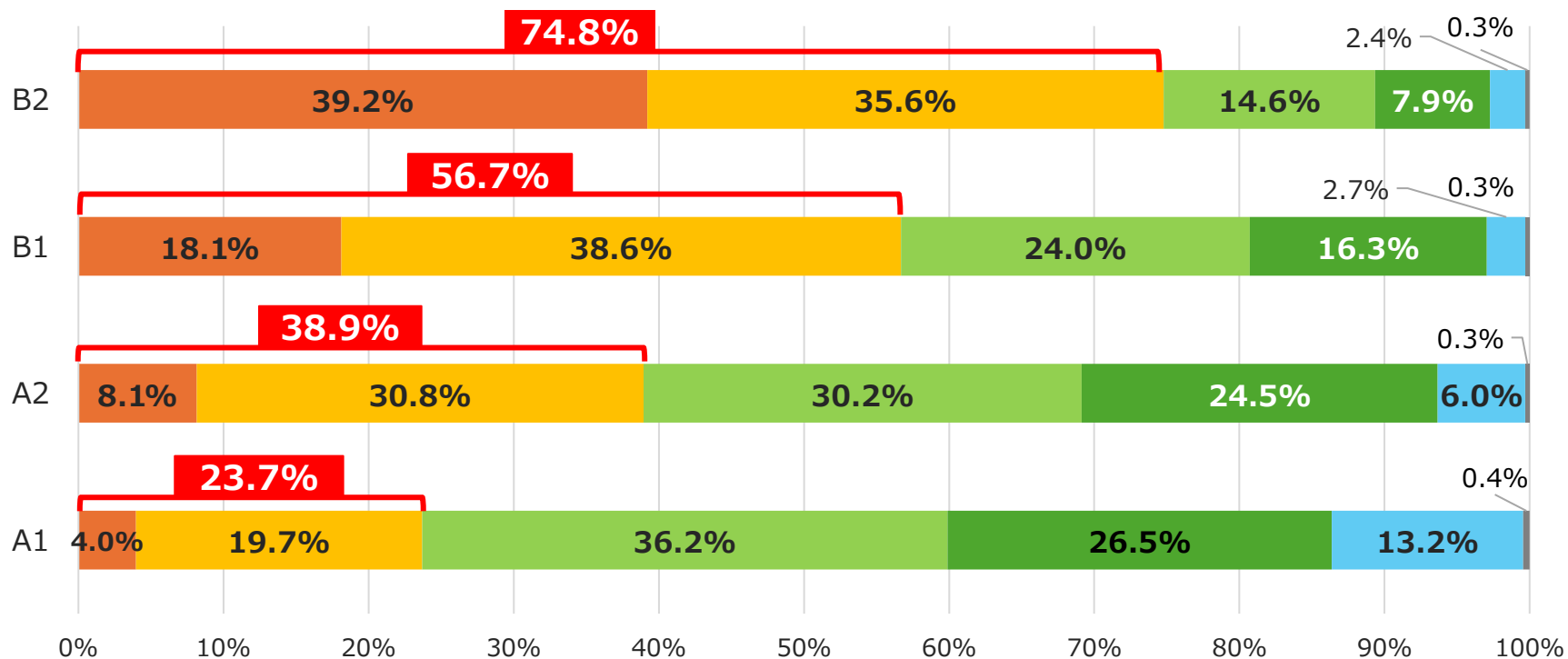
- CEFR B1・B2では、約57～75%が「とても（やや）あてはまる」と回答しているが、A1・A2では40%を下回る

質問：英語の学習における次の内容について、最も近いものを次の1～5のうちから1つ選んでください。

「英語を読んだり聞いたりするとき、要点を把握するうえで必要な情報を細部まで正確にとらえるように意識している」

選択肢：

- 1 - とてもあてはまる
- 2 - ややあてはまる
- 3 - どちらともいえない
- 4 - あまりあてはまらない
- 5 - あてはまらない
- 99 - 未記入・誤記入



※高1はCEFR B2が測定範囲外であること、高3は大学入学試験の影響等があることから高2のみを対象に分析。

※【高2 (c)】各CEFRレベルの集計人数は、B2: 376人、B1: 7,172人、A2: 14,710人、A1: 1,560人、Pre-A1: 10人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。

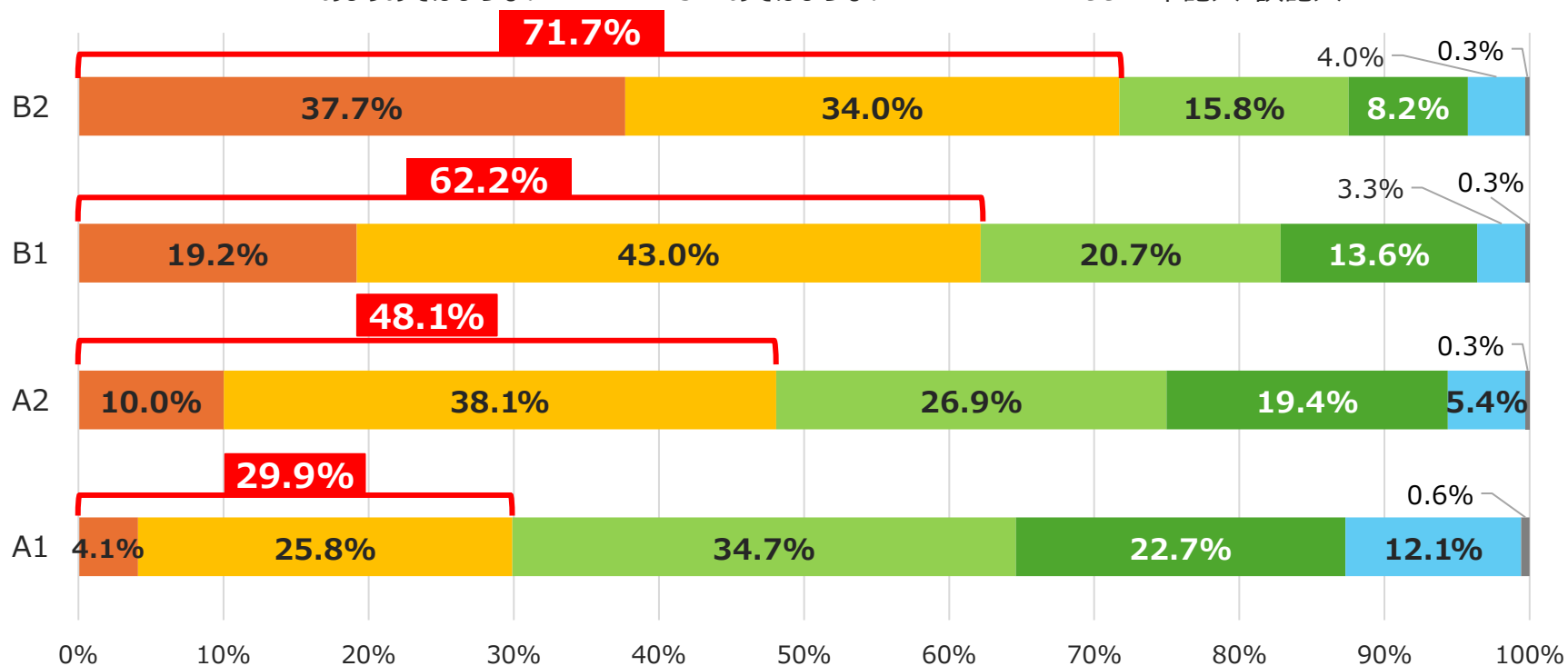
1.7.18 段落の関係を意識して英文の内容を理解すること【高2 CEFR別】

- CEFR B1・B2では、約62～72%が「とても（やや）あてはまる」と回答しているが、A1・A2では半数を下回る

質問：英語の学習における次の内容について、最も近いものを次の1～5のうちから1つ選んでください。
「英語を読んだり聞いたりするとき、段落どうしの関係に注意して、内容を理解するようにしている」

選択肢：

- 1 - とてもあてはまる
- 2 - ややあてはまる
- 3 - どちらともいえない
- 4 - あまりあてはまらない
- 5 - あてはまらない
- 99 - 未記入・誤記入



※高1はCEFR B2が測定範囲外であること、高3は大学入学試験の影響等があることから高2のみを対象に分析。

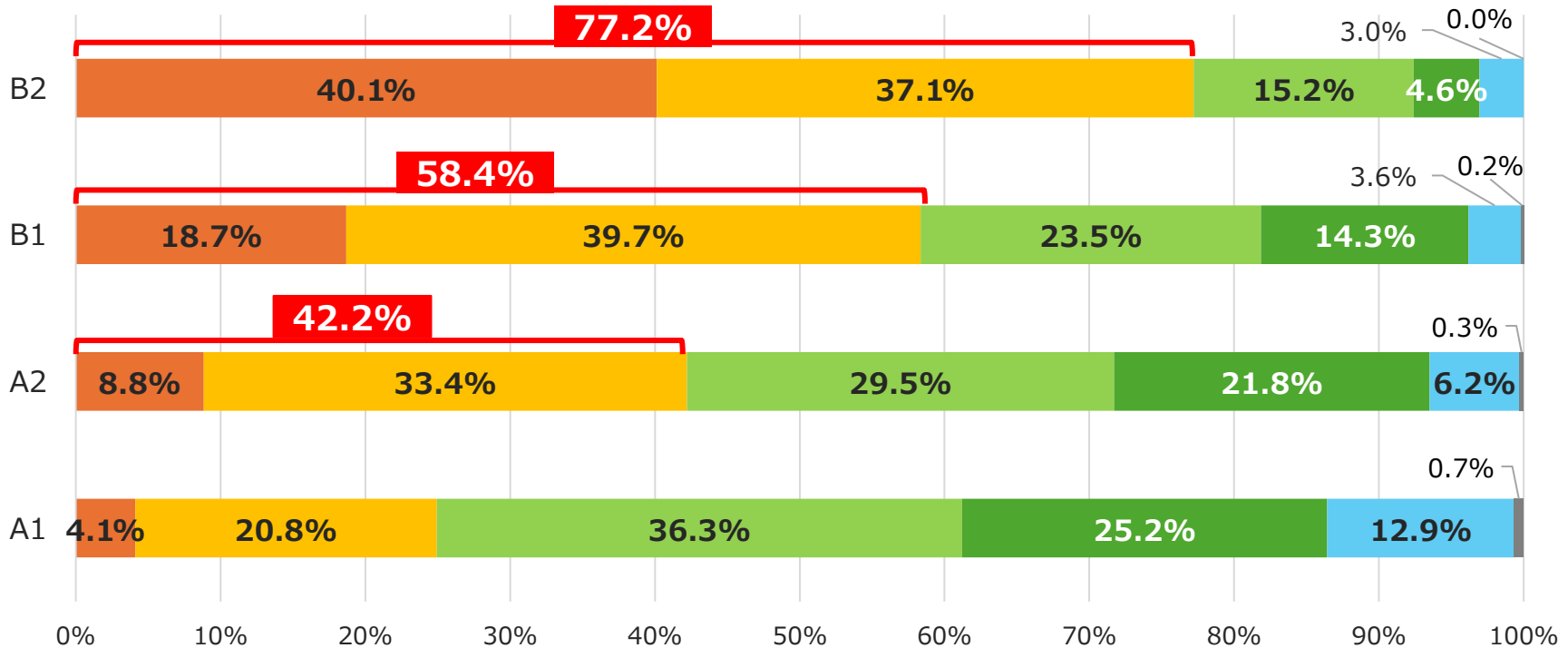
※【高2(c)】各CEFRレベルの集計人数は、B2: 376人、B1: 7,172人、A2: 14,710人、A1: 1,560人、Pre-A1: 10人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。

1.7.19 英語で産出する際の適切な表現の選択と論理性への注意の有無【高2 CEFR別】

- CEFR B2では約77%が「とても（やや）あてはまる」と回答し、そのうちの約40%が「とてもあてはまる」と回答
- CEFR B1ではB2と比べて「とてもあてはまる」が20%以上低下し、A2ではさらに約10%低下

質問：英語の学習における次の内容について、最も近いものを次の1～5のうちから1つ選んでください。
 「英語で話したり書いたりするとき、話題や伝える場面に応じた表現を使って、
 論理性に注意しながら伝えるようにしている」

- 選択肢：
- 1 - とてもあてはまる
 - 2 - ややあてはまる
 - 3 - どちらともいえない
 - 4 - あまりあてはまらない
 - 5 - あてはまらない
 - 99 - 未記入・誤記入



※高1はCEFR B2が測定範囲外であること、高3は大学入学試験の影響等があることから高2のみを対象に分析。
 ※【高2 (c)】各CEFRレベルの集計人数は、B2: 376人、B1: 7,172人、A2: 14,710人、A1: 1,560人、Pre-A1: 10人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。

1.7.20 難しくてもあきらめずに英語で表現すること【高2 CEFR別】

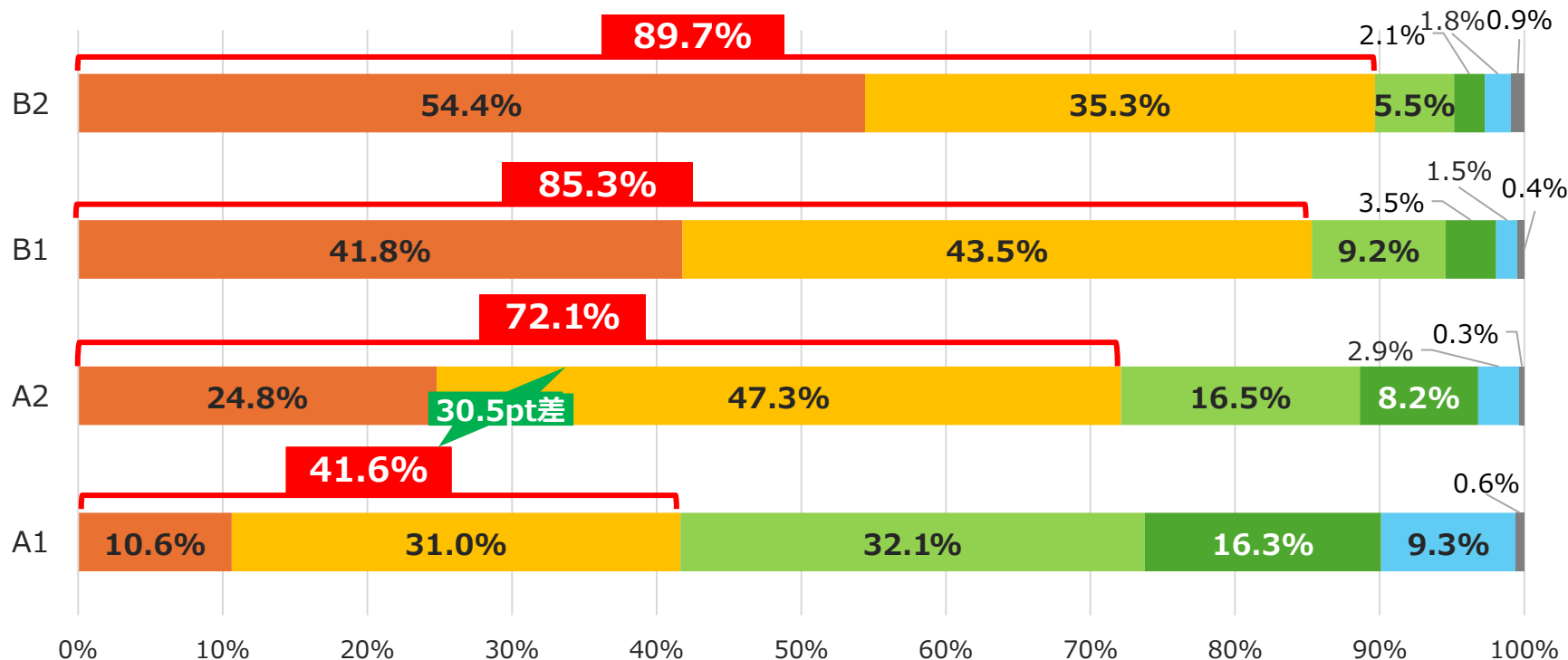
- CEFR A2～B2では、「とても（やや）あてはまる」と回答した割合が70%以上であるが、A1では約42%で、A2との間に約31ポイントの差
- CEFR B1ではB2と比べて「とてもあてはまる」が約13%低下し、A2ではさらに約17%低下

質問：英語の学習における次の内容について、最も近いものを次の1～5のうちから1つ選んでください。

「英語で表現することが難しくても、あきらめずに知っている語彙や文法で表現しようとしている」

選択肢：

- 1 - とてもあてはまる
- 2 - ややあてはまる
- 3 - どちらともいえない
- 4 - あまりあてはまらない
- 5 - あてはまらない
- 99 - 未記入・誤記入



※高1はCEFR B2が測定範囲外であること、高3は大学入学試験の影響等があることから高2のみを対象に分析。

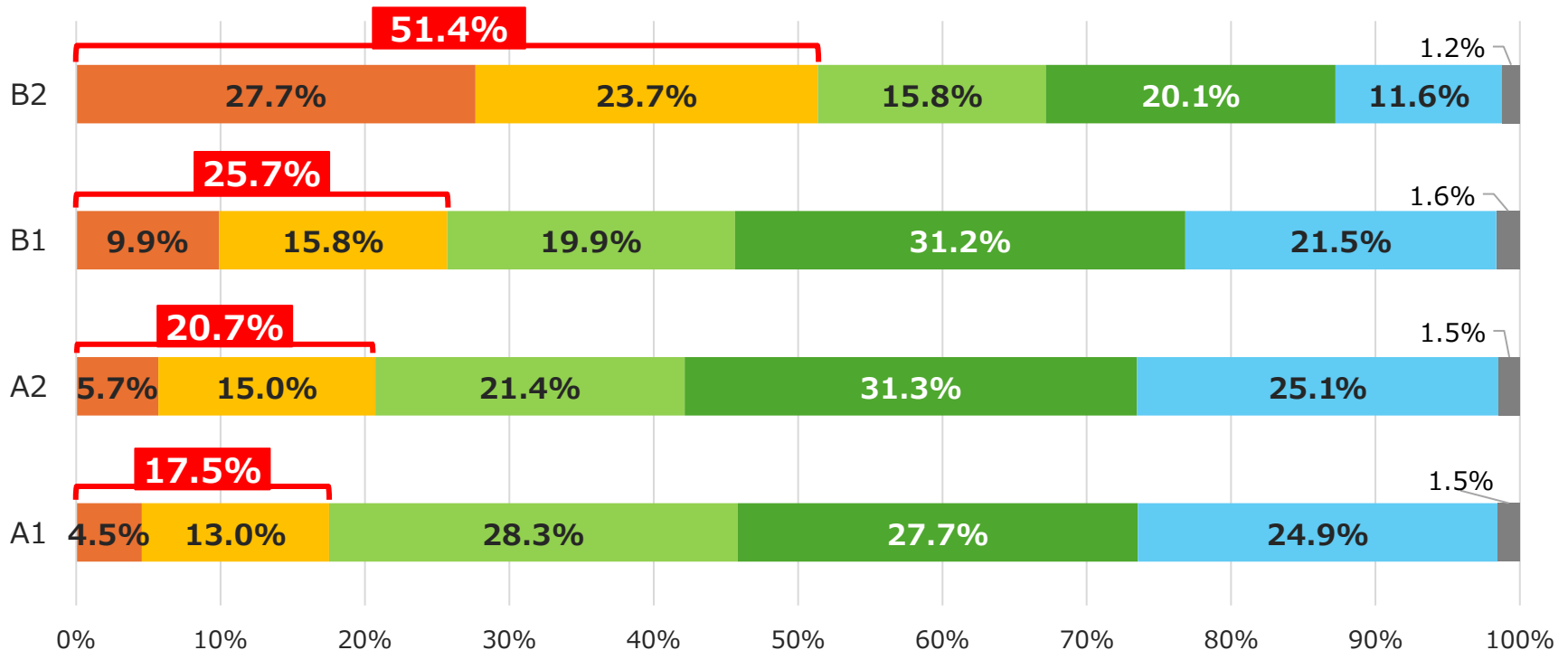
※【高2(c)】各CEFRレベルの集計人数は、B2: 376人、B1: 7,172人、A2: 14,710人、A1: 1,560人、Pre-A1: 10人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。

1.7.21 積極的に英語を話すようにしていること【高2 CEFR別】

- CEFR B2でも「とても（やや）あてはまる」と回答した割合は約51%で、CEFR A1～B1では約18～26%

質問：英語の学習における次の内容について、最も近いものを次の1～5のうちから1つ選んでください。
 「ネイティブの先生に英語で話しかけるなど、積極的に英語を話すようにしている」

- 選択肢：
- 1 - とてもあてはまる
 - 2 - ややあてはまる
 - 3 - どちらともいえない
 - 4 - あまりあてはまらない
 - 5 - あてはまらない
 - 99 - 未記入・誤記入



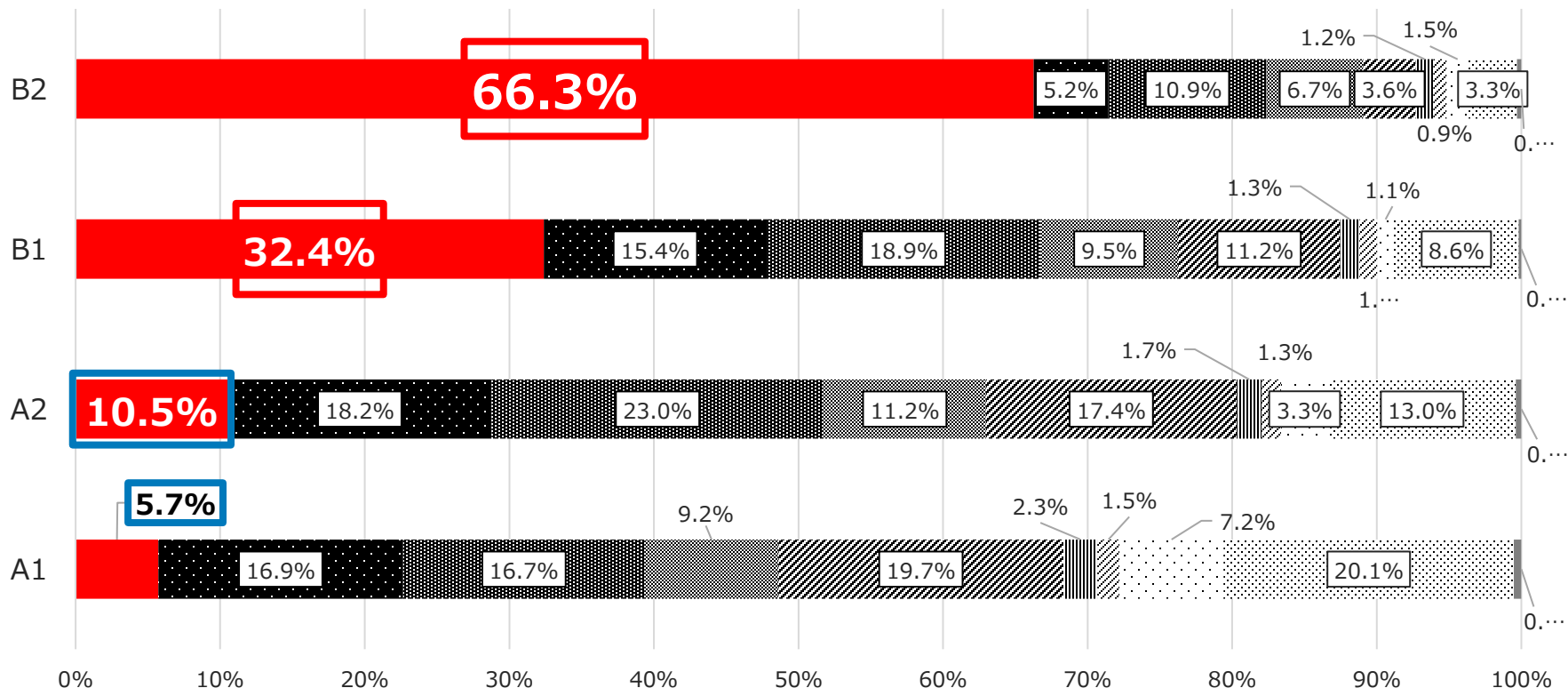
※高1はCEFR B2が測定範囲外であること、高3は大学入学試験の影響等があることから高2のみを対象に分析。
 ※【高2 (c)】各CEFRレベルの集計人数は、B2: 376人、B1: 7,172人、A2: 14,710人、A1: 1,560人、Pre-A1: 10人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。

1.7.22 得意教科【高2 CEFR別】

- CEFR B2では約66%、B1では約32%の生徒が英語が最も得意だと感じており、他教科と比べて最も多い
- CEFR A1・A2では、英語が最も得意だと感じる生徒は約6～11%

質問：最も得意だと感じる教科はどれですか。1つ選んでください。

選択肢：
 ■ 1 - 英語
 ▨ 2 - 国語
 ▩ 3 - 数学
 ▤ 4 - 理科
 ▧ 5 - 社会（地歴）
 ▨ 6 - 社会（公民）
 ▩ 7 - 情報
 ▤ 8 - その他
 ▧ 9 - なし
 ■ 99 - 未記入・誤記入



※高1はCEFR B2が測定範囲外であること、高3は大学入学試験の影響等があることから高2のみを対象に分析。

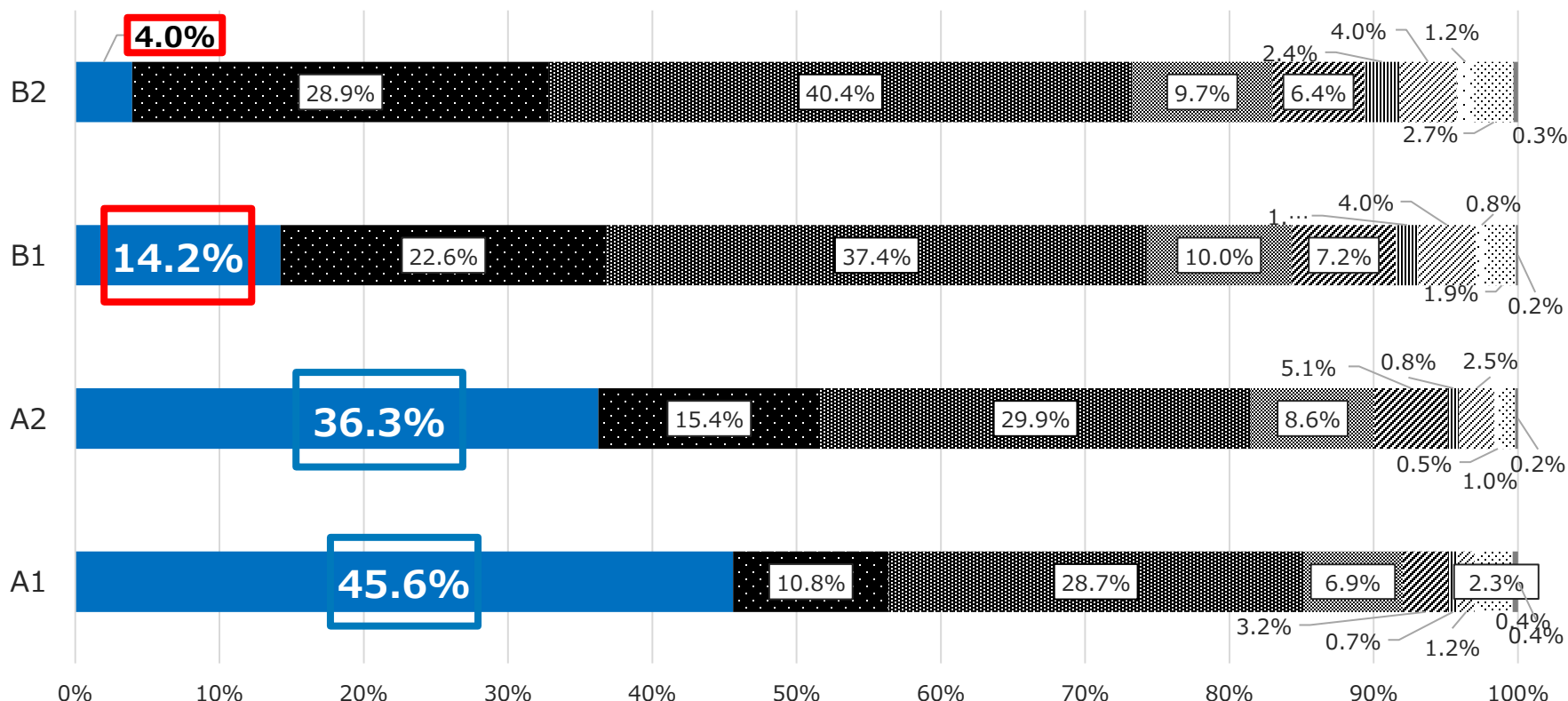
※【高2 (c)】各CEFRレベルの集計人数は、B2: 376人、B1: 7,172人、A2: 14,710人、A1: 1,560人、Pre-A1: 10人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。

1.7.23 苦手教科【高2 CEFR別】

- CEFR A1・A2では、英語を最も苦手だと感じる生徒が最も多い
- CEFR B1・B2では、英語を最も苦手だと感じる生徒はB1で約14%、B2では約4%

質問：最も苦手だ（わかりにくい）と感じる教科はどれですか。1つ選んでください。

- 選択肢：
- 1 - 英語
 - 2 - 国語
 - 3 - 数学
 - 4 - 理科
 - ▨ 5 - 社会（地歴）
 - ▨ 6 - 社会（公民）
 - ▨ 7 - 情報
 - ▨ 8 - その他
 - ▨ 9 - なし
 - 99 - 未記入・誤記入



※高1はCEFR B2が測定範囲外であること、高3は大学入学試験の影響等があることから高2のみを対象に分析。

※【高2 (c)】各CEFRレベルの集計人数は、B2: 376人、B1: 7,172人、A2: 14,710人、A1: 1,560人、Pre-A1: 10人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。

1.8 高校 付録

使用問題版

学年	実施回	タイプ (注1)
高1	第38, 48, 66回	Basic
高2	第39, 49, 67回	Advanced
高3	第38, 48, 66回	Advanced

注1 : Basicタイプ (高1) の測定可能範囲は、トータルスコア 0(Pre-A1)~1080(B1.2) [各技能0(Pre-A1)~270(B1.2 *SpeakingのみB1.1)]
Advancedタイプ (高2・3) の測定可能範囲は、トータルスコア 0(Pre-A1)~1280(B2) [各技能0(Pre-A1)~ 320(B2)]
測定可能範囲を越えた英語力を持つ生徒の結果は、測定上限のスコアおよびCEFR/CEFR-Jで表示されるため天井効果 (より高い能力だとしても上限スコアに留まる) が発生する可能性がある。平均、標準偏差およびその推移を確認するにあたっては、スコアの天井効果による影響がある点に留意する必要がある。

1.8.1 高1 4技能別スコア 経年比較

R1年度

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
270	1.0%	0.8%	4.7%	0.9%
260~	0.6%	0.4%	9.4%	0.5%
250~	0.8%	0.6%	11.7%	1.4%
240~	1.1%	0.9%	9.7%	2.1%
230~	1.4%	1.3%	10.5%	10.9%
220~	1.9%	1.8%	9.9%	13.0%
210~	2.5%	2.4%	9.2%	8.9%
200~	3.5%	3.3%	7.5%	10.1%
190~	4.3%	4.1%	6.8%	7.0%
180~	5.5%	5.6%	5.1%	17.8%
170~	6.9%	6.8%	4.0%	6.4%
160~	7.8%	8.2%	3.0%	5.4%
150~	9.4%	9.7%	2.4%	3.2%
140~	10.1%	10.5%	1.8%	4.3%
130~	9.8%	11.3%	1.2%	2.3%
120~	9.2%	10.5%	0.8%	1.1%
110~	8.0%	8.9%	0.8%	0.8%
100~	6.1%	6.2%	0.5%	0.8%
90~	4.5%	3.6%	0.3%	0.4%
80~	2.7%	1.6%	0.2%	0.2%
70~	1.5%	0.8%	0.1%	0.2%
60~	0.7%	0.3%	0.1%	0.2%
50~	0.3%	0.2%	0.1%	0.0%
40~	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%
30~	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%
20~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
10~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
0~	0.0%	0.0%	0.1%	2.1%

R3年度

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
270	1.7%	1.1%	3.1%	0.0%
260~	0.6%	0.6%	4.2%	0.5%
250~	0.9%	0.7%	5.8%	0.6%
240~	1.1%	1.1%	8.9%	4.8%
230~	1.6%	1.3%	10.2%	8.7%
220~	2.2%	1.7%	11.2%	14.0%
210~	2.7%	2.5%	11.0%	6.6%
200~	3.6%	3.4%	9.9%	10.7%
190~	4.4%	4.3%	8.8%	22.3%
180~	5.4%	5.5%	8.3%	12.4%
170~	6.6%	7.0%	6.0%	3.7%
160~	7.4%	8.4%	4.1%	5.6%
150~	8.3%	10.1%	2.8%	2.9%
140~	9.2%	11.1%	2.0%	1.6%
130~	9.1%	11.3%	1.0%	0.7%
120~	8.8%	9.9%	0.9%	1.0%
110~	7.6%	8.0%	0.6%	0.3%
100~	6.4%	5.8%	0.3%	0.2%
90~	4.8%	3.4%	0.5%	0.2%
80~	3.3%	1.7%	0.2%	0.7%
70~	2.1%	0.7%	0.1%	0.2%
60~	1.1%	0.3%	0.0%	0.0%
50~	0.6%	0.1%	0.0%	0.0%
40~	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%
30~	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
20~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
10~	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
0~	0.0%	0.0%	0.2%	2.4%

R6年度

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
270	1.9%	1.3%	2.5%	0.3%
260~	0.7%	0.6%	3.5%	0.4%
250~	1.0%	0.8%	7.9%	0.2%
240~	1.4%	1.3%	8.0%	6.9%
230~	1.6%	1.6%	11.3%	0.1%
220~	2.2%	2.1%	10.6%	10.0%
210~	2.9%	2.9%	11.9%	8.7%
200~	3.5%	3.7%	11.1%	8.5%
190~	4.5%	4.6%	9.0%	14.4%
180~	5.7%	5.7%	6.2%	13.0%
170~	6.8%	7.0%	5.0%	9.4%
160~	7.6%	8.4%	3.6%	6.7%
150~	8.3%	9.2%	3.5%	5.7%
140~	8.8%	10.3%	2.1%	3.4%
130~	8.6%	10.8%	1.1%	3.2%
120~	8.1%	9.7%	0.7%	2.0%
110~	7.2%	7.9%	0.9%	1.3%
100~	6.3%	5.8%	0.4%	1.3%
90~	4.9%	3.4%	0.2%	0.6%
80~	3.6%	1.6%	0.0%	0.0%
70~	2.1%	0.8%	0.0%	0.1%
60~	1.1%	0.3%	0.0%	0.2%
50~	0.6%	0.1%	0.0%	0.0%
40~	0.3%	0.1%	0.0%	0.0%
30~	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
20~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
10~	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
0~	0.0%	0.0%	0.5%	3.8%

平均	150.3	150.6	218.5	191.3
標準偏差	42.2	39.0	39.9	43.9

平均	150.0	152.5	209.8	194.3
標準偏差	45.7	39.7	36.9	41.9

平均	151.2	154.4	210.3	180.8
標準偏差	46.8	41.2	38.0	48.7

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

1.8.2 高1 4技能別CEFR-J / CEFR 経年比較

CEFR-J

R1年度

CEFR-J	Listening	Reading	Speaking	Writing
B1.2	2.3%	1.9%	0.0%	1.4%
B1.1	4.5%	3.9%	14.1%	14.4%
A2.2	10.3%	15.4%	31.9%	21.9%
A2.1	20.3%	24.7%	38.5%	17.1%
A1.3	29.4%	41.3%	12.4%	37.0%
A1.2	27.9%	11.4%	2.4%	5.0%
A1.1	4.2%	1.1%	0.4%	0.8%
Pre-A1	1.3%	0.3%	0.3%	2.3%

R3年度

CEFR-J	Listening	Reading	Speaking	Writing
B1.2	3.2%	2.4%	0.0%	0.5%
B1.1	4.9%	4.1%	7.3%	14.1%
A2.2	10.7%	15.7%	24.9%	20.6%
A2.1	19.4%	25.5%	49.2%	33.0%
A1.3	26.7%	40.2%	15.9%	26.2%
A1.2	27.6%	10.9%	2.2%	2.1%
A1.1	5.4%	1.0%	0.3%	1.0%
Pre-A1	2.2%	0.1%	0.2%	2.4%

R6年度

CEFR-J	Listening	Reading	Speaking	Writing
B1.2	3.6%	2.7%	0.0%	0.6%
B1.1	5.2%	5.0%	6.0%	7.1%
A2.2	10.9%	17.0%	27.2%	18.7%
A2.1	20.1%	24.6%	48.8%	22.9%
A1.3	25.7%	38.7%	15.3%	38.1%
A1.2	26.5%	10.8%	2.1%	7.9%
A1.1	5.7%	1.0%	0.0%	0.6%
Pre-A1	2.2%	0.2%	0.5%	4.0%

CEFR

R1年度

CEFR	Listening	Reading	Speaking	Writing
B1	6.8%	5.8%	14.1%	15.8%
A2	30.5%	40.2%	70.4%	39.0%
A1	61.4%	53.8%	15.2%	42.8%
Pre-A1	1.3%	0.3%	0.3%	2.3%

R3年度

CEFR	Listening	Reading	Speaking	Writing
B1	8.1%	6.5%	7.3%	14.6%
A2	30.1%	41.2%	74.1%	53.6%
A1	59.7%	52.1%	18.4%	29.4%
Pre-A1	2.2%	0.1%	0.2%	2.4%

R6年度

CEFR	Listening	Reading	Speaking	Writing
B1	8.8%	7.7%	6.0%	7.8%
A2	30.9%	41.6%	76.0%	41.6%
A1	58.0%	50.5%	17.4%	46.7%
Pre-A1	2.2%	0.2%	0.5%	4.0%

※話すこと Speakingについて、BasicタイプはB1.2が測定範囲外です。

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。

※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

1.8.3 高2 4技能別スコア 経年比較

R1年度

R3年度

R6年度

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
320	2.1%	0.7%	3.1%	0.0%
310~	0.6%	0.3%	1.4%	0.0%
300~	0.8%	0.4%	1.2%	0.2%
290~	1.0%	0.5%	2.6%	0.3%
280~	1.3%	0.7%	2.7%	2.5%
270~	1.6%	1.0%	7.0%	2.3%
260~	2.0%	1.3%	9.9%	3.9%
250~	2.6%	1.7%	11.8%	7.2%
240~	3.5%	2.2%	11.5%	23.8%
230~	4.3%	3.2%	10.0%	9.7%
220~	5.6%	4.3%	8.8%	11.2%
210~	6.9%	5.6%	7.7%	13.0%
200~	8.3%	7.5%	6.0%	11.2%
190~	9.4%	9.7%	4.8%	3.9%
180~	10.2%	12.1%	3.5%	3.1%
170~	10.2%	13.3%	2.3%	2.8%
160~	9.0%	12.7%	1.6%	1.0%
150~	7.4%	10.4%	1.1%	0.9%
140~	5.5%	6.6%	0.8%	0.3%
130~	3.4%	3.3%	0.5%	0.7%
120~	1.9%	1.5%	0.3%	0.0%
110~	1.1%	0.6%	0.3%	0.0%
100~	0.7%	0.2%	0.3%	0.0%
90~	0.3%	0.1%	0.2%	0.0%
80~	0.2%	0.0%	0.1%	0.0%
70~	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%
60~	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%
50~	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%
40~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
10~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
0~	0.0%	0.0%	0.1%	1.9%

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
320	3.2%	1.1%	1.4%	0.0%
310~	0.9%	0.4%	0.8%	0.0%
300~	1.1%	0.6%	1.4%	0.0%
290~	1.5%	0.8%	2.3%	0.0%
280~	1.8%	1.0%	3.4%	0.1%
270~	2.3%	1.4%	6.6%	0.4%
260~	2.9%	1.8%	8.0%	4.1%
250~	3.5%	2.5%	13.3%	4.1%
240~	4.2%	3.2%	11.6%	20.9%
230~	5.0%	4.1%	12.8%	28.3%
220~	6.2%	5.4%	11.5%	10.5%
210~	7.3%	6.9%	7.8%	18.4%
200~	8.3%	8.7%	6.0%	6.2%
190~	9.0%	10.7%	4.3%	2.4%
180~	9.5%	12.9%	2.9%	1.6%
170~	8.8%	13.5%	1.8%	0.6%
160~	7.6%	11.9%	1.2%	0.3%
150~	6.0%	7.6%	0.9%	0.3%
140~	4.2%	3.8%	0.6%	0.2%
130~	2.9%	1.4%	0.3%	0.0%
120~	1.8%	0.4%	0.2%	0.0%
110~	1.0%	0.1%	0.3%	0.0%
100~	0.5%	0.0%	0.1%	0.0%
90~	0.3%	0.0%	0.1%	0.0%
80~	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
70~	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
60~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
50~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
40~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
10~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
0~	0.0%	0.0%	0.2%	1.6%

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
320	5.6%	4.4%	0.8%	0.2%
310~	1.6%	1.3%	0.6%	0.0%
300~	2.0%	1.8%	0.8%	0.3%
290~	2.4%	2.1%	1.5%	2.0%
280~	3.0%	2.6%	2.7%	0.7%
270~	3.8%	3.3%	6.3%	2.2%
260~	4.3%	4.0%	10.1%	2.3%
250~	5.2%	4.6%	14.4%	8.8%
240~	5.8%	5.7%	14.3%	7.7%
230~	6.3%	6.5%	12.6%	7.9%
220~	6.9%	7.4%	13.1%	14.3%
210~	7.2%	8.0%	7.1%	15.7%
200~	7.4%	8.9%	5.5%	11.1%
190~	7.4%	9.4%	3.8%	10.9%
180~	7.1%	9.1%	2.2%	4.8%
170~	6.4%	8.2%	1.3%	3.6%
160~	5.4%	6.4%	0.8%	2.3%
150~	4.2%	3.6%	0.6%	1.3%
140~	3.0%	1.8%	0.4%	1.1%
130~	2.1%	0.6%	0.2%	0.1%
120~	1.3%	0.2%	0.3%	0.0%
110~	0.8%	0.1%	0.1%	0.1%
100~	0.4%	0.0%	0.1%	0.1%
90~	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%
80~	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
70~	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
60~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
50~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
40~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
10~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
0~	0.0%	0.0%	0.2%	2.5%

平均	195.6	186.9	236.0	223.6
標準偏差	45.7	37.3	42.0	41.6

平均	203.9	195.8	236.8	225.9
標準偏差	48.7	37.9	36.3	34.7

平均	219.2	219.0	237.3	214.6
標準偏差	52.4	45.9	33.1	45.9

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

1.8.4 高2 4技能別CEFR-J / CEFR 経年比較

CEFR-J

R1年度

CEFR-J	Listening	Reading	Speaking	Writing
B2	4.6%	2.7%	3.1%	0.6%
B1.2	7.5%	4.0%	5.2%	8.7%
B1.1	13.4%	9.8%	19.7%	40.7%
A2.2	24.5%	34.9%	33.3%	24.2%
A2.1	29.4%	36.3%	30.7%	15.0%
A1.3	16.3%	12.0%	6.3%	8.1%
A1.2	3.9%	0.2%	1.2%	0.8%
A1.1	0.3%	0.0%	0.3%	0.0%
Pre-A1	0.1%	0.0%	0.3%	1.9%

R3年度

CEFR-J	Listening	Reading	Speaking	Writing
B2	6.8%	3.8%	1.4%	0.0%
B1.2	10.5%	5.7%	4.5%	4.6%
B1.1	15.4%	12.7%	18.1%	53.2%
A2.2	24.6%	39.1%	37.8%	28.8%
A2.1	25.8%	33.0%	32.4%	8.6%
A1.3	13.1%	5.7%	4.9%	3.0%
A1.2	3.5%	0.1%	0.7%	0.1%
A1.1	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%
Pre-A1	0.1%	0.0%	0.2%	1.6%

R6年度

CEFR-J	Listening	Reading	Speaking	Writing
B2	11.7%	12.3%	0.8%	2.5%
B1.2	16.2%	11.8%	3.0%	5.2%
B1.1	19.0%	19.7%	19.1%	24.4%
A2.2	22.0%	35.4%	41.3%	30.0%
A2.1	18.9%	18.1%	31.7%	22.1%
A1.3	9.3%	2.7%	3.3%	13.1%
A1.2	2.7%	0.1%	0.6%	0.2%
A1.1	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%
Pre-A1	0.1%	0.0%	0.2%	2.5%

CEFR

R1年度

CEFR	Listening	Reading	Speaking	Writing
B2	4.6%	2.7%	3.1%	0.6%
B1	20.9%	13.8%	24.9%	49.5%
A2	53.9%	71.2%	64.0%	39.2%
A1	20.5%	12.3%	7.7%	8.8%
Pre-A1	0.1%	0.0%	0.3%	1.9%

R3年度

CEFR	Listening	Reading	Speaking	Writing
B2	6.8%	3.8%	1.4%	0.0%
B1	25.9%	18.3%	22.6%	57.9%
A2	50.4%	72.0%	70.2%	37.4%
A1	16.9%	5.8%	5.6%	3.1%
Pre-A1	0.1%	0.0%	0.2%	1.6%

R6年度

CEFR	Listening	Reading	Speaking	Writing
B2	11.7%	12.3%	0.8%	2.5%
B1	35.2%	31.5%	22.0%	29.6%
A2	40.9%	53.5%	73.0%	52.1%
A1	12.2%	2.8%	3.9%	13.3%
Pre-A1	0.1%	0.0%	0.2%	2.5%

※「GTEC」では測定範囲の関係上、B2に到達しているということを示すために、CEFR-「B2.1」、「B2.2」と記載せず「B2」と表記しています。

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。

※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

1.8.5 高3 4技能別スコア 経年比較

R1年度

R3年度

R6年度

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
320	0.7%	0.2%	2.8%	0.4%
310~	0.4%	0.2%	1.1%	0.3%
300~	0.5%	0.1%	1.4%	1.0%
290~	0.7%	0.2%	2.1%	0.7%
280~	0.8%	0.4%	3.7%	5.1%
270~	1.3%	0.7%	3.1%	2.9%
260~	1.8%	0.7%	12.4%	6.2%
250~	2.4%	1.1%	13.0%	5.0%
240~	3.5%	1.4%	10.5%	3.6%
230~	4.5%	2.3%	9.9%	17.9%
220~	5.8%	3.4%	8.7%	8.7%
210~	7.0%	4.6%	7.1%	9.6%
200~	8.8%	6.5%	6.1%	9.6%
190~	9.8%	8.8%	4.8%	5.9%
180~	10.3%	11.7%	3.4%	10.8%
170~	9.7%	15.1%	2.9%	3.3%
160~	8.7%	15.9%	2.0%	2.8%
150~	7.4%	13.4%	1.5%	2.3%
140~	6.0%	8.2%	0.9%	1.2%
130~	4.1%	3.6%	0.6%	0.6%
120~	2.6%	1.1%	0.4%	0.4%
110~	1.5%	0.2%	0.3%	0.1%
100~	0.9%	0.1%	0.2%	0.1%
90~	0.4%	0.0%	0.1%	0.3%
80~	0.3%	0.0%	0.1%	0.0%
70~	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%
60~	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%
50~	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%
40~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
10~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
0~	0.0%	0.0%	0.2%	1.1%

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
320	1.7%	0.6%	1.5%	0.0%
310~	0.6%	0.4%	1.0%	0.0%
300~	0.8%	0.5%	1.4%	0.0%
290~	0.9%	0.7%	1.7%	0.0%
280~	1.0%	0.8%	3.2%	0.1%
270~	1.6%	1.1%	3.7%	0.3%
260~	2.1%	1.6%	9.1%	3.3%
250~	2.7%	2.2%	10.1%	2.0%
240~	3.8%	2.9%	12.2%	9.7%
230~	4.9%	4.0%	12.5%	22.1%
220~	6.0%	5.4%	9.5%	11.3%
210~	7.4%	6.7%	7.6%	12.0%
200~	8.1%	8.7%	6.4%	15.5%
190~	9.1%	10.9%	5.6%	9.5%
180~	9.2%	12.2%	4.5%	5.2%
170~	9.0%	12.7%	3.2%	3.9%
160~	8.5%	12.1%	2.3%	1.6%
150~	7.5%	8.3%	1.4%	0.6%
140~	5.6%	5.0%	1.1%	0.5%
130~	3.9%	2.1%	0.5%	0.3%
120~	2.7%	0.8%	0.3%	0.2%
110~	1.5%	0.3%	0.3%	0.0%
100~	0.8%	0.1%	0.2%	0.0%
90~	0.4%	0.0%	0.2%	0.0%
80~	0.2%	0.0%	0.1%	0.0%
70~	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%
60~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
50~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
40~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
10~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
0~	0.0%	0.0%	0.3%	1.8%

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
320	3.3%	2.7%	0.8%	0.1%
310~	1.2%	1.0%	0.6%	0.0%
300~	1.3%	1.1%	0.9%	0.0%
290~	1.6%	1.5%	1.4%	1.8%
280~	2.1%	1.8%	2.9%	0.8%
270~	2.6%	2.2%	5.6%	0.9%
260~	3.4%	2.8%	8.5%	0.5%
250~	4.0%	3.7%	14.0%	12.9%
240~	5.2%	4.4%	11.9%	4.5%
230~	5.9%	5.4%	12.0%	13.0%
220~	7.1%	6.3%	9.8%	10.2%
210~	7.4%	7.3%	9.1%	11.7%
200~	8.3%	9.0%	6.8%	16.5%
190~	8.6%	10.7%	5.0%	8.6%
180~	7.9%	11.0%	3.3%	5.6%
170~	7.7%	10.7%	2.7%	4.1%
160~	6.5%	8.2%	1.4%	2.8%
150~	5.1%	5.4%	1.1%	1.9%
140~	3.8%	2.7%	0.8%	1.4%
130~	2.7%	1.2%	0.4%	0.1%
120~	1.8%	0.6%	0.3%	0.3%
110~	1.2%	0.2%	0.4%	0.0%
100~	0.6%	0.1%	0.1%	0.0%
90~	0.3%	0.0%	0.1%	0.1%
80~	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
70~	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
60~	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
50~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
40~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
10~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
0~	0.0%	0.0%	0.3%	2.1%

平均	190.3	180.0	234.3	218.4
標準偏差	42.2	31.9	42.3	44.1

平均	194.3	192.4	230.5	213.7
標準偏差	45.6	36.7	40.6	37.6

平均	207.7	207.6	232.4	212.0
標準偏差	49.8	43.7	37.4	43.4

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約4割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

1.8.6 高3 4技能別CEFR-J / CEFR 経年比較

CEFR-J

R1年度

CEFR-J	Listening	Reading	Speaking	Writing
B2	2.2%	1.2%	2.8%	2.3%
B1.2	6.4%	2.5%	4.6%	14.2%
B1.1	13.8%	7.1%	19.2%	26.5%
A2.2	25.5%	31.6%	33.4%	18.2%
A2.1	28.7%	44.4%	30.2%	15.5%
A1.3	17.4%	13.1%	8.0%	20.5%
A1.2	5.5%	0.1%	1.1%	1.2%
A1.1	0.3%	0.0%	0.4%	0.4%
Pre-A1	0.1%	0.0%	0.3%	1.1%

R3年度

CEFR-J	Listening	Reading	Speaking	Writing
B2	3.9%	2.9%	1.5%	0.0%
B1.2	7.4%	4.8%	4.2%	3.8%
B1.1	14.7%	12.3%	16.0%	33.8%
A2.2	24.6%	38.6%	34.8%	23.3%
A2.1	26.7%	33.0%	33.7%	25.0%
A1.3	17.0%	8.2%	8.5%	11.8%
A1.2	5.4%	0.1%	1.0%	0.6%
A1.1	0.3%	0.0%	0.2%	0.0%
Pre-A1	0.0%	0.0%	0.3%	1.8%

R6年度

CEFR-J	Listening	Reading	Speaking	Writing
B2	7.3%	8.2%	0.8%	2.0%
B1.2	12.1%	8.7%	2.9%	2.2%
B1.1	18.1%	16.1%	16.9%	30.4%
A2.2	24.3%	38.1%	37.8%	21.8%
A2.1	22.1%	24.2%	34.0%	25.2%
A1.3	11.6%	4.6%	6.4%	15.8%
A1.2	4.0%	0.1%	0.8%	0.4%
A1.1	0.3%	0.0%	0.0%	0.1%
Pre-A1	0.1%	0.0%	0.3%	2.1%

CEFR

R1年度

CEFR	Listening	Reading	Speaking	Writing
B2	2.2%	1.2%	2.8%	2.3%
B1	20.2%	9.6%	23.9%	40.7%
A2	54.2%	76.0%	63.7%	33.7%
A1	23.3%	13.2%	9.4%	22.1%
Pre-A1	0.1%	0.0%	0.3%	1.1%

R3年度

CEFR	Listening	Reading	Speaking	Writing
B2	3.9%	2.9%	1.5%	0.0%
B1	22.1%	17.1%	20.1%	37.6%
A2	51.3%	71.6%	68.5%	48.3%
A1	22.6%	8.3%	9.7%	12.4%
Pre-A1	0.0%	0.0%	0.3%	1.8%

R6年度

CEFR	Listening	Reading	Speaking	Writing
B2	7.3%	8.2%	0.8%	2.0%
B1	30.2%	24.8%	19.8%	32.6%
A2	46.4%	62.3%	71.9%	47.0%
A1	15.8%	4.7%	7.2%	16.3%
Pre-A1	0.1%	0.0%	0.3%	2.1%

※「GTEC」では測定範囲の関係上、B2に到達しているということを示すために、CEFR-J「B2.1」、「B2.2」と記載せず「B2」と表記しています。

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。

※集団属性情報【高校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／公立高校が約6割、私立高校が約4割を占める／4年制大学に進学する生徒が約9割以上の学校の生徒が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約5割を占める。

2. 中学校

2.1 中学の母集団について

・調査対象：本調査では、現行学習指導要領とそれ以前の学習指導要領との比較をするために、R1年度旧CS下（小学校・中学の移行期間2年目）、R3年度現行CS下（中1は小6から現行CS、中2・3は現行CS初年度）、R6年度現行CS下（中1は小3より、中2は小4より、中3は小5より現行CS）の生徒を調査対象とした。

	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	小学校 移行期間		小学校 現指導要領 全面实施	小学校 現指導要領 全面实施			
	中学 移行期間			中学 現指導要領 全面实施	中学 現指導要領 全面实施		
	高校 移行期間		高校 現指導要領 学年進行		高校 現指導要領 学年進行		
中学入学年度							
平成26年度	高2	高3	既卒	既卒	既卒	既卒	既卒
平成27年度	高1	高2	高3	既卒	既卒	既卒	既卒
平成28年度	中3	高1	高2	高3	既卒	既卒	既卒
平成29年度	中2	中3	高1	高2	高3	既卒	既卒
平成30年度	中1	中2	中3	高1	高2	高3	既卒
令和元年度	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
令和2年度	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2
令和3年度	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1
令和4年度	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
令和5年度	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2
令和6年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1

2.1 中学の母集団について

データ抽出条件：

1つの学年次において、

(a) - R1年度～R6年度の全年度で「GTEC」を実施した学校の生徒

(b) - (a)かつ下記の問題版を受検している生徒

※集計対象である(b)については、年度間で同一の学校群であるとは限らない

各項目における集計対象

■(b)で集計

2.2 中学 CEFR-J / CEFRLレベルごとの英語4技能の分析

2.3 中学 4技能別解答状況分析（令和6年度）

2.4 中学 付録

使用問題版

学年	実施回	タイプ <small>(注1)</small>
中1	第39, 49, 67回	Core
中2	第39, 49, 67回	Core
中3	第38, 48, 66回	Basic

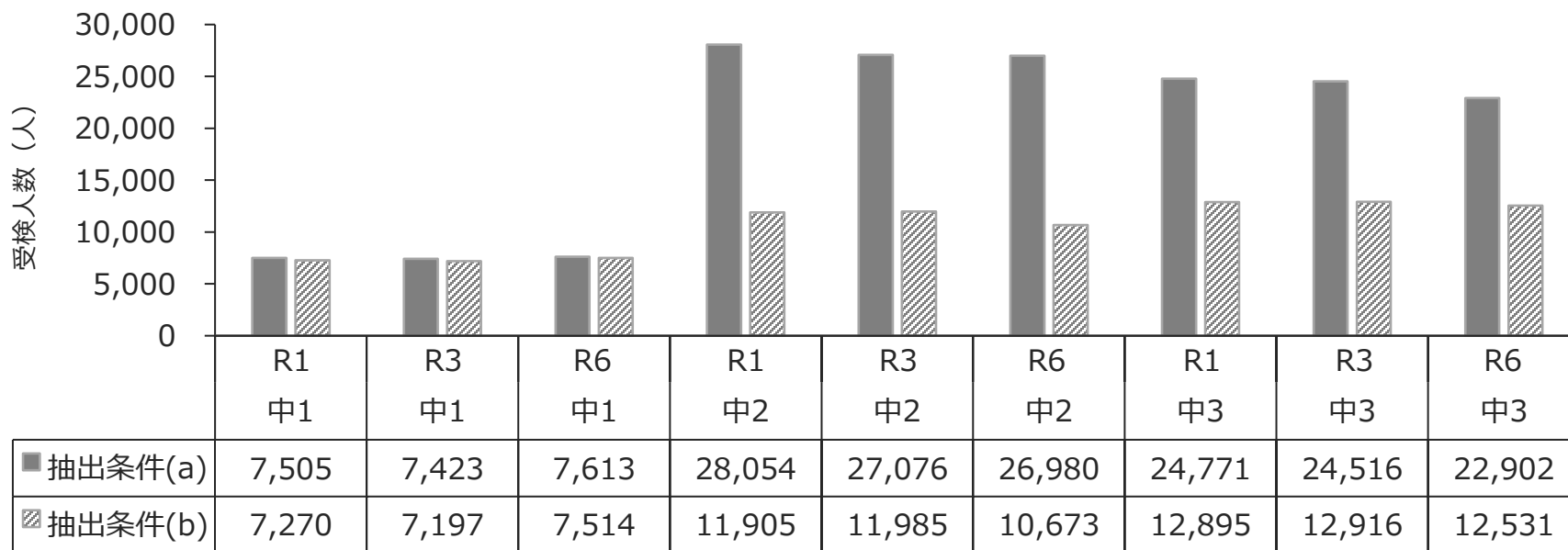
注1：Coreタイプ（中1・2）の測定可能範囲は、トータルスコア0(Pre-A1)～840(A2.2) [各技能 0(Pre-A1)～210(A2.2 *SpeakingのみA2.1)]
Basicタイプ（中3）の測定可能範囲は、トータルスコア0(Pre-A1)～1080(B1.2) [各技能0(Pre-A1)～270(B1.2 *SpeakingのみB1.1)]
測定可能範囲を越えた英語力を持つ生徒の結果は、測定上限のスコアおよびCEFR/CEFR-Jで表示されるため天井効果（より高い能力だとしても上限スコアに留まる）が発生する可能性がある。平均、標準偏差およびその推移を確認するにあたっては、スコアの天井効果による影響がある点に留意する必要がある。

2.1 中学の母集団について

属性情報：

- 学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本
- 中1・2は約3割が公立中学（国立含む）で約7割が私立中学、
中3は約2割が公立中学（国立含む）で約8割が私立中学
※私立の学習環境（授業時間数、教材、進度など）に留意
- 首都圏・近畿の受検者が約6割

学年・実施年度ごとの受検者数



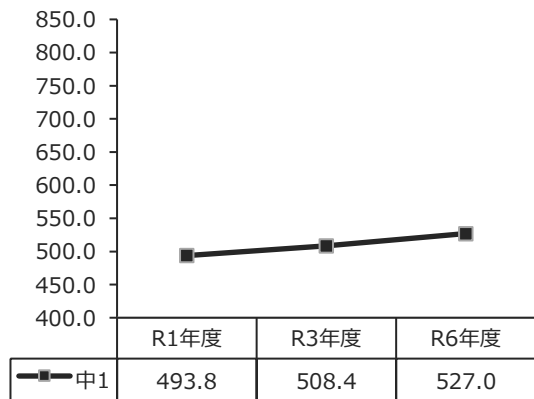
実施年度・学年

2.2.1 中学の全体傾向

- 4技能総合スコアについて、中1・2は「横ばい～上昇」、中3は「横ばい」
- 中1・2のCEFR-Jレベル（平均スコアから換算）はA1.2からA1.3へ「上昇」
- 中3はCEFR-Jレベル（平均スコアから換算）はA2.2からA2.1へ「低下」

4技能総合 全国平均スコア

中1



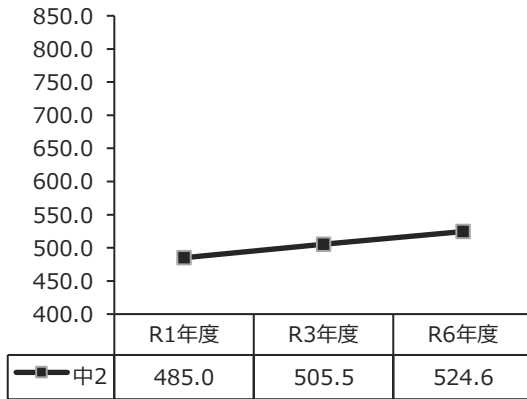
※ η^2 : 0.012

※Cohen's d : R1-R3 -0.113 ; R3-R6 -0.146

平均CEFR	A1	A1	A1
平均CEFR-J	A1.2	A1.2	A1.3

※標準偏差 : R1は127.5、R3は131.8、R6は129.2。

中2



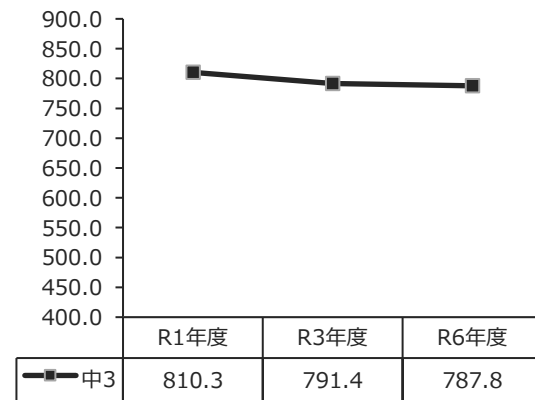
※ η^2 : 0.012

※Cohen's d : R1-R3 -0.137 ; R3-R6 -0.137

平均CEFR	A1	A1	A1
平均CEFR-J	A1.2	A1.2	A1.3

※標準偏差 : R1は150.0、R3は149.8、R6は151.0。

中3



※ η^2 : 0.004

平均CEFR	A2	A2	A2
平均CEFR-J	A2.2	A2.1	A2.1

※標準偏差 : R1は140.3、R3は150.1、R6は154.4。

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※集団属性情報【中学】 : 学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本 / 中1・2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める / 首都圏・近畿の受検者が約6割を占める。

2.2.2 中1 経年比較 4技能総合

- R1年度と比べて、CEFR-J A1.3・A2.1の割合が、R6年度にそれぞれ約6ポイント・約5ポイント増加

CEFR-J	旧CS下	現行CS下 ※小6から現行CS	
	R1年度	R3年度	R6年度
A2.2	2.2%	2.3%	2.1%
A2.1	5.0%	7.7%	10.3%
A1.3	35.9%	38.2%	41.7%
A1.2	43.3%	39.9%	37.2%
A1.1	10.0%	9.6%	6.4%
Pre-A1	3.6%	2.4%	2.1%
A1以上 (累計)	96.4%	97.6%	97.9%

増加

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※文章内のポイント表記は小数点以下第1位を四捨五入しています。

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。

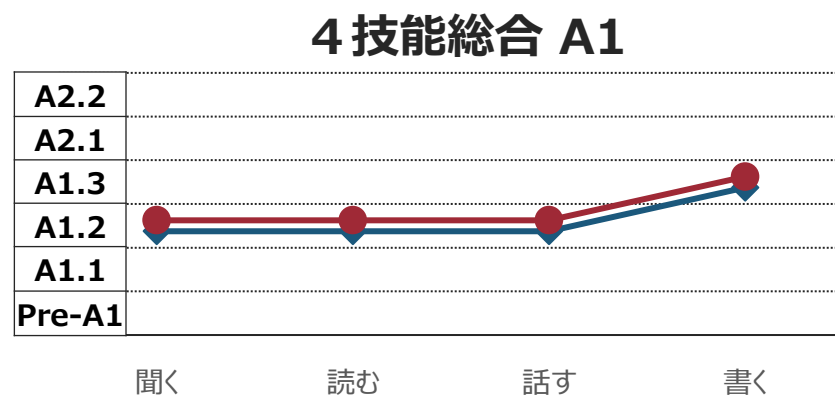
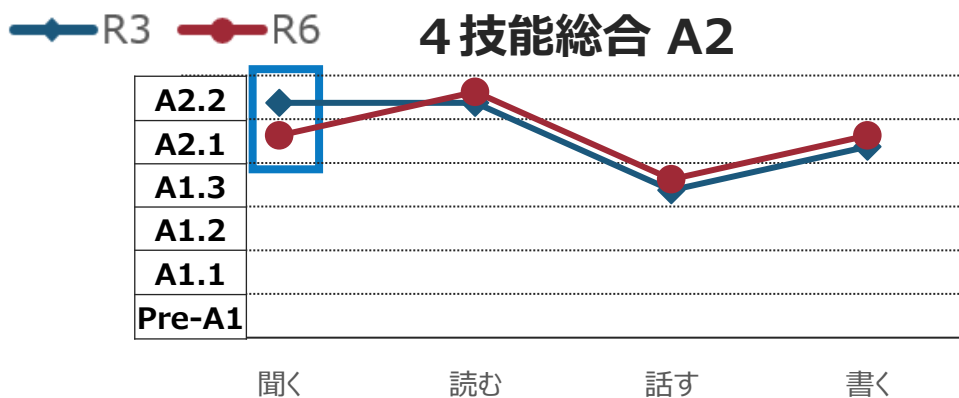
※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占める。

2.2.3 中1 経年比較 4技能総合CEFRLレベルと各技能との関係

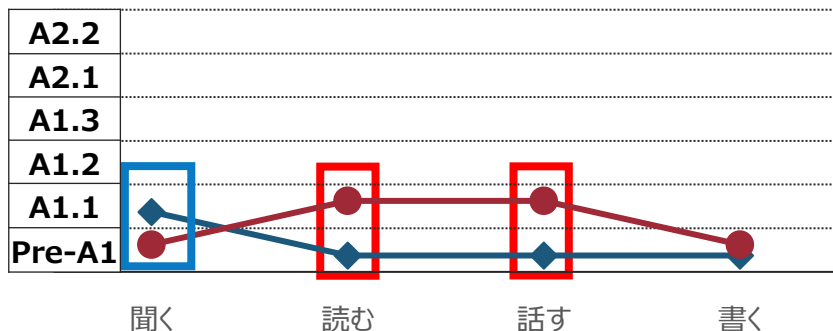
<R3年度とR6年度の比較>

上昇：Pre-A1「読むこと」「話すこと」（CEFR-Jレベル1段階）

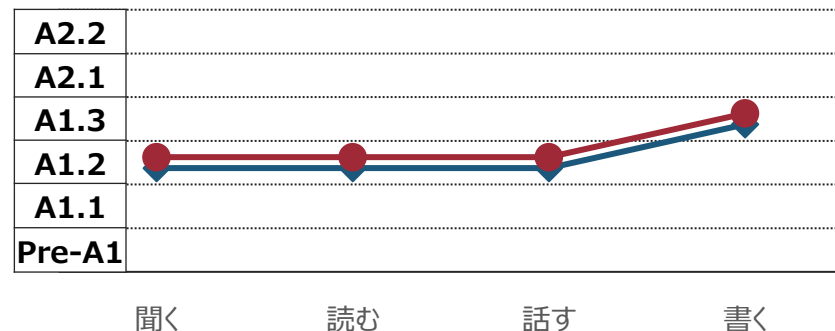
下降：Pre-A1・A2「聞くこと」（CEFR-Jレベル1段階）



4技能総合 Pre-A1



全体



※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※中1・2はCoreタイプ、中3はBasicタイプを受検しています。

※Coreタイプ（中1・2）の測定可能範囲は、CEFRLレベルはA2、CEFR-JレベルはA2.2までの測定です。なお、SpeakingのみCEFR-JレベルはA2.1までの測定範囲です。

※【中1 (b)】R3年度の各CEFRLレベルの集計人数は、A2: 718人、A1: 6,308人、Pre-A1: 171人。R6年度の各CEFRLレベルの集計人数は、A2: 936人、A1: 6,419人、Pre-A1: 159人。

※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占めます。

2.2.3 中1 経年比較 4技能総合CEFRLレベルと各技能との関係

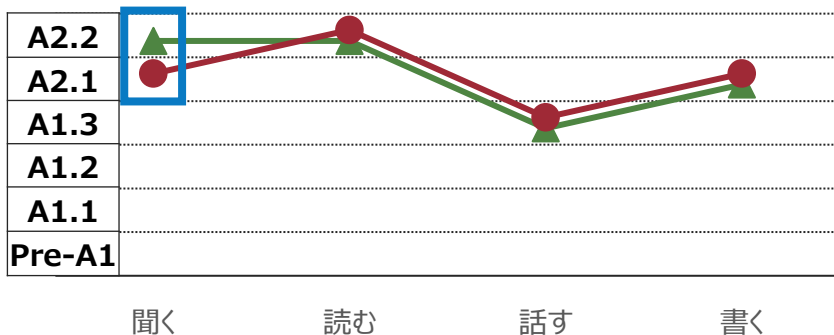
<R1年度とR6年度の比較>

上昇：Pre-A1「読むこと」「話すこと」（CEFR-Jレベル1段階）

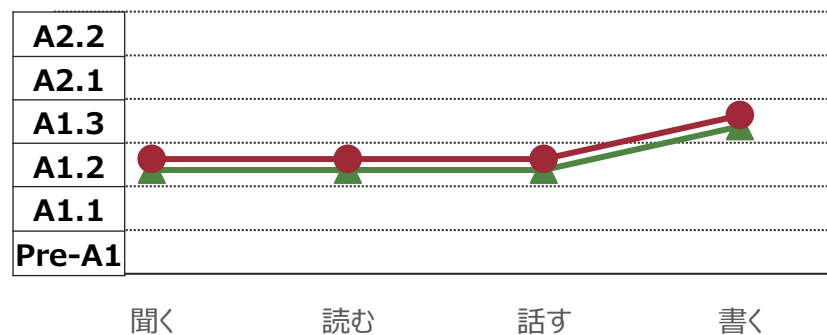
下降：Pre-A1・A2「聞くこと」（CEFR-Jレベル1段階）

▲ R1 ● R6

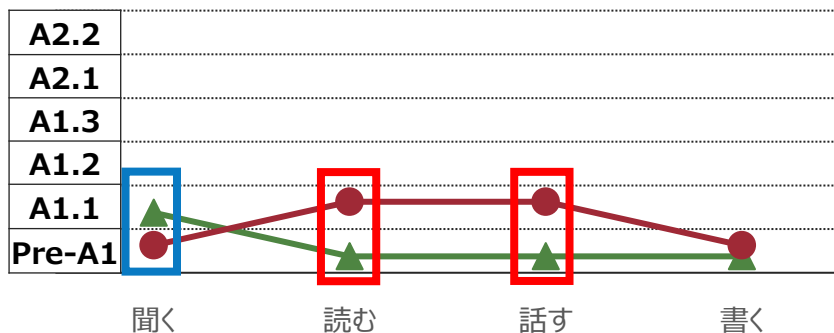
4技能総合 A2



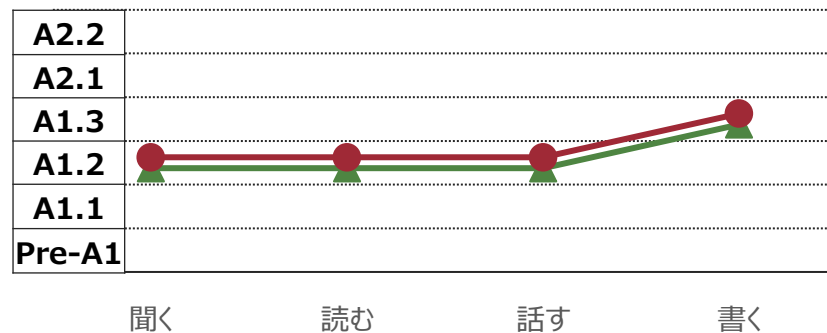
4技能総合 A1



4技能総合 Pre-A1



全体



※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※中1・2はCoreタイプ、中3はBasicタイプを受検しています。

※Coreタイプ（中1・2）の測定可能範囲は、CEFRレベルはA2、CEFR-JレベルはA2.2までの測定です。なお、SpeakingのみCEFR-JレベルはA2.1までの測定範囲です。

※【中1 (b)】R1年度の各CEFRLレベルの集計人数は、A2: 525人、A1: 6,480人、Pre-A1: 265人。R6年度の各CEFRLレベルの集計人数は、A2: 936人、A1: 6,419人、Pre-A1: 159人。

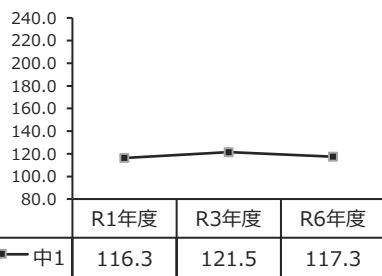
※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占めます。

2.2.4 中1 経年比較 4技能別の傾向

- 「聞くこと」は「横ばい」
- 「読むこと」はR1年度からR3年度は「横ばい」、R3年度からR6年度は「横ばい～上昇」
- 「話すこと」は「横ばい～上昇」で、「書くこと」は「上昇」

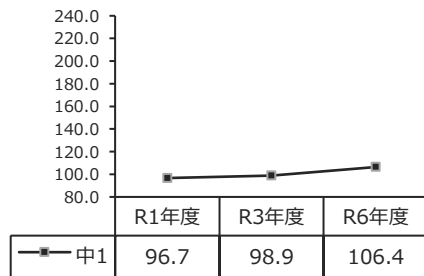
各技能 全国平均スコア

聞くこと Listening



※ η^2 : 0.004

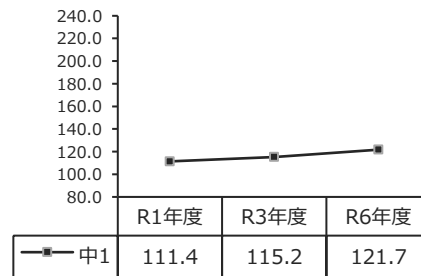
読むこと Reading



※ η^2 : 0.011

※Cohen's d : R1-R3 -0.061 ; R3-R6 -0.179

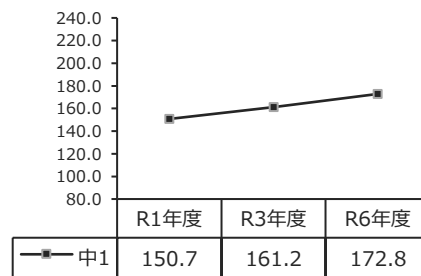
話すこと Speaking



※ η^2 : 0.018

※Cohen's d : R1-R3 -0.128 ; R3-R6 -0.197

書くこと Writing



※ η^2 : 0.031

※Cohen's d : R1-R3 -0.202 ; R3-R6 -0.240

平均 CEFR	A1	A1	A1
平均 CEFR-J	A1.2	A1.2	A1.2

平均 CEFR	A1	A1	A1
平均 CEFR-J	A1.2	A1.2	A1.2

平均 CEFR	A1	A1	A1
平均 CEFR-J	A1.2	A1.2	A1.2

平均 CEFR	A1	A1	A1
平均 CEFR-J	A1.3	A1.3	A1.3

※標準偏差 : R1は36.1、R3は35.0、R6は37.5。

※標準偏差 : R1は36.8、R3は43.3、R6は40.3。

※標準偏差 : R1は28.8、R3は30.7、R6は33.2。

※標準偏差 : R1は55.6、R3は49.7、R6は43.5。

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占める。

2.2.4 中1 経年比較 4 技能別の傾向 受信技能

「聞くこと」

- R1年度と比べて、ボリュームゾーンであるCEFR-J A1.2の割合は、R6年度に減少

「読むこと」

- R1年度と比べてCEFR A1以上の割合は、R6年度にやや増加
- CEFR-J A1.3以上の割合は大きく増加

聞くこと Listening

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
A2.2	5.5%	5.8%	5.4%
A2.1	6.8%	7.3%	8.6%
A1.3	17.9%	22.2%	19.2%
A1.2	46.2%	47.9%	42.0%
A1.1	17.4%	12.1%	17.1%
Pre-A1	6.2%	4.7%	7.8%

減少

読むこと Reading

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
A2.2	4.3%	6.7%	6.9%
A2.1	4.0%	6.0%	7.3%
A1.3	19.8%	21.3%	25.8%
A1.2	39.0%	30.1%	34.1%
A1.1	21.0%	19.1%	17.3%
Pre-A1	11.9%	16.9%	8.7%

大きく増加

A1以上 (累計)	93.8%	95.3%	92.2%
-----------	-------	-------	-------

A1以上 (累計)	88.1%	83.1%	91.3%
-----------	-------	-------	-------

やや増加

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の子供も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※グラフ表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。

※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占める。

2.2.4 中1 経年比較 4技能別の傾向 発信技能

「話すこと」

- R1年度と比べて、CEFR-J A1.3の割合は、R6年度に大きく増加

「書くこと」

- R1年度と比べて、CEFR-J A1.3以上の割合は、R6年度に大きく増加
- Pre-A1は減少

話すこと Speaking

大きく増加

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
A2.2	0.0%	0.0%	0.0%
A2.1	3.2%	3.7%	3.6%
A1.3	16.6%	22.7%	36.4%
A1.2	62.4%	56.9%	44.9%
A1.1	15.4%	13.7%	12.5%
Pre-A1	2.4%	3.1%	2.7%

書くこと Writing

大きく増加

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
A2.2	18.3%	19.0%	28.0%
A2.1	13.5%	22.2%	16.4%
A1.3	32.1%	35.4%	41.1%
A1.2	16.7%	11.9%	9.9%
A1.1	7.2%	5.9%	1.4%
Pre-A1	12.2%	5.6%	3.2%

減少

A1以上 (累計)	R1年度	R3年度	R6年度
	97.6%	96.9%	97.3%

A1以上 (累計)	R1年度	R3年度	R6年度
	87.8%	94.4%	96.8%

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※話すこと Speakingについて、CoreタイプはA2.2が測定範囲外です。

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。

※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占める。

2.2.5 中2経年比較 4技能総合

- R1年度と比べて、CEFR A1以上の割合は、R6年度にやや増加（特にCEFR-J A1.3とA2.1の割合の合計が大きく増加）

	旧CS下	現行CS下※中2から現行CS	現行CS下※小4から現行CS
CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
A2.2	1.0%	1.1%	1.2%
A2.1	8.5%	10.8%	14.6%
A1.3	36.3%	39.7%	39.8%
A1.2	33.2%	31.0%	30.8%
A1.1	12.4%	10.9%	8.2%
Pre-A1	8.5%	6.5%	5.3%
A1以上 (累計)	91.5%	93.5%	94.7%

やや増加

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。

※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占める。

2.2.6 中2 経年比較 4技能総合CEFRLレベルと各技能との関係

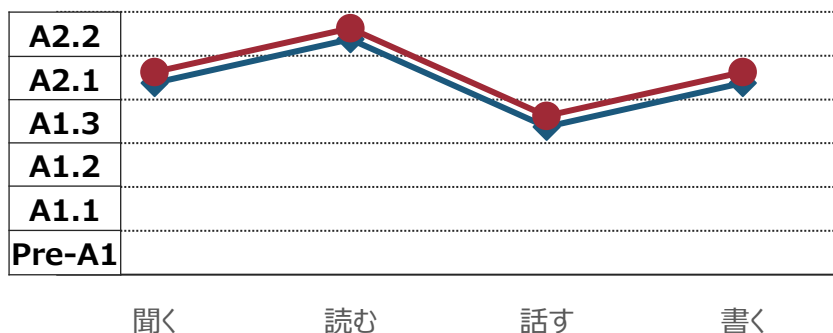
<R3年度とR6年度の比較>

上昇：なし

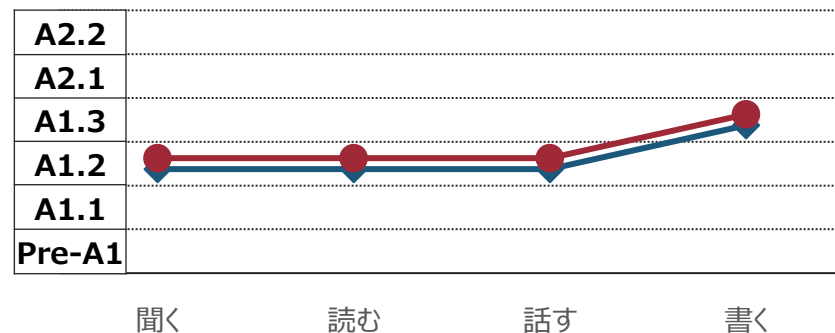
下降：Pre-A1「聞くこと」(CEFR-Jレベル1段階)

◆ R3 ● R6

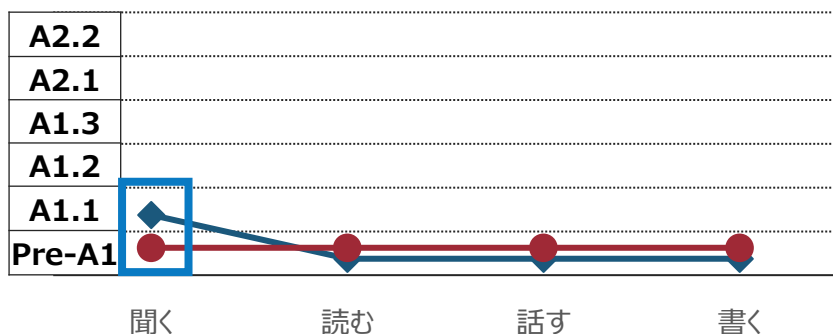
4技能総合 A2



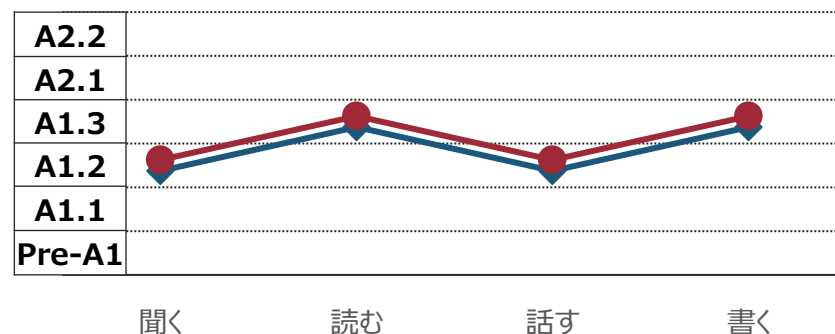
4技能総合 A1



4技能総合 Pre-A1



全体



※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※中1・2はCoreタイプ、中3はBasicタイプを受検しています。

※Coreタイプ(中1・2)の測定可能範囲は、CEFRレベルはA2、CEFR-JレベルはA2.2までの測定です。なお、SpeakingのみCEFR-JレベルはA2.1までの測定範囲です。

※【中2(b)】R3年度の各CEFRLレベルの集計人数は、A2: 1,421人、A1: 9,786人、Pre-A1: 778人。R6年度の各CEFRLレベルの集計人数は、A2: 1,691人、A1: 8,416人、Pre-A1: 566人。

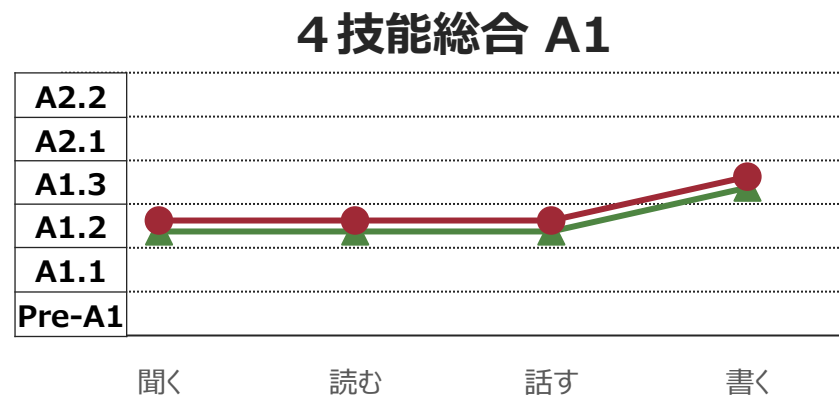
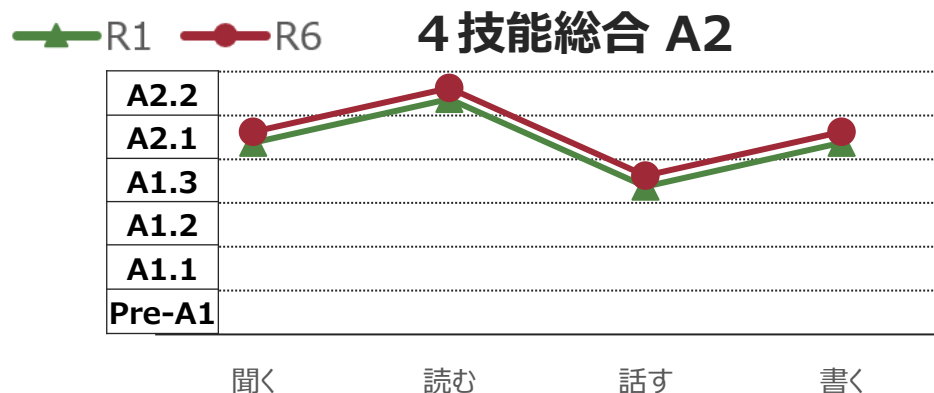
※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学(国立含む)が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学(国立含む)が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占めます。

2.2.6 中2経年比較 4技能総合CEFRLレベルと各技能との関係

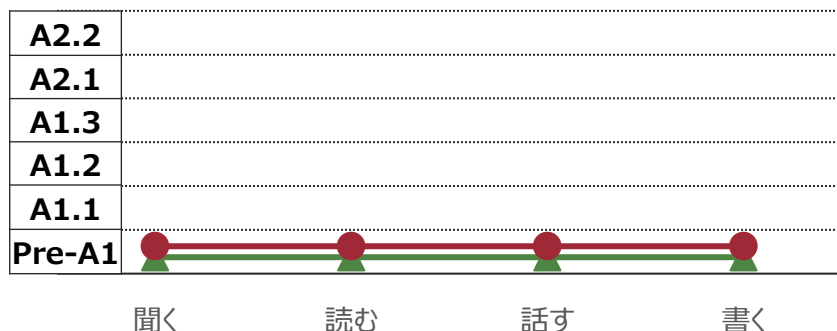
＜R1年度とR6年度の比較＞

いずれの4技能総合CEFRLレベルでも、各技能のCEFR-Jレベルに大きな差は見られない

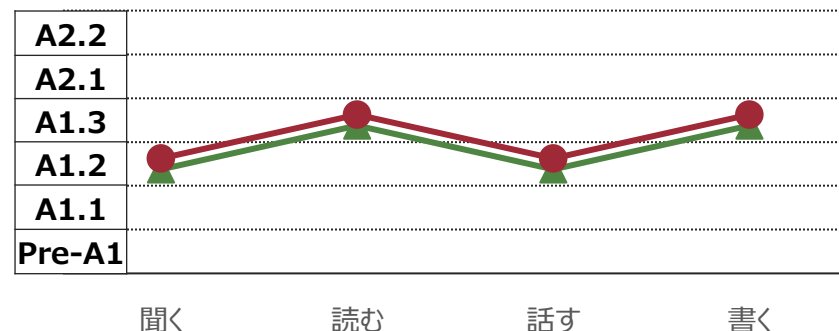
上昇：なし 下降：なし



4技能総合 Pre-A1



全体



※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※中1・2はCoreタイプ、中3はBasicタイプを受検しています。

※Coreタイプ（中1・2）の測定可能範囲は、CEFRLレベルはA2、CEFR-JレベルはA2.2までの測定です。なお、SpeakingのみCEFR-JレベルはA2.1までの測定範囲です。

※【中2 (b)】R1年度の各CEFRLレベルの集計人数は、A2: 1,131人、A1: 9,758人、Pre-A1: 1,016人。R6年度の各CEFRLレベルの集計人数は、A2: 1,691人、A1: 8,416人、Pre-A1: 566人。

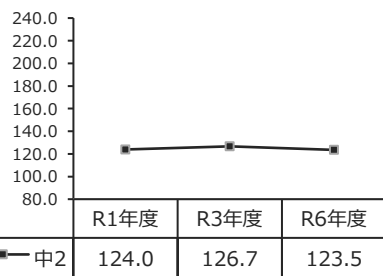
※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占めます。

2.2.7 中2 経年比較 4技能別の傾向

- 「聞くこと」「読むこと」は「横ばい」
- 「話すこと」はR1年度からR3年度は「横ばい」、R3年度からR6年度は「上昇」
- 「書くこと」はR1年度からR3年度は「横ばい～上昇」、R3年度からR6年度は「横ばい」

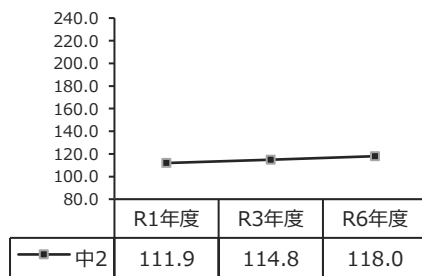
各技能 全国平均スコア

聞くこと Listening



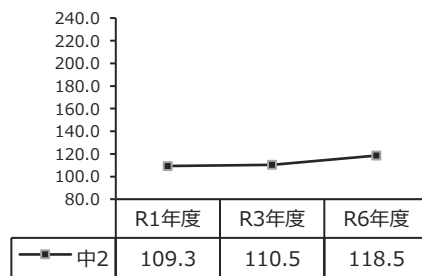
※ η^2 : 0.001

読むこと Reading



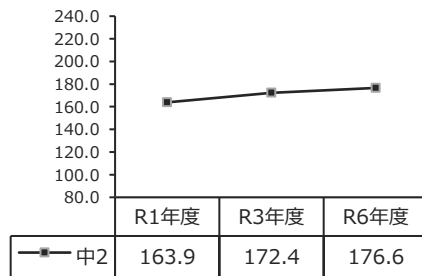
※ η^2 : 0.003

話すこと Speaking



※ η^2 : 0.015
 ※Cohen's d : R1-R3 -0.034 ; R3-R6 -0.243

書くこと Writing



※ η^2 : 0.010
 ※Cohen's d : R1-R3 -0.156 ; R3-R6 -0.085

平均 CEFR	A1	A1	A1
平均 CEFR-J	A1.2	A1.2	A1.2

平均 CEFR	A1	A1	A1
平均 CEFR-J	A1.3	A1.3	A1.3

平均 CEFR	A1	A1	A1
平均 CEFR-J	A1.2	A1.2	A1.2

平均 CEFR	A1	A1	A1
平均 CEFR-J	A1.3	A1.3	A1.3

※標準偏差 : R1は39.5、R3は36.7、R6は40.1。 ※標準偏差 : R1は42.5、R3は46.3、R6は45.9。 ※標準偏差 : R1は33.3、R3は34.2、R6は35.9。 ※標準偏差 : R1は57.5、R3は51.6、R6は48.9。

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の子供も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※集団属性情報【中学】： 学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占める。

2.2.7 中2 経年比較 4 技能別の傾向 受信技能

「聞くこと」

- CEFR A1以上の割合は、R3年度からR6年度に減少

「読むこと」

- R1年度と比べて、CEFR-J A2.1以上の割合は、R6年度に増加

聞くこと Listening

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
A2.2	7.1%	6.7%	7.2%
A2.1	12.1%	11.2%	12.1%
A1.3	23.1%	25.8%	23.4%
A1.2	36.3%	41.3%	35.3%
A1.1	14.3%	10.1%	13.5%
Pre-A1	7.1%	4.9%	8.5%

読むこと Reading

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
A2.2	8.1%	10.9%	12.0%
A2.1	10.5%	12.4%	13.9%
A1.3	29.5%	27.8%	26.5%
A1.2	29.1%	24.4%	25.9%
A1.1	13.9%	13.6%	12.9%
Pre-A1	8.9%	10.9%	8.8%

増加

A1以上 (累計) 92.9% 95.1% 91.5%

減少

A1以上 (累計) 91.1% 89.1% 91.2%

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。

※集団属性情報【中学】： 学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占める。

2.2.7 中2 経年比較 4 技能別の傾向 発信技能

「話すこと」

- R1年度と比べて、CEFR-J A1.3の割合は、R6年度に大きく増加

「書くこと」

- R1年度と比べて、CEFR A1以上の割合は、R6年度に増加（特にCEFR-J A1.3以上の割合が大きく増加し、CEFR-J A1.2以下は大きく減少）

話すこと Speaking

大きく増加

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
A2.2	0.0%	0.0%	0.0%
A2.1	2.5%	2.3%	2.7%
A1.3	22.7%	24.8%	36.6%
A1.2	48.5%	47.8%	41.5%
A1.1	20.5%	18.0%	13.9%
Pre-A1	5.8%	7.2%	5.3%

書くこと Writing

大きく増加

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
A2.2	33.4%	33.5%	38.7%
A2.1	14.6%	24.2%	16.8%
A1.3	25.6%	25.2%	30.8%
A1.2	12.1%	7.1%	7.8%
A1.1	4.3%	4.2%	1.3%
Pre-A1	9.9%	5.8%	4.6%

大きく減少

増加

A1以上 (累計)	R1年度	R3年度	R6年度
	94.2%	92.8%	94.7%

A1以上 (累計)	R1年度	R3年度	R6年度
	90.1%	94.2%	95.4%

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※話すこと Speakingについて、CoreタイプはA2.2が測定範囲外です。

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。

※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占める。

2.2.8 中3経年比較 4技能総合

- R1年度と比べて、CEFR-J A2.2の割合は、R6年度に約6ポイント減少
- R1年度と比べて、CEFR-J A1.3の割合は、R6年度に約5ポイント増加

CEFR-J	旧CS下		現行CS下 ※中3から現行CS		現行CS下 ※小5から現行CS	
	R1年度	R3年度	R3年度	R6年度	R6年度	
B1.2	3.1%	3.3%	3.3%	2.9%		
B1.1	17.3%	15.7%	15.7%	17.3%	減少	
A2.2	31.8%	27.0%	27.0%	25.5%	減少	
A2.1	30.3%	32.2%	32.2%	30.3%		
A1.3	15.3%	18.5%	18.5%	20.1%	増加	
A1.2	1.9%	2.4%	2.4%	3.0%		
A1.1	0.3%	0.7%	0.7%	0.8%		
Pre-A1	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%		
A1以上 (累計)	99.9%	99.9%	99.9%	99.9%		

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※文章内のポイント表記は小数点以下第1位を四捨五入しています。

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。

※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占める。

2.2.9 中3 経年比較 4技能総合CEFRレベルと各技能との関係

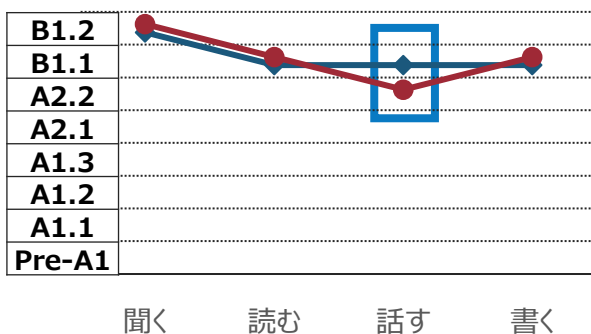
<R3年度とR6年度の比較>

上昇：A2「話すこと」(CEFR-Jレベル1段階)

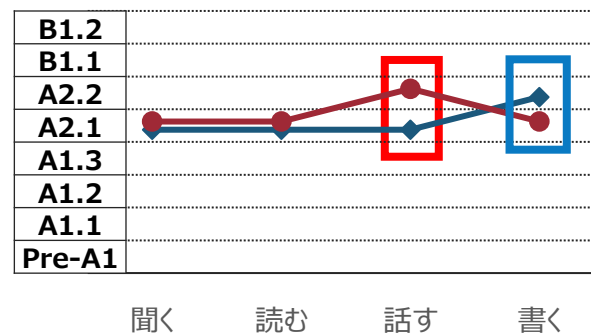
下降：A2「書くこと」、B1「話すこと」(CEFR-Jレベル1段階)

◆ R3 ● R6

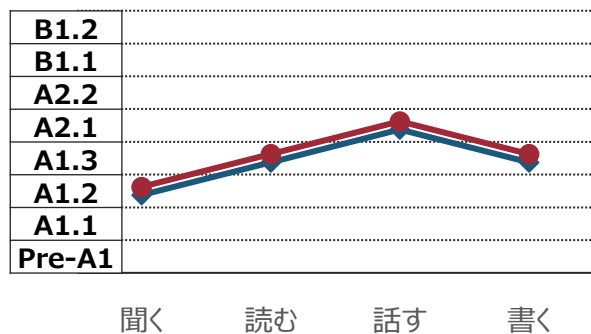
4技能総合 B1



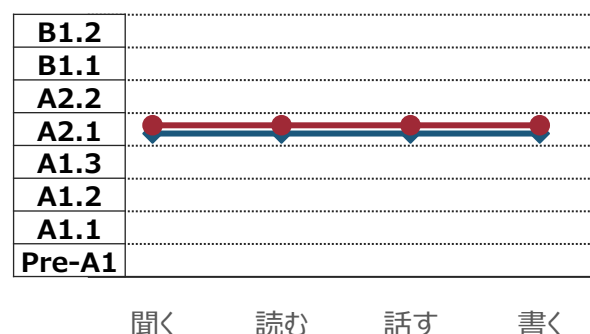
4技能総合 A2



4技能総合 A1



全体



※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※中1・2はCoreタイプ、中3はBasicタイプを受検しています。

※Basicタイプ(中3)の測定可能範囲は、CEFRレベルはB1、CEFR-JレベルはB1.2までの測定です。なお、SpeakingのみCEFR-JレベルはB1.1までの測定範囲です。

※【中3(b)】R3年度の各CEFRレベルの集計人数は、B1: 2,456人、A2: 7,645人、A1: 2,798人、Pre-A1: 17人。R6年度の各CEFRレベルの集計人数は、B1: 2,533人、A2: 6,992人、A1: 2,988人、Pre-A1: 18人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。

※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学(国立含む)が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学(国立含む)が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占めます。

2.2.9 中3 経年比較 4技能総合CEFRレベルと各技能との関係

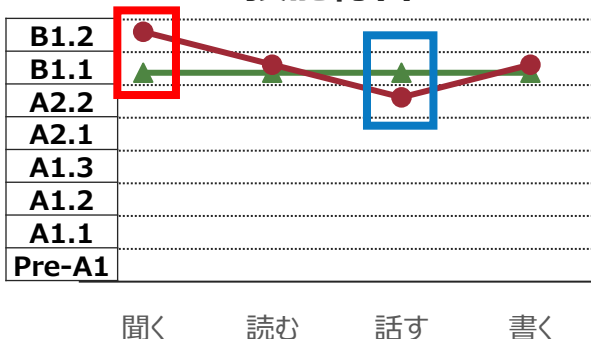
＜R1年度とR6年度の比較＞

上昇：B1「聞くこと」（CEFR-Jレベル1段階）

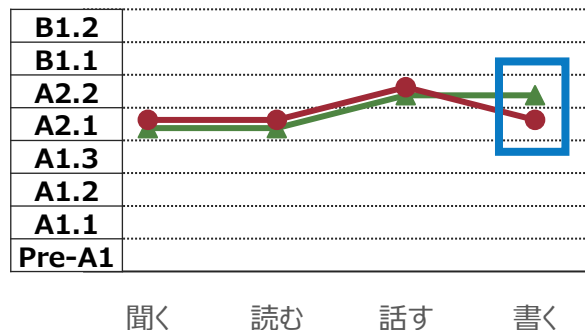
下降：A2「書くこと」、B1「話すこと」、全体「話すこと」（CEFR-J1レベル段階）

▲ R1 ● R6

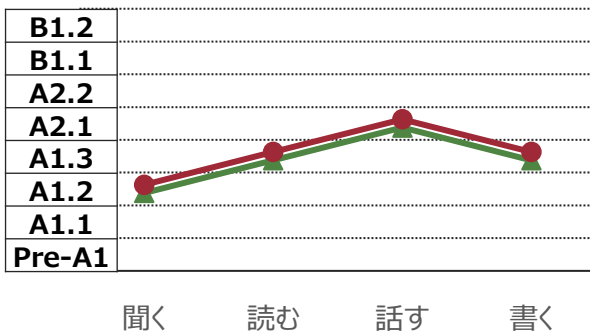
4技能総合 B1



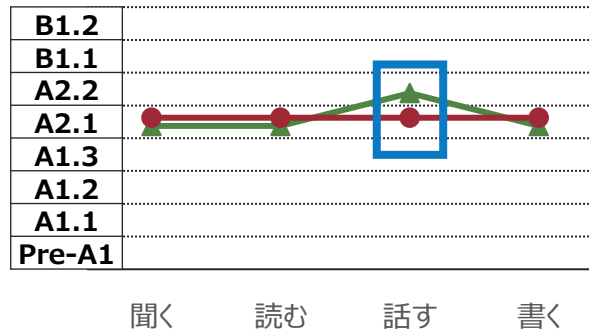
4技能総合 A2



4技能総合 A1



全体



※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の子生も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※中1・2はCoreタイプ、中3はBasicタイプを受検しています。

※Basicタイプ（中3）の測定可能範囲は、CEFRレベルはB1、CEFR-JレベルはB1.2までの測定です。なお、SpeakingのみCEFR-JレベルはB1.1までの測定範囲です。

※【中3 (b)】R1年度の各CEFRレベルの集計人数は、B1: 2,625人、A2: 8,003人、A1: 2,254人、Pre-A1: 13人。R6年度の各CEFRレベルの集計人数は、B1: 2,533人、A2: 6,992人、A1: 2,988人、Pre-A1: 18人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。

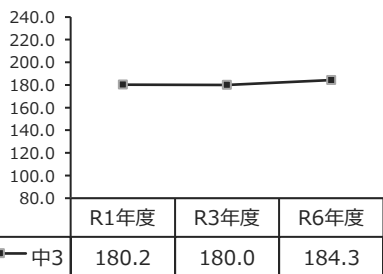
※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占めます。

2.2.10 中3 経年比較 4技能別の傾向

- 「聞くこと」「読むこと」は「横ばい」
- 「話すこと」はR1年度からR3年度は「低下」、R3年度からR6年度は「横ばい」
- 「書くこと」はR1年度からR3年度は「横ばい」、R3年度からR6年度は「低下」

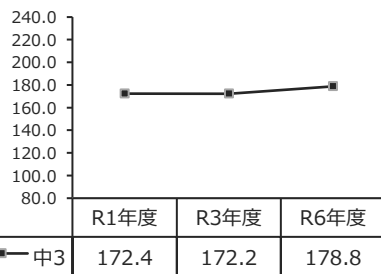
各技能 全国平均スコア

聞くこと Listening



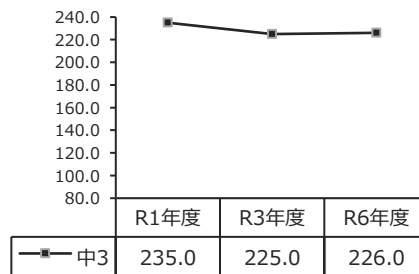
※ η^2 : 0.002

読むこと Reading



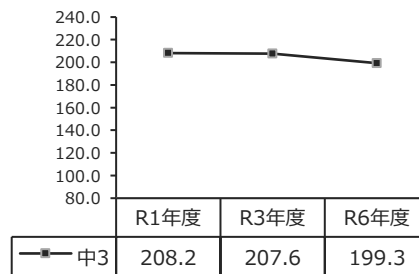
※ η^2 : 0.004

話すこと Speaking



※ η^2 : 0.016
 ※Cohen's d : R1-R3 0.284 ; R3-R6 -0.028

書くこと Writing



※ η^2 : 0.010
 ※Cohen's d : R1-R3 0.014 ; R3-R6 0.202

平均 CEFR	A2	A2	A2
平均 CEFR-J	A2.1	A2.1	A2.1

※標準偏差 : R1は46.6、R3は52.0、R6は51.8。

平均 CEFR	A2	A2	A2
平均 CEFR-J	A2.1	A2.1	A2.1

※標準偏差 : R1は44.8、R3は46.1、R6は48.5。

平均 CEFR	A2	A2	A2
平均 CEFR-J	A2.2	A2.1	A2.1

※標準偏差 : R1は35.3、R3は35.0、R6は34.2。

平均 CEFR	A2	A2	A2
平均 CEFR-J	A2.1	A2.1	A2.1

※標準偏差 : R1は38.8、R3は39.9、R6は42.6。

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の子生も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占める。

2.2.10 中3経年比較 4技能別の傾向 受信技能

「聞くこと」

- R1年度とR6年度の比較では、CEFR-J A1.3～A2.2の割合の合計が減少し、CEFR-J B1.1以上の割合が増加

「読むこと」

- R1年度とR6年度の比較では、CEFR-J A1.3～A2.2の割合の合計が減少し、CEFR-J B1.1以上の割合が増加

聞くこと Listening

増加

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
B1.2	9.5%	12.7%	14.7%
B1.1	11.4%	11.4%	12.5%
A2.2	19.7%	17.5%	17.6%
A2.1	24.2%	21.3%	20.9%
A1.3	21.4%	19.8%	19.1%
A1.2	12.1%	13.8%	12.6%
A1.1	1.3%	2.2%	1.9%
Pre-A1	0.5%	1.2%	0.7%

減少

読むこと Reading

増加

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
B1.2	7.0%	8.2%	11.2%
B1.1	9.2%	8.7%	10.9%
A2.2	24.2%	22.6%	23.5%
A2.1	25.8%	25.5%	23.0%
A1.3	27.7%	28.4%	25.6%
A1.2	5.6%	5.9%	5.3%
A1.1	0.4%	0.5%	0.5%
Pre-A1	0.0%	0.1%	0.1%

減少

A1以上 (累計)	99.5%	98.8%	99.3%
-----------	-------	-------	-------

A1以上 (累計)	100.0%	99.9%	99.9%
-----------	--------	-------	-------

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。

※集団属性情報【中学】： 学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占める。

2.2.10 中3 経年比較 4技能別の傾向 発信技能

「話すこと」

- R1年度と比べて、CEFR-J B1.1の割合は、R6年度に大きく減少しているが、CEFR-J A2.1は大きく増加

「書くこと」

- R1年度と比べて、CEFR-J B1.1の割合は、R6年度に大きく減少しているが、CEFR-J A2.1は増加

話すこと Speaking

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
B1.2	0.0%	0.0%	0.0%
B1.1	28.8%	18.3%	15.2%
A2.2	36.9%	31.2%	37.0%
A2.1	26.5%	40.8%	38.2%
A1.3	6.3%	8.4%	8.6%
A1.2	1.1%	1.0%	0.8%
A1.1	0.2%	0.2%	0.0%
Pre-A1	0.2%	0.1%	0.2%
A1以上 (累計)	99.8%	99.9%	99.8%

大きく減少

大きく増加

書くこと Writing

CEFR-J	R1年度	R3年度	R6年度
B1.2	4.5%	3.1%	3.2%
B1.1	26.5%	26.8%	14.8%
A2.2	26.1%	24.0%	27.2%
A2.1	15.0%	27.1%	21.9%
A1.3	24.3%	15.3%	27.2%
A1.2	2.1%	1.3%	3.6%
A1.1	0.4%	0.7%	0.3%
Pre-A1	1.2%	1.7%	1.9%
A1以上 (累計)	98.8%	98.3%	98.1%

大きく減少

増加

※「4技能」の表記について、本調査は旧BCS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※話すこと Speakingについて、BasicタイプはB1.2が測定範囲外です。

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。

※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占める。

2.3.1 中学の全体傾向「聞くこと」

パート	問うている力	合計	Basic		Core	
			設問数	時間(分)	設問数	時間(分)
			40	約25	32	約20
A イラスト説明問題	写真、図表やイラストなど与えられた視覚的情報をもとに、ある状況や場面、事物を描写説明した単文レベルの英文を正しく聞き分ける力		10	約25	8	約20
B 会話応答問題	事前予測ができる情報がない中で、相手からの問いかけに対する適当な応答英文を素早く判断し、処理する力		10		8	
C 課題解決問題	日本語で事前に与えられる状況設定および視覚的情報と音声情報から、その場面で求められている課題(タスク)を解決する力		10		8	
D 要点理解問題	一定以上の長さの英文の音声の中から、事前に与えられた英文の質問に答えるために必要な情報を選択して引き出し、求められている解答を導くための適切な判断を行う力		10		8	

※中1・2はCoreタイプ、中3はBasicタイプを受検しています。

2.3.1 中学の全体傾向「聞くこと」パート別平均正解率（R6年度）

- いずれの学年においても、パートAの正解率が全パートのなかで最も高い
- 中1・2では、パートDの正解率が全パートのなかで最も低く約57～58%
- 中3では、パートCの正解率が全パートのなかで最も低く約60%

	パートA イラスト説明問題	パートB 会話応答問題	パートC 課題解決問題	パートD 要点理解問題
中1	75.4%	59.5%	61.3%	57.3%
中2	78.7%	61.6%	63.5%	58.4%
中3	84.8%	67.5%	59.6%	69.0%

※R6年度使用問題版の解答状況をもとに分析しています。毎年の傾向や特徴を表した結果ではありません。
 ※中1・2はCoreタイプ、中3はBasicタイプを受検しています。
 ※中1・2と中3とは、受検している問題が異なるため、比較することができません。
 ※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占めます。

2.3.2 中学の全体傾向「読むこと」

パート	問うている力	合計	Basic		Core	
			設問数	時間(分)	設問数	時間(分)
			36	約45	28	約32
A 短文文脈理解 問題	短い英文の中で文脈的なつながりを理解し、語彙選択上最も適切な表現を正確に判断する力		12	6	10	5
B 概要把握問題 情報検索問題	<ul style="list-style-type: none"> 全体を大づかみして概要を理解する概要把握 (skimming) の力 短時間の中で必要な情報を引き出す情報検索 (scanning) の力 ※Coreタイプでは、情報検索問題→概要把握問題の順で出題しています		12	14	10	12
C 要点理解問題	まとまった量の英文に対して、英文の主旨に関する内容や詳細部分の要点について、英文を理解し、必要な情報を読み取る力 出題テーマはフィクション、人文系論説文、科学系論説文の3題 ※Coreタイプではフィクション系と論説系の2題の出題となります		12	25	8	15

2.3.2 中学の全体傾向「読むこと」パート別平均正解率（R6年度）

- 中1では、パートA・Cの正解率が50%未満
- 中2では、いずれのパートも正解率が50%台
- 中3では、パートA・Cの正解率が約64%だが、パートBは約47%と低く約16～17ポイントの差

	パートA 短文文脈理解問題	パートB 概要把握問題/情報検索問題	パートC 要点理解問題
中1	45.7%	50.7%	47.2%
中2	50.8%	53.1%	55.0%
中3	63.9%	47.4%	63.7%

※中3のパートAとBの差は16.5pt、パートBとCの差は16.3ptと表示されています。

※R6年度使用問題版の解答状況をもとに分析しています。毎年の傾向や特徴を表した結果ではありません。
 ※中1・2はCoreタイプ、中3はBasicタイプを受検しています。
 ※中1・2と中3とは、受検している問題が異なるため、比較することができません。
 ※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占めます。

2.3.3 中学の全体傾向「話すこと」

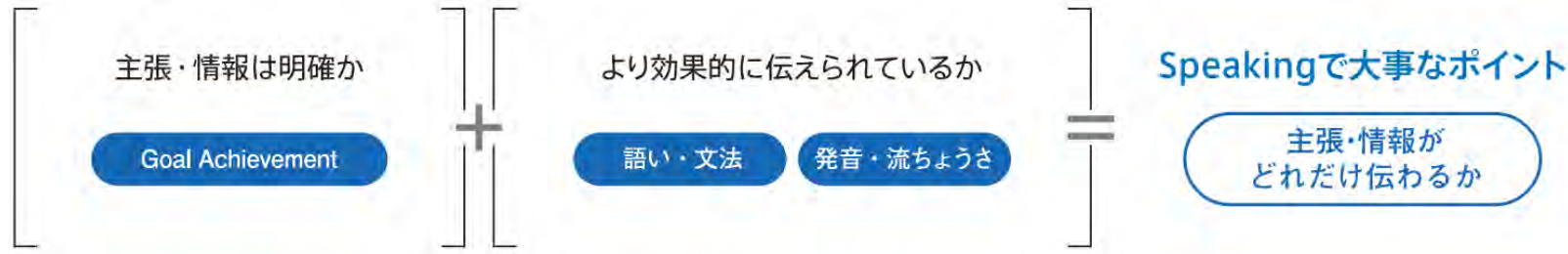
			Basic		Core		
			設問数	時間 (分)	設問数	時間 (分)	
パート	問うている力	合計	8	約15	8	約15	
A 音読	英文を読み上げる形式の出題で、状況や英文を理解した上で、正確な発音と適切な流暢さで音読ができる力		2	約15	2	約15	
B 相手とのやり取り	図示された情報を読み取って質問に応答したり、課題解決のために質問したりする力		4		4		
		Basic					Core
	No.1	与えられた情報をもとに適切に答える問題					与えられた情報をもとに自身の回答を述べる問題
	No.2	与えられた情報をもとに適切に答える問題					与えられた情報をもとに自身の回答を述べる問題
	No.3	与えられた情報をもとに課題を特定し、その課題を解決する方法を適切に伝える問題		図示された情報を読み取り、それに関する質問をする問題			
No.4	図示された情報を読み取り、それに関する質問をする問題	与えられた情報をもとに適切に答える問題					
C ストーリーを英語で話す	日常的な出来事について、話の流れを踏まえて相手に伝わるように状況を説明する力		1	1			
D 自分の意見を述べる	<ul style="list-style-type: none"> Basic：身近で社会的なテーマに対して、自分の意見とその意見をサポートする理由が言える力 Core：身近なテーマに対して、自分の意見とその意見をサポートする理由が言える力 		1	1			

※中1・2はCoreタイプ、中3はBasicタイプを受検しています。
 ※Speakingについては、AdvancedタイプとBasicタイプが同一の問題です。ただし、スコアの上限值は受検タイプのものが適用されます。

2.3.3 中学の全体傾向「話すこと」

採点観点・採点基準（要約版）

- Goal Achievement : 「聞き手に情報や主張が伝わるか」を評価。各パートで求められるGoalの内容は下記表を参照。
- 「語彙・文法」「発音・流暢さ」 : 情報や主張を「どれだけ効果的に伝えられているか」の観点から評価。
- 「Goal Achievement」「語彙・文法」「発音・流暢さ」はそれぞれ独立して評価。



Goal Achievement	パートB	各設問において、必要な内容を伝えてやり取りをすることができている。
	パートC	各コマの内容を伝えることができています。
	意見	意見を伝えることができています。
	理由	[○]意見をサポートする理由を具体例や説明とともに伝えることができています。 [○]意見をサポートする理由を伝えることができています。 ※Coreで受検した場合は [○]の評価はありません。

	0点	1点	2点	3点	4点
語彙・文法	出題意図から明らかに外れている。／英語ではない、あるいは、英語として通じない。／力を測るために十分な量の発話がない。	使用する語いや文法が非常に限られているが、簡単に具体的なことであれば、語や句をつなげながら表現することができている。	限られた語いや文法で、簡単な描写を羅列したり、簡単にアイデアをつなげたりすることができている。	複雑な内容を説明するときに誤りが見られることもあるが、語いや文法を適切に使用し、アイデアを順序立ててつなげることができている。	豊富で幅広い語いや文法を、柔軟に使用することができている。アイデア間の関係性を整理して示すことができ、聞き手に効果的に内容を伝えられている。
発音・流ちょうさ	出題意図から明らかに外れている。／英語ではない、あるいは英語として通じない。／力を測るために十分な量の発話がない。	全体を通して、発音やイントネーション、リズムの誤り、また、不自然な沈黙や言いよどみが多いため、聞き手に大きく負担がかかるが、簡単な単語や語句の強弱は正しい。	部分的な発音やイントネーション、リズムの誤り、また、不自然な沈黙や言いよどみのため、聞き手にやや負担がかかるが、理解できる発音である。	全体を通して正しい発音、イントネーション、リズムで話すことができています。不自然な沈黙がなく、聞き手に負担がかからない。	

※中1・2はCoreタイプ、中3はBasicタイプを受検しています。
 ※Speaking については、Advancedタイプと Basicタイプが同一の問題です。ただし、スコアの上限値は受検タイプのものが適用されます。

2.3.3 中学の全体傾向「話すこと」採点観点別結果分析（R6年度）

- いずれの学年においても、パートA・C「発音・流暢さ」の平均点は1.9～2.0点（満点3点）だが、自分の意見を述べるパートDでは1.6～1.8点（満点3点）
- 中1・2では、パートBのNo.3「質問」の正解率が約15～17%であり、同パート内の他の問題と比べて、正解率が突出して低い

		パートA 音読		パートB 相手とのやり取り				パートC ストーリーを英語で話す				パートD 自分の意見を述べる								
採点観点	中1・2	発音・流暢さ		Goal Achievement				Goal Achievement 各コマの内容を伝える				語彙・ 文法	発音・ 流暢さ	意見	理由	語彙・ 文法	発音・ 流暢さ			
				応答	質問	応答	Goal Achievement													
	中3	No.1	No.2	応答	課題解決	質問	No.1	No.2	No.3	No.4	1コマ	2コマ	3コマ	4コマ						
採点段階		0～3点	0～3点	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	0～4点	0～3点	×	○	中1・2 : ×,○ 中3 : 0～2点	0～4点	0～3点
中1		1.9点	1.9点	93.3%	93.3%	17.0%	78.7%	87.8%	57.3%	39.9%	55.0%	1.4点	2.0点	66.7%	68.6%	1.2点	1.7点			
中2		1.9点	1.9点	91.5%	89.1%	15.1%	77.7%	85.5%	55.4%	43.0%	53.0%	1.4点	1.9点	65.0%	67.6%	1.2点	1.6点			
中3		2.0点	2.0点	31.8%	51.6%	43.2%	62.0%	72.0%	53.5%	77.2%	24.1%	1.7点	2.0点	73.3%	0.7点	1.3点	1.8点			

※R6年度使用問題版の解答状況をもとに分析しています。毎年の傾向や特徴を表した結果ではありません。
 ※中1・2はCoreタイプ、中3はBasicタイプを受検しています。
 ※中1・2と中3とでは、受検している問題が異なるため、比較することができません。
 ※採点する段階数が3以上の多段階採点（例：0～3点）の観点については、「平均点」を示しています。正誤判定（×、○）の観点については、「正解率（%）」を示しています。
 ※SpeakingパートDの「理由」は、Coreタイプ（中1・2）においては「×」「○」で採点をしています。また、Basicタイプ（中3）においては「×」「○」「◎」で採点をしています。表中では便宜上、0点「×」、1点「○」、2点「◎」と点数化しています。
 ※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占めます。

2.3.4 中学の全体傾向「書くこと」

パート	問うている力	合計	Basic		Core	
			設問数	時間 (分)	設問数	時間 (分)
			2	約25	2	約25
A Eメール問題	与えられたEメールで問われる内容について、限られた時間の中で適切な解答を表現する力		1	5	1	5
B 意見展開問題	与えられたテーマに対して、限られた時間の中で自分の意見を説得力を持って表現する力		1	20	1	20

2.3.4 中学の全体傾向「書くこと」

採点観点・採点基準（要約版）

- パートA Task Achievement、パートB Goal Achievement：「読み手に情報や主張が伝わるか」を評価。各パートで求められるGoalの内容は下記表を参照。
- パートA「正確さ」「構成」、パートB「語彙」「文法」「構成・展開」：情報や主張を「どれだけ効果的に伝えられているか」の観点から評価。
- 「Task Achievement」「Goal Achievement」「正確さ」「構成」「語彙」「文法」「構成・展開」はそれぞれ独立して評価。



Task Achievement	パートA	タスク	メール内の質問に対して、イラストに沿った内容を適切に回答できている。
	パートB	意見	課題に対する自分の意見を伝えることができている。

Goal Achievement	パートA	理由	自分の意見をサポートする理由や具体例などを伝えることができている。
	パートB	理由	自分の意見をサポートする理由や具体例などを伝えることができている。

	0点	1点	2点	3点
正確さ	英文が書かれていない。または、力を測るために十分な量が書かれていない。	語いや文法の誤りにより、意図した内容の理解が困難な部分がある。	語いや文法の誤りがあったも、意図した内容を伝えることができている。	語いや文法を適切に用いて、意図した内容を伝えることができている。
	英文が書かれていない。または、質問された内容に文で十分に解答できていない。	質問された内容に文で十分に解答できていない部分がある。	質問された内容に文で十分に解答できている。	質問された内容に文で十分に解答できている。メールとしても自然な文面を構成できている。

	0点	0.5～1.5点	2～3.5点	4～5.5点	6～8点
語彙	英文が書かれていない。または、全体を通して出題のテーマから外れたことが書かれている。	使える語いが基本的なものに限られている。または、語いの誤りが多く、意図した内容が伝わらない。	使える語いが限られている。または、意味理解を妨げるような誤りが見られ、意図した内容が伝わりにくい部分が多くある。	必要な語いを使って、簡単な内容を表現することができる。誤りがあっても、意図した内容を伝えることができている。	さまざまな語いを使って、自分の考えや物事を詳しく説明することができる。一部誤りがあっても、意図した内容を十分に伝えることができている。
	英文が書かれていない。または、全体を通して出題のテーマから外れたことが書かれている。	定型表現を使うことや、いくつかの単語を組み合わせることはできる。	使える文法が限られている。または、意味理解を妨げるような誤りが見られ、意図した内容が伝わりにくい部分が多くある。	基本的な文法を使うことができる。誤りがあっても、意図した内容を伝えることができている。	基本的な文法に加えて、複雑な文法を使うことができる。一部誤りがあっても、意図した内容を十分に伝えることができている。
文法	英文が書かれていない。または、全体を通して出題のテーマから外れたことが書かれている。	単語や文は書かれているが、内容のつながりが見られない。	いくつかのアイデアが書かれているが、内容のつながりが見えにくい。	アイデアのつながりが見えにくい部分があるが、書かれている内容にある程度まとまりが見られる。	書かれている内容のつながりがわかりやすく、全体としてよく構成されている。
	英文が書かれていない。または、全体を通して出題のテーマから外れたことが書かれている。	単語や文は書かれているが、内容のつながりが見られない。	いくつかのアイデアが書かれているが、内容のつながりが見えにくい。	アイデアのつながりが見えにくい部分があるが、書かれている内容にある程度まとまりが見られる。	書かれている内容のつながりがわかりやすく、全体としてよく構成されている。

※中1・2はCoreタイプ、中3はBasicタイプを受検しています。

2.3.4 中学の全体傾向「書くこと」採点観点別結果分析（R6年度）

- いずれの学年においても、パートA「タスク1」「タスク2」は約67～77%の正解率であり、半数以上がEメール内の質問に対して、イラストに沿った内容を適切に応答できている
- いずれの学年においても、パートAでは「正確さ」「構成」の平均点が2点以上（満点3点）、パートBでは「語彙」「文法」「構成・展開」の平均点が2.3～3.4点（満点8点）

採点観点	パートA Eメール問題				パートB 意見展開問題				
	タスク1	タスク2	正確さ	構成	意見	理由	語彙	文法	構成・展開
採点段階	×,○	×,○	0～3点	0～3点	×,○	×,○	0～8点	0～8点	0～8点
中1	67.4%	74.2%	2.2点	2.4点	49.1%	55.7%	2.3点	2.3点	2.3点
中2	69.3%	75.7%	2.2点	2.4点	59.8%	66.5%	2.4点	2.4点	2.4点
中3	76.3%	77.2%	2.3点	2.6点	64.5%	79.8%	3.4点	3.3点	3.3点

※R6年度使用問題版の解答状況をもとに分析しています。毎年の傾向や特徴を表した結果ではありません。
 ※中1・2はCoreタイプ、中3はBasicタイプを受検しています。
 ※中1・2と中3とは、受検している問題が異なるため、比較することができません。
 ※採点する段階数が3以上の多段階採点（例：0～3点）の観点については、「平均点」を示しています。正誤判定（×,○）の観点については、「正解率（%）」を示しています。
 ※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占めます。

2.3.5 中1「聞くこと」のCEFRレベル別に見たパート別平均正解率（R6年度）

- いずれのCEFRレベルにおいても、パートA（単文レベルの英文を正しく聞き分ける力を問う）の正解率が全パートのなかで最も高い
- CEFR Pre-A1とA1との間に、パートAで約34ポイント差

	パートA イラスト説明問題	パートB 会話応答問題	パートC 課題解決問題	パートD 要点理解問題
A2	98.4%	84.2%	87.3%	80.2%
A1	74.6%	57.7%	59.6%	55.6%
Pre-A1	41.1%	32.9%	30.3%	32.3%
全体	75.4%	59.5%	61.3%	57.3%

※R6年度使用問題版の解答状況をもとに分析しています。毎年の傾向や特徴を表した結果ではありません。
 ※中1・2はCoreタイプ、中3はBasicタイプを受検しています。
 ※Coreタイプ（中1・2）の測定可能範囲は、CEFRレベルはA2、CEFR-JレベルはA2.2までの測定です。なお、SpeakingのみCEFR-JレベルはA2.1までの測定範囲です。
 ※【中1 (b)・L】各CEFRレベルの集計人数は、A2: 1,049人、A1: 5,880人、Pre-A1: 585人
 ※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占めます。

2.3.6 中1「読むこと」のCEFRレベル別に見たパート別平均正解率（R6年度）

- CEFR A2ではパートA・Bの正解率が約75%であるのに対し、パートC（まとまった量の英文から必要な情報を読み取る力を問う）の正解率は約91%
- CEFR A1とA2との間に、パートCで約48ポイント差

	パートA 短文文脈理解問題	パートB 概要把握問題/情報検索問題	パートC 要点理解問題
A2	75.1%	74.9%	90.7%
A1	43.0%	48.8%	42.6%
Pre-A1	20.8%	28.2%	17.3%
全体	45.7%	50.7%	47.2%

※R6年度使用問題版の解答状況をもとに分析しています。毎年の傾向や特徴を表した結果ではありません。
 ※中1・2はCoreタイプ、中3はBasicタイプを受検しています。
 ※Coreタイプ（中1・2）の測定可能範囲は、CEFRレベルはA2、CEFR-JレベルはA2.2までの測定です。なお、SpeakingのみCEFR-JレベルはA2.1までの測定範囲です。
 ※【中1 (b)・R】各CEFRレベルの集計人数は、A2: 1,067人、A1: 5,793人、Pre-A1: 654人
 ※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占めます。

2.3.7 中1「話すこと」のCEFRレベル別に見た採点観点別結果分析（R6年度）

- パートBのNo. 3「質問」において、CEFR A1とA2との間で、正解率に約47ポイント差
- CEFR Pre-A1・A1において、パートCのすべてのコマで正解率に大きな差
- パートDにおいて、CEFR A2では100%、A1では約67～69%の生徒が「意見」と「理由」を述べているが、Pre-A1では1.0%、0.0%とその差が大きい

採点観点	パートA 音読		パートB 相手とのやり取り				パートC ストーリーを英語で話す				パートD 自分の意見を述べる					
	発音・流暢さ		Goal Achievement				Goal Achievement 各コマの内容を伝える				語彙・ 文法	発音・ 流暢さ	意見	理由	語彙・ 文法	発音・ 流暢さ
	No.1	No.2	応答		質問	応答	1コマ	2コマ	3コマ	4コマ						
採点段階	0～3点	0～3点	x,○	x,○	x,○	x,○	x,○	x,○	x,○	x,○	0～4点	0～3点	x,○	x,○	0～4点	0～3点
A2	2.5点	2.6点	99.3%	100.0%	62.2%	99.3%	99.3%	74.8%	85.9%	96.3%	2.2点	2.4点	100.0%	100.0%	2.3点	2.4点
A1	1.9点	1.9点	94.3%	93.9%	15.7%	79.5%	89.0%	58.0%	39.1%	54.7%	1.4点	2.0点	67.3%	69.4%	1.2点	1.7点
Pre-A1	1.0点	0.6点	52.0%	63.0%	0.0%	24.0%	32.0%	9.0%	3.0%	7.0%	0.8点	1.2点	1.0%	0.0%	0.1点	0.1点
全体	1.9点	1.9点	93.3%	93.3%	17.0%	78.7%	87.8%	57.3%	39.9%	55.0%	1.4点	2.0点	66.7%	68.6%	1.2点	1.7点

※R6年度使用問題版の解答状況をもとに分析しています。毎年の傾向や特徴を表した結果ではありません。
 ※中1・2はCoreタイプ、中3はBasicタイプを受検しています。
 ※Coreタイプ（中1・2）の測定可能範囲は、CEFRレベルはA2、CEFR-JレベルはA2.2までの測定です。なお、SpeakingのみCEFR-JレベルはA2.1までの測定範囲です。
 ※採点する段階数が3以上の多段階採点（例：0～3点）の観点については、「平均点」を示しています。正誤判定（x,○）の観点については、「正解率（%）」を示しています。
 ※SpeakingパートDの「理由」は、Coreタイプにおいては「x」「○」で採点をしています。
 ※【中1（b）・S】各CEFRレベルの集計人数は、A2：271人、A1：7,040人、Pre-A1：203人
 ※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占めます。

2.3.8 中1「書くこと」のCEFRレベル別に見た採点観点別結果分析（R6年度）

- パートA「タスク1」「タスク2」において、CEFR A2は92%以上の正解率だが、A1では約50~60%であり、Pre-A1とA1の差も含めて、CEFRレベル間の差が大きい
- パートB「意見」「理由」において、CEFR A2は92%以上の正解率であり、A1とは大きな差
- パートB「構成・展開」では、CEFR A2でも3.1点（満点8点）で、いくつかのアイデアが書かれているが、内容のつながりが見えにくい傾向

採点観点	パートA Eメール問題				パートB 意見展開問題				
	タスク1	タスク2	正確さ	構成	意見	理由	語彙	文法	構成・展開
採点段階	x,○	x,○	0~3点	0~3点	x,○	x,○	0~8点	0~8点	0~8点
A2	92.5%	95.8%	2.5点	2.7点	92.1%	99.1%	3.0点	3.0点	3.1点
A1	50.3%	60.4%	2.0点	2.2点	15.8%	22.5%	1.8点	1.8点	1.7点
Pre-A1	0.0%	0.0%	0.0点	0.0%	0.0%	0.0%	0.0点	0.0点	0.0点
全体	67.4%	74.2%	2.2点	2.4点	49.1%	55.7%	2.3点	2.3点	2.3点

※R6年度使用問題版の解答状況をもとに分析しています。毎年の傾向や特徴を表した結果ではありません。
 ※中1・2はCoreタイプ、中3はBasicタイプを受検しています。
 ※Coreタイプ（中1・2）の測定可能範囲は、CEFRレベルはA2、CEFR-JレベルはA2.2までの測定です。なお、SpeakingのみCEFR-JレベルはA2.1までの測定範囲です。
 ※採点する段階数が3以上の多段階採点（例：0~3点）の観点については、「平均点」を示しています。正誤判定（x,○）の観点については、「正解率（%）」を示しています。
 ※【中1（b）・W】各CEFRレベルの集計人数は、A2: 3,332人、A1: 3,943人、Pre-A1: 239人
 ※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占めます。

2.3.9 中2「聞くこと」のCEFRレベル別に見たパート別平均正解率（R6年度）

- いずれのCEFRレベルでも、パートA（単文レベルの英文を正しく聞き分ける力を問う）の正解率が全パートのなかで最も高い
- パートA・Cにおいて、CEFR Pre-A1とA1との間に30ポイント以上の差

	パートA イラスト説明問題	パートB 会話応答問題	パートC 課題解決問題	パートD 要点理解問題
A2	98.5%	83.3%	87.3%	79.4%
A1	77.7%	59.2%	60.9%	56.0%
Pre-A1	41.3%	31.8%	30.7%	30.4%
	36.4pt差		30.2pt差	
全体	78.7%	61.6%	63.5%	58.4%

※R6年度使用問題版の解答状況をもとに分析しています。毎年の傾向や特徴を表した結果ではありません。
 ※中1・2はCoreタイプ、中3はBasicタイプを受検しています。
 ※Coreタイプ（中1・2）の測定可能範囲は、CEFRレベルはA2、CEFR-JレベルはA2.2までの測定です。なお、SpeakingのみCEFR-JレベルはA2.1までの測定範囲です。
 ※【中2 (b)・L】各CEFRレベルの集計人数は、A2: 2,060人、A1: 7,706人、Pre-A1: 907人
 ※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占めます。

2.3.10 中2「読むこと」のCEFRレベル別に見たパート別平均正解率（R6年度）

- CEFR A2において、パートCの正解率は約90%と、他のパートと比べて高く、A1とは約44ポイントの差
- CEFR Pre-A1では、パートA・Cの正解率が20%前後

	パートA 短文文脈理解問題	パートB 概要把握問題/情報検索問題	パートC 要点理解問題
A2	74.4%	73.9%	90.3%
A1	45.5%	48.3%	45.9%
Pre-A1	21.1%	27.4%	17.7%
全体	50.8%	53.1%	55.0%

※R6年度使用問題版の解答状況をもとに分析しています。毎年の傾向や特徴を表した結果ではありません。
 ※中1・2はCoreタイプ、中3はBasicタイプを受検しています。
 ※Coreタイプ（中1・2）の測定可能範囲は、CEFRレベルはA2、CEFR-JレベルはA2.2までの測定です。なお、SpeakingのみCEFR-JレベルはA2.1までの測定範囲です。
 ※【中2（b）・R】各CEFRレベルの集計人数は、A2：2,762人、A1：6,972人、Pre-A1：939人
 ※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占めます。

2.3.11 中2「話すこと」のCEFRレベル別に見た採点観点別結果分析（R6年度）

- パートBにおいて、CEFR A1・A2の正解率はNo.1、2、4で約80～98%と高いが、No.3「質問」では正解率が大きく低下し、A1とA2の差も約52ポイントと大きい
- パートCの全コマにおいて、CEFR Pre-A1とCEFR A1以上では、正解率に大きな差
- パートD「意見」において、CEFR A2では約100%、A1では約68%の生徒が「意見」を述べているが、Pre-A1では約1%と差が大きい

パートA 音読		パートB 相手とのやり取り				パートC ストーリーを英語で話す				パートD 自分の意見を述べる						
採点観点	発音・流暢さ		Goal Achievement				Goal Achievement				語彙・ 文法	発音・ 流暢さ	意見	理由	語彙・ 文法	発音・ 流暢さ
	No.1	No.2	応答		質問	応答	各コマの内容を伝える									
採点段階	No.1	No.2	No.1	No.2	No.3	No.4	1コマ	2コマ	3コマ	4コマ	0～4点	0～3点	x,○	x,○	0～4点	0～3点
A2	2.5点	2.6点	98.2%	98.2%	66.4%	98.2%	99.6%	73.5%	85.4%	96.5%	2.2点	2.3点	99.6%	99.6%	2.3点	2.4点
A1	1.9点	1.9点	93.9%	91.4%	14.4%	80.0%	88.2%	57.2%	43.7%	54.6%	1.4点	2.0点	67.5%	70.4%	1.2点	1.7点
Pre-A1	0.8点	0.7点	45.4%	43.4%	0.7%	24.8%	29.4%	14.3%	5.8%	1.5%	0.7点	1.1点	1.0%	0.5%	0.1点	0.2点
全体	1.9点	1.9点	91.5%	89.1%	15.1%	77.7%	85.5%	55.4%	43.0%	53.0%	1.4点	1.9点	65.0%	67.6%	1.2点	1.6点

※R6年度使用問題版の解答状況をもとに分析しています。毎年の傾向や特徴を表した結果ではありません。
 ※中1・2はCoreタイプ、中3はBasicタイプを受検しています。
 ※Coreタイプ（中1・2）の測定可能範囲は、CEFRレベルはA2、CEFR-JレベルはA2.2までの測定です。なお、SpeakingのみCEFR-JレベルはA2.1までの測定範囲です。
 ※採点する段階数が3以上の多段階採点（例：0～3点）の観点については、「平均点」を示しています。正誤判定（x,○）の観点については、「正解率（%）」を示しています。
 ※Speaking パートDの「理由」は、Coreタイプにおいては「x」「○」で採点をしています。
 ※【中2 (b)・S】各CEFRレベルの集計人数は、A2: 288人、A1: 9,819人、Pre-A1: 566人
 ※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占めます。

2.3.12 中2「書くこと」のCEFRレベル別に見た採点観点別結果分析（R6年度）

- パートA「タスク1」「タスク2」において、CEFR A1では正解率が約44～56%だが、A2は93%以上の正解率と大きな差
- パートB「意見」「理由」において、CEFR A1とA2との間における正解率の差は大きい
- パートB「構成・展開」において、CEFR A2は3.2点（満点8点）であり、いくつかのアイデアが書かれているが、内容のつながりが見えにくい傾向

採点観点	パートA Eメール問題				パートB 意見展開問題				
	タスク1	タスク2	正確さ	構成	意見	理由	語彙	文法	構成・展開
採点段階	×,○	×,○	0～3点	0～3点	×,○	×,○	0～8点	0～8点	0～8点
A2	93.0%	96.4%	2.6点	2.7点	92.5%	99.2%	3.1点	3.1点	3.2点
	48.8pt差	40.7pt差			71.4pt差	70.5pt差			
A1	44.2%	55.7%	2.0点	2.2点	21.1%	28.7%	1.8点	1.7点	1.7点
Pre-A1	0.0%	0.0%	0.0点	0.0点	0.0%	0.0%	0.0点	0.0点	0.0点
全体	69.3%	75.7%	2.2点	2.4点	59.8%	66.5%	2.4点	2.4点	2.4点

※R6年度使用問題版の解答状況をもとに分析しています。毎年の傾向や特徴を表した結果ではありません。
 ※中1・2はCoreタイプ、中3はBasicタイプを受検しています。
 ※Coreタイプ（中1・2）の測定可能範囲は、CEFRレベルはA2、CEFR-JレベルはA2.2までの測定です。なお、SpeakingのみCEFR-JレベルはA2.1までの測定範囲です。
 ※採点する段階数が3以上の多段階採点（例：0～3点）の観点については、「平均点」を示しています。正誤判定（×、○）の観点については、「正解率（%）」を示しています。
 ※【中2（b）・W】各CEFRレベルの集計人数は、A2: 5,924人、A1: 4,258人、Pre-A1: 491人
 ※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占めます。

2.3.13 中3「聞くこと」のCEFRレベル別に見たパート別平均正解率（R6年度）

- CEFR A1～B1において、パートA（単文レベルの英文を正しく聞き分ける力を問う）の正解率が全パートのなかで最も高い
- CEFR A1～B1において、パートC（英文を聞いて求められている課題を解決する力を問う）の正解率が全パートのなかで最も低い

	パートA イラスト説明問題	パートB 会話応答問題	パートC 課題解決問題	パートD 要点理解問題
B1	97.7%	90.4%	81.8%	88.7%
A2	88.9%	71.2%	60.1%	73.2%
A1	70.7%	45.8%	42.0%	49.4%
全体	84.8%	67.5%	59.6%	69.0%

※R6年度使用問題版の解答状況をもとに分析しています。毎年の傾向や特徴を表した結果ではありません。
 ※中1・2はCoreタイプ、中3はBasicタイプを受検しています。
 ※Basicタイプ（中3）の測定可能範囲は、CEFRレベルはB1、CEFR-JレベルはB1.2までの測定です。なお、SpeakingのみCEFR-JレベルはB1.1までの測定範囲です。
 ※【中3(b)・L】各CEFRレベルの集計人数は、B1: 3,396人、A2: 4,824人、A1: 4,223人、Pre-A1: 88人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。
 ※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占めます。

2.3.14 中3「読むこと」のCEFRレベル別に見たパート別平均正解率（R6年度）

- CEFR A1～B1では、パートA・Cと比べて、パートB（概要を素早く理解する力・必要な情報を素早く見つけ出す力を問う）の正解率が低い

	パートA 短文文脈理解問題	パートB 概要把握問題/情報検索問題	パートC 要点理解問題
B1	92.0%	73.5%	95.7%
A2	66.4%	46.7%	69.8%
A1	40.3%	30.1%	32.1%
全体	63.9%	47.4%	63.7%

※R6年度使用問題版の解答状況をもとに分析しています。毎年の傾向や特徴を表した結果ではありません。
 ※中1・2はCoreタイプ、中3はBasicタイプを受検しています。
 ※Basicタイプ（中3）の測定可能範囲は、CEFRレベルはB1、CEFR-JレベルはB1.2までの測定です。なお、SpeakingのみCEFR-JレベルはB1.1までの測定範囲です。
 ※【中3（b）・R】各CEFRレベルの集計人数は、B1: 2,769人、A2: 5,825人、A1: 3,922人、Pre-A1: 15人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。
 ※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占めます。

2.3.15 中3「話すこと」のCEFRレベル別に見た採点観点別結果分析（R6年度）

- CEFR A1・A2では、パートD「意見」で正解率に大きな差（約70ポイント差）
- 身近で社会的なテーマが出題されるパートDにおいて、CEFR A2・B1ではパートAとほぼ同程度の「発音・流暢さ」であるが、A1ではパートAと比べて、パートD「発音・流暢さ」は低い

採点観点	パートA 音読		パートB 相手とのやり取り				パートC ストーリーを英語で話す				パートD 自分の意見を述べる					
	発音・流暢さ		Goal Achievement				Goal Achievement				語彙・ 文法	発音・ 流暢さ	意見	理由	語彙・ 文法	発音・ 流暢さ
	No.1	No.2	応答		課題解決		質問		各コマの内容を伝える							
No.1	No.2	No.1	No.2	No.3	No.4	1コマ	2コマ	3コマ	4コマ	0～4点	0～3点	x,○	0～2点	0～4点	0～3点	
採点段階	0～3点	0～3点	x,○	x,○	x,○	x,○	x,○	x,○	x,○	x,○	0～4点	0～3点	x,○	0～2点	0～4点	0～3点
B1	2.3点	2.3点	65.5%	73.3%	78.4%	86.3%	88.9%	86.9%	90.1%	61.7%	2.1点	2.1点	98.7%	1.3点	2.1点	2.1点
A2	2.0点	2.0点	27.8%	50.0%	40.0%	61.6%	72.7%	51.6%	78.4%	19.0%	1.7点	2.0点	76.6%	0.7点	1.3点	1.9点
A1	1.8点	1.5点	9.2%	30.3%	12.6%	27.2%	40.3%	15.1%	47.7%	3.8%	1.0点	1.5点	7.0%	0.0点	0.3点	0.4点
全体	2.0点	2.0点	31.8%	51.6%	43.2%	62.0%	72.0%	53.5%	77.2%	24.1%	1.7点	2.0点	73.3%	0.7点	1.3点	1.8点

※R6年度使用問題版の解答状況をもとに分析しています。毎年の傾向や特徴を表した結果ではありません。
 ※中1・2はCoreタイプ、中3はBasicタイプを受検しています。
 ※Basicタイプ（中3）の測定可能範囲は、CEFRレベルはB1、CEFR-JレベルはB1.2までの測定です。なお、SpeakingのみCEFR-JレベルはB1.1までの測定範囲です。
 ※採点する段階数が3以上の多段階採点（例：0～3点）の観点については、「平均点」を示しています。正誤判定（x,○）の観点については、「正解率（%）」を示しています。
 ※SpeakingパートDの「理由」は、「x」「○」「◎」で採点をしています。表中では便宜上、0点「x」、1点「○」、2点「◎」と点数化しています。
 ※【中3 (b)・S】各CEFRレベルの集計人数は、B1: 1,908人、A2: 9,428人、A1: 1,168人、Pre-A1: 27人。なお、Pre-A1は、人数が極めて少ないことから分析対象外としています。
 ※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占めます。

2.3.16 中3「書くこと」のCEFRレベル別に見た採点観点別結果分析（R6年度）

- パートA「タスク1」「タスク2」、パートB「意見」「理由」において、CEFR B1は100%に近い正解率
- CEFR A1・A2について、パートA「タスク1」「タスク2」では約30～38ポイントの差、パートB「意見」「理由」では約54～57ポイントの差

採点観点	パートA Eメール問題				パートB 意見展開問題				
	タスク1	タスク2	正確さ	構成	意見	理由	語彙	文法	構成・展開
採点段階	x,○	x,○	0～3点	0～3点	x,○	x,○	0～8点	0～8点	0～8点
B1	99.7%	99.4%	3.0点	3.0点	98.2%	100.0%	4.2点	4.2点	4.2点
A2	87.7%	85.7%	2.4点	2.7点	79.5%	99.3%	3.7点	3.6点	3.7点
A1	49.3%	55.4%	2.0点	2.3点	25.4%	42.4%	2.6点	2.5点	2.5点
全体	76.3%	77.2%	2.3点	2.6点	64.5%	79.8%	3.4点	3.3点	3.3点

※R6年度使用問題版の解答状況をもとに分析しています。毎年の傾向や特徴を表した結果ではありません。
 ※中1・2はCoreタイプ、中3はBasicタイプを受検しています。
 ※Basicタイプ（中3）の測定可能範囲は、CEFRレベルはB1、CEFR-JレベルはB1.2までの測定です。なお、SpeakingのみCEFR-JレベルはB1.1までの測定範囲です。
 ※採点する段階数が3以上の多段階採点（例：0～3点）の観点については、「平均点」を示しています。正誤判定（x,○）の観点については、「正解率（%）」を示しています。
 ※【中3（b）・W】各CEFRレベルの集計人数は、B1：2,252人、A2：6,147人、A1：3,894人、Pre-A1：238人。なお、Pre-A1は分析対象外としています。
 ※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占めます。

2.4 中学 付録

使用問題版

学年	実施回	タイプ (注1)
中1	第39, 49, 67回	Core
中2	第39, 49, 67回	Core
中3	第38, 48, 66回	Basic

注1 : Coreタイプ (中1・2) の測定可能範囲は、
トータルスコア0(Pre-A1)～840(A2.2) [各技能
0(Pre-A1)～210(A2.2 *SpeakingのみA2.1)]
Basicタイプ (中3) の測定可能範囲は、トータルスコア
0(Pre-A1)～1080(B1.2) [各技能0(Pre-A1)～
270(B1.2 *SpeakingのみB1.1)]
測定可能範囲を越えた英語力を持つ生徒の結果は、測
定上限のスコアおよびCEFR/CEFR-Jで表示されるため天
井効果 (より高い能力だとしても上限スコアに留まる) が
発生する可能性がある。平均、標準偏差およびその推移を確
認するにあたっては、スコアの天井効果による影響がある点
に留意する必要がある。

2.4.1 中1 4技能別スコア 経年比較

R1年度

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
210	2.9%	2.5%	1.4%	18.3%
200~	1.4%	0.4%	0.4%	1.2%
190~	1.2%	0.6%	0.9%	12.3%
180~	1.5%	0.8%	0.5%	10.4%
170~	2.2%	1.1%	0.3%	5.2%
160~	3.1%	1.3%	2.6%	6.0%
150~	4.3%	1.6%	2.2%	6.9%
140~	5.6%	2.3%	5.6%	3.7%
130~	8.0%	3.8%	5.9%	6.6%
120~	9.7%	5.5%	10.4%	5.5%
110~	11.2%	8.1%	18.4%	2.8%
100~	13.1%	12.1%	19.5%	1.8%
90~	12.2%	13.4%	14.1%	2.4%
80~	10.3%	13.5%	9.2%	2.9%
70~	7.1%	11.9%	4.5%	1.8%
60~	3.8%	9.1%	1.8%	4.1%
50~	1.6%	5.3%	1.1%	1.5%
40~	0.5%	3.7%	0.6%	1.4%
30~	0.2%	1.6%	0.2%	1.0%
20~	0.1%	0.7%	0.2%	0.6%
10~	0.0%	0.7%	0.2%	1.0%
0~	0.0%	0.0%	0.1%	2.6%

R3年度

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
210	3.4%	3.2%	1.5%	19.0%
200~	1.1%	1.1%	0.5%	9.3%
190~	1.4%	1.3%	0.6%	12.9%
180~	1.5%	1.1%	1.1%	5.2%
170~	2.6%	1.5%	1.0%	3.5%
160~	3.2%	1.8%	2.8%	5.4%
150~	5.1%	2.6%	3.9%	12.2%
140~	7.4%	3.4%	5.6%	9.1%
130~	9.6%	4.4%	9.4%	3.6%
120~	12.5%	6.1%	12.0%	1.9%
110~	13.6%	7.3%	20.2%	1.8%
100~	11.8%	9.2%	13.6%	4.6%
90~	10.0%	10.1%	11.1%	3.8%
80~	7.5%	10.9%	6.8%	0.8%
70~	4.6%	10.1%	4.4%	1.3%
60~	2.4%	9.0%	2.4%	0.7%
50~	1.3%	7.0%	1.8%	1.7%
40~	0.4%	4.4%	0.8%	0.0%
30~	0.4%	2.9%	0.2%	0.0%
20~	0.1%	1.5%	0.1%	0.0%
10~	0.1%	1.1%	0.1%	0.0%
0~	0.0%	0.0%	0.1%	3.3%

R6年度

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
210	2.7%	2.9%	1.4%	28.0%
200~	1.4%	1.1%	0.6%	6.3%
190~	1.4%	1.2%	0.9%	10.1%
180~	1.8%	1.7%	0.6%	8.7%
170~	2.9%	2.0%	3.3%	9.3%
160~	3.9%	2.5%	5.1%	8.1%
150~	4.9%	2.8%	6.7%	8.3%
140~	6.5%	4.2%	11.9%	6.6%
130~	7.8%	5.1%	9.4%	2.4%
120~	10.2%	7.3%	10.7%	3.8%
110~	9.8%	9.3%	13.9%	1.8%
100~	11.3%	11.0%	11.5%	1.9%
90~	10.6%	11.4%	8.8%	1.2%
80~	9.4%	11.7%	6.1%	0.2%
70~	7.7%	10.0%	3.8%	0.1%
60~	4.5%	7.2%	2.6%	0.0%
50~	2.1%	4.1%	1.0%	0.0%
40~	0.8%	2.5%	0.6%	0.0%
30~	0.2%	1.2%	0.4%	0.0%
20~	0.1%	0.5%	0.3%	0.0%
10~	0.0%	0.4%	0.2%	0.0%
0~	0.0%	0.0%	0.1%	3.1%

平均	116.3	96.7	111.4	150.7
標準偏差	36.1	36.8	28.8	55.6

平均	121.5	98.9	115.2	161.2
標準偏差	35.0	43.3	30.7	49.7

平均	117.3	106.4	121.7	172.8
標準偏差	37.5	40.3	33.2	43.5

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占める。

2.4.2 中 1 4 技能別CEFR-J / CEFR 経年比較

CEFR-J

R 1 年度

CEFR-J	Listening	Reading	Speaking	Writing
A2.2	5.5%	4.3%	0.0%	18.3%
A2.1	6.8%	4.0%	3.2%	13.5%
A1.3	17.9%	19.8%	16.6%	32.1%
A1.2	46.2%	39.0%	62.4%	16.7%
A1.1	17.4%	21.0%	15.4%	7.2%
Pre-A1	6.2%	11.9%	2.4%	12.2%

R 3 年度

CEFR-J	Listening	Reading	Speaking	Writing
A2.2	5.8%	6.7%	0.0%	19.0%
A2.1	7.3%	6.0%	3.7%	22.2%
A1.3	22.2%	21.3%	22.7%	35.4%
A1.2	47.9%	30.1%	56.9%	11.9%
A1.1	12.1%	19.1%	13.7%	5.9%
Pre-A1	4.7%	16.9%	3.1%	5.6%

R 6 年度

CEFR-J	Listening	Reading	Speaking	Writing
A2.2	5.4%	6.9%	0.0%	28.0%
A2.1	8.6%	7.3%	3.6%	16.4%
A1.3	19.2%	25.8%	36.4%	41.1%
A1.2	42.0%	34.1%	44.9%	9.9%
A1.1	17.1%	17.3%	12.5%	1.4%
Pre-A1	7.8%	8.7%	2.7%	3.2%

CEFR

R 1 年度

CEFR	Listening	Reading	Speaking	Writing
A2	12.3%	8.3%	3.2%	31.8%
A1	81.5%	79.8%	94.4%	56.0%
Pre-A1	6.2%	11.9%	2.4%	12.2%

R 3 年度

CEFR	Listening	Reading	Speaking	Writing
A2	13.1%	12.6%	3.7%	41.2%
A1	82.2%	70.5%	93.2%	53.2%
Pre-A1	4.7%	16.9%	3.1%	5.6%

R 6 年度

CEFR	Listening	Reading	Speaking	Writing
A2	14.0%	14.2%	3.6%	44.4%
A1	78.3%	77.1%	93.7%	52.5%
Pre-A1	7.8%	8.7%	2.7%	3.2%

※話すこと Speakingについて、CoreタイプはA2.2が測定範囲外です。

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。

※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占める。

2.4.3 中2 4技能別スコア 経年比較

R1年度

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
210	3.0%	3.5%	0.4%	33.4%
200~	1.9%	1.1%	0.3%	2.1%
190~	2.2%	1.5%	0.5%	12.4%
180~	2.8%	2.0%	1.3%	9.0%
170~	4.2%	2.8%	0.5%	4.4%
160~	5.2%	3.4%	4.5%	4.5%
150~	6.6%	4.3%	4.0%	5.1%
140~	7.9%	5.4%	6.5%	2.7%
130~	8.7%	6.8%	7.2%	4.5%
120~	9.4%	7.9%	10.4%	3.8%
110~	9.2%	9.4%	12.8%	2.6%
100~	9.2%	9.3%	14.2%	1.2%
90~	8.5%	10.1%	11.0%	1.6%
80~	8.0%	9.7%	9.2%	1.8%
70~	6.3%	8.0%	6.6%	0.9%
60~	4.1%	6.0%	4.8%	1.9%
50~	1.8%	3.9%	2.6%	1.1%
40~	0.8%	2.6%	1.4%	1.3%
30~	0.2%	1.1%	0.6%	0.6%
20~	0.1%	0.6%	0.3%	0.5%
10~	0.1%	0.6%	0.6%	0.6%
0~	0.0%	0.0%	0.3%	4.0%

平均	124.0	111.9	109.3	163.9
標準偏差	39.5	42.5	33.3	57.5

R3年度

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
210	3.4%	4.1%	0.5%	33.5%
200~	1.2%	2.1%	0.2%	10.9%
190~	2.0%	2.1%	0.6%	13.3%
180~	2.8%	2.6%	1.0%	4.3%
170~	3.3%	3.2%	1.3%	3.1%
160~	5.1%	4.0%	3.6%	4.0%
150~	6.9%	5.2%	5.0%	7.6%
140~	8.6%	5.9%	6.1%	6.1%
130~	10.2%	6.6%	8.8%	2.1%
120~	11.9%	7.3%	10.3%	1.2%
110~	11.0%	7.9%	15.8%	1.2%
100~	10.3%	8.2%	11.8%	2.8%
90~	8.1%	8.4%	9.9%	2.7%
80~	6.2%	7.8%	7.3%	0.5%
70~	3.9%	7.6%	6.1%	1.0%
60~	2.4%	6.0%	4.5%	0.6%
50~	1.3%	4.4%	3.4%	1.3%
40~	0.8%	2.9%	1.8%	0.0%
30~	0.2%	2.0%	0.8%	0.0%
20~	0.1%	0.9%	0.3%	0.0%
10~	0.1%	0.7%	0.3%	0.0%
0~	0.0%	0.0%	0.5%	3.9%

平均	126.7	114.8	110.5	172.4
標準偏差	36.7	46.3	34.2	51.6

R6年度

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
210	3.2%	4.5%	0.8%	38.7%
200~	1.7%	1.7%	0.4%	6.8%
190~	2.2%	2.7%	0.6%	10.0%
180~	2.6%	3.0%	0.9%	7.1%
170~	4.1%	3.9%	3.6%	7.6%
160~	5.5%	4.4%	6.4%	5.6%
150~	6.7%	5.5%	6.0%	5.8%
140~	7.8%	5.8%	12.0%	4.7%
130~	8.9%	6.3%	8.5%	2.0%
120~	9.2%	6.7%	9.7%	3.0%
110~	8.9%	7.7%	12.4%	1.2%
100~	8.5%	7.9%	10.7%	1.6%
90~	8.6%	9.3%	8.9%	1.1%
80~	7.5%	8.7%	6.3%	0.1%
70~	6.1%	7.3%	4.5%	0.0%
60~	4.7%	5.6%	3.0%	0.0%
50~	2.3%	3.9%	2.0%	0.0%
40~	0.9%	2.6%	1.2%	0.0%
30~	0.4%	1.2%	0.6%	0.0%
20~	0.1%	0.7%	0.5%	0.0%
10~	0.1%	0.5%	0.4%	0.0%
0~	0.0%	0.0%	0.6%	4.6%

平均	123.5	118.0	118.5	176.6
標準偏差	40.1	45.9	35.9	48.9

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占める。

2.4.4 中2 4技能別CEFR-J / CEFR 経年比較

CEFR-J

R1年度

CEFR-J	Listening	Reading	Speaking	Writing
A2.2	7.1%	8.1%	0.0%	33.4%
A2.1	12.1%	10.5%	2.5%	14.6%
A1.3	23.1%	29.5%	22.7%	25.6%
A1.2	36.3%	29.1%	48.5%	12.1%
A1.1	14.3%	13.9%	20.5%	4.3%
Pre-A1	7.1%	8.9%	5.8%	9.9%

R3年度

CEFR-J	Listening	Reading	Speaking	Writing
A2.2	6.7%	10.9%	0.0%	33.5%
A2.1	11.2%	12.4%	2.3%	24.2%
A1.3	25.8%	27.8%	24.8%	25.2%
A1.2	41.3%	24.4%	47.8%	7.1%
A1.1	10.1%	13.6%	18.0%	4.2%
Pre-A1	4.9%	10.9%	7.2%	5.8%

R6年度

CEFR-J	Listening	Reading	Speaking	Writing
A2.2	7.2%	12.0%	0.0%	38.7%
A2.1	12.1%	13.9%	2.7%	16.8%
A1.3	23.4%	26.5%	36.6%	30.8%
A1.2	35.3%	25.9%	41.5%	7.8%
A1.1	13.5%	12.9%	13.9%	1.3%
Pre-A1	8.5%	8.8%	5.3%	4.6%

CEFR

R1年度

CEFR	Listening	Reading	Speaking	Writing
A2	19.2%	18.6%	2.5%	48.0%
A1	73.7%	72.5%	91.7%	42.1%
Pre-A1	7.1%	8.9%	5.8%	9.9%

R3年度

CEFR	Listening	Reading	Speaking	Writing
A2	17.9%	23.3%	2.3%	57.7%
A1	77.2%	65.8%	90.5%	36.5%
Pre-A1	4.9%	10.9%	7.2%	5.8%

R6年度

CEFR	Listening	Reading	Speaking	Writing
A2	19.3%	25.9%	2.7%	55.5%
A1	72.2%	65.3%	92.0%	39.9%
Pre-A1	8.5%	8.8%	5.3%	4.6%

※話すこと Speakingについて、CoreタイプはA2.2が測定範囲外です。

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。

※集団属性情報【中学】： 学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占める。

2.4.5 中3 4技能別スコア 経年比較

R1年度

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
270	5.1%	3.8%	13.2%	3.0%
260~	1.9%	1.5%	15.7%	1.6%
250~	2.5%	1.7%	16.8%	4.0%
240~	3.2%	2.5%	10.4%	4.5%
230~	3.8%	2.8%	9.7%	18.1%
220~	4.4%	3.8%	7.2%	16.7%
210~	5.7%	4.6%	7.1%	9.3%
200~	6.9%	5.5%	4.8%	9.6%
190~	7.1%	6.4%	4.3%	5.4%
180~	7.9%	7.7%	3.2%	12.8%
170~	8.5%	8.3%	2.1%	4.1%
160~	7.9%	8.4%	1.8%	3.1%
150~	8.0%	9.2%	1.0%	2.0%
140~	7.3%	8.3%	0.8%	2.2%
130~	6.0%	7.7%	0.6%	0.9%
120~	4.8%	6.8%	0.5%	0.5%
110~	3.4%	5.0%	0.4%	0.4%
100~	2.5%	3.2%	0.1%	0.3%
90~	1.5%	1.6%	0.2%	0.1%
80~	0.9%	0.7%	0.0%	0.1%
70~	0.4%	0.3%	0.1%	0.2%
60~	0.3%	0.1%	0.1%	0.1%
50~	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%
40~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
10~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
0~	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%

平均	180.2	172.4	235.0	208.2
標準偏差	46.6	44.8	35.3	38.8

R3年度

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
270	7.8%	4.5%	10.6%	0.3%
260~	2.2%	1.5%	7.8%	2.7%
250~	2.6%	2.1%	9.5%	1.9%
240~	3.0%	2.2%	10.7%	10.7%
230~	4.0%	2.9%	11.0%	14.2%
220~	4.4%	3.6%	11.1%	17.4%
210~	5.1%	4.4%	9.5%	6.6%
200~	6.1%	5.0%	7.5%	10.2%
190~	6.3%	6.0%	7.2%	16.9%
180~	7.0%	7.2%	5.5%	7.2%
170~	7.2%	7.8%	3.3%	1.9%
160~	7.1%	9.0%	2.2%	3.7%
150~	7.2%	8.7%	1.4%	1.7%
140~	6.9%	9.0%	1.0%	0.8%
130~	5.8%	8.2%	0.6%	0.4%
120~	4.7%	6.4%	0.4%	0.5%
110~	4.0%	4.8%	0.2%	0.2%
100~	3.0%	3.2%	0.1%	0.1%
90~	2.2%	1.6%	0.2%	0.1%
80~	1.5%	1.0%	0.1%	0.5%
70~	0.7%	0.3%	0.0%	0.1%
60~	0.6%	0.2%	0.0%	0.0%
50~	0.3%	0.1%	0.0%	0.0%
40~	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
30~	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
20~	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
10~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
0~	0.0%	0.0%	0.1%	1.7%

平均	180.0	172.2	225.0	207.6
標準偏差	52.0	46.1	35.0	39.9

R6年度

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
270	9.3%	6.5%	7.9%	1.4%
260~	2.3%	2.2%	7.3%	1.7%
250~	3.1%	2.6%	13.3%	0.8%
240~	3.4%	3.2%	10.7%	13.8%
230~	4.2%	3.4%	13.0%	0.1%
220~	4.9%	4.2%	10.5%	17.9%
210~	5.2%	4.5%	10.5%	9.2%
200~	5.8%	5.8%	7.5%	9.8%
190~	6.7%	6.2%	5.9%	12.1%
180~	6.6%	6.9%	3.8%	9.3%
170~	7.2%	7.5%	2.9%	7.1%
160~	7.0%	7.6%	2.1%	5.0%
150~	7.3%	8.0%	2.2%	3.8%
140~	6.4%	7.7%	1.1%	2.0%
130~	5.4%	7.5%	0.3%	1.5%
120~	4.3%	6.0%	0.2%	0.9%
110~	3.6%	4.4%	0.4%	0.6%
100~	2.7%	3.1%	0.2%	0.5%
90~	2.0%	1.4%	0.0%	0.2%
80~	1.2%	0.8%	0.0%	0.0%
70~	0.7%	0.3%	0.0%	0.0%
60~	0.3%	0.1%	0.0%	0.0%
50~	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
40~	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
30~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
10~	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
0~	0.0%	0.0%	0.2%	1.8%

平均	184.3	178.8	226.0	199.3
標準偏差	51.8	48.5	34.2	42.6

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※集団属性情報【中学】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占める。

2.4.6 中3 4技能別CEFR-J / CEFR 経年比較

CEFR-J

R 1 年度

CEFR-J	Listening	Reading	Speaking	Writing
B1.2	9.5%	7.0%	0.0%	4.5%
B1.1	11.4%	9.2%	28.8%	26.5%
A2.2	19.7%	24.2%	36.9%	26.1%
A2.1	24.2%	25.8%	26.5%	15.0%
A1.3	21.4%	27.7%	6.3%	24.3%
A1.2	12.1%	5.6%	1.1%	2.1%
A1.1	1.3%	0.4%	0.2%	0.4%
Pre-A1	0.5%	0.0%	0.2%	1.2%

R 3 年度

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
B1.2	12.7%	8.2%	0.0%	3.1%
B1.1	11.4%	8.7%	18.3%	26.8%
A2.2	17.5%	22.6%	31.2%	24.0%
A2.1	21.3%	25.5%	40.8%	27.1%
A1.3	19.8%	28.4%	8.4%	15.3%
A1.2	13.8%	5.9%	1.0%	1.3%
A1.1	2.2%	0.5%	0.2%	0.7%
Pre-A1	1.2%	0.1%	0.1%	1.7%

R 6 年度

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
B1.2	14.7%	11.2%	0.0%	3.2%
B1.1	12.5%	10.9%	15.2%	14.8%
A2.2	17.6%	23.5%	37.0%	27.2%
A2.1	20.9%	23.0%	38.2%	21.9%
A1.3	19.1%	25.6%	8.6%	27.2%
A1.2	12.6%	5.3%	0.8%	3.6%
A1.1	1.9%	0.5%	0.0%	0.3%
Pre-A1	0.7%	0.1%	0.2%	1.9%

CEFR

R 1 年度

CEFR	Listening	Reading	Speaking	Writing
B1	20.9%	16.2%	28.8%	31.0%
A2	43.9%	50.1%	63.4%	41.1%
A1	34.8%	33.7%	7.6%	26.7%
Pre-A1	0.5%	0.0%	0.2%	1.2%

R 3 年度

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
B1	24.1%	16.9%	18.3%	29.9%
A2	38.8%	48.2%	72.0%	51.1%
A1	35.9%	34.8%	9.5%	17.3%
Pre-A1	1.2%	0.1%	0.1%	1.7%

R 6 年度

SCORE	Listening	Reading	Speaking	Writing
B1	27.1%	22.1%	15.2%	18.0%
A2	38.5%	46.5%	75.2%	49.1%
A1	33.7%	31.3%	9.3%	31.1%
Pre-A1	0.7%	0.1%	0.2%	1.9%

※話すこと Speakingについて、BasicタイプはB1.2が測定範囲外です。

※グラフ・表内の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならないことがあります。

※同様の理由で、該当のCEFR-Jの割合を足し合わせてもCEFRの割合と一致しないことがあります。

※集団属性情報【中学】： 学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／中1・2は公立中学（国立含む）が約3割・私立中学が約7割、中3は公立中学（国立含む）が約2割・私立中学が約8割を占める／首都圏・近畿の受検者が約6割を占める。

3. 小学校

3.1 小学校の母集団について

- 調査対象：本調査では、現行学習指導要領とそれ以前の学習指導要領との比較をするために、R1年度旧CS下（小学校の移行期間2年目）、R3年度現行CS下（小6は小5から現行CS）、R6年度現行CS下（小6は小2から現行CS）の児童を調査対象とした。

注：旧CS下では外国語活動は小5・6で、現CS下では外国語活動は小3・4で、小5・6では外国語科となっている

	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	小学校 移行期間		小学校 現指導要領 全面实施				
	中学 移行期間			中学 現指導要領 全面实施			
小学校入学年度		高校 移行期間		高校 現指導要領 学年進行			
平成26年度	小5 (旧CS:外国語活動)	小6 (旧CS:外国語活動)	中1	中2	中3	高1	高2
平成27年度	小4	小5 (旧CS:外国語活動)	小6 (外国語科)	中1	中2	中3	高1
平成28年度	小3	小4	小5 (外国語科)	小6 (外国語科)	中1	中2	中3
平成29年度	小2	小3	小4 (外国語活動)	小5 (外国語科)	小6 (外国語科)	中1	中2
平成30年度	小1	小2	小3 (外国語活動)	小4 (外国語活動)	小5 (外国語科)	小6 (外国語科)	中1
令和元年度	幼	小1	小2	小3 (外国語活動)	小4 (外国語活動)	小5 (外国語科)	小6 (外国語科)

3.1 小学校の母集団とCEFR表示について

データ抽出条件：

R1年度、R3年度、R6年度の各年度に、GTEC Juniorの「Junior 2」タイプを受検した小学校6年生
※集計対象については、年度間で同一の学校等での抽出は行っていない

属性情報：

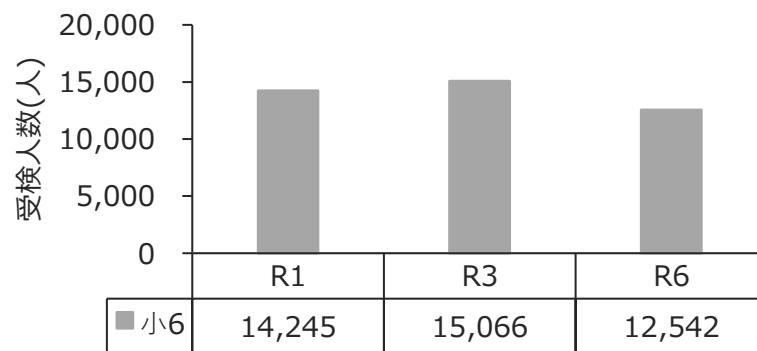
- 各年度とも、97%以上の受検者が公立小学校に属する
- 学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本
- 首都圏・近畿の受検者の割合はR1年度が約3割、R3年度が約5割、R6年度が約7割

使用問題版

学年	実施回	タイプ (注1)
小6	(年間1版)	Junior 2

注1： Junior 2タイプの測定可能範囲は、トータルスコア 0～480 [各技能0～120]。
測定可能範囲を越えた英語力を持つ生徒の結果は、測定上限のスコアで表示されるため天井効果（より高い能力だとしても上限スコアに留まる）が発生する場合がある。平均、標準偏差およびその推移を確認するにあたっては、スコアの天井効果による影響がある点に留意する必要がある。

実施年度ごとの受検者数



CEFR表示について：

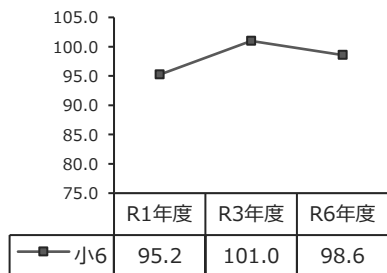
分析対象としているGTEC Juniorのスコアは、GTECのスコアとは異なるスコア尺度であり、かつ、GTEC Junior Gradeという独自のグレード（4技能総合および各技能について1～5の5段階表示）が表示される。GTEC JuniorスコアとGTECスコアの関連付け調査を行い、GTEC Junior Gradeの1～3がCEFR Pre-A1、GTEC Junior Gradeの4・5がCEFR A1と対応付けている。これに基づき、本調査ではGTEC Juniorスコアに対応付けしたCEFRを表示している。

3.2.2 小6 経年比較 4 技能別の傾向

- 「聞くこと」は、R1年度からR3年度は「上昇」、R3年度からR6年度は「横ばい～低下」
- 「読むこと」は、R1年度からR3年度は「上昇」、R3年度からR6年度は「横ばい」
- 「話すこと」と「書くこと」は、R1年度からR3年度は「上昇」、R3年度からR6年度は「低下」

各技能 全国平均スコア

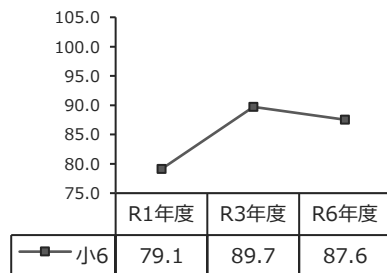
聞くこと Listening



※ η^2 : 0.018
 ※Cohen's d: R1-R3 -0.322; R3-R6 0.133

平均 CEFR	A1	A1	A1
---------	----	----	----

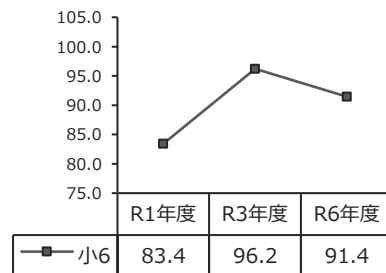
読むこと Reading



※ η^2 : 0.033
 ※Cohen's d: R1-R3 -0.422; R3-R6 0.085

平均 CEFR	Pre-A1	Pre-A1	Pre-A1
---------	--------	--------	--------

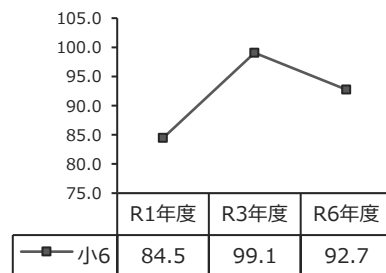
話すこと Speaking



※ η^2 : 0.057
 ※Cohen's d: R1-R3 -0.572; R3-R6 0.209

平均 CEFR	Pre-A1	A1	A1
---------	--------	----	----

書くこと Writing



※ η^2 : 0.074
 ※Cohen's d: R1-R3 -0.664; R3-R6 0.306

平均 CEFR	Pre-A1	A1	Pre-A1
---------	--------	----	--------

※標準偏差: R1は17.8、R3は17.7、R6は18.5。 ※標準偏差: R1は25.2、R3は24.9、R6は25.2。 ※標準偏差: R1は19.8、R3は24.5、R6は20.7。 ※標準偏差: R1は23.5、R3は20.4、R6は20.7。

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※割合は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とならないことがあります。

※集団属性情報【小学校】: 学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本/各年度公立小の受検者が97%以上/首都圏・近畿の受検者がR1年度は約3割、R3年度は約5割、R6年度は約7割を占めます。

3.2.2 小6 経年比較 4 技能別の傾向

- いずれの技能においても、CEFR A1の割合はR1年度からR3年度に増加したが、R6年度に減少している（R1年度と比べると、R6年度は増加）
- いずれの年度においても、CEFR A1の割合は「聞くこと」で最も高く、「読むこと」で最も低い

聞くこと Listening

CEFR	R1年度	R3年度	R6年度
A1	61%	74%	69%
Pre-A1	39%	26%	31%

大きく
増加

減少

読むこと Reading

CEFR	R1年度	R3年度	R6年度
A1	33%	51%	47%
Pre-A1	67%	49%	53%

大きく
増加

減少

話すこと Speaking

CEFR	R1年度	R3年度	R6年度
A1	38%	67%	57%
Pre-A1	62%	33%	43%

大きく
増加

大きく
減少

書くこと Writing

CEFR	R1年度	R3年度	R6年度
A1	38%	64%	51%
Pre-A1	62%	36%	49%

大きく
増加

大きく
減少

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※割合は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とならないことがあります。

※集団属性情報【小学校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／各年度公立小の受検者が97%以上／首都圏・近畿の受検者がR1年度は約3割、R3年度は約5割、R6年度は約7割を占めます。

3.3.1 小6「聞くこと」

			Junior 2	
			設問数	時間 (分)
パート	問うている力	合計	26	約21
1 絵を表している語句がわかる	単語を音で聞いて、単語の意味を理解する力		10	約21
2 会話での質問の答えがわかる	与えられた絵を見ながら、英語の質問と3つの答えを聞き、正しい答えを選ぶことで、キーワードを聞き取り全体を推測する力、情報を探しながら聞く力		6	
3 場面に応じたやりとりがわかる	日本語で事前に与えられる状況設定および絵をもとに、英語のやり取りを聞いて、その場で求められている課題（タスク）を解決する力		5	
4 まとまった英語を聞いて内容がわかる	一定以上の長さの英文音声聞いて、話の流れを理解する力		5	

3.3.1 小6「聞くこと」のCEFRレベル別に見たパート別平均正解率（R6年度）

- CEFR Pre-A1・A1では、全パートのなかでパート3の正解率に最も差がついた
- どちらのCEFRレベルにおいても、パート2・4の正解率が、パート1・3と比べて低い

	パート1 絵を表している語句がわかる	パート2 会話での質問の答えがわかる	パート3 場面に応じたやりとりがわかる	パート4 まとまった英語を聞いて内容がわかる
A1	92.6%	59.1%	78.5%	56.1%
Pre-A1	76.4%	34.8%	50.4%	35.2%
全体	87.6%	51.5%	69.7%	49.6%

※R6年度使用問題版の解答状況をもとに分析しています。毎年の傾向や特徴を表した結果ではありません。
 ※小学6年生は、GTEC JuniorのJunior 2タイプを受検しています。
 ※Junior 2タイプは、CEFRレベルはA1までの測定範囲です。
 ※集団属性情報【小学校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／各年度公立小の受検者が97%以上／首都圏・近畿の受検者がR1年度は約3割、R3年度は約5割、R6年度は約7割を占めます。

3.3.2 小6「読むこと」

			Junior 2	
			設問数	時間 (分)
パート	問うている力	合計	20	約12
1 音を聞いて文字がわかる	音と文字を結びつける力		4	約12
2 音を聞いて単語がわかる	音と単語を結びつける力		4	
3 情報を読んで見つけられる	与えられた資料の中から、必要な情報を探し出す力		4	
4 一文やまとまった英語を読んで内容がわかる	一文あるいはまとまった英文を読んで、書かれている内容を理解する力		8	

3.3.2 小6「読むこと」のCEFRレベル別に見たパート別平均正解率（R6年度）

- パート1・2のように、文字や単語を識別する問題においては、CEFR Pre-A1・A1ともに約88～100%の正解率
- パート3・4のように、与えられた資料の中から必要な情報を探し出す力や、一文あるいはまとまった英文を読んで、書かれている内容を理解する力が問われる問題では、CEFR Pre-A1とA1との間で正解率に大きな差

	パート1 音を聞いて文字がわかる	パート2 音を聞いて単語がわかる	パート3 情報を読んで見つけれられる	パート4 一文やまとまった英語を読んで 内容がわかる
A1	98.2%	99.9%	87.0%	71.4%
	10.0pt差	5.7pt差	40.3pt差	34.1pt差
Pre-A1	88.2%	94.2%	46.7%	37.3%
全体	93.0%	96.9%	65.8%	53.5%

※R6年度使用問題版の解答状況をもとに分析しています。毎年の傾向や特徴を表した結果ではありません。
 ※小学6年生は、GTEC JuniorのJunior 2タイプを受検しています。
 ※Junior 2タイプは、CEFRレベルはA1までの測定範囲です。
 ※集団属性情報【小学校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／各年度公立小の受検者が97%以上／首都圏・近畿の受検者がR1年度は約3割、R3年度は約5割、R6年度は約7割を占めます。

3.3.3 小6「話すこと」

			Junior 2	
			設問数	時間 (分)
パート	問うている力	合計	11	約12
1 音を聞いてまねして読める	対話の応答文などを読み上げる形式の出題で、正確な発音で読み上げる力		4	約12
2 絵を見て質問に答えられる	状況を表す絵を見て、それに関する質問を聞き取ったうえで、適切に応答する力		4	
3 自分のことについて伝えられる	自分のことに関する質問を理解し、その質問に対して答える力		3	

3.3.3 小6「話すこと」

■パート別採点観点

	パート	採点観点
話す力	1	発音：0-2点
	2	内容：0-2点
	3	内容：0-2点 発音：0-2点

■採点の詳細

	観点	段階		
		2	1	0
話す力	内容	キーワードまたは文で答えられている	一部は答えられているが、コミュニケーション上で不都合が生じることがある	適切に答えられていない
	発音	発音や強勢、イントネーションが適切である	発音や強勢、イントネーションの一部が聞き取りにくい、コミュニケーション上では問題ない程度	正しく発音できていない

3.3.3 小6「話すこと」のCEFRレベル別に見た採点観点別結果分析（R6年度）

- CEFR Pre-A1は、パート2の問題4問中3問で平均点が1点（満点2点）を下回る
- パート3について、CEFR Pre-A1は「内容」が平均1点未満（満点2点）

小問	パート1 音を聞いてまねして読める				パート2 絵を見て質問に答えられる				パート3 自分のことについて伝えられる						
	No.1	No.2	No.3	No.4	No.1	No.2	No.3	No.4	No.1		No.2		No.3		
採点観点	発音				内容				内容	発音	内容	発音	内容	発音	
採点段階	0～2点	0～2点	0～2点	0～2点	0～2点	0～2点	0～2点	0～2点	0～2点	0～2点	0～2点	0～2点	0～2点	0～2点	0～2点
A1	1.9点	2.0点	1.8点	1.8点	1.1点	1.4点	1.8点	1.5点	1.6点	1.9点	1.3点	1.7点	1.7点	1.8点	
Pre-A1	1.1点	1.5点	1.0点	1.0点	0.4点	0.4点	1.4点	0.9点	0.8点	1.2点	0.7点	1.1点	0.9点	1.1点	
全体	1.6点	1.8点	1.4点	1.4点	0.8点	0.9点	1.7点	1.2点	1.3点	1.6点	1.0点	1.4点	1.4点	1.5点	

※R6年度使用問題版の解答状況をもとに分析しています。毎年の傾向や特徴を表した結果ではありません。
 ※小学6年生は、GTEC JuniorのJunior 2タイプを受検しています。
 ※Junior 2タイプは、CEFRレベルはA1までの測定範囲です。
 ※採点する段階数が3以上の多段階採点（例：0～2点）の観点については、「平均点」を示しています。
 ※集団属性情報【小学校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／各年度公立小の受検者が97%以上／首都圏・近畿の受検者がR1年度は約3割、R3年度は約5割、R6年度は約7割を占めます。

3.3.4 小6「書くこと」

			Junior 2	
			設問数	時間 (分)
パート	問うている力	合計	12	約15
1 音を聞いて文字が書ける	文字の音を聞いて、文字（大文字・小文字）を書く力		4	約15
2 文字をうめて単語を完成させる	基本的な単語のうち、空欄になっている文字をうめて単語を完成する力		4	
3 単語を書き写せる	手本を見て単語を書き写す力		3	
4 音声を聞いて単語が書ける	音声を聞いて、絵が表す基本的な単語を書く力		1	

3.3.4 小6「書くこと」

■パート別採点観点

	パート	採点観点
書く力	1	内容：0-2点
	2	内容：0-2点
	3	内容：0-2点
	4	内容：0-2点

■採点の詳細

	観点	段階		
		2	1	0
書く力	内容	適切に答えられている (対象の文字や単語が明瞭に書けている)	一部しか答えられていない (対象の文字や単語が書けているが、明瞭ではない)	適切に答えられていない (対象の文字や単語が書けていない)

3.3.4 小6「書くこと」のCEFRレベル別に見た採点観点別結果分析（R6年度）

- CEFR A1は、パート4で平均点が0.7点（満点2点）となっており、対象の単語を（明瞭に）書くことができていない
- CEFR Pre-A1は、パート2でそれぞれの問題の平均点が1点（満点2点）を下回る

小問	パート1 音を聞いて文字が書ける				パート2 文字をうめて単語を完成させる				パート3 単語を書き写せる			パート4 音声を聞いて単語が書ける
	No.1	No.2	No.3	No.4	No.1	No.2	No.3	No.4	No.1	No.2	No.3	No.1
採点観点	内容				内容				内容			内容
採点段階	0～2点	0～2点	0～2点	0～2点	0～2点	0～2点	0～2点	0～2点	0～2点	0～2点	0～2点	0～2点
A1	1.8点	1.8点	1.8点	1.8点	1.6点	1.3点	1.8点	1.7点	1.9点	2.0点	1.9点	0.7点
Pre-A1	1.2点	1.1点	0.8点	1.0点	0.4点	0.2点	0.8点	0.9点	1.4点	1.6点	1.2点	0.1点
全体	1.5点	1.5点	1.3点	1.4点	1.1点	0.8点	1.3点	1.3点	1.7点	1.8点	1.5点	0.4点

※R6年度使用問題版の解答状況をもとに分析しています。毎年の傾向や特徴を表した結果ではありません。
 ※小学6年生は、GTEC JuniorのJunior 2タイプを受検しています。
 ※Junior 2タイプは、CEFRレベルはA1までの測定範囲です。
 ※採点する段階数が3以上の多段階採点（例：0～2点）の観点については、「平均点」を示しています。
 ※集団属性情報【小学校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／各年度公立小の受検者が97%以上／首都圏・近畿の受検者がR1年度は約3割、R3年度は約5割、R6年度は約7割を占めます。

3.4 小学校 付録

使用問題版

学年	実施回	タイプ <small>(注1)</small>
小6	(年間1版)	Junior 2

注1： Junior 2タイプの測定可能範囲は、トータルスコア 0～480 [各技能0～120]。

測定可能範囲を越えた英語力を持つ生徒の結果は、測定上限のスコアで表示されるため天井効果（より高い能力だとしても上限スコアに留まる）が発生する可能性がある。平均、標準偏差およびその推移を確認するにあたっては、スコアの天井効果による影響がある点に留意する必要がある。

3.4.1 小6 4技能総合 経年比較

SCORE	R1	R3	R6
480	1.0%	8.1%	3.8%
460～	4.7%	11.6%	9.1%
440～	5.9%	10.2%	8.5%
420～	5.7%	9.4%	8.1%
400～	6.6%	9.4%	9.1%
380～	7.9%	9.5%	9.4%
360～	9.0%	8.4%	9.6%
340～	10.4%	8.3%	9.3%
320～	10.9%	6.5%	8.7%
300～	9.3%	5.5%	7.0%
280～	8.4%	3.9%	6.1%
260～	6.8%	2.9%	4.1%
240～	4.7%	2.0%	2.6%
220～	3.5%	1.5%	1.9%
200～	2.3%	1.1%	1.1%
180～	1.1%	0.8%	0.7%
160～	0.8%	0.4%	0.4%
140～	0.4%	0.3%	0.2%
120～	0.2%	0.2%	0.1%
100～	0.2%	0.1%	0.1%
80～	0.0%	0.1%	0.1%
60～	0.1%	0.0%	0.0%
40～	0.0%	0.0%	0.0%
10～	0.0%	0.0%	0.0%
0～	0.0%	0.0%	0.0%

平均	342.2	386.0	370.3
標準偏差	74.2	75.5	73.7

※「4技能」の表記について、本調査は旧CS下の生徒も対象としているため、「4技能・5領域」と表記していません。

※割合は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とならないことがあります。

※集団属性情報【小学校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／各年度公立小の受検者が97%以上／首都圏・近畿の受検者がR1年度は約3割、R3年度は約5割、R6年度は約7割を占めます。

3.4.2 小6 4技能別スコア 経年比較

R1年度

	Listening	Reading	Speaking	Writing
120	16.6%	12.6%	3.0%	9.3%
110~	9.3%	4.7%	4.4%	5.2%
100~	15.1%	6.8%	11.1%	13.3%
90~	20.0%	8.8%	19.8%	16.4%
80~	19.3%	12.5%	23.4%	16.6%
70~	12.2%	14.8%	19.5%	13.5%
60~	5.4%	16.6%	10.4%	10.2%
50~	1.8%	12.0%	4.1%	7.3%
40~	0.3%	6.7%	2.3%	4.7%
30~	0.1%	2.9%	0.4%	2.0%
20~	0.0%	1.1%	0.1%	0.7%
10~	0.0%	0.3%	0.0%	0.2%
0~	0.0%	0.1%	1.6%	0.5%

R3年度

	Listening	Reading	Speaking	Writing
120	26.6%	22.3%	24.3%	23.6%
110~	13.0%	8.0%	14.1%	14.6%
100~	17.2%	9.3%	14.5%	17.4%
90~	17.0%	11.9%	14.1%	16.1%
80~	13.6%	13.0%	11.5%	12.4%
70~	7.4%	13.3%	8.1%	7.7%
60~	3.3%	10.6%	5.5%	4.0%
50~	1.2%	5.7%	3.1%	2.0%
40~	0.4%	3.0%	1.8%	1.0%
30~	0.1%	1.7%	0.9%	0.4%
20~	0.0%	0.8%	0.7%	0.2%
10~	0.0%	0.4%	0.3%	0.0%
0~	0.1%	0.2%	1.2%	0.6%

R6年度

	Listening	Reading	Speaking	Writing
120	22.9%	19.2%	12.2%	11.6%
110~	12.1%	6.9%	8.7%	12.2%
100~	16.1%	9.4%	15.6%	17.2%
90~	17.6%	11.9%	20.1%	18.5%
80~	14.4%	13.1%	18.2%	15.7%
70~	10.0%	13.2%	12.5%	11.9%
60~	4.5%	11.6%	7.0%	6.8%
50~	1.8%	8.1%	2.9%	3.3%
40~	0.5%	3.7%	1.2%	1.4%
30~	0.1%	1.6%	0.6%	1.0%
20~	0.1%	0.8%	0.1%	0.0%
10~	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%
0~	0.0%	0.2%	0.9%	0.4%

平均	95.2	79.1	83.4	84.5
標準偏差	17.8	25.2	19.8	23.5

平均	101.0	89.7	96.2	99.1
標準偏差	17.7	24.9	24.5	20.4

平均	98.6	87.6	91.4	92.7
標準偏差	18.5	25.2	20.7	20.7

※割合は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とならないことがあります。

※集団属性情報【小学校】：学校実施の受検データであり学年全体のデータが基本／各年度公立小の受検者が97%以上／首都圏・近畿の受検者がR1年度は約3割、R3年度は約5割、R6年度は約7割を占めます。

4. 參考資料

4.2 GTEC JuniorスコアとJunior Gradeの対照表

グレード	推奨スコア ガイドライン	聞く		読む		話す(発表)		話す(やりとり)		書く	
		スコア	Can-do	スコア	Can-do	スコア	Can-do	スコア	Can-do	スコア	Can-do
5	Junior Advanced Level 英語に広がりをもって 使えるようになるレベル	121~160	ゆっくりはっきり、かん単な英語で話されれば、インターネットの番組やテレビのインタビューなどを聞いて、その内容がだいたいわかる。	121~160	インターネットや本などに書かれた、絵や写真を説明するかん単な文章を読んで、その内容がわかる。	121~160	3~5文程度で、写真や絵を見せながら、家族や友だちについてかん単な説明ができる。	自分の興味があることやほしいものなど、身近なことについて聞かれたとき、理由などを付け加えながら話を続けることができる。	121~160	自分の友だちを紹介する文章や学校を紹介する文章を英語2文以上で書くことができる。	
			ゆっくりはっきり話してもらえば、初めて聞く物語のだいたいの内容がわかる。		学校新聞のなかで、外国人の先生が書いた文章を読んで、先生の出身地や夏休みのできごとがわかる。						
4	Junior Intermediate Level なじみのある英語を 使えるようになるレベル	90~120	買い物や食べ物注文するときに、何がほしいか、いくつほしいかなどを店員に英語で聞かれ、そのしつ間がわかる。	90~120	友だちからの英語で書かれたメッセージ(メモや携帯メッセージ)などを読んで、待ち合わせの時間や場所などがわかる。	90~120	"I want to go to Italy. I like pizza." (私はイタリアに行きたいです。私はピザが好きです。)など、自分の行きたい国ややりたい職業などについて、理由を付け加えて伝えることができる。	好きな食べ物やスポーツなどについて、相手にしつ間をしたり、自分のことを伝えたり、かん単なやりとりを続けることができる。	95~120	自己紹介を書くときに、趣味や得意なことについて具体的に、英語2文程度で書くことができる。	
			友だちがやりたいしよく業とその理由"I want to be a pilot." (わたしはパイロットになりたいです。)"I like airplanes." (わたしは飛行機が好きです。)"についての話がわかる。		英語で書かれた友だちの自己紹介などについての文を読んで、友だちの趣味や得意なことが理解できる。						
3	Junior Primary Level 決まった表現を自分なりに 使い始めるレベル	70~89	待ち合わせの時間と場所"Let's meet at the park at 10 am." (10時に公園で会いましょう。)などを聞いて、その時間と場所がわかる。	70~89	街の中でstation(駅)や、shop(店)などの看板を見て、何の建物かがわかる。	70~89	前もって話すことを用意していれば、"I get up at 7." (7時におきます。)"I go to school at 8." (8時に学校に行きます。)など、自分の1日の生活について伝えることができる。	"What animals do you like?" (あなたが好きな動物はなんですか。)など、かん単なしつ間をすることができ。	75~94	pencil(えんぴつ)、shoes(くつ)など、買う物のメモを英語で書くことができる。	
			友だちの1日の生活、"I get up at 7." (7時におきます。)"I go to school at 8." (8時に学校に行きます。)などを聞いて、何時に何をすることがわかる。		レストランやお店で、絵や写真がついたメニューを見て、Pizza(ピザ)やorange juice(オレンジジュース)など注文したいものを選ぶことができる。					"Go straight." (まっすぐ行きなさい。)、"Turn right." (右に曲がりなさい。)などの表現を使って、かん単な案内ができる。	好きな食べ物や色などについて聞かれたときに、"I like blue." (青が好きです。)などと答えることができる。
2	Junior Introductory Level 知っている表現を理解して 行動できるレベル	55~69	教室で使われるかん単な指示、"Stand up." (立ちなさい。)"Sit down." (すわりなさい。)"Stop." (止まりなさい。)などを聞いて、指示どおりに動くことができる。	50~69	dog(イヌ)、cat(ネコ)などの動物や、apple(リンゴ)、orange(オレンジ)などの食べ物などをさす英語を読んで、絵や写真を選ぶことができる。	50~69	"My name is Yuko." (私の名前はゆうこです。)"I like pizza." (私はピザが好きです。)など、自分の名前や好きなものを伝えることができる。	自分の名前や気持ちなどを聞かれたときに、"My name is Yuko." (私の名前はゆうこです。)"I am happy." (うれしいです。)などと答えることができる。	50~74	アルファベットを聞いて、そのアルファベットの大文字、小文字を書くことができる。	
			友だちの誕生日や行事の日づけを英語で聞いて、それをカレンダーでさすことができる。		アルファベットの大きな文字、小文字を見て、26文字を声に出して読むことができる。					dog(イヌ)、cat(ネコ)などの動物や、apple(リンゴ)、orange(オレンジ)などの食べ物の英語をいくつか言うことができる。	"What's this?" (これは何ですか。)と聞いたり、指をさしながら"I want milk." (牛にゆが欲しいです。)など自分がほしいものを伝えたりすることができる。
1	Junior Preparatory Level 英語の基本的な 決まり文句をいくつか 理解できるレベル	~54	かん単な英語のあいさつや"Good morning." (おはよう。)"How are you?" (元気ですか。)などを聞いて、その意味がわかる。	~49	アルファベットの大きな文字、小文字を見て、26文字を声に出して読むことができる。	~49	dog(イヌ)、cat(ネコ)などの動物や、apple(リンゴ)、orange(オレンジ)などの食べ物の英語をいくつか言うことができる。	自分が好きな食べ物や動物などについて、英語で聞かれて、好きらしいをYes.(はい)/No.(いいえ)で答えることができる。	~49	dog(イヌ)、cat(ネコ)などの動物や、apple(リンゴ)、orange(オレンジ)などの食べ物の英語を見ながら、それをノートに書き写すことができる。	
			アルファベットを聞いて、大文字が書かれたカードのなかから、アルファベットを選ぶことができる。		お手本のアルファベットの文字(大文字、小文字)を見ながら、それをノートに書き写すことができる。						

※小学6年生は、GTEC JuniorのJunior 2タイプを受検しています。
 ※「GTEC Junior」のデータとアンケート結果をもとにベネッセ独自で策定したCan-do statementsです。

5. 出題例

5.1.1 高校・中学「聞くこと」問題構成

パート	問うている力	合計	Advanced		Basic		Core	
			設問数	時間(分)	設問数	時間(分)	設問数	時間(分)
			40	約25	40	約25	32	約20
A 写真・イラスト説明問題	写真、図表やイラストなど与えられた視覚的情報をもとに、ある状況や場面、事物を描写説明した単文レベルの英文を正しく聞き分ける力		10	約25	10	約25	8	約20
B 会話応答問題	事前予測ができる情報がない中で、相手からの問いかけに対する適当な応答英文を素早く判断し、処理する力		10		10		8	
C 課題解決問題	日本語で事前に与えられる状況設定および視覚的情報と音声情報から、その場面で求められている課題(タスク)を解決する力		10		10		8	
D 要点理解問題	一定以上の長さの英文の音声の中から、事前に与えられた英文の質問に答えるために必要な情報を選択して引き出し、求められている解答を導くための適切な判断を行う力		10		10		8	

5.1.2 高校・中学「読むこと」問題構成

パート	問うている力	合計	Advanced		Basic		Core	
			設問数	時間(分)	設問数	時間(分)	設問数	時間(分)
			43	約45	36	約45	28	約32
A 短文文脈理解 問題	短い英文の中で文脈的なつながりを理解し、語彙選択上最も適切な表現を正確に判断する力		14	7	12	6	10	5
B 概要把握問題 情報検索問題	<ul style="list-style-type: none"> 全体を大づかみして概要を理解する概要把握 (skimming) の力 短時間の中で必要な情報を引き出す情報検索 (scanning) の力 ※Coreタイプでは、情報検索問題→概要把握問題の順で出題しています		14	14	12	14	10	12
C 要点理解問題	まとまった量の英文に対して、英文の主旨に関する内容や詳細部分の要点について、英文を理解し、必要な情報を読み取る力 出題テーマはフィクション、人文系論説文、科学系論説文の3題 ※Coreタイプではフィクション系と論説系の2題の出題となります		15	24	12	25	8	15

5.1.3 高校・中学「話すこと」問題構成

パート	問うている力	合計	Advanced Basic		Core															
			設問数	時間(分)	設問数	時間(分)														
A 音読	英文を読み上げる形式の出題で、状況や英文を理解した上で、正確な発音と適切な流暢さで音読ができる力	8	2	約15	8	約15														
B 相手とのやり取り	図示された情報を読み取って質問に応答したり、課題解決のために質問したりする力 <table border="1" data-bbox="446 664 1282 1096"> <thead> <tr> <th></th> <th>Advanced/Basic</th> <th>Core</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>No.1</td> <td>与えられた情報をもとに適切に答える問題</td> <td>与えられた情報をもとに自身の回答を述べる問題</td> </tr> <tr> <td>No.2</td> <td>与えられた情報をもとに適切に答える問題</td> <td>与えられた情報をもとに自身の回答を述べる問題</td> </tr> <tr> <td>No.3</td> <td>与えられた情報をもとに課題を特定し、その課題を解決する方法を適切に伝える問題</td> <td>図示された情報を読み取り、それに関する質問をする問題</td> </tr> <tr> <td>No.4</td> <td>図示された情報を読み取り、それに関する質問をする問題</td> <td>与えられた情報をもとに適切に答える問題</td> </tr> </tbody> </table>		Advanced/Basic	Core	No.1	与えられた情報をもとに適切に答える問題	与えられた情報をもとに自身の回答を述べる問題	No.2	与えられた情報をもとに適切に答える問題	与えられた情報をもとに自身の回答を述べる問題	No.3	与えられた情報をもとに課題を特定し、その課題を解決する方法を適切に伝える問題	図示された情報を読み取り、それに関する質問をする問題	No.4	図示された情報を読み取り、それに関する質問をする問題	与えられた情報をもとに適切に答える問題	4	約15	4	約15
			Advanced/Basic	Core																
		No.1	与えられた情報をもとに適切に答える問題	与えられた情報をもとに自身の回答を述べる問題																
		No.2	与えられた情報をもとに適切に答える問題	与えられた情報をもとに自身の回答を述べる問題																
		No.3	与えられた情報をもとに課題を特定し、その課題を解決する方法を適切に伝える問題	図示された情報を読み取り、それに関する質問をする問題																
No.4	図示された情報を読み取り、それに関する質問をする問題	与えられた情報をもとに適切に答える問題																		
C ストーリーを英語で話す	日常的な出来事について、話の流れを踏まえて相手に伝わるように状況を説明する力	1	1																	
D 自分の意見を述べる	身近で社会的なテーマに対して、自分の意見とその意見をサポートする理由が言える力	1	1																	

※Advancedタイプ：高2・3が受験、Basicタイプ：高1・中3が受験、Coreタイプ：中1・2が受験しています。
 ※Speaking については、AdvancedタイプとBasicタイプが同一の問題です。ただし、スコアの上限値は受験タイプのものが適用されます。

5.1.4 高校・中学「書くこと」問題構成

パート	問うている力	合計	Advanced		Basic		Core	
			設問数	時間(分)	設問数	時間(分)	設問数	時間(分)
			2	約25	2	約25	2	約25
A Eメール問題	与えられたEメールで問われる内容について、限られた時間の中で適切な解答を表現する力		1	5	1	5	1	5
B 意見展開問題	与えられたテーマに対して、限られた時間の中で自分の意見を説得力を持って表現する力		1	20	1	20	1	20

5.2.1 高校・中学3年「聞くこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
A	写真・イラスト説明問題	写真、図表やイラストなど与えられた視覚的情報をもとに、ある状況や場面、事物を描写説明した単文レベルの英文を正しく聞き分ける力	Advanced : 10 Basic : 10

パートA
ここでは、写真（イラスト）や図表の内容を表す文として、[A]～[C]の3つの英文が読まれます。その中から、最も適当なものを1つ選びなさい。

Advanced 例題

写真

※著作権の都合上
掲載しておりません

スクリプト

- [A] A girl is pressing her cheek against a boy's head while hugging him.
- [B] A girl is touching a toy while a boy is watching her.
- [C] A girl is sitting on her knees while a boy is putting his arms around her.

Basic 例題



スクリプト

- [A] The girl is selling vegetables at the stand.
- [B] The girl is having salad at the counter.
- [C] The girl is paying for the vegetables at the shop.

5.2.2 高校・中学3年「聞くこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
B	会話応答問題	事前予測ができる情報がない中で、相手からの問いかけに対する適当な応答英文を素早く判断し、処理する力	Advanced : 10 Basic : 10

パートB
ここでは、質問の英文に続いて、[A]～[C]の3つの英文が読めます。その中から、質問に対する答えとして最も適当なものを、1つ選びなさい。

Advanced 例題

※問題冊子には選択肢記号[A][B][C]のみ記載

スクリプト

How many people are in line in front of us?

- [A] Not at all.
- [B] Not so many.
- [C] Not in front.

Basic 例題

※問題冊子には選択肢記号[A][B][C]のみ記載

スクリプト

What kind of fruit do you usually eat?

- [A] Apples are my favorite.
- [B] I like to eat fruit.
- [C] I don't want any fruit now.

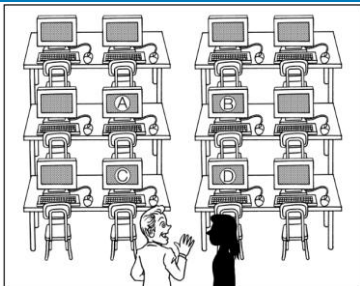
5.2.3 高校・中学3年「聞くこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
C	課題解決問題	日本語で事前に与えられる状況設定および視覚的情報と音声情報から、その場面で求められている課題（タスク）を解決する力	Advanced : 10 Basic : 10

パートC

ここでは、まず状況を説明する日本語が読まれます。続いて英文が読まれるので、イラストを見ながら聞きなさい。あなたは、各場面の日本人学生になったつもりで、イラストの下の質問に対する答えとして最も適当なものを、[A]～[D]の中から1つ選びなさい。

Advanced 例題



あなた（女子）はカナダに交換留学中です。今、コンピュータ室で、先生（男性）の作業を手伝っています。まず、先生からあなたに話しかけます。

Which computer should you leave on?

- [A] Ⓐ
- [B] Ⓑ
- [C] Ⓒ
- [D] Ⓓ

スクリプト

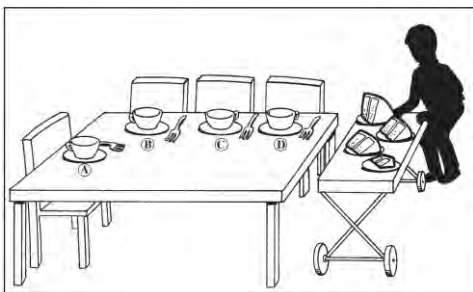
M: I need to leave early today. Would you mind locking up the computer room for me?

F: My pleasure.

M: Please turn off all the computers before you leave, except the second one from the left in the middle row. It's testing a new program.

F: OK.

Basic 例題



あなた（男子）は交換留学生としてアメリカに来ています。ホストファミリーが友だちのために、誕生パーティーをすることになったので、あなたはホストマザーを手伝って、テーブルの準備をしようとしています。ホストマザーの話を聞きなさい。

Where should you put the smallest piece of cake?

- [A] Ⓐ
- [B] Ⓑ
- [C] Ⓒ
- [D] Ⓓ

スクリプト

F: Put the big piece at the end of the table.

M: What about the smallest piece?

F: Put it in the middle along the side, and put the two medium-sized pieces on either side of it.

5.2.4 高校・中学3年「聞くこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
D	要点理解問題	一定以上の長さの英文の音声の中から、事前に与えられた英文の質問に答えるために必要な情報を選択して引き出し、求められている解答を導くための適切な判断を行う力	Advanced : 10 Basic : 10

パートD

ここでは、英語の会話文や話が読めます。その内容に関する質問の答えとして最も適当なものを、[A]～[D]の中から1つ選びなさい。

Advanced 例題

Questions 36 & 37

A commercial is being played on the radio.

36. What is this announcement about?

- [A] A new compact camera.
- [B] A new model of mobile phone.
- [C] A new game player.
- [D] A new type of computer.

37. What does the woman say about the product's battery?

- [A] It can connect directly to most computers.
- [B] It is large and lasts for a long time.
- [C] It is small, lasts a long time, and can be charged quickly.
- [D] It is three times heavier than the previous one.

Questions 36 & 37

This program was brought to you by All-star Mobiles. The new 800 model is in stores now. It is the lightest phone ever made. The small, new battery lasts three times longer than any other battery, and charges faster than the ones in our previous models. Also, it comes with a larger memory, so you can save more songs and play more games. The built-in camera also allows you to take better pictures. Connect it to a computer, and it becomes an important part of everyday life.

※Advancedタイプ：高2・3が受験、Basicタイプ：高1・中3が受験しています。

Basic 例題

Questions 37 & 38

A man is making an announcement.

37. What is the man mainly talking about?

- [A] A train that arrived late.
- [B] A tree that fell on train tracks.
- [C] Bad weather for the overnight train.
- [D] Changes to train schedules.

38. Which track will the Franklin train arrive on?

- [A] Track 5.
- [B] Track 7.
- [C] Track 9.
- [D] Track 11.

Questions 37 & 38

Attention please. The Franklin train will be arriving 30 minutes late due to a tree that fell on the tracks. And it will be arriving on Track 5 instead of Track 7. The Clayton train will wait at Track 9 until after the Franklin train arrives. Also due to the bad weather, the overnight train to Lincoln on Track 11 won't leave until 6:00 am.

5.2.5 高校・中学3年「読むこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
A	短文文脈理解問題	短い英文の中で文脈的なつながりを理解し、語彙選択上最も適切な表現を正確に判断する力	Advanced : 14 Basic : 12

パートA

ここでは、それぞれの英文の空所_____に入る最も適当なものを、[A]～[D]の中から1つ選びなさい。

Advanced 例題

It hasn't been confirmed that the fire that destroyed a home last week was started by a cigarette, so the fire's _____ is still under investigation.

- [A] cause
- [B] discovery
- [C] result
- [D] size

Basic 例題

The computer system at school is working _____. We have to spend extra money to change the whole system.

- [A] fairly
- [B] steadily
- [C] poorly
- [D] reasonably

5.2.6 高校・中学3年「読むこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
B	概要把握問題 情報検索問題	<ul style="list-style-type: none">全体を大づかみして概要を理解する概要把握 (skimming) の力短時間の中で必要な情報を引き出す情報検索 (scanning) の力	Advanced : 14 Basic : 12

パートB
ここでは、2つの形式の問題があります。英語の文章や図表の中から、質問に対する答えとなる考えや情報を素早く探し、最も適当なものを、[A]～[D]の中から1つ選びなさい。

Advanced 例題（概要把握）

Modern surgery can overcome many serious medical conditions, but even established techniques still present some risks. The time available to perform operations is often limited, and when performing major surgery, great care must be taken not to cause harm to weakened patients. Doctors have now discovered that lowering patients' body temperatures during surgery can significantly decrease levels of risk. Ice or cold liquids are used to put patients into a temporary state of deep sleep. Early research suggests that the extra time gained from this method allows medical teams to operate much more carefully and safely.

- What is this passage mainly about?
- [A] Balancing benefits and risks in modern surgical techniques.
 - [B] Carrying out important operations in much shorter times.
 - [C] Performing safer surgery by lowering patients' body temperatures.
 - [D] Stopping patients' temperatures from falling too low during operations.

Basic 例題（概要把握）

The sundial is an ancient invention which could have originated in Egypt as far back as 3500 BC. Sundials use the position of the sun to tell what time it is. When sunlight hits the pole on a sundial, it creates a shadow on the disk. The location of the shadow tells you the time of day. This is like reading the hands of a watch. Throughout history, sundials have been adapted and improved by other cultures, such as the Greeks, Romans and Chinese.

- What is this passage mainly about?
- [A] How to make watches.
 - [B] The Greek man who created sundials.
 - [C] How the sundial works.
 - [D] The discovery of an Egyptian watch.

5.2.7 高校・中学3年「読むこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
B	概要把握問題 情報検索問題	<ul style="list-style-type: none"> 全体を大づかみして概要を理解する概要把握 (skimming) の力 短時間の中で必要な情報を引き出す情報検索 (scanning) の力 	Advanced : 14 Basic : 12

パートB
 ここでは、2つの形式の問題があります。英語の文章や図表の中から、質問に対する答えとなる考えや情報を素早く探し、最も適当なものを、[A]～[D]の中から1つ選びなさい。

Advanced 例題 (情報検索)

You are looking at an airline's website.

25. According to the website, what should you do to have a comfortable flight?

- [A] Always use a blanket.
- [B] Take a bag to put extra clothes in.
- [C] Take several pairs of shoes.
- [D] Wear loose clothes.

26. According to the website, what should you do to keep yourself in good condition during the flight?

- [A] Avoid staying in the same position for a long time.
- [B] Read magazines instead of playing computer games.
- [C] Take several short naps instead of having a long sleep.
- [D] Try not to drink too much water.

Basic 例題 (情報検索)

You are looking at a restaurant's menu.

1. Based on this menu, on what days does the breakfast and fruit bar close at 2:00 pm?

- [A] Every day.
- [B] Sundays only.
- [C] Monday through Friday.
- [D] Saturdays, Sundays and holidays.

2. What comes with an All-American Hamburger at this restaurant?

- [A] French fries or soup.
- [B] French fries and soup.
- [C] Soup or salad.
- [D] Fruit bar and salad.

5.2.8 高校2・3年「読むこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
C	要点理解問題	まとまった量の英文に対して、英文の主旨に関する内容や詳細部分の要点について、英文を理解し、必要な情報を読み取る力	Advanced : 15 Basic : 12

パートC

ここでは、3つの英語の長文とそれらに関する5つの質問があります。注意深く読み、質問の答えとして最も適当なものを、[A]～[D]の中から1つ選びなさい。

Advanced 例題

※本資料では、質問は1問のみ掲載

Civilizations have been destroyed by external factors, such as attacks by enemy countries and climate change. But some societies, after having enjoyed success, have failed due to their own poor management. Humans, in pursuing progress, introduced problems that they didn't have the means to solve, preventing further growth. Typically, the environment would be spoiled, and there would be a lack of leadership to fix this. The society would then destroy itself by fighting or falling to enemies.

One example occurred on Easter Island. When a few hundred people settled there in 800 AD, forest covered it, and many bird species lived there. By the 1500s, the population was an estimated 10,000. However, by 1600, all of the trees had been cut down for the construction of houses and to make tools to build and transport big stone statues. The land birds, and all but one of the sea-bird species, had gone. Gradually, Easter Islanders had killed one another for the few remaining resources and the population dropped to an estimated 2,000.

A different example occurred in what is now the Southwest of the USA to the Anasazi people. They were advanced in farming, having learned how to get water to their fields. The more trees they cut down to expand farm land, to construct buildings, or to use as firewood, the more they hurt the environment. When all the land and trees had been used up in one area, they abandoned the site and moved on. What happened to them is still unknown. Perhaps enemies destroyed them as they moved.

Easter Islanders and Anasazi lacked planning and also, they had no means to learn from others. The Japanese, however, were able to survive when they faced a similar wood crisis in the late 1500s. From the 1600s through the 1800s, Japan's leaders recognized the problems and made plans, controlling the use of wood. They developed better stoves and used solar heat. Most importantly, they planted trees to expand the forests. They solved the wood crisis and saved Japan.

Will today's advanced countries follow the paths of Easter Islanders or Anasazi? We are using up resources and land even faster because of modern technology. However, we have better and more efficient communication systems to spread helpful information quickly. We can learn from past civilizations, and moreover, we can learn from others. We must avoid repeating the same mistakes.

What did Easter Islanders have in common with Anasazi?

- [A] They carried out policies that solved their problems.
- [B] They created inventions that enemy countries wanted.
- [C] They spoiled their environment but saved their resources.
- [D] They were once successful but declined or disappeared.

5.2.9 高校1年・中学3年「読むこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
C	要点理解問題	まとまった量の英文に対して、英文の主旨に関する内容や詳細部分の要点について、英文を理解し、必要な情報を読み取る力	Advanced : 15 Basic : 12

パートC

ここでは、3つの英語の長文とそれらに関する4つの質問があります。注意深く読み、質問の答えとして最も適当なものを、[A]～[D]の中から1つ選びなさい。

Basic 例題

※質問は1問のみ掲載

"Homing pigeons" are a kind of bird that can find their way home from far places — sometimes as far away as 1,800 kilometers! Throughout history, they've been used to carry messages, which were usually written on thin pieces of paper and wrapped around one of their legs. Homing pigeons were especially useful when there were no other ways to send messages, for example, during times of war.



People used to think that the pigeons were naturally able to know directions, but a recent study has discovered that the birds are also following roads and landmarks, just like humans do when traveling from place to place. Scientists at Oxford University were surprised when they noticed that some pigeons were flying along big streets and clearly turning off at certain intersections or using big buildings to remember where they were, especially when flying in areas they knew very well. Of course, this doesn't mean that they always travel like humans. Since they're able to fly high above the buildings and busy streets, they don't always have to choose the same way as humans. They take shortcuts, when they can, just like any other birds would do.

Scientists also think that the homing pigeons use the sun to understand where they're going when they have to travel in areas they don't know very well, just like humans used to do when traveling long ago.

These days, e-mail may be a more popular way to send messages than homing pigeons. But homing pigeons can still help people, especially when there are disasters, and there are no other ways to send messages. This is all thanks to their talent for finding their way home.

When do homing pigeons use the sun?

- [A] When their natural way of flying doesn't work.
- [B] When there are no streets or roads in the city.
- [C] When the weather is fine and the sky is clear.
- [D] When they go through unknown areas.

5.2.10 高校・中学3年「話すこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
A	音読	英文を読み上げる形式の出題で、状況や英文を理解した上で、正確な発音と適切な流暢さで音読できる力	2

パートA

パートAは、全部で2問あります。聞いている人に伝わるように、英文を声に出して読んでください。はじめに準備時間が30秒あります。解答時間は40秒です。

Advanced / Basic 例題

※SpeakingについてはAdvancedタイプとBasicタイプが同一の問題です。

あなたはインターナショナルスクールの生徒です。あなたは、朝の校内放送でクイズ大会について案内することになりました。次の英文を声に出して読んでください。

(準備時間30秒／解答時間40秒)

No. 1

Good morning, students. Are you looking for a challenge? Why not sign up for Team Quiz Night to be held on May 10th at 6 pm in the school hall? Gather your friends, and get ready for some strange and interesting questions. Bring food to share and try to beat the teachers' team. Good luck!

5.2.11 高校・中学3年「話すこと」サンプル問題

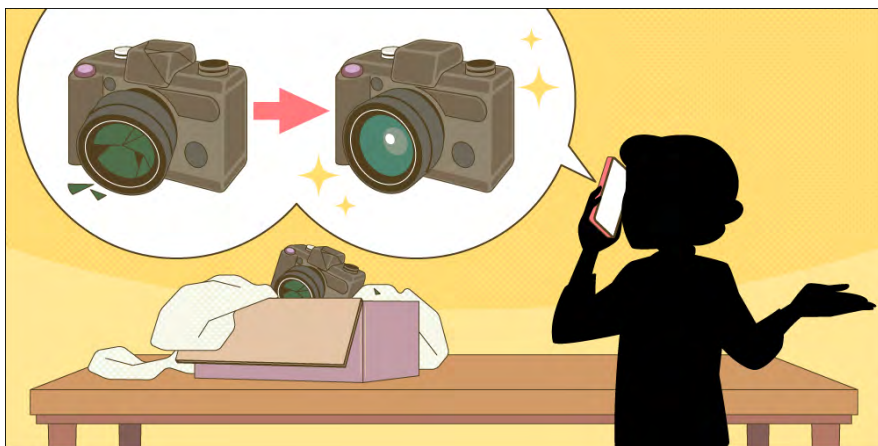
パート	内容	問うている力	出題数
B	相手とのやり取り	図示された情報を読み取って質問に応答したり、課題解決のために質問したりする力	4

パートB
全部で4問あります。質問に答える問題が2問と、あなたから問いかける問題が2問です。与えられた情報をもとに、英語で話してください。

Advanced / Basic 例題

※SpeakingについてはAdvancedタイプとBasicタイプが同一の問題です。
※出題例は、3問目の「課題解決」の例です。

あなたはホームステイ中です。オンラインショップで注文したカメラが届きましたが、ある問題に気づき、問い合わせ窓口に電話をかけ、話をしています。与えられた情報をもとに、あなたが直面している問題と、それをどう解決したいかを問い合わせ窓口に伝えてください。
※イラスト内で「あなた」は影絵で表されています。



※試験では、英文は1回のみ聞くことができます。
※No.1とNo.2は、準備時間10秒、解答時間15秒です。No.3とNo.4は、準備時間20秒、解答時間20秒です。

5.2.12 高校・中学3年「話すこと」サンプル問題

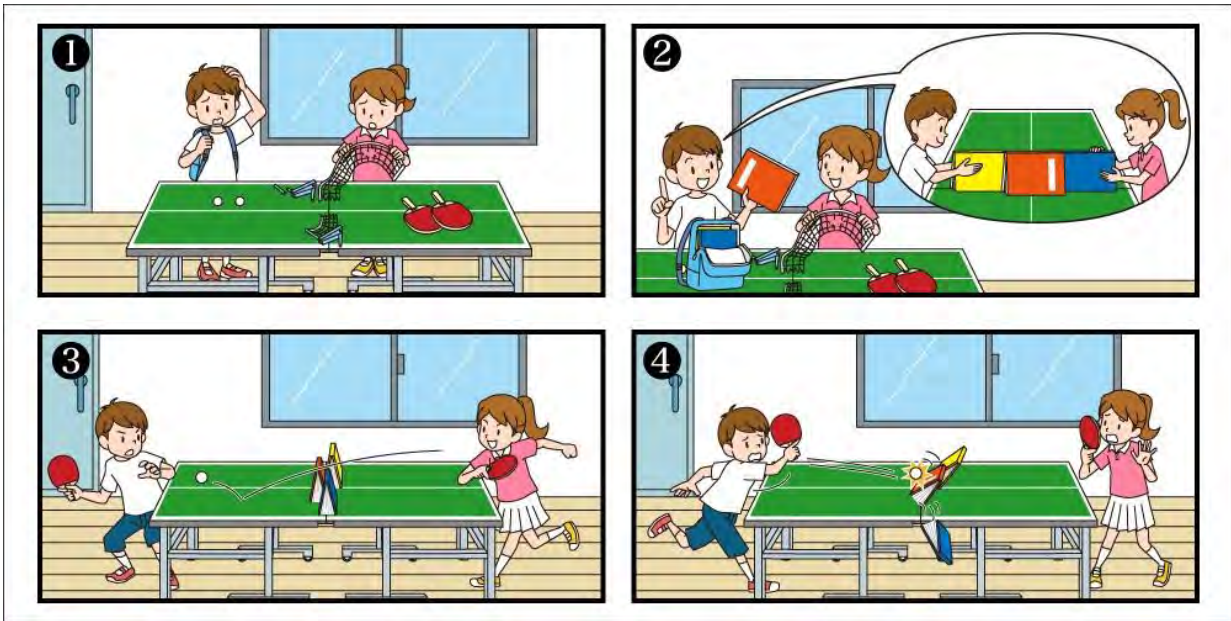
パート	内容	問うている力	出題数
C	ストーリーを英語で話す	日常的な出来事について、話の流れを踏まえて相手に伝わるように状況を説明する力	1

パートC
 4コマイラストの問題です。画面に表示された1コマめから4コマめのすべてのイラストについて、ストーリーを英語で話してください。はじめに準備時間が30秒あります。解答時間は1分です。

Advanced / Basic 例題

※SpeakingについてはAdvancedタイプとBasicタイプが同一の問題です。

あなたは、先日ある少年が経験したことを、留学生の友だちに話すことになりました。相手に伝わるように英語で話してください。



※Advancedタイプ：高2・3が受検、Basicタイプ：高1・中3が受検しています。

5.2.13 高校・中学3年「話すこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
D	自分の意見を述べる	身近で社会的なテーマに対して、自分の意見とその意見をサポートする理由が言える力	1

パートD
あるテーマについて、自分の考えとそう考える理由を述べる問題です。はじめに準備時間が1分あります。解答時間は1分です。

Advanced/Basic 例題

※SpeakingについてはAdvancedタイプとBasicタイプが同一の問題です。

あなたは英語の授業で、次のテーマについて発表することになりました。自分の考えを述べ、その理由を詳しく具体的に説明してください。日本のことを知らない外国人の先生にも伝わるように英語で話してください。

Schools shouldn't allow students to use their cell phones while at school. What do you think about this? State your opinion and give at least one reason with an example or explanation.

※試験では、テーマが読み上げられます。
英文は1回のみ聞くことができます。

5.2.14 高校・中学3年「書くこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
A	Eメール問題	与えられたEメールで問われる内容について、限られた時間の中で適切な解答を表現する力	Advanced : 1 Basic : 1

パートA

- ・時間は5分です。
- ・Eメールを読み、その中の2つの質問すべてに答えるように、適切な内容の返信メールを作成しなさい。相手があなたの書いたメールだけを読んでも内容が理解できるように、単語のみではなく、できるだけ文で書きなさい。
- ・Eメール内の質問に対しては、イラストで示された内容をもとに解答しなさい。イラスト内で「あなた」は影絵で表されています。

※影絵が含まれない場合もあります。

Advanced 例題

あなたはカナダに留学中です。あなたは、部活の合宿で宿泊する予定のホテルからメールを受け取りました。返信メールを単語のみではなく、できるだけ文章で書きなさい。

From	The Laughing Cat Hotel
To	Kaoru Tani
Subject	Questions regarding your stay

Hello,

Thank you again for choosing the Laughing Cat Hotel. We just have two additional questions about your stay. First, does anyone in your group have any special meal requirements? Second, do you have any requests about your rooms? We look forward to hearing from you.

Best regards,
John Cave

From	Kaoru Tani
To	The Laughing Cat Hotel
Subject	RE: Questions regarding your stay

Hello,

Sincerely,
Kaoru



Basic 例題

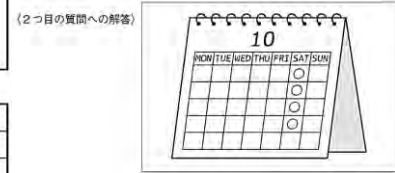
あなたは、昨日あなたのギター演奏を見てきてくれたアメリカ人の友だちからメールを受け取りました。返信メールを単語のみではなく、できるだけ文章で書きなさい。

From	Katie
To	Yuki
Subject	Guitar lessons

Hello,

I was really amazed by your guitar playing at the jazz concert last night! You played like a professional. In fact, your performance made me want to start taking guitar lessons! When you first started, did you take group or one-on-one lessons? Also, just curious, how often do you perform? Sorry for asking many questions!

Best,
Katie



From	Yuki
To	Katie
Subject	RE: Guitar lessons

Hello,

Best,
Yuki

※Advancedタイプ：高2・3が受検、Basicタイプ：高1・中3が受検しています。

5.2.15 高校・中学3年「書くこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
B	意見展開問題	与えられたテーマに対して、限られた時間の中で自分の意見を説得力を持って表現する力	Advanced : 1 Basic : 1

パートB

- ・時間は20分です。残り時間が2分になると放送で知らせます。
- ・自分自身の考えや具体的な経験に基づいて、自由に書きなさい。
- ・読み手に自分の主張が効果的に伝わるように書きなさい。
- ・書かれている文の量が少ない場合は、評価が低くなる可能性があります。
- ・示されているテーマの英文を、すべてそのまま書き写した箇所は、「語い」「文法」の評価には含まれません。

あなたは留学先の授業でエッセーを書くことになり、以下のテーマを選びました。このテーマを読んでいない人にも伝わるようにエッセーを書きなさい。

Advanced 例題

We are now living in an aging society. What do you think can be done about problems related to this? Choose one thing and explain why.

Basic 例題

What do you think about high school students having part-time jobs? State your opinion and explain why.

5.2.16 高校・中学3年「話すこと」サンプル問題・CEFR別解答例

Advanced/Basic 例題 パートD

出題テーマ：

Some people think English should be taught starting from the first grade in elementary school. What do you think about this? Give at least one reason to support your opinion.

B2	I agree with the opinion because children will learn how to speak and understand English much better than when they are adult. The younger they start learning the more native-like speaking is possible. Native-like English speaking ability will make it possible for them to complete and debate more globally and will be good for the future of Japan too, because companies will be stronger in the world if workers speak Native-like English.
B1	I think students should be taught English from first grade. I have two reason. First, we can skill up English speaking skills like in pronunciation. Second that experience of learning from young age is useful in the future so I think students should be taught English from first grade.
A2	I don't think so, because we are Japanese. First grade in elementary school time we are not good for Japanese, so we should study Japanese first. After we studying Japanese then, we can learn English. Japanese... so Japanese is more important for us.
A1	I think English should be start from in elementary school too. One reason, ...English is difficult.

5.2.17 高校1年・中学3年「書くこと」サンプル問題・CEFR別解答例

Basic 例題 パートB

出題テーマ：

What is something that you want to do, or should do, now? Choose one thing and explain why.

B2	<p>Reading a wide variety of books is the most attractive way to spend my free time. My reasons for this hobby are easy to explain.</p> <p>The main reason is that I intend to become a writer in the future. How can a person learn how to write stories well without reading books? Books contain interesting phrases, which I can memorize and recycle in my own stories in the future. It goes without saying that the wider a person's vocabulary is, the more vivid their writing will become.</p> <p>Furthermore, stories provide a way for writers to communicate their feelings to readers. Any reader who has become absorbed in a work of fiction may associate with a particular character and experience the characters' emotions. By reading more books, I can understand different points of view, and these fictional characters help me to better understand the real people around me.</p> <p>Therefore, I will try to read as many books as possible. I am looking forward to discovering many interesting books.</p>
B1	<p>I want to read many books in my free time. I have two reasons for it.</p> <p>First, I can enjoy my free time by reading the books. There are many favorite books, for example, history and love story. It is interesting to know people's feeling in the story.</p> <p>Second, my dream is to be a writer in the future, so I want to know a lot of stories by many writers. It is good to read many kinds of books because reading many kinds of books will help me learn how to write many kinds of stories. For these reasons, I want to read many books in my daily life.</p>
A2	<p>I want to read books in free time. Because reading is fun and important. I want to be writer in the future. So, I read many books. My goal is many kinds of books everyday. For example, history, and love story, and so on. And I can know many thing by books. I can read other people's thinking in books. I think this is important. So, I want to read the books.</p>
A1	<p>I want is read book. interesting. And, writing book is future.</p>

5.3.1 中学1・2年「聞くこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
A	イラスト説明問題	図表やイラストなど与えられた視覚的情報をもとに、ある状況や場面、事物を描写説明した単文レベルの英文を正しく聞き分ける力	8

パートA
ここでは、イラストの内容を表す文として、[A]～[C]の3つの英文が読まれます。その中から、最も適当なものを1つ選びなさい。

Core 例題



スクリプト

- 【A】 A girl is eating in a restaurant, and a boy is smiling at her.
- 【B】 A girl is standing outside a restaurant, and a boy is running toward her.
- 【C】 A girl is walking into a restaurant, and a boy is putting on a coat.

5.3.2 中学1・2年「聞くこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
B	会話応答問題	事前予測ができる情報がない中で、相手からの問いかけに対する適切な応答英文を素早く判断し、処理する力	8

パートB
ここでは、質問の英文に続いて、[A]～[C]の3つの英文が読めます。その中から、質問に対する答えとして最も適切なものを、1つ選びなさい。

Core 例題

※問題冊子には選択肢記号[A][B][C]のみ記載。

スクリプト

Who did you meet?

[A] I met a friend.

[B] We met at the park.

[C] We met yesterday.

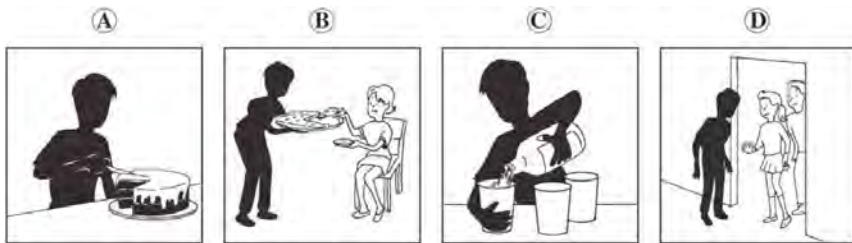
5.3.3 中学1・2年「聞くこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
C	課題解決問題	日本語で事前に与えられる状況設定および視覚的情報と音声情報から、その場面で求められている課題（タスク）を解決する力	8

パートC
 ここでは、まず状況を説明する日本語が読まれます。続いて英文が読まれるので、イラストを見ながら聞きなさい。あなたは、各場面の日本人学生になったつもりで、イラストの下の質問に対する答えとして最も適当なものを、[A]～[D]の中から1つ選びなさい。

Core 例題

あなた（男子）はアメリカにホームステイ中で、ホストマザーと一緒にホームパーティーの準備をしています。今、ホストマザーがあなたに話していることについて話しています。



What should you do for the party?

- [A] Ⓐ
- [B] Ⓑ
- [C] Ⓒ
- [D] Ⓓ

スクリプト

F: Someone else will cut the cake and pizza. Could you pour the drinks?
 There is already someone who will say “hello” to the guests just arriving.

5.3.4 中学1・2年「聞くこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
D	要点理解問題	一定以上の長さの英文の音声の中から、事前に与えられた英文の質問に答えるために必要な情報を選択して引き出し、求められている解答を導くための適切な判断を行う力	8

パートD
ここでは、英語の会話文が読めます。その内容に関する質問の答えとして最も適当なものを、[A]～[D]の中から1つ選びなさい。

Core 例題

スクリプト

A man is talking to his daughter, Helen.

M: Helen, you came home late! Did you have soccer practice?

F: No. I left my textbook at school, so I had to get it.

M: OK. You have to go to dance class soon.

F: I should hurry or I'll miss the bus!

M: male 「男性」、F: female 「女性」の略。

Why did Helen get home late?

- [A] She had soccer practice.
- [B] She had to get her textbook.
- [C] She went to dance class.
- [D] She missed the bus.

5.3.5 中学1・2年「読むこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
A	短文文脈理解問題	短い英文の中で文脈的なつながりを理解し、語彙選択上最も適切な表現を正確に判断する力	10

パートA

ここでは、それぞれの英文の空所_____に入る最も適当なものを、[A]～[D]の中から1つ選びなさい。

Core 例題

Takeshi needs to wash his hands. They aren't very _____.

- [A] hard
- [B] clean
- [C] cold
- [D] hot

5.3.6 中学1・2年「読むこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
B	情報検索問題 概要把握問題	<ul style="list-style-type: none"> 短時間の中で必要な情報を引き出す情報検索 (scanning) の力 全体を大づかみして概要を理解する概要把握 (skimming) の力 	10

パートB
ここでは、2つの形式の問題があります。英語の図表や文章の中から、質問に対する答えとなる考えや情報を素早く探し、最も適当なものを、[A]～[D]の中から1つ選びなさい。

Core 例題 (情報検索)

You are looking at a piece of paper at your school.

11 This paper is for _____.

- [A] a summer camp
- [B] a sports test
- [C] a swimming class
- [D] a cooking school

12 What is the youngest age you can join?

- [A] 7 years old.
- [B] 13 years old.
- [C] 14 years old.
- [D] 18 years old.

SUMMER CAMP APPLICATION FORM



● Student Information

School _____

Name _____

Address _____

Phone _____ Date of birth _____

● Course

7-day course / 14-day course

● Activities

Sports basketball baseball swimming horse riding

Others arts & crafts cooking


To join, students should be between 13 and 18 years old.

5.3.7 中学1・2年「読むこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
B	情報検索問題 概要把握問題	<ul style="list-style-type: none">短時間の中で必要な情報を引き出す情報検索 (scanning) の力全体を大づかみして概要を理解する概要把握 (skimming) の力	10

パートB
ここでは、2つの形式の問題があります。英語の図表や文章の中から、質問に対する答えとなる考えや情報を素早く探し、最も適当なものを、[A]～[D]の中から1つ選びなさい。

Core 例題（概要把握）

Why does the food on TV look so good? The people who try to sell us food on TV use many “tricks” to dress up food. They are called “food stylists”. For example, car oil is used to make meat shine, and often the “food” is not even real. Food stylists make food look more delicious, but it’s usually not safe to eat.

これは主に何について書かれていますか。

- [A] Food stylists.
- [B] A good dinner.
- [C] How to cook.
- [D] Wearing a dress.

5.3.8 中学1・2年「読むこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
C	要点理解問題	まとまった量の英文に対して、英文の主旨に関する内容や詳細部分の要点について、英文を理解し、必要な情報を読み取る力	8

パートC

ここでは、2つの英語の長文とそれらに関する4つの質問があります。注意深く読み、質問の答えとして最も適当なものを、[A]～[D]の中から1つ選びなさい。

Core 例題

※質問は1問のみ掲載

Ballet is a style of dance which was created in France in the 1500s. Ballet first came to Russia in the 1700s.

The first ballet dancers in Russia studied both French and Italian styles of ballet. The Russian ballet style began in the 1800s, when Russian ballet dancers began using traditional Russian dance steps, moving their whole bodies. This helped make their dances more interesting. As a result, Russian ballet dancers tell stories better. People all over Europe loved the Russian style of ballet, and wanted to learn it. Because of this, one of the most famous Russian ballet dancers moved to England in order to teach Russian ballet to people there.

In the early 1900s, music began to be written for Russian ballets. Before this, dancers had used music that had not been written especially for ballets. By using this special music, people were able to understand the stories even more clearly.

Over the years, Russian ballet has become more and more famous, and today it is enjoyed by people all over the world.

1. The first ballet dancers in Russia learned styles of ballet from _____.

- 【A】 England and France
- 【B】 France and Italy
- 【C】 Italy and Russia
- 【D】 Russia and England

5.3.9 中学1・2年「話すこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
A	音読	英文を読み上げる形式の出題で、状況や英文を理解した上で、正確な発音と適切な流暢さで音読できる力	2

パートA

パートAは、全部で2問あります。聞いている人に伝わるように、英文を声に出して読んでください。はじめに準備時間が30秒あります。解答時間は30秒です。

Core 例題

あなたは留学先の学校の校内放送で、今日の天気とお知らせについて伝えることになりました。次の英文を声に出して読んでください。
(準備時間30秒/解答時間30秒)

Hello students! How are you doing? Today, there's going to be heavy rain and strong wind in the afternoon. So, we won't have any club activities after school. Please go home as soon as your classes end.

5.3.10 中学1・2年「話すこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
B	相手とのやり取り	図示された情報を読み取って質問に応答したり、課題解決のために質問したりする力	4

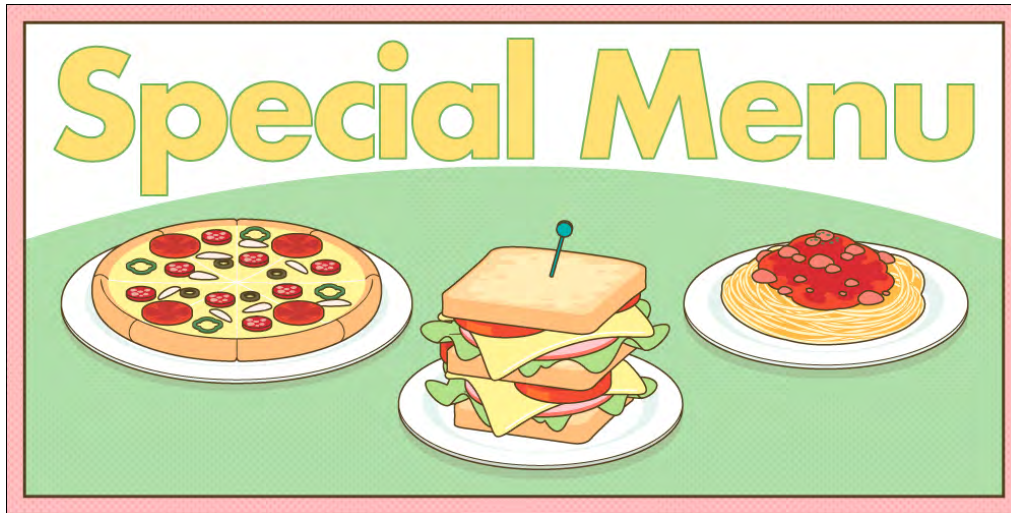
パートB

全部で4問あります。質問に答える問題が3問と、あなたから問いかける問題が1問です。与えられた情報をもとに、英語で話してください。準備時間と解答時間はそれぞれ10秒です。

Core 例題

※出題例は、3問目の「質問」の例です。

あなたは留学中です。あなたは今、レストランでメニューを見えています。与えられたメニューの情報をもとに、食事を一つ選び、その値段を店員に英語で尋ねてください。



※試験では、英文は1回のみ聞くことができます。

問題音声：

I can take your order now.

5.3.11 中学1・2年「話すこと」サンプル問題

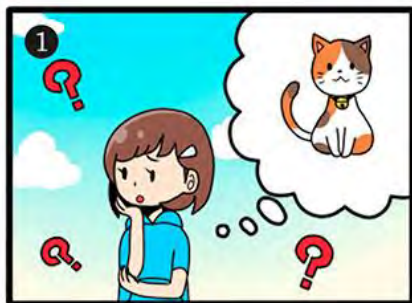
パート	内容	問うている力	出題数
C	ストーリーを英語で話す	日常的な出来事について、話の流れを踏まえて相手に伝わるように状況を説明する力	1

パートC

4コマイラストの問題です。画面に表示された1コマめから4コマめのすべてのイラストについて、ストーリーを英語で話してください。はじめに準備時間が30秒あります。解答時間は40秒です。

Core 例題

あなたは、昨日あなたに起こった出来事を留学生の友だちに話すことになりました。イラストに登場する女の子になったつもりで、相手に伝わるように英語で話してください。



5.3.12 中学1・2年「話すこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
D	自分の意見を述べる	身近なテーマに対して、自分の意見とその意見をサポートする理由が言える力	1

パートD
質問に対して、自分の考えとそう考える理由を英語で述べる問題です。はじめに準備時間が1分あります。解答時間は40秒です。

Core 例題

あなたは英語の授業で、次の質問に対する自分の考えと、そう考える理由を発表することになりました。日本のことを知らない外国人の先生にも伝わるように英語で話してください。

What is your favorite school subject? Choose one and explain why.

※試験では、テーマが読み上げられます。
英文は1回のみ聞くことができます。

5.3.13 中学1・2年「書くこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
A	Eメール問題	与えられたEメールで問われる内容について、限られた時間の中で適切な解答を表現する力	1

- パートA
- ・時間は5分です。
 - ・Eメールを読み、その中の2つの質問すべてに答えるように、適切な内容の返信メールを作成しなさい。相手があなたの書いたメールだけを読んでも内容が理解できるように、単語のみではなく、できるだけ文で書きなさい。
 - ・Eメール内の質問に対しては、イラストで示された内容をもとに解答しなさい。イラスト内で「あなた」は影絵で表されています。
- ※影絵が含まれない場合もあります。

Core 例題

あなたはアメリカに留学中です。アメリカの友だちからメールを受け取りました。返信メールを、単語のみではなくできるだけ文で書きなさい。

From	Jane
To	Tomoya
Subject	Concert

Hi,

Your favorite singer is playing concerts here every day next week. Let's go to a concert!

When are you free? What do you want to buy before the concert? I can't wait to see you.

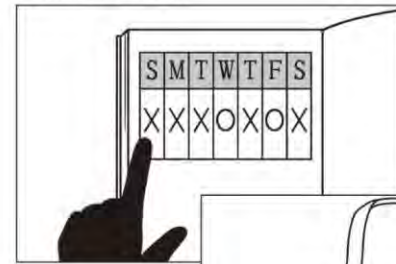
Thanks,
Jane

From	Tomoya
To	Jane
Subject	RE: Concert

Hi,

Thanks,
Tomoya

〈1つめの質問への解答〉



〈2つめの質問への解答〉



5.3.14 中学1・2年「書くこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
B	意見展開問題	与えられたテーマに対して、限られた時間の中で自分の意見を説得力を持って表現する力	1

パートB

- ・時間は20分です。残り時間が2分になると放送で知らせます。
- ・自分自身の考えや具体的な経験に基づいて、自由に書きなさい。
- ・読み手に自分の主張が効果的に伝わるように書きなさい。
- ・書かれている文の量が少ない場合は、評価が低くなる可能性があります。
- ・示されているテーマの英文を、すべてそのまま書き写した箇所は、「語い」「文法」の評価には含まれません。

あなたは留学先の授業で作文を書くことになり、以下のテーマを選びました。このテーマを読んでいる人にも伝わるように作文を書きなさい。

Core 例題

What is something that is important to you? Choose one thing and explain why.

5.4.1 高校・中学「話すこと」の採点基準（要約版）

「Goal Achievement」は2段階(Advanced・BasicのPart Dの理由のみ3段階)、
「語い・文法」は0～4点、「発音・流ちょうさ」は0～3点で採点しています。

		0点	1点	2点	3点	4点
Goal Achievement	パートB	各設問において、必要な内容を伝えてやり取りをすることができている。				
	パートC	各コマの内容を伝えることができている。				
	意見	意見を伝えることができている。				
	パートD 理由	[◎] 意見をサポートする理由を具体例や説明とともに伝えることができている。 [○] 意見をサポートする理由を伝えることができている。 ※Coreで受検した場合は[◎]の評価はありません。				
語い・文法	0点	出題意図から明らかに外れている。／英語ではない、あるいは、英語として通じない。／力を測るために十分な量の発話がない。	使用する語いや文法が非常に限られているが、簡単で具体的なことであれば、語や句をつながりながら表現することができている。	限られた語いや文法で、簡単な描写を羅列したり、簡単にアイデアをつなげたりすることができている。	複雑な内容を説明するときに誤りが見られることもあるが、語いや文法を適切に使用し、アイデアを順序立ててつなげることができている。	豊富で幅広い語いや文法を、柔軟に使用することができている。アイデア間の関係性を整理して示すことができ、聞き手に効果的に内容を伝えられている。
	発音・流ちょうさ	出題意図から明らかに外れている。／英語ではない、あるいは、英語として通じない。／力を測るために十分な量の発話がない。	全体を通して、発音やイントネーション、リズムの誤り、また、不自然な沈黙や言いよどみが多いため、聞き手に大きく負担がかかるが、簡単な単語や語句の強弱は正しい。	部分的な発音やイントネーション、リズムの誤り、また、不自然な沈黙や言いよどみのため、聞き手にやや負担がかかるが、理解できる発音である。	全体を通して正しい発音、イントネーション、リズムで話すことができている。不自然な沈黙がなく、聞き手に負担がかからない。	

5.4.2 高校・中学「書くこと」の採点基準（要約版）

Part A Eメール問題 「タスク」は2段階、「正確さ」・「構成」は0～3点で採点しています。

		0点	1点	2点	3点	
Task Achievement	タスク	Eメール内の質問に対して、イラストに沿った内容を適切に回答できている。	英語が書かれていない。または、力を測るために十分な量が書かれていない。	語いや文法の誤りにより、意図した内容の理解が困難な部分がある。	語いや文法の誤りがあっても、意図した内容を伝えることができている。	語いや文法を適切に用いて、意図した内容を伝えることができている。
	構成	英語が書かれていない。または、質問された内容に文で十分に回答できていない。	質問された内容に文で十分に回答できていない部分がある。	質問された内容に文で十分に回答できている。	質問された内容に文で十分に回答できている。	質問された内容に文で十分に回答できている。メールとしても自然な文面を構成できている。

Part B 意見展開問題 「意見」・「理由」は2段階、「語い」・「文法」・「構成・展開」は0～8点で採点しています。

		0点	0.5～1.5点	2～3.5点	4～5.5点	6～8点	
Goal Achievement	意見	課題に対する自分の意見を伝えることができている。	英語が書かれていない。または、全体を通して出題のテーマから外れたことが書かれている。	使える語いが基本的なものに限られている。または、語いの誤りが多く、意図した内容が伝わらない。	使える語いが限られている。または、意味理解を妨げるような誤りが見られ、意図した内容が伝わりにくい部分が多くある。	必要な語いを使って、簡単な内容を表現することができる。誤りがあっても、意図した内容を伝えることができている。	さまざまな語いを使って、自分の考えや物事を詳しく説明することができる。一部誤りがあっても、意図した内容を十分に伝えることができている。
	理由	自分の意見をサポートする理由や具体例などを伝えることができている。	英語が書かれていない。または、全体を通して出題のテーマから外れたことが書かれている。	定型表現を使うことや、いくつかの単語を組み合わせることはできる。	使える文法が限られている。または、意味理解を妨げるような誤りが見られ、意図した内容が伝わりにくい部分が多くある。	基本的な文法を使うことができる。誤りがあっても、意図した内容を伝えることができる。	基本的な文法に加えて、複雑な文法を使うことができる。一部誤りがあっても、意図した内容を十分に伝えることができている。
	構成・展開		英語が書かれていない。または、全体を通して出題のテーマから外れたことが書かれている。	単語や文は書かれているが、内容のつながりが見られない。	いくつかのアイデアが書かれているが、内容のつながりが見えにくい。	アイデアのつながりが見えにくい部分があるが、書かれている内容にある程度まとまりが見られる。	書かれている内容のつながりがわかりやすく、全体としてよく構成されている。

5.5.1 小学校「聞くこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
1	絵を表している語句がわかる	単語を音で聞いて、単語の意味を理解する力	10


Junior 2 例題

「聞く」もんだい

パート1 > パート2 > パート3 > パート4

00:06

1 きこえてくる英語に合う絵を1つ選んで、その番号をおしましよ。

1 2 3 4

問題音声：
Strawberry.

5.5.2 小学校「聞くこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
2	会話での質問の答えがわかる	与えられた絵を見ながら、英語の質問と3つの答えを聞き、正しい答えを選ぶことで、キーワードを聞き取り全体を推測する力、情報を探しながら聞く力	6

Junior 2 例題

「聞く」もんだい

パート1 > **パート2** > パート3 > パート4

00:04

1 絵を見て、英語に合う答えを1つ選んで、その番号をおしまししょう。

あなた

1 2 3

問題音声：

Nice to meet you.

選択肢音声：

- ① I'm hungry.
- ② Nice to meet you, too.
- ③ Yes, please.

5.5.3 小学校「聞くこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
3	場面に応じたやりとりがわかる	日本語で事前に与えられる状況設定および絵をもとに、英語のやり取りを聞いて、その場で求められている課題（タスク）を解決する力	5

Junior 2 例題

「聞く」もんだい

パート1 > パート2 > **パート3** > パート4

00:05

1 あなたは何をもらいますか。

1 2 3 4

問題音声：

John: Do you want to eat chocolate or cookies?

You: I love both, but I want chocolate now.

John: OK, here you are.

5.5.4 小学校「聞くこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
4	まとまった英語を聞いて内容がわかる	一定以上の長さの英文音声を聞いて、話の流れを理解する力	5

Junior 2 例題

「聞く」もんだい

パート1
1

パート2
1

パート3
1


パート4
1


00:05
秒


1 はなし ないよう じゃんばん ただ あらわ えら
話の内容と順番を正しく表しているものを1つ選びましょう。



1



2



3



4

問題音声：

I want to be a basketball player, so I play every day. I don't have time to clean my room, so my mom gets angry.

5.5.5 小学校「読むこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
1	音を聞いて文字がわかる	音と文字を結びつける力	4

Junior 2 例題


R 「読む」もんだい

パート1 > パート2 > パート3 > パート4

1 1 1 1 2

00:03
分 秒

1 聞こえてきた単語の最初のアルファベットの文字に合うカルタを1つ選んで、そのカルタをおきましょう。



1 a 2 b 3 c

問題音声 : apple

5.5.6 小学校「読むこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
2	音を聞いて単語がわかる	音と単語を結びつける力	4

Junior 2 例題


R 「読む」もんだい

パート1 > **パート2** > パート3 > パート4

1 1 1 1 2

00:03
分 秒

1 聞こえてきた単語を正しく表すカルタを1つ選んで、そのカルタをおしまししょう。



1 horse 2 koala 3 zebra

問題音声 : horse

5.5.7 小学校「読むこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
3	情報を読んで見つけれられる	与えられた資料の中から、必要な情報を探し出す力	4

Junior 2 例題

R 「読む」もんだい

パート1 } パート2 } パート3 } パート4

1 1 1 1 2

00:10
分 秒

1 馬を見にいくためには、どのゾーンに行けばいいですか。



Animal World

1 bears
tigers

2 horses
zebras

3 gorillas
monkeys

4 kangaroos
koalas

1
2
3
4

The image shows a screenshot of a reading comprehension interface. At the top, there is a green header with a red 'R' logo and the text '読むもんだい'. Below this, there are four sections labeled 'パート1' through 'パート4', each with a small box containing the number '1'. A timer shows '00:10' (10 minutes). The main question is '1 馬を見にいくためには、どのゾーンに行けばいいですか。' (To see a horse, which zone should you go to?). Below the question is a map of 'Animal World' divided into four zones. Zone 1 (red outline) contains 'bears' and 'tigers'. Zone 2 (yellow outline) contains 'horses' and 'zebras'. Zone 3 (blue outline) contains 'gorillas' and 'monkeys'. Zone 4 (green outline) contains 'kangaroos' and 'koalas'. To the right of the map are four black buttons with white numbers '1', '2', '3', and '4'.

5.5.8 小学校「読むこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
4	一文やまとまった英語を読んで内容がわかる	一文あるいはまとまった英文を読んで、書かれている内容を理解する力	8

Junior 2 例題

R

「読む」もんだい

パート1 >
パート2 >
パート3 >
パート4

🕒 00:10
分 秒

1

1

1

1

2

2 どの動物についての説明ですか。

Animal Quiz

They are very big. They have long noses and big ears. They eat fruit. What animal is it? Can you guess?

1



2



3



4



問題音声：

あなたは英語の授業で動物クイズをすることになり、配られた説明を読んでいます。どの動物についての説明ですか。

5.5.9 小学校「話すこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
1	音を聞いてまねして読める	対話の応答文などを読み上げる形式の出題で、正確な発音で読み上げる力	4

Junior 2 例題



「話す」もんだい



練習問題



00:06
分 秒

 お手本の英語が聞こえたあと、
合図に続いて★マークのあなたのセリフを言ってみましょう。

How are you?

★ I'm fine, thank you.



5.5.10 小学校「話すこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
2	絵を見て質問に答えられる	状況を表す絵を見て、それに関する質問を聞き取ったうえで、適切に応答する力	4

Junior 2 例題

S

「話す」もんだい

パート1
1

パート2
1 2

パート3
1

00:08
分 秒

1 質問に、絵を見て英語で答えましょう。

問題音声：

あなたは英語の授業を受けています。
先生からの2つ質問に絵を見て答えてください。

How is the weather today?
What day is it today?

5.5.11 小学校「話すこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
3	自分のことについて伝えられる	自分のことに関する質問を理解し、その質問に対して答える力	3

Junior 2 例題

S 「話す」もんだい

パート1 } パート2 } パート3 }
1 1 2 1

00:08
分 秒

1 とも 友だちのメアリーの しつもん 質問に えいご 英語で こた 答えましょう。



The illustration shows a classroom setting. On the left, a girl with blonde hair, wearing a light blue shirt and a white vest, is standing and talking to a boy. The boy has black hair and is wearing a yellow long-sleeved shirt with a red horizontal stripe across the chest and brown pants. They are standing in the middle of the room. In the background, there are several rows of wooden desks and chairs. There are large windows with blue panes on the wall, and a green chalkboard is visible on the right side of the room.

問題音声：

友だちのメアリーの質問に、英語で答えましょう。

What's your name?

5.5.12 小学校「書くこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
1	音を聞いて文字が書ける	文字の音を聞いて、文字（大文字・小文字）を書く力	4

Junior 2 例題

The screenshot shows a digital interface for a listening test. At the top, there is a green header bar with a logo on the left, the title 「書く」もんだい, and navigation buttons for parts 1, 2, 3, and 4. A timer shows 00:04. Below the header, question 1 is displayed: 「1 おお ち じ か 太文字で書きましょう。」. The question text is written in large characters. Below the text is a writing area with a notepad icon and several horizontal lines for writing.

問題音声：Z

5.5.13 小学校「書くこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
2	文字をうめて単語を完成させる	基本的な単語のうち、空欄になっている文字をうめて単語を完成する力	4

Junior 2 例題

「書く」もんだい

パート1 } パート2 } パート3 } パート4 } 00:08

1 ぬけているアルファベットの文字を小文字で書いて、OK をおしましよ。



● O X

「書く」もんだい

パート1 } パート2 } パート3 } パート4 } 00:07

1 ぬけているアルファベットの文字を小文字で書いて、OK をおしましよ。

● O X



● O X

OK

5.5.14 小学校「書くこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
3	単語を書き写せる	手本を見て単語を書き写す力	3

Junior 2 例題

「書く」もんだい

パート1 > **パート2** > パート3 > パート4

00:35

1 2つの絵をよく見て、なくなったものを書きましょう。

「書く」もんだい

パート1 > **パート2** > パート3 > パート4

00:32

1 2つの絵をよく見て、なくなったものを書きましょう。

OK

5.5.15 小学校「書くこと」サンプル問題

パート	内容	問うている力	出題数
4	音声を聞いて単語が書ける	音声を聞いて、絵が表す基本的な単語を書く力	1

Junior 2 例題

「書く」もんだい

パート1 > パート2 > パート3 > パート4

1 1 1 1

00:40

1 マイクが将来したい仕事は何ですか。英語 1 語で書きましょう。

メモ

?

問題音声：

I want to be a cook.

5.6.1 小学校「話すこと」の採点基準

■パート別採点観点

	パート	採点観点
話す力	1	発音：0-2点
	2	内容：0-2点
	3	内容：0-2点 発音：0-2点

■採点の詳細

	観点	段階		
		2	1	0
話す力	内容	キーワードまたは文で答えられている	一部は答えられているが、コミュニケーション上で不都合が生じることがある	適切に答えられていない
	発音	発音や強勢、イントネーションが適切である	発音や強勢、イントネーションの一部が聞き取りにくい、コミュニケーション上では問題ない程度	正しく発音できていない

5.6.2 小学校「書くこと」の採点基準

■パート別採点観点

	パート	採点観点
書く力	1	内容：0-2点
	2	内容：0-2点
	3	内容：0-2点
	4	内容：0-2点

■採点の詳細

	観点	段階		
		2	1	0
書く力	内容	適切に答えられている (対象の文字や単語が明瞭に書けている)	一部しか答えられていない (対象の文字や単語が書けているが、明瞭ではない)	適切に答えられていない (対象の文字や単語が書けていない)

6. 謝辞 執筆協力者

【令和7年度】英語教育に関する調査研究（英語力に関する調査分析） 執筆協力者（五十音順）
（職名は令和8年1月現在）

今井 裕之 関西大学大学院 外国語教育学研究科長・教授
江原 美明 武蔵野大学 教育学部 教育学科 特任教授
斉田 智里 横浜国立大学 教育学部 教授

本調査研究の遂行にあたり、多大なるご指導とご助言を賜りました。ここに深甚なる謝意を表します。